

宮城県文化財調査報告書第218集

市川橋遺跡の調査

伏石・八幡地区

— 県道『泉—塩釜線』関連調査報告書Ⅶ —

第1分冊 平成18年度調査編

平成21年3月

宮城県教育委員会
宮城県土木部

宮城県文化財調査報告書第218集

市川橋遺跡の調査

伏石・八幡地区

— 県道『泉—塩釜線』関連調査報告書Ⅶ —

第1分冊 平成18年度調査編

序 文

ゆとりと豊かさを目指すことが重要となってきたなかで、地域住民の間では身近な地域の個性豊かな風土や歴史的な文化財の保護・活用の取り組みへの気運が高まっています。

しかし、その一方で道路建設や住宅造成など都市化の波が地方にも押し寄せ、大規模な場整備や道路建設、工業団地造成などの各種事業も年を追うごとに激化しており、文化財は年々破壊され、消滅の危機にさらされることが多くなってきております。なかでも、土地との結びつきの強い埋蔵文化財は、各種の開発により破壊される恐れがあることから、当教育委員会では開発部局等に遺跡の所在を周知徹底するとともに、開発との関わりが生じた場合には重要な文化財を積極的に保護することに努めてきております。

本書は都市計画道路玉川岩切線建設事業に先立って実施した多賀城市市川橋遺跡の発掘調査報告書です。今回の発掘調査により遺跡の性格を解明していく上で貴重な成果が得られました。こうした成果が広く県民の皆様や各地の研究者に活用され、地域の歴史解明の一助になれば幸いです。

最後に、遺跡の保護に理解を示され、発掘調査に際しては多大なるご協力をいただいた関係機関の方々、さらに実際の調査にあられた皆様に対し、厚く御礼申し上げます。次第です。

平成21年3月

宮城県教育委員会

教育長 小林 伸一

例 言

1. 本書は、宮城県土木部仙台台東土木事務所が担当する都市計画道路玉川岩切線建設工事に伴う市川橋遺跡の発掘調査のうち、平成18・19年度に実施した発掘調査の成果をとりまとめたものである。発掘調査に関わる事業費は宮城県土木部より宮城県教育庁文化財保護課が平成18～20年度に執行委任され、平成18・19年度は発掘調査とその整理作業、平成20年度は整理作業および報告書刊行を実施した。
2. 発掘調査は、宮城県教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課が担当した。
3. 本報告書作成業務は以下の担当で行った。
 - ①平成19年度（職員）豊村幸宏、（臨時職員）浅野明美、千葉栄子、中島敦子、奥名本京子。
 - ②平成20年度（職員）柳澤和明、豊村幸宏、（臨時職員）浅野明美、岸柳あきら、木村奈保美、瀧澤恵子、千葉栄子、中島敦子、奥名本京子。なお、平成19年度調査分の遺物整理作業に際して職員の佐藤貴志、志間貞治、西村力、村上裕次、小野章太郎、久保井裕之、伊藤啓之、山口淳、遺構写真整理作業に際して職員の尾形祐之の助力を得た。このうち西村力は各区出土獣骨の同定、小野章太郎は弥生石器を担当し、佐藤貴志、村上裕次は土器の実測を一部担当した。
4. 発掘調査および資料整理・報告書の作成に関しては以下の方々および機関からご指導・ご助言を賜った（敬称略）。

《個人》相原淳一・佐久間光平・佐藤憲幸（東北歴史博物館）、後藤秀一・古川一明・吉野武（宮城県多賀城跡調査研究所）、菅原弘樹（東松島市教育委員会）、須藤隆（東北大学名誉教授）、千葉孝弥・武田健市・島田敏・相澤清利（多賀城市埋蔵文化財センター）、藤沼邦彦（前弘前大学教授）、神谷正弘（大阪府高石市教育委員会）、宮内哲（拓殖大学名誉教授）

《機関》多賀城市教育委員会、多賀城市埋蔵文化財センター、東北歴史博物館、宮城県多賀城跡調査研究所
5. C2区出土の人頭蓋骨の鑑定は東松島市教育委員会の菅原弘樹氏に同定・分析を依頼し、この結果を編集者がとりまとめ、本文に記載した。
6. 樹種・種子同定は古代の森研究舎、火山灰分析は（株）古環境研究所に業務委託し、付章に成果を掲載した。また、出土木製品の保存処理は（株）文化財ユニオンに業務委託した。
7. 本書における平面図は、世界測地系の国家座標第X系で表示・作成した。
8. 本書における土色の記載は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄、1973、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、日本色研事業株式会社発行）に依拠した。
9. 本書の遺構は種別にしたがって、以下の記号を使用した。

堅穴住居跡・堅穴状遺構（S1）、掘立柱建物跡（SB）、材木塚跡・柱列跡（SA）、井戸跡（SE）、土壇（SK）、区画溝跡・溝跡（SD）、道路跡・土器埋設遺構・整地層・河川跡・河川流路跡・その他性格不明の遺構（SX）
10. 土器実測図面のうち土器内面にグレー塗り表示してあるものは、内面が黒色処理されていることを示す。
11. 軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦の分類と記載は、同一の瓦類が出土してその基準となっている多賀城跡分類（宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所 1982『多賀城跡 政庁跡 本文編』）に依拠した。
12. 出土木製品の記載は、奈良国立文化財研究所 1985『木器集成図録 近畿古代篇』（奈良国立文化財研究所 史料第27冊）に依拠した。
13. 本書の執筆は、調査担当者との協議の後に以下のような分担で行い、柳澤和明が全体を編集した。

第1分冊第1章、第2章、第3章2、第4章2、第2分冊第6章、第8章2-1・3、3・4、第9章……柳澤和明
第1分冊第3章1、第4章1、第5章、第2分冊第7章、第8章1・2-2）……豊村幸宏
14. 発掘調査の記録や出土遺物は、宮城県教育委員会が保管している。

目 次

第1分冊 平成18年度調査編

調査要項

第1章 調査に至る経過	1
第2章 遺跡の概観	2
1. 遺跡の位置・地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
3. 本遺跡周辺におけるこれまでの調査	6
第3章 調査の方法と経過	10
1. 平成18年度発掘調査	10
2. 平成19年度発掘調査	13
第4章 基本層序	15
1. 平成18年度発掘調査	15
2. 平成19年度発掘調査（A区）	17
第5章 平成18年度調査区	19
1. 古墳時代後期の主要遺構	19
1) 区画溝跡	19
2) 土壌	57
3) 河川跡	57
2. 奈良・平安時代の遺構	59
1) 道路跡・交差点	59
2) 材木塀跡・柱列跡	98
3) 区画溝跡	111
4) 掘立柱建物跡	114
5) 竪穴住居跡・竪穴状遺構	135
6) 井戸跡	140
7) 土器埋設遺構	153
8) 土壌	155
9) 溝跡	166
10) 整地層	178
11) ビット	181
3. 中世の主要遺構	182
1) 区画溝跡	182
2) 柱列跡	186
3) 掘立柱建物跡	186
4) 井戸跡	187

4. 時期不明の主要遺構とその他の出土遺物	188
1) 土壌	188
2) 溝跡	190
3) 河川跡・河川流路跡	192
(1) 河川跡	192
(2) 河川流路跡	193
4) 基本層Ⅰ層などの出土遺物	195
5) 基本層Ⅱ層の出土遺物	195
6) 確認調査の出土遺物	195
写真図版	213

第2分冊 平成19年度調査、弥生時代調査、総括編

第6章 平成19年度調査区	283
1. A区〔古墳時代後期（栗閉式期）・古代（奈良～平安時代）・中世〕	283
1) 古墳時代後期（栗閉式期）の主要遺構	284
(1) 竪穴住居跡	284
(2) 竪穴状遺構	307
(3) 平窓跡	307
(4) 土壌	308
(5) 区画溝跡	309
2) 古代（奈良～平安時代）の主要遺構	315
(1) 道路跡	316
(2) 材木堀跡	319
(3) 掘立柱建物跡	321
(4) 柱列跡	344
(5) 井戸跡	344
(6) 土壌	353
3) 中世の主要遺構	361
(1) 区画溝跡	361
(2) 掘立柱建物跡	363
(3) 柱列跡	373
4) その他、時期不明の主要遺構	374
(1) 掘立柱建物跡	374
(2) 土壌、溝跡	374
2. B区	383
3. C1区	394
4. C2区	398

5. C3区	402
1) 土器埋設遺構	402
2) 井戸跡	408
3) 区画溝	414
4) 杭跡	414
5) 河川跡	415
6) 流路跡	441
7) その他	442
8) SX6720河川跡出土土器群の層位的変遷	459
9) まとめ	462
第7章 平成18・19年度調査区(弥生時代中期)	463
1. 平成18年度調査区(弥生時代中期)	463
2. 平成19年度調査区(弥生時代中期)	485
第8章 総括	506
1. 弥生時代中期(樹形甕式期)	506
1) 弥生時代中期(樹形甕式期)の土器群の検討	506
2) 弥生時代中期(樹形甕式期)の遺構	522
2. 古墳時代後期(栗甕式期)	523
1) 古墳時代後期(栗甕式期)の土器群の検討	523
(1) 土師器の分類	524
(2) 須恵器の分類	534
(3) 編年的位置付け	549
2) 平成18年度調査SD6517溝跡出土の木製鞍前輪	555
3) 古墳時代後期(栗甕式期)集落跡の様相	559
3. 古代(奈良・平安時代)	561
1) 平成19年度調査A区SE6770井戸跡出土の唐櫃	561
2) 主要遺構の検討	565
(1) 道路造営以前(奈良時代)	565
(2) 道路造営以後(平安時代)	571
4. 中世の屋敷跡	578
1) 中世屋敷跡の区画溝	578
2) 中世屋敷跡内部の建物跡	579
第9章 まとめ	581
引用文献	583
付章1 市川橋遺跡の弥生時代と平安時代の植物化石及び弥生土器圧痕	589
付章2 多賀城市市川橋遺跡の火山灰分析	597
写真図版	601
抄録	

第 1 分冊 図面目次

第 1 分冊

第 1 図	陸奥国府多賀城跡と方格地割、遺跡の分布……………4	
第 2 図	多賀城跡城外の方格地割と既調査区……………7・8	
第 3 図	平成18・19年度調査区的位置……………11・12	
第 4 図	平成18・19年度調査基本順序……………16	
第 5 図	SD6517区画溝跡断面図……………20	
第 6 図	平成18年度調査 市川橋遺跡遺構全体図……………21・22	
第 7 図	SD6517区画溝跡5層出土土器……………23	
第 8 図	SD6517区画溝跡5層出土木製品……………24	
第 9 図	SD6517区画溝跡4層出土土器(1)……………27	
第 10 図	SD6517区画溝跡4層出土土器(2)……………28	
第 11 図	SD6517区画溝跡4層出土土器(3)……………29	
第 12 図	SD6517区画溝跡4層出土土器(4)……………30	
第 13 図	SD6517区画溝跡4層・3層・層位不明出土木製品・杭……………31	
第 14 図	SD6517区画溝跡3層出土土器(1)……………34	
第 15 図	SD6517区画溝跡3層出土土器(2)……………35	
第 16 図	SD6517区画溝跡3層出土土器(3)……………36	
第 17 図	SD6517区画溝跡3層出土土器(4)……………37	
第 18 図	SD6517区画溝跡3層出土土器(5)……………38	
第 19 図	SD6517区画溝跡3層出土土器(6)……………39	
第 20 図	SD6517区画溝跡2層出土土器(1)……………44	
第 21 図	SD6517区画溝跡2層出土土器(2)……………45	
第 22 図	SD6517区画溝跡2層出土土器(3)……………46	
第 23 図	SD6517区画溝跡2層出土土器(4)……………47	
第 24 図	SD6517区画溝跡2層出土土器(5)……………48	
第 25 図	SD6517区画溝跡1層出土土器(1)……………54	
第 26 図	SD6517区画溝跡1層出土土器(2)……………55	
第 27 図	SD6517区画溝跡1層出土土器(3)……………56	
第 28 図	SX6652・6658河川跡断面図……………58	
第 29 図	SX6511西3道路跡平面図……………60	
第 30 図	SX6511西3道路跡断面図……………61	
第 31 図	SX6511西3道路跡、SD6524溝跡、SX6527 整地層、SK6709土城断面図……………62	
第 32 図	SX6511西3道路跡出土土器(1)－東側溝 A・C・E期……………65	
第 33 図	SX6511西3道路跡出土土器(2)－西側溝 C・D・E期……………66	
第 34 図	SX6511西3道路跡出土土器(3)－西側溝 F期・路面Ⅰ・Ⅲ・路面堆積土……………67	
第 35 図	SX6512西3a道路跡平面図……………69	
第 36 図	SX6512西3a道路跡、SD6682東側溝、 SD6683西側溝断面図……………70	

第 37 図	SX6512西3a道路跡出土土器(1)－東側溝 A・B・C・D・F期……………73	
第 38 図	SX6512西3a道路跡出土土器(2)－西側 溝A・B・D・E・F期・路面・路面堆 積土・確認面……………74	
第 39 図	SX6650北2道路跡平面図……………76	
第 40 図	SD6547北側溝、SD6585南側溝、SX6586整 地層断面図……………76	
第 41 図	SX6510北2a道路跡平面図……………77	
第 42 図	SX6510北2a道路跡断面図(1)……………78	
第 43 図	SX6510北2a道路跡断面図(2)……………79	
第 44 図	SX6510北2a道路跡断面図(3)……………80	
第 45 図	SX710北2a道路跡平面図……………81	
第 46 図	SX710北2a道路跡断面図……………82	
第 47 図	SX6510・710北2a道路跡出土土器(1) －北側溝A・B・C・D・F期……………85	
第 48 図	SX6510・710北2a道路跡出土土器(2) －南側溝C・D期……………86	
第 49 図	SX6510・710北2a道路跡出土土器(3) －南側溝E・F期……………87	
第 50 図	SX6510・710北2a道路跡出土土器(4) －路面Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ……………88	
第 51 図	SX6510・710北2a道路跡出土土器(5) －路面堆積土・確認面……………89	
第 52 図	SX710北2a道路跡・SX6512西3a道路跡交 差点平面図……………91	
第 53 図	SX6510北2a道路跡・SX6511西3道路跡交 差点平面図……………93	
第 54 図	北2a・西3a道路跡交差点、北2a・西3道 路跡交差点の変遷模式図……………94	
第 55 図	北2a・西3道路跡交差点出土土器(1) －側溝B・C期……………95	
第 56 図	北2a・西3道路跡交差点出土土器(2) －側溝F期……………96	
第 57 図	北2a・西3道路跡交差点出土土器(3) －路面Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ……………97	
第 58 図	北2a・西3道路跡交差点出土土器(4) －路面堆積土・確認面……………98	
第 59 図	北3西3a区平面図……………99	
第 60 図	北2a西4区平面図(1)……………100	
第 61 図	北2a西4区平面図(2)……………101	
第 62 図	SA6538材木堀跡断面図……………102	
第 63 図	SA6539材木堀跡断面図……………102	
第 64 図	SA6540材木堀跡断面図……………103	
第 65 図	SA6541材木堀跡断面図……………103	
第 66 図	SA6553材木堀跡断面図……………103	

第 67 图	SA6555 材木堀跡断面図	104	第 106 图	掘立柱建物跡出土土器—SB6544・6657・6660・6663・6666・6694・6699A—	131
第 68 图	SA6556 材木堀跡断面図	104	第 107 图	SB6711 掘立柱建物跡柱穴断面図	135
第 69 图	SA6564 材木堀跡断面図	105	第 108 图	S16520・6645 竪穴住居跡平面図・断面図	136
第 70 图	SA6611 材木堀跡断面図	105	第 109 图	S16535 竪穴住居跡平面図・断面図	137
第 71 图	SA6620 材木堀跡断面図	106	第 110 图	竪穴住居跡・竪穴状遺構出土土器—S16520・6619・6645—	138
第 72 图	材木堀跡出土土器—SA6538・6556・6564—	106	第 111 图	S16537 竪穴状遺構断面図	140
第 73 图	SA6532 柱列跡柱穴断面図	107	第 112 图	SE6584 井戸跡平面図・断面図・側面図	141
第 74 图	SA6533 柱列跡柱穴断面図	107	第 113 图	SE6584 井戸跡出土土器(1)—掘方 5~9 層—	142
第 75 图	SA6691 柱列跡柱穴断面図	108	第 114 图	SE6584 井戸跡出土土器(2)—堆積土 4 層—	143
第 76 图	SA6692 柱列跡柱穴断面図	108	第 115 图	SE6584 井戸跡出土土器(3)—堆積土 1~2 層・層位不明—	144
第 77 图	SA6703 柱列跡柱穴断面図	110	第 116 图	SE6584 井戸跡出土土器(1)	145
第 78 图	SA6707 柱列跡柱穴断面図	110	第 117 图	SE6584 井戸跡出土土器(2)	146
第 79 图	SD6557・SD6628 区画溝跡出土土器(1)	112	第 118 图	SE6584 井戸跡出土土器(3)	147
第 80 图	SD6557・SD6628 区画溝跡出土土器(2)	113	第 119 图	SE6584 井戸跡出土土器(4)	148
第 81 图	SB6530 掘立柱建物跡柱穴断面図	114	第 120 图	SE6584 井戸跡出土土器(5)	149
第 82 图	SB6531 掘立柱建物跡柱穴断面図	115	第 121 图	SE6584 井戸跡出土土器(6)	150
第 83 图	SB6543 掘立柱建物跡柱穴断面図	115	第 122 图	SE6584 井戸跡出土土器(7)	151
第 84 图	北 2a 西 3 区平面図	116	第 123 图	SE6584 井戸跡出土土器・木製品 152	152
第 85 图	SB6544 掘立柱建物跡柱穴断面図	117	第 124 图	SX6529 土器埋設遺構平面図・断面図	154
第 86 图	SB6545 掘立柱建物跡柱穴断面図	118	第 125 图	SX6529 土器埋設遺構出土土器	154
第 87 图	SB6603 掘立柱建物跡柱穴断面図	118	第 126 图	西 3a 道路跡土壌断面図	155
第 88 图	SB6654・6710 掘立柱建物跡柱穴断面図	119	第 127 图	北 2a 道路跡土壌断面図	157
第 89 图	SB6655 掘立柱建物跡柱穴断面図	119	第 128 图	北 3 西 3a 区土壌断面図	158
第 90 图	北 3 西 4 区平面図 (1)	120	第 129 图	北 2a 西 3 区土壌断面図	159
第 91 图	SB6656 掘立柱建物跡柱穴断面図	121	第 130 图	北 3 西 4 区土壌断面図	160
第 92 图	SB6659 掘立柱建物跡柱穴断面図	121	第 131 图	北 2a 西 4 区土壌断面図	161
第 93 图	SB6660 掘立柱建物跡柱穴断面図	121	第 132 图	土壌出土土器 (1)—SK6549・6567・6568・6593・6623・6647—	162
第 94 图	北 3 西 4 区平面図 (2)	122	第 133 图	土壌出土土器 (2)—SK6570・6615・6630—	163
第 95 图	SB6661 掘立柱建物跡柱穴断面図	123	第 134 图	北 3 西 3a 区溝跡断面図	166
第 96 图	SB6663 掘立柱建物跡柱穴断面図	124	第 135 图	北 2a 西 3 区溝跡断面図	168
第 97 图	SB6664・6665 掘立柱建物跡柱穴断面図	124	第 136 图	北 2a 西 4 区溝跡断面図	170
第 98 图	北 3 西 4 区平面図 (3)	125	第 137 图	北 3 西 4 区溝跡断面図	172
第 99 图	SB6666 掘立柱建物跡柱穴断面図	126	第 138 图	溝跡出土土器 (1)—SD6546・6558・6571・6572・6587—	176
第 100 图	SB6672 掘立柱建物跡柱穴断面図	127	第 139 图	溝跡出土土器 (2)—SD6588—	177
第 101 图	SB6685 掘立柱建物跡柱穴断面図	127	第 140 图	ピット出土土器	181
第 102 图	SB6686・6687 掘立柱建物跡柱穴断面図	127			
第 103 图	SB6694 掘立柱建物跡柱穴断面図	128			
第 104 图	SB6699A・B 掘立柱建物跡柱穴断面図	130			
第 105 图	SB6708 掘立柱建物跡柱穴断面図	130			

第141図	SD6501A・B区画溝跡、河川跡、河川流路跡断面図……………183
第142図	SD6504A・B区画溝跡、河川跡、河川流路跡断面図……………184
第143図	区画溝跡、河川跡、河川流路跡出土土器……………185
第144図	SB6693掘立柱建物跡柱穴断面図……………187
第145図	SE6528井戸跡断面図……………187
第146図	遺構外の出土土器(1)……………197
第147図	遺構外の出土土器(2)……………198
第148図	緑釉陶器・白磁・青磁……………199
第149図	灰釉陶器……………200
第150図	鏡・銭貨・釘・石製品・硯……………201
第151図	土製品……………202
第152図	土製円板……………203
第153図	瓦(1)……………204
第154図	瓦(2)……………205
第155図	SD6680西3道路跡東側溝、SD6557区画溝跡出土木製品……………206
第156図	砥石(1)……………207
第157図	砥石(2)……………208
第158図	砥石(3)……………209
第159図	砥石(4)……………210
第160図	砥石(5)……………211

第2分冊 図面目次

第161図	A区、山王遺跡八幡地区全体図……………285・286
第162図	A区部分図(1) - A3区中部・南部のSB6824・6826・6827・6829～6831掘立柱建物跡、SA6825柱列跡、S16759～6763竪穴住居跡……………287
第163図	A区部分図(2) - A3区西部、八幡地区I区南東部のSB2354～2356・6828・6832～6836掘立柱建物跡、SA2369・6837柱列跡……………288
第164図	A区部分図(3) - A1区北部・中部のSB6838～6848掘立柱建物跡……………289
第165図	A区部分図(4) - A1区中部のSB6849～6854・6858・6859掘立柱建物跡、S16767・6768竪穴住居跡、SD2208区画溝跡、SK6793土壇……………290
第166図	A区部分図(5) - A1区南部のSB6855～6857・6860～6864掘立柱建物跡、SA6865・6866柱列跡……………291

第167図	山王遺跡八幡地区I区西部平面図……………292
第168図	山王遺跡八幡地区I区中部平面図……………293
第169図	S16759竪穴住居跡平面図・断面図……………294
第170図	S16760竪穴住居跡平面図・断面図……………295
第171図	S16761・6762・6763竪穴住居跡平面図……………298
第172図	S16761・6762・6763竪穴住居跡断面図……………299
第173図	S16759・6760・6761・6762竪穴住居跡出土土器……………300
第174図	S16763竪穴住居跡出土土器……………301
第175図	S16764竪穴住居跡、S16765・6766竪穴状遺構平面図・断面図……………302
第176図	S16764竪穴住居跡出土土器……………303
第177図	S16767・6768竪穴住居跡平面図・断面図……………304
第178図	S16769竪穴住居跡平面図・断面図……………305
第179図	S16767・6768竪穴住居跡・S16765・6766竪穴状遺構出土土器……………306
第180図	SX6772平窯跡……………308
第181図	SK6777大土壇、SD2220・2230中世屋敷北辺区画溝跡平面図……………310
第182図	SK6777大土壇、SD2220・2230中世屋敷北辺区画溝跡断面図……………311
第183図	SK6777土壇 第13・11層出土土器……………312
第184図	SK6777土壇 第11層出土土器(2)……………313
第185図	SK6777土壇 第11層出土土器(3)……………314
第186図	SK6777土壇 第11・8層出土土器……………315
第187図	SD2208区画溝跡……………316
第188図	SX710(北2a)道路跡、SX6800・6801材木塚跡、SE6770井戸跡平面図……………318
第189図	SX710(北2a)道路跡、SX6800・6801材木塚跡断面図……………319
第190図	SD6617北側溝跡出土土器(1)……………320
第191図	SD6617北側溝跡出土土器(2)……………321
第192図	SD6627南側溝跡出土土器……………322
第193図	SB6824・6826・6827・6829～6831掘立柱建物跡、SA6825柱列跡断面図……………323
第194図	SB2354・2355・6828・6832～6836掘立柱建物跡、SA6837柱列跡断面図……………325
第195図	SB6839～6848掘立柱建物跡断面図……………328
第196図	SB6849～6854・6858・6859掘立柱建物跡……………331

第197図	SB6855～6857・6860～6864掘立柱建物跡、SA6865・6866柱列跡断面図……………334	第225図	SI6739堅穴住居跡、SD3658B側溝・3203C側溝、SK6753土壌、SD6613溝跡出土土器……………391
第198図	SB6844・6845・6848・6852・6855・6856・6862B建物跡、SA6837柱列跡等出土土器……………337	第226図	SD6742・6743・6744溝跡、図版出土土器……………392
第199図	SE6770井戸跡平面図・断面図……………345	第227図	B区出土石製品(砥石・石核・有孔石製品)、土製品(円板状土製品)、銭貨……………393
第200図	SE6771井戸跡平面図・断面図……………346	第228図	C1区全体図、SD6557溝跡断面図……………394
第201図	SE6770・6771井戸跡出土土器……………347	第229図	SX6736A～F河川跡断面図……………396
第202図	SE6770井戸跡出土井戸枠部材(1)……………348	第230図	SX6736B・F河川跡出土土器……………397
第203図	SE6770井戸跡出土井戸枠部材(2)……………349	第231図	C2区全体図、SX6735河川跡断面図……………398
第204図	SE6770井戸跡井戸枠部材・出土木製品……………350	第232図	SX6735河川跡出土遺物(1)……………400
第205図	SE6770井戸跡井戸枠最下段転用の唐櫃……………351	第233図	SX6735河川跡出土遺物(2)……………401
第206図	SE6771井戸跡井戸枠部材……………352	第234図	C3区調査区全体図(1)……………403
第207図	SK6773～6776・6778～6799土壌断面図……………354	第235図	C3区調査区全体図(2)……………404
第208図	SK6793土壌 第3・2層出土土器(1)……………356	第236図	C3区調査区北半部東西方向断面図……………405
第209図	SK6793土壌 第2層出土土器(2)……………357	第237図	SX6724土器埋設遺構……………406
第210図	SK6793土壌 第2層出土土器(3)……………358	第238図	SX6724土器埋設遺構出土土器(1)……………407
第211図	SK6793土壌 第2層出土土器(4)、漆紙文書断簡……………359	第239図	SX6724土器埋設遺構出土土器(2)……………408
第212図	SK6793土壌 第1層出土土器……………360	第240図	SX6725土器埋設遺構……………409
第213図	SD2204・6807～6818・6820溝跡断面図……………372	第241図	SX6725土器埋設遺構出土土器……………410
第214図	その他の土壌出土土器 —SK6778・6783・6784・6785・6789・6790—……………377	第242図	SE6722井戸跡……………411
第215図	その他の土壌、遺構検出面、図版出土土器……………378	第243図	SE6723井戸跡……………412
第216図	その他の溝跡出土土器 —SD2220・2230・6810・6813・6814・6815・6817—……………379	第244図	SE6722・6723井戸跡、SD6730区画溝出土土器……………413
第217図	A区出土土製品・瓦……………380	第245図	SX6726杭跡……………414
第218図	A区出土石製品—砥石・垂飾品……………381	第246図	SX6720河川跡第6層出土土器(1)……………417
第219図	A区出土石製品—凝灰岩切石・凹石……………382	第247図	SX6720河川跡第6層出土土器(2)……………418
第220図	市川橋遺跡伏石地区B区遺構全体図……………384	第248図	SX6720河川跡第6層出土土器(3)……………419
第221図	北2道路跡断面……………385	第249図	SX6720河川跡第6層出土土器(4)……………420
第222図	SB6750掘立柱建物跡、SA6751・6757柱列跡……………386	第250図	SX6720河川跡第6層出土土器(5)……………421
第223図	SI6739堅穴住居跡、SA6758柱列跡……………388	第251図	SX6720河川跡第6層出土土器(6)……………422
第224図	その他の遺構断面……………389	第252図	SX6720河川跡第6層出土土器(7)……………423
		第253図	SX6720河川跡第6層出土土器(8)……………424
		第254図	SX6720河川跡第6層出土土器(9)……………425
		第255図	SX6720河川跡第6層出土土器……………426
		第256図	SX6720河川跡第6層出土土器(1)……………427
		第257図	SX6720河川跡第6層出土土器(2)……………428
		第258図	SX6720河川跡第6層出土土器(3)……………429
		第259図	SX6720河川跡第5c・5b層出土土器……………430
		第260図	SX6720河川跡第5a層出土土器……………431
		第261図	SX6720河川跡第5a・4・3層出土土器……………432

第262図	SX6720河川跡第3c層出土土器(2) … 435	第301図	第VI層出土弥生土器甕(7) …… 485
第263図	SX6720河川跡第3c層出土土器(3) … 436	第302図	平成19年度A区弥生時代中期の調査(1) …… 486
第264図	SX6720河川跡第3b層出土土器 …… 437	第303図	平成19年度A区弥生時代中期の調査(2) …… 487
第265図	SX6720河川跡第3a・3層出土土器 …… 438	第304図	SD6682・6683溝跡出土弥生土器 …… 489
第266図	SX6720河川跡第3・2層出土土器 …… 439	第305図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器鉢・高坏・袖珍 …… 491
第267図	SX6721河川跡第5・4層出土土器 …… 440	第306図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器蓋 …… 492
第268図	基本層第5b・5・4・3層出土土器 …… 443	第307図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器壺(1) …… 493
第269図	基本層第2層、SD6727・6728・6729・6731 流路跡出土土器 …… 444	第308図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器壺(2) …… 494
第270図	C3区出土墨書土器集成(1) …… 445	第309図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器壺(3) …… 495
第271図	C3区出土墨書土器集成(2) …… 446	第310図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器甕(1) …… 496
第272図	C3区出土墨書土器集成(3) …… 447	第311図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器甕(2) …… 497
第273図	C3区出土墨書土器集成(4) …… 448	第312図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器甕(3) …… 498
第274図	C3区出土墨書土器集成(5)、刻書、漆 書き土器 …… 449	第313図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器甕(4) …… 499
第275図	C3区出土人面墨書土器 …… 450	第314図	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器甕(5) …… 500
第276図	C3区出土土瓦(1) …… 451	第315図	弥生時代遺物包含層出土土器(1) …… 503
第277図	C3区出土土瓦(2) …… 452	第316図	弥生時代遺物包含層出土土器(2) …… 504
第278図	SE6722・6723井戸跡、SX6720河川跡出土 木製品 …… 453	第317図	弥生時代遺物包含層出土土器(3) …… 505
第279図	SX6720河川跡出土木製品(2) …… 454	第318図	弥生土器分類図1 …… 508
第280図	C3区出土土石製品-砥石(1) …… 455	第319図	弥生土器分類図2 …… 510
第281図	C3区出土土石製品-砥石(2) …… 456	第320図	弥生土器分類図3 …… 511
第282図	C3区出土土石製品-砥石(3)、鉄製品 …… 457	第321図	弥生土器分類図4 …… 512
第283図	C3区出土土石製品(凝灰岩・巡方・剥片)、 土製品(転用砥) …… 458	第322図	弥生土器分類図5 …… 513
第284図	平成18・19年度弥生時代調査区 …… 464	第323図	弥生土器器種別文様集成図1 …… 518
第285図	第VI層出土弥生土器鉢・埴・土製品 …… 466	第324図	弥生土器器種別文様集成図2 …… 519
第286図	第VI層出土弥生土器高坏 …… 467	第325図	樹形図式期の器種組成 …… 521
第287図	第VI層出土弥生土器蓋(1) …… 469	第326図	SD6517区画溝、SK6777大土壇出土土器 器分類図1 …… 326
第288図	第VI層出土弥生土器蓋(2) …… 470	第327図	SD6517区画溝、SK6777大土壇出土土器 器分類図2 …… 531
第289図	第VI層出土弥生土器蓋(3) …… 471	第328図	SD6517区画溝、SK6777大土壇出土須恵 器分類図 …… 535
第290図	第VI層出土弥生土器壺(1) …… 473	第329図	SD6517区画溝跡出土土器器集成1 …… 540
第291図	第VI層出土弥生土器壺(2) …… 474	第330図	SD6517区画溝跡出土土器器集成2 …… 541
第292図	第VI層出土弥生土器壺(3) …… 475	第331図	SD6517区画溝跡出土土器器集成3 …… 542
第293図	第VI層出土弥生土器壺(4) …… 476		
第294図	第VI層出土弥生土器壺(5) …… 477		
第295図	第VI層出土弥生土器甕(1) …… 479		
第296図	第VI層出土弥生土器甕(2) …… 480		
第297図	第VI層出土弥生土器甕(3) …… 481		
第298図	第VI層出土弥生土器甕(4) …… 482		
第299図	第VI層出土弥生土器甕(5) …… 483		
第300図	第VI層出土弥生土器甕(6) …… 484		

第332図	SD6517区画溝跡出土土師器集成4	543
第333図	SD6517区画溝跡出土須恵器集成1	544
第334図	SD6517区画溝跡出土須恵器集成2	545
第335図	平成19年度調査A区出土の栗罎式期土器集成1-SK6777大土壘	546
第336図	平成19年度調査A区出土の栗罎式期土器集成2-一壜穴住居跡、区画溝跡、土壘	547
第337図	平成19年度調査A区出土の栗罎式期土器集成3-土壘、溝跡、検出面	548
第338図	木製鞍の部位名称	555
第339図	前輪と居木の接合模式図	556
第340図	古墳時代～奈良時代の遺跡出土木製鞍集成図	557
第341図	古墳時代中期(南小泉式期)、後期(栗罎式期)の集落跡模式図	560
第342図	本遺跡出土の唐櫃と正倉院宝物の各形式古櫃、絵巻物に描かれた同形式の唐櫃との比較	563
第343図	遺跡出土の古櫃集成	564
第344図	平成18年度調査区検出主要遺構の新旧関係	566
第345図	平成19年度調査A区検出主要遺構の新旧関係	567
第346図	山王・市川橋遺跡における奈良時代の主要遺構(方格地割形成以前)	569
第347図	北3西4区、北2西4区、北2西3区における道路跡の変遷	573
第348図	8世紀後半頃の区画施設と9世紀前半頃の道路跡との関係	574
第349図	北3西4区、北2西4区、北2西3区の平安時代の主要遺構	576
第350図	山王・市川橋遺跡の中世屋敷跡	579

第1分冊 表目次

表1	第1図掲載の遺跡	5
表2	山王遺跡・市川橋遺跡における大規模な本発掘調査一覧	9
表3	掘立柱建物跡、柱列跡一覧	132
表4	土壘一覧	165
表5	溝跡一覧	179

第2分冊 表目次

表6	A区、山王遺跡八幡地区I区掘立柱建物跡、柱列跡一覧	338
表7	A区土壘一覧	375

表8	A区溝跡一覧	376
表9	SX6720河川跡出土土師器環の製作技法	460
表10	SX6720河川跡出土須恵器環の製作技法	461
表11	地文原体と器種との対応関係	515
表12	磨消縄文と充填縄文および沈線編の器種との対応関係	516
表13	器種と文様の関係	517
表14	列点文の工具種類と刺突方向	520
表15	SD6517区画溝跡、SK6777大土壘、A区壜穴住居跡等出土の栗罎式期土器集計	550
表16	平成18年度調査区検出の道路跡の対応関係	571
表17	平成18年度調査区検出の道路跡一覧	572

第1分冊 写真図版目次

図版1	多賀城跡と山王遺跡・市川橋遺跡の航空写真	215
図版2	調査区遠景	216
図版3	A区空撮、SX6510北2a・SX6511西3道路跡空撮	217
図版4	A区全景、SX6510北2a・SX6512西3a道路跡空撮	218
図版5	SX6510北2a・SX6511西3・SX6512西3a道路跡	219
図版6	SX6510北2a・SX6511西3・SX6512西3a道路跡側溝E・F期	220
図版7	SD6682・6683北2a道路跡北側溝	221
図版8	SD6681北2a道路跡南側溝・SD6680西3道路跡東側溝	222
図版9	SD6681西3道路跡西側溝、SD6524溝跡	223
図版10	SD6683西3a道路跡西側溝、SX6529土器埋設遺構、SX6650北2道路跡	224
図版11	SB6603・6660・6661掘立柱建物跡	225
図版12	SB6530・6531掘立柱建物跡、北2a西3区掘立柱建物跡	226
図版13	SB6543・6544・6545・6657掘立柱建物跡	227
図版14	SB6544・6545・6654・6655・6656・6708・6710・6711掘立柱建物跡	228
図版15	S16520・6535・6645壜穴住居跡	229

図版16	SA6538・6539・6540材木塚跡、SE6528井戸跡……………230	図版47	SD6517区画溝跡1層出土土器(1)……………261
図版17	SA6555・6556・6564材木塚跡……………231	図版48	SD6517区画溝跡1層出土土器(2)……………262
図版18	SA6532・6707柱列跡、SK6549土壇、SX6521河川流路跡……………232	図版49	SX6510北2a道路跡、SX6511西3道路跡出土土器……………263
図版19	SK6640・6641・6643土壇……………233	図版50	SX6510北2a道路跡出土土器……………264
図版20	SD6557区画溝跡……………234	図版51	SX6512西3a道路跡・北2a西3a交差点、北2a西3交差点出土土器……………265
図版21	SD6501・6504区画溝跡、SD6546・6558・6587・6588溝跡、SX6503河川跡……………235	図版52	掘立柱建物跡、堅穴住居跡、ピット出土土器……………266
図版22	B区全景・SX710北2a道路跡……………236	図版53	井戸跡、土壇出土土器……………267
図版23	SB6663・6664・6665・6666・6685・6699 A・B掘立柱建物跡……………237	図版54	SX6529土器埋設遺構出土土器……………268
図版24	SE6584井戸跡……………238	図版55	区画溝跡、溝跡、河川跡出土土器……………269
図版25	SA6611・6620材木塚跡、SA6691・6692柱列跡……………239	図版56	遺構外出土土器……………270
図版26	SD6517区画溝跡……………240	図版57	漆付着土器・製塩土器……………271
図版27	SD6517区画溝跡……………241	図版58	青磁・白磁・金属製品・石製品・硯……………272
図版28	C区(弥生時代中期遺物包含層)……………242	図版59	緑釉陶器・灰釉陶器……………273
図版29	SD6517区画溝跡5層・4層出土土器(集合写真)……………243	図版60	土製品・土製円板……………274
図版30	SD6517区画溝跡3a・3b・3a~3f層出土土器(集合写真)……………244	図版61	瓦……………275
図版31	SD6517区画溝跡3・2層出土土器(集合写真)……………245	図版62	砥石……………276
図版32	SD6517区画溝跡1層、SE6584井戸出土土器(集合写真)……………246	図版63	砥石・鉄滓・骨……………277
図版33	SD6517区画溝跡5・4層出土土器……………247	図版64	井戸枠材(1)―SE6584井戸跡……………278
図版34	SD6517区画溝跡4層出土土器(1)……………248	図版65	井戸枠材(2)―SE6584井戸跡……………279
図版35	SD6517区画溝跡4層出土土器(2)……………249	図版66	井戸枠材・木製品―SE6584井戸跡……………280
図版36	SD6517区画溝跡4層出土土器(3)……………250	図版67	木製品―SD6517区画溝跡……………281
図版37	SD6517区画溝跡3層(3a・3b・3a~3f層)出土土器(1)……………251	図版68	木製品・杭―SD6517・6557区画溝跡、SD6680西3道路跡東側溝……………282
図版38	SD6517区画溝跡3層(3a・3b層)出土土器(2)……………252		
図版39	SD6517区画溝跡3層(3a・3a~3f層)出土土器(3)……………253		
図版40	SD6517区画溝跡3層(3a・3b・3a~3f層)出土土器(4)……………254		
図版41	SD6517区画溝跡3層出土土器(5)……………255		
図版42	SD6517区画溝跡2層出土土器(1)……………256		
図版43	SD6517区画溝跡2層出土土器(2)……………257		
図版44	SD6517区画溝跡2層出土土器(3)……………258		
図版45	SD6517区画溝跡2層出土土器(4)……………259		
図版46	SD6517区画溝跡2・1層出土土器(4)……………260		

第2分冊 写真図版目次

図版69	A区 全景(1)……………603
図版70	A区 全景(2)……………604
図版71	A区 堅穴住居跡(1)……………605
図版72	A区 堅穴住居跡(2)……………606
図版73	A区 堅穴住居跡(3)……………607
図版74	A区 SX6772平窯跡……………608
図版75	A区 SK6777大土壇(1)……………609
図版76	A区 SK6777大土壇(2)……………610
図版77	A区 SX710(北2a)道路(1)……………611
図版78	A区 SX710(北2a)道路(2)……………612
図版79	A区 SA6800・6801材木塚跡……………613
図版80	A区 SB2355・6824・6826・6827掘立柱建物跡、SA6825柱列跡断面……………614
図版81	A区 SB6828・6829・6830・6831掘立柱建物跡断面……………615

図版82	A区 SB6832・6833・6834・6835・6836A 掘立柱建物跡断面……………616	図版105	A区 SE6770井戸跡井戸枠最下段転用の白木造四脚形式唐櫃(2)……………639
図版83	A区 SB6836A・6836B・6839・6840A・6840B・6841B掘立柱建物跡、SA6837柱列跡断面……………617	図版106	B区 全景……………640
図版84	A区 SB6841A・6841B・6843・6845・6846・6847・6849掘立柱建物跡断面……………618	図版107	B区 南東部……………641
図版85	A区 SB6847・6848・6849・6850・6851 掘立柱建物跡断面……………619	図版108	B区 北2(SX3900)道路跡……………642
図版86	A区 SB6852・6855・6856・6857・6858 掘立柱建物跡断面……………620	図版109	B区 SB6750掘立柱建物跡、SI6739竪穴住居跡……………643
図版87	A区 SB6856・6859・6860・6861・6862A・6862B掘立柱建物跡断面……………621	図版110	B区 SI6619・6739竪穴住居跡、SD6747溝跡……………644
図版88	A区 SB6862A・6862B・6863B・6864掘立柱建物跡、SA6865A・6866柱列跡断面……………622	図版111	B区 出土遺物……………645
図版89	A区 SE6770・6771井戸跡断面……………623	図版112	C1区 SD6557溝跡、SX6736河川跡……………646
図版90	A区 SK6773・6774・6776・6778・6779・6782・6786・6788土壌断面……………624	図版113	C1区 SX6736河川跡と調査状況……………647
図版91	A区 SK6789・6792・6793・6795・6796・6797土壌断面……………625	図版114	C1区 SX6736B・F河川跡出土土器……………648
図版92	A区 SD2220・2230中世屋敷北辺区画溝……………626	図版115	C2区 調査状況……………649
図版93	A区 SI6793・6764・6768竪穴住居跡、SI6765竪穴状遺構、SX6772平窟跡、SK6777大土壇出土土器……………627	図版116	C2区 SX6735河川跡出土遺物……………650
図版94	A区 SK6777大土壇出土土器(1)……………628	図版117	C2区 SX6735河川跡第6層(10世紀中頃以降)出土のヒト頭蓋骨……………651
図版95	A区 SK6777大土壇出土土器(2)……………629	図版118	C3区 SX6724土器埋設遺構……………652
図版96	A区 SK6777大土壇、SD6617北側溝、SD2208区画溝跡、SD2220溝跡出土土器……………630	図版119	C3区 SX6725土器埋設遺構……………653
図版97	A区 SB6845・6855建物跡、SE6770井戸跡、SD6617北側溝、未登録柱穴出土土器……………631	図版120	C3区 SE6722・6723井戸跡……………654
図版98	A区 SK6793土壇出土土器……………632	図版121	C3区 SD6730溝跡、SX6726杭跡、SX6720河川跡……………655
図版99	A区 墨書土器・漆紙文書断簡・施釉陶器……………633	図版122	C3区 SX6720・6721河川跡……………656
図版100	A区 漆付着土器・骨・土製品・瓦・鉄滓・粘土塊・壁材……………634	図版123	C3区 SX6720河川跡、SD6727・6728・6733流路跡……………657
図版101	A区 石製品・凝灰岩切石・凹石……………635	図版124	C3区 SX6724土器埋設遺構出土土器(1)……………658
図版102	A区 SE6770井戸跡の井戸枠部材……………636	図版125	C3区 SX6724土器埋設遺構出土土器(2)……………659
図版103	A区 SE6770井戸跡の井戸枠部材と井戸内出土木製品……………637	図版126	C3区 SX6725土器埋設遺構出土土器……………660
図版104	A区 SE6770井戸跡井戸枠最下段転用の白木造四脚形式唐櫃(1)……………638	図版127	C3区 SX6720河川跡 第6c・6b・6a層出土土器……………661
		図版128	C3区 SX6720河川跡 6c・6b層出土土器……………662
		図版129	C3区 SX6720河川跡出土土器(1) 一第6c層……………663
		図版130	C3区 SX6720河川跡出土土器(2) 一第6c層……………664
		図版131	C3区 SX6720河川跡出土土器(3) 一第6c層……………665
		図版132	C3区 SX6720河川跡出土土器(4) 一第6c・6b層……………666

図版133	C3区 SX6720河川跡出土土器(5) —第6a層……………	667	図版163	弥生時代遺物包含層出土石器(2)…	697
図版134	C3区 SX6720河川跡出土土器(6) —第5c・5b・5a層……………	668	図版164	弥生時代遺物包含層出土鹿角・鹿骨 ……………	698
図版135	C3区 SX6720河川跡出土土器(7) —第4・3c層……………	669			
図版136	C3区 SX6720河川跡出土土器(8) —第3b・3a・2層……………	670			
図版137	C3区 基本層、SD6728・6730出土土 器……………	671			
図版138	C3区 SX6720河川跡出土墨書土器	672			
図版139	C3区 SX6720河川跡出土墨書土器・刻 書土器……………	673			
図版140	C3区 出土瓦……………	674			
図版141	C3区 SE6772・6723井戸跡、SX6720河 川跡出土土器・木製品……………	675			
図版142	C3区 SX6720河川跡出土木製品…	676			
図版143	C3区 石製品・土製品・鉄製品…	677			
図版144	平成19年度 弥生時代中期の調査(1) ……………	678			
図版145	平成19年度 弥生時代中期の調査(2) ……………	679			
図版146	弥生土器(樹形圃式)集合写真…	680			
図版147	第VI層出土弥生土器 鉢・埴・高坏・土 製品……………	681			
図版148	第VI層出土弥生土器 高坏・蓋…	682			
図版149	第VI層出土弥生土器 蓋……………	683			
図版150	第VI層出土弥生土器 壺(1)……………	684			
図版151	第VI層出土弥生土器 壺(2)……………	685			
図版152	第VI層出土弥生土器 壺・甕……………	686			
図版153	第VI層出土弥生土器 甕(1)……………	687			
図版154	第VI層出土弥生土器 甕(2)……………	688			
図版155	第VI層出土弥生土器 甕(3)……………	689			
図版156	第VI層出土弥生土器 甕(4)……………	690			
図版157	SD6682・6683溝跡、第VI a・VI b・VII a 層出土弥生土器 鉢・高坏・蓋・壺・ 甕・袖珍……………	691			
図版158	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器 蓋・ 壺……………	692			
図版159	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器 蓋・ 甕……………	693			
図版160	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器 甕 (1)……………	694			
図版161	第VI a・VI b・VII a層出土弥生土器 甕 (2)……………	695			
図版162	弥生時代遺物包含層出土石器(1)…	696			

調 査 要 項

遺 跡 名：市川橋遺跡（宮城県遺跡地名表搭載番号18008）

遺跡記号：E S

所 在 地：宮城県多賀城市伏石・八幡地内

遺跡種別：縄文時代～古墳時代の集落跡、古代都市

調査原因：都市計画道路玉川岩切線建設事業（宮城県土木部都市計画課事業）

調査費用：宮城県土木部都市計画課執行委任

調査箇所：平成17年度発掘調査（市川橋遺跡伏石地区）

平成18年度発掘対象地の確認調査

平成18年度発掘調査（市川橋遺跡伏石地区）

県道泉塩釜線と都市計画道路玉川岩切線との交差点箇所南東部の本発掘調査

平成19年度発掘調査（市川橋遺跡八幡・伏石地区ほか）

A区 県道泉塩釜線と都市計画道路玉川岩切線との交差点箇所南西部の本発掘調査

B区 交差点箇所に近い農道改修工事箇所の確認調査

C 1区 砂押川右岸堤防上の新市川橋橋脚工事箇所の本発掘調査

C 2区 砂押川中央の新市川橋橋台工事箇所の本発掘調査

C 3区 砂押川左岸堤防上の新市川橋橋脚工事箇所の本発掘調査

調査面積：平成17年度発掘調査 確認調査約1,200㎡

平成18年度発掘調査 本発掘調査約3,616㎡

平成19年度発掘調査 本発掘調査約905㎡、確認調査約240㎡、計約1,145㎡

A区 約620㎡（本発掘調査）

B区 約240㎡（確認調査）

C 1区 約126㎡（本発掘調査）

C 2区 約55㎡（本発掘調査）

C 3区 約104㎡（本発掘調査）

調査期間：平成17年度発掘調査 平成17年10月3日～平成17年11月4日

平成18年度発掘調査 平成18年5月15日～平成18年12月26日

平成19年度発掘調査 平成19年8月20日～平成20年2月14日

A区 平成19年8月20日～平成19年11月9日

B区 平成19年10月15日～平成19年10月22日

C 1区 平成20年1月15日～平成20年1月18日

C 2区 平成19年12月18日～平成19年12月19日

C 3区 平成20年1月18日～平成20年2月14日

調査主体：宮城県教育庁文化財保護課

調 査 員：平成17年度発掘調査

大和幸生・佐藤貴志

平成18年度発掘調査

柳澤和明・村田晃一・大和幸生・豊村幸宏・佐藤憲幸・志間貞治・千葉直樹・生田和宏・

小野章太郎・村上裕次

平成19年度発掘調査

A区 柳澤和明・相原淳一・佐藤貴志・尾形祐之・初鹿野博之

B区 柳澤和明・相原淳一・佐藤貴志

C 1区 柳澤和明・相原淳一・佐藤貴志・尾形祐之

C 2区 柳澤和明・相原淳一・佐藤貴志・尾形祐之

C 3区 柳澤和明・相原淳一・佐藤貴志・尾形祐之

調査協力：宮城県土木部仙台土木事務所、東北歴史博物館、宮城県多賀城跡調査研究所、多賀城市埋蔵文化財調査センター、鶴草刈建設（仮）新市川橋下部工事現場事務所、（株）ウジエ・浮島作業所

第1章 調査に至る経過

昭和47年(1972)～昭和52年(1977)にかけて、太平洋岸沿いの三陸自動車道に連結する仙台湾高規格幹線道路事業計画が立案・検討された。この中で仙台市宮城野区中野から宮城郡利府町春日までの「仙塩道路」の建設計画が決定した。計画ではこの仙塩道路は特別史跡多賀城跡の西側に沿って、多賀城跡の南面に位置する市川橋遺跡、山王遺跡などを縦断するものであった。また、山王遺跡八幡地区には仮称「多賀城インター」も敷設される計画となった。

一方、この仙塩道路と交差する県道泉塩釜線のバイパスの機能を持った都市計画道路玉川岩切線建設事業も同時に決定された。この都市計画道路は、仙塩道路の多賀城インターにアクセスする計画で、市川橋遺跡・山王遺跡を東西に横断するというルートであった。

こうした経緯を受けて、都市計画道路玉川岩切線建設事業に伴う発掘調査が平成4年度(1992)から実施されることになった。この都市計画道路は、当初、盛土工法による4車線(路線敷30m)の計画であったが、その後変更されて暫定2車線開通ということになった。

平成4年度(1992)から山王遺跡八幡地区の調査が開始され、発掘調査は山王遺跡と市川橋遺跡の間を南流する砂押川沿いから西へ向かって順次進められた。翌平成5年度(1993)にも引き続き同地区で調査が行われた(宮城県教育委員会、1994)。平成7・8年度(1995・1996)にはさらに西側の山王遺跡八幡地区・町地区の調査が行われた(宮城県教育委員会、1998)。平成7年度(1995)～10年度(1998)には、砂押川左岸以東の多賀城跡外郭南辺の南側にあたる市川橋遺跡館前地区・矢中地区において発掘調査が実施された(宮城県教育委員会、2001)。また、都市計画道路玉川岩切線建設事業に伴う発掘調査は、平成8年度実施の山王遺跡町地区のさらに西側の山王遺跡伊勢地区において、平成14・15年度(2002・2003)に実施された(宮城県教育委員会、2004)。平成16年度(2004)には市川橋遺跡館前北地区、平成15・17年度(2003・2005)には市川橋遺跡後山地区と再び砂押川左岸以東の多賀城跡外郭南辺の南側で発掘調査が行われた(宮城県教育委員会、2007)。

今回報告する平成18・19年度(2006・2007)実施の市川橋遺跡の発掘調査は、都市計画道路玉川岩切線建設事業における暫定2車線開通計画に伴う発掘調査の最終次にあたる。平成18年度(2006)の発掘調査は、①都市計画道路と県道泉塩釜線との交差点南東部の都市計画道路路線・法尻工事箇所、及び②県道泉塩釜線の取り付け替え工事箇所を対象に実施したものである。また平成19年度(2007)の発掘調査は、①交差点南西部・北東部の県道泉塩釜線の取り付け替え工事箇所(A区)、②砂押川にかかる都市計画道路の新市川橋の橋脚・橋台工事箇所(C1・C2・C3区)、及び③取り付け替えを行う県道泉塩釜線に取り付け農道の取り付け替え工事箇所の法尻部分(B区)を対象に実施したものである。

なお、都市計画道路玉川岩切線建設事業における暫定2車線工事は平成20年度(2008)に終了し、暫定2車線で全線開通される予定である。都市計画道路玉川岩切線建設事業に伴う本発掘調査は、平成4年度(1992)から平成19年度(2007)までの16年間にわたって実施してきた。伊勢地区については4車線路線敷で本発掘調査を実施したが、町地区より東側については暫定2車線の北側法尻及びさらに北側の2車線部分は本発掘調査を実施してきていない。

第2章 遺跡の概観

1. 遺跡の位置・地理的環境

市川橋遺跡は、宮城県仙台市の中心部から北東へ約10km、多賀城市街の北西部に所在する古代の陸奥国府である特別史跡多賀城跡の南～南西部に位置する。標高約2～3mの水田地帯に、東西約1.4km、南北約1.6km、総面積約703,000㎡にも及ぶ広大な遺跡である(第1図)。遺跡の中心部をJR東北本線が東西に横断し、西側を三陸自動車道へと至る仙塩道路が南北に縦断する。また、遺跡の北側では東西方向に仙台市と塩竈市を結ぶ県道「泉一塩釜線」が通っている。

遺跡は、縄文時代から中世まで長期間にわたって断続的に営まれているが、一般的には古墳時代～奈良・平安時代を中心とした遺跡として知られている。特に、古代においては陸奥国府・多賀城跡と密接な関係を持ち、西側に隣接する山王遺跡とともに多賀城の城外にあって方格地割に基づいた街並みを形成していた区域であったことが明らかになっている(宮城県教育委員会、1995;多賀城市教育委員会、1999)。この一帯は、これまで大部分が水田として利用されていたが、近年では宅地造成や道路整備に伴い、その景観は大きく変貌しつつある。

地理的にみると、遺跡は仙台平野の北端部、砂押川左岸の丘陵地から沖積地へ移行する低地上に立地している。遺跡の北～東部にかけては陸前丘陵から派生する、緩やかな起伏を持つ多賀城台地が広がる。この多賀城台地は標高50mほどで、東の塩釜・松島方面へと高度を緩やかに上げながら連続している。この台地の南西端には陸奥国府・多賀城跡が所在する。本遺跡の西～南側には砂押川が南流しており、低平な沖積地が広がっている。

2. 歴史的環境

本遺跡周辺には奈良・平安時代の陸奥国府多賀城跡をはじめとする多数の遺跡がある(第1図)。本遺跡を含む近年の調査成果から弥生時代～近世までの周辺の様子が次第に明らかになってきている。その概要は以下のとおりである。

(1) 弥生時代

周辺の丘陵上ではいまのところ当該期の遺跡は認められていないが、多賀城跡五万崎地区で弥生時代中期の樹形閉式と十三塚式の土器と石包丁が出土しており、この付近に集落の存在が想定される。

また、沖積地に立地する山王遺跡八幡地区(平成4・5年度に発掘調査されたI区西半部からII区東半部に集中)では、弥生時代中期の樹形閉式の遺物を含む黒色泥炭層が標高1.8～1.9m、地表下1.8～2.0mの深さで検出されている(宮城県教育委員会、1994b)。遺物包含層での遺物の密度が南側ほど濃くなることから、集落など遺構の存在はこの調査区の南側に想定されていた。今回報告する平成19年度調査のA区は、この山王遺跡八幡地区I区に隣接している。また、弥生時代の水田跡が八幡地区(多賀城市調査のJ区)で検出され(多賀城市教育委員会、1997)、新田遺跡後地区では溝跡や土器などが発見されている。

しかし、これまで近辺では堅穴住居跡などは検出されず、集落跡は未発見である。山王遺跡八幡地区や新田遺跡での弥生時代中期(樹形閉式期)の遺物包含層や遺構面は現地地表下2m前後にあることから、

この深度の沖積地の微高地上、山王遺跡八幡地区内に弥生時代中期の集落跡があると想定されている。

(2) 古墳時代

古墳時代前期には、本遺跡の北から東の丘陵上や西側の自然堤防上の山王遺跡に集落や墓域が営まれていたことが確認されている。中期になると、本遺跡の西側に位置する新田遺跡後地区、山王遺跡東町浦・西町浦地区、山王遺跡八幡地区などで竪穴住居跡が発見され、自然堤防上に集落が存在したことが明らかになった。八幡地区では鍛冶工房跡が確認されている。後期になると山王遺跡八幡・伊勢地区や館前地区、新田遺跡後地区などでは旧河川に挟まれた微高地上からさらに多くの竪穴住居跡が発見され、大規模な集落が営まれていることが明らかになった。なかでも山王遺跡八幡地区の旧河川跡には、柄杓やト骨・斎串など祭祀に関わる遺物や在地産の須恵器が定量含まれていた。このことと区画施設の存在から、この地域の基幹的集落とみられている（宮城県教育委員会、1994）。

また、古墳は横穴式石室をもつ稲荷殿古墳、多賀城跡外郭南門西側の外郭南辺築地塀跡の下層で発見された田屋場横穴墓群がある。後者の造営には山王遺跡・市川橋遺跡の集落の居住者が関わったとみられている（宮城県多賀城跡調査研究所、1986・2002）。

(3) 奈良時代

神亀元年（724）に陸奥国支配の根拠地である陸奥国府・多賀城が本遺跡北側の丘陵上に築かれる。多賀城跡は一辺670～1000mの不整形な方形の範囲を築地塀で囲み、ほぼ中央に政庁が置かれ、周囲には実務官衙が配置されている（宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所、1982）。外郭南辺・東辺・西辺には門が開かれており、南門—政庁間や東門—西門間の道路跡も明らかになっている（後藤秀一・柳澤和明、1991）。また、外郭南門の傍らには多賀城碑があり、天平宝字6年（762）に多賀城を修造した藤原朝胤の顕彰碑とみられている（安倍・平川南編、1989）。

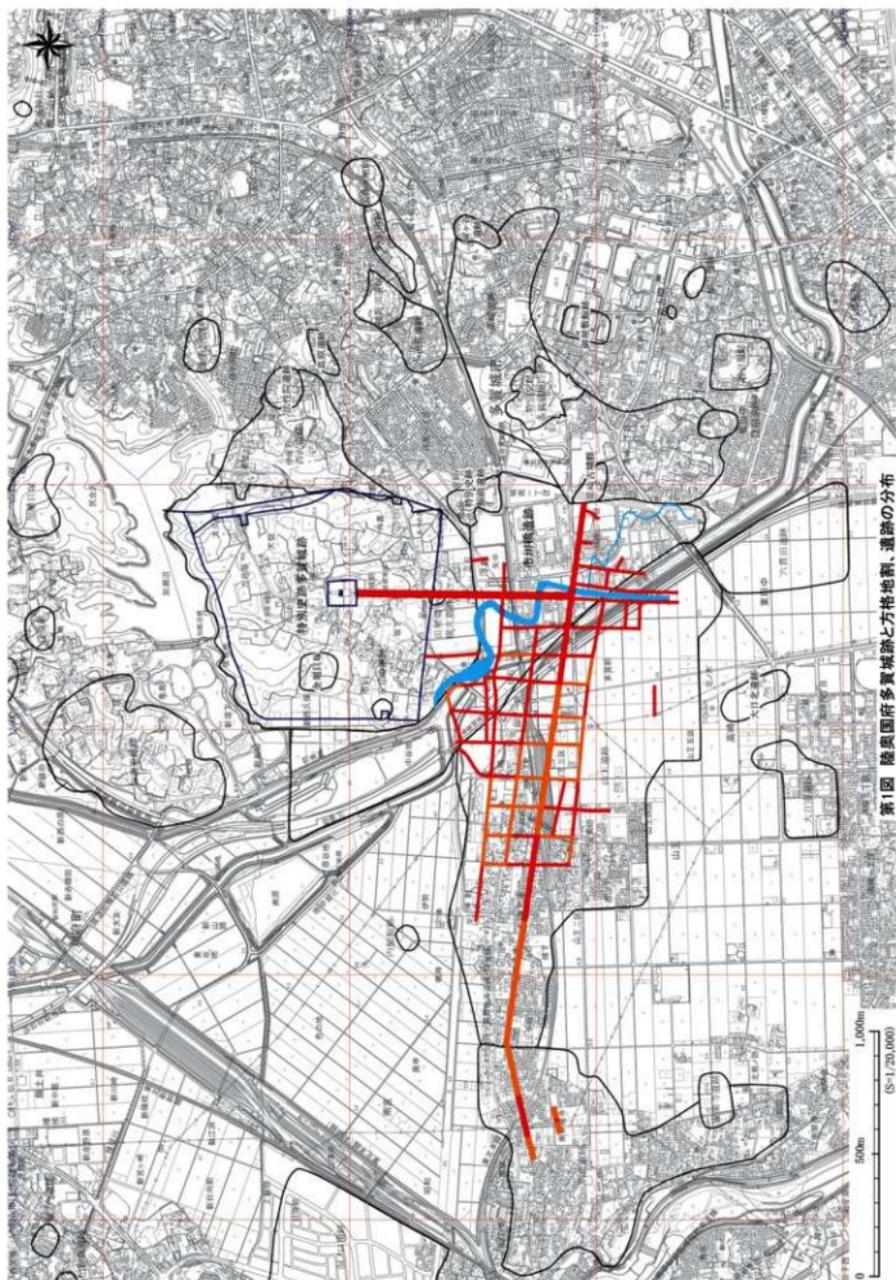
一方、周辺では南東約1.2kmの丘陵上に付属寺院の多賀城廃寺跡があるが、他には遺構が少なく、本遺跡や山王遺跡、新田遺跡、高崎遺跡で竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが散在的に検出されているにすぎない。ただし、本遺跡や山王遺跡では多賀城跡外郭南門跡から南に延びる南北大路跡や外郭南辺に並行する東西大路跡が確認されており、南北大路の造営は奈良時代半ば以前に遡る可能性も考えられている（宮城県教育委員会、2001）。また、山王遺跡八幡地区では漆作業関連遺物や、鉄滓・炉壁などが出土しており、漆や鍛冶の工房の存在が考えられている（多賀城市教育委員会、1997；宮城県教育委員会、1997）。

(4) 平安時代

多賀城跡の南面一帯の広い範囲で、多数の遺構がみられるようになる。特に本遺跡や山王遺跡には、幅23mの南北大路や幅12mの東西大路を基幹道路として、多賀城跡政庁跡—外郭南門跡中軸線や外郭南辺築地塀跡を基準とする東西・南北道路が基盤目状に配された約1町四方の方格地割が施工されている。その範囲は東西約1.5km、南北約0.8kmにも及ぶ（千葉孝弥、1994；宮城県教育委員会、1996；第1図）。

方格地割は南北大路跡の西側を中心に検出されていたが、近年の発掘調査では南北大路跡の東側にも広がることや、南北大路が東西大路との交差点より南には造られなかったことが明らかになってきた（多賀城市教育委員会、2001・2002・2003・2004）。

方格地割内は遺構の密度が高く、道路と方向を揃えた掘立柱建物跡、塀跡、区画溝跡、井戸跡などが



遺跡名	種別	時代	遺跡名	種別	時代
物引史跡・多賀城跡	河川	奈良・平安	田原遺跡(穴遺跡)	横穴墓	古墳後葉
高田遺跡	集落	奈良	多賀江遺跡	日置	縄文前・後葉
山王遺跡	集落	奈良	西天遺跡	集落	古代・中世
物引史跡・多賀城跡(寺跡)	寺跡	奈良・平安	法住寺遺跡	散石地	寺院
高崎遺跡	集落	奈良	野子穴遺跡	散石地	平安
(物引史跡)船跡遺跡	河川	古代・中世	高取遺跡	散石地	古代・中世
新田遺跡	集落	縄文・古墳・奈良・平安・中世	小沢原遺跡	散石地	古代・中世
穴敷川遺跡	城跡	中世	柳野田遺跡	散石地	奈良・平安
北野坂遺跡	城跡	中世	野田遺跡	散石地	城跡
野ノ内遺跡	城跡	中世	久作・船跡	城跡	散石地
天宮遺跡	散石地	古代	留ヶ谷遺跡	城跡	留ヶ谷遺跡
豊道跡	散石地	古代	高崎古墳群	古墳	古墳中・後葉
加藤川塚	古墳	縄文中葉・古代	御原野遺跡	城跡	中世
加藤遺跡群	散石地	縄文中葉・古代	稲野野古墳	古墳	古墳後葉
関ノ口遺跡	集落	奈良	東山寺遺跡	散石地	城跡
松家寺遺跡	寺跡	古代	志呂遺跡	集落	城跡
木田南遺跡	集落	平安・中世	船形遺跡	散石地	古代
大江山遺跡	散石地	古代	八幡遺跡	散石地	城跡
六貫田遺跡	散石地	古代	稲葉神社・堀内遺跡	散石地	散石地
五万崎遺跡	集	縄文前・中世・奈良・古墳前期			縄文後葉

表1 第1図掲載の遺跡

みられる。遺物も土師器・須恵器の他に施釉陶器や硯が多くみられ、貿易陶磁器や石帯も出土するなど、一般集落跡とは様相が異なる。このうち南北大路跡・東西大路跡交差点の北東区画では、桁行11間、梁行2間の南北棟2棟が2列に配置されたとみられる城外で最大級の建物群が検出され、城外に置かれた官衙として位置付けられている(多賀城市教育委員会、1999・2001)。また、東西大路に面する山王遺跡千刈田地区・多賀前地区の区画には、廂付きの大規模な掘立柱建物跡が発見され、貿易陶磁器や多量の施釉陶器が出土したことから、国司など上級官人の館跡と推定されている(多賀城市教育委員会、1991・1992;宮城県教育委員会、1996)。

一方、東西大路を離れた区画では、小規模な掘立柱建物跡が主体となり、鍛冶や漆作業に使用したとみられる遺物が出土することなどから、多賀城に関わる作業域やそれを支えた人々の居住域とみられている。

方格地割が確認されていない区域は一般に遺構は少なく、水田などの耕作域となっているが、一部には重要な遺構もある。館前遺跡には四面廂付大型建物跡を中心とする建物群があり、国司など上級官人の館跡と推定されている(多賀城市教育委員会、1980)。山王遺跡東町町地区、高崎遺跡井戸尻地区では、万燈会等の仏教行事に係わる土器集積遺構が発見され、国府主催の仏教儀式が行われた可能性も指摘されている(多賀城市史編纂委員会、1991)。また、中谷地地区では大規模な墓域を確認している(宮城県教育委員会、2003)。しかし、こうした重要な遺構は少なく、山王遺跡多賀前地区や市川橋遺跡中谷地地区の方格地割の外側は水田などの耕作域となっている(宮城県教育委員会、1996・1997)。

このように、平安時代の多賀城跡の南側には南北大路・東西大路を基準とした方格地割が展開し、多賀城とその関連施設に係わる人々が居住する古代の都市的な空間が広がっていた。それは陸奥国府・多賀城の整備・充実とも連動するものであり、律令的支配の拡大・整備の進展が背景にある。したがって、10世紀後半頃に多賀城が衰退するとともに周辺も次第に荒廃し、衰退をともしたとみられている。

(5) 中世

新田遺跡寿福寺地区で、大溝で区画された東西約200m、南北約300mの大規模な屋敷跡が発見された。敷地内には大小の建物跡が計画的に配置され、施釉陶器や中国産陶磁器などの高級品が多量に出土したことから、12世紀から16世紀後半頃にかけての上級武士階級の居館跡と推定されている(多賀城市教育

委員会、1990)。また、洞ノ口遺跡でも周囲に溝を巡らせた屋敷跡があり、山王遺跡八幡・伏石地区でも同様の屋敷跡が発見されていることから、七北田川左岸の自然堤防上に多くの屋敷跡が隣接して存在したものと考えられている（宮城県教育委員会、1997）。

こうした屋敷跡は洞ノ口遺跡から市川橋遺跡まで連続的に連なる様子が古地図などから知られる。これらの屋敷跡の居住者については、中世のこの付近一帯が留守氏の支配する「高用名」と「南宮庄」に含まれる地域であることから、留守氏に関わりのある武士層が想定されている（宮城県教育委員会、1990）。

なお、多賀城廃絶後の12世紀半ば以降、文献上に「多賀国府」の名がみられるようになる。その中核部の比定地としては、市川橋遺跡の西約2kmにある洞ノ口遺跡が有力視されており、周辺には新田遺跡、鴻ノ巣遺跡、東光寺遺跡、岩切城跡など中世の遺跡が密集して認められ、近辺には武士の屋敷群や寺院、市場などが配されていたとみられている（千葉孝弥、1997）。しかし、発掘調査を通じて中世の多賀国府の中核であることを示す確証はまだ得られていない。

（6）近世

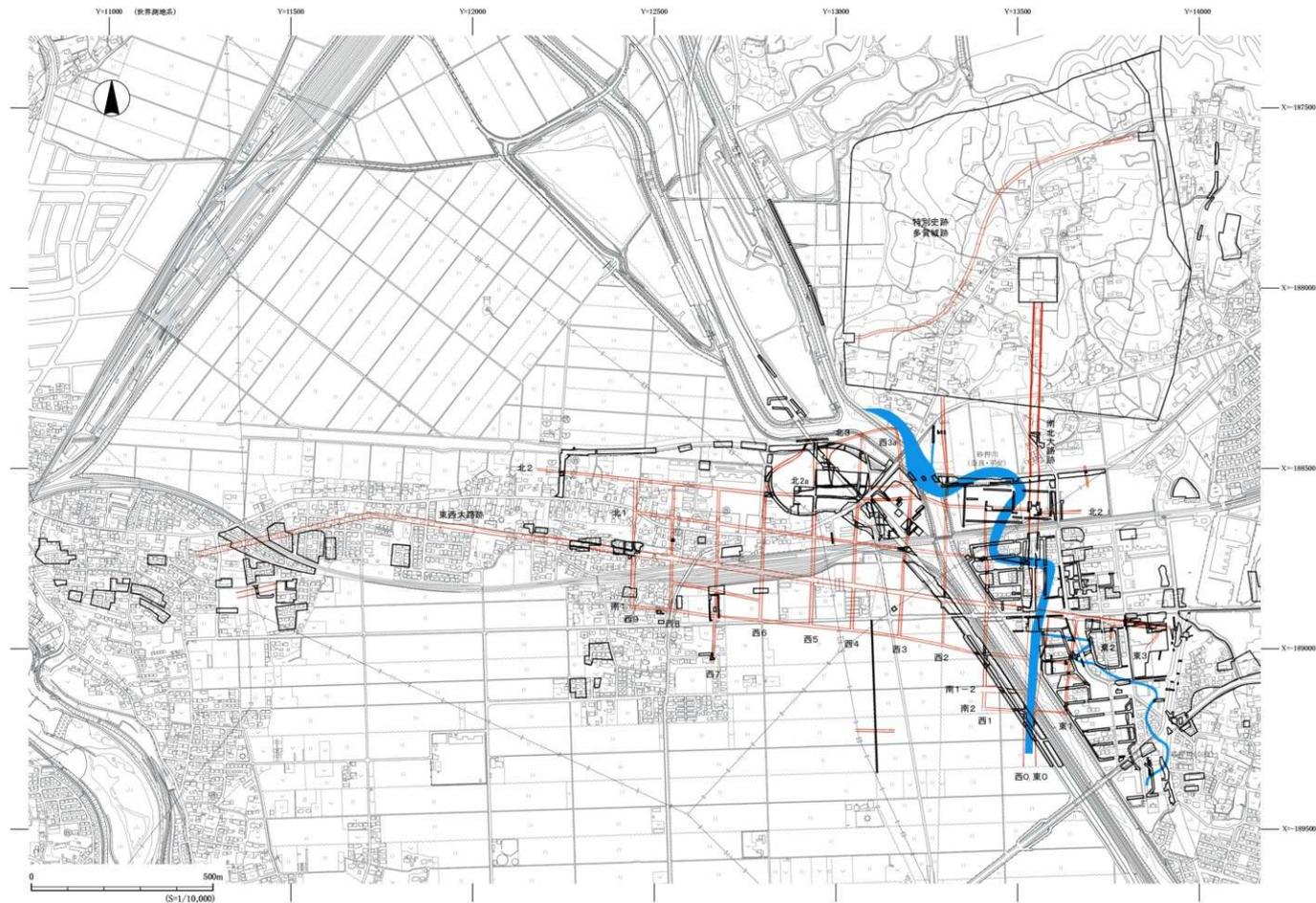
16世紀末、山王遺跡が所在する山王・南宮一帯は伊達家の組頭である成田氏の采邑となった。塩竈街道沿いには成田氏配下の足軽達の屋敷をはじめとする住宅が建ち並び、現在に通じる町並みが形成されていったとみられる。山王遺跡西町浦地区では、酒造業を営んだ記録が残る賀川家の宅地が調査されている（多賀城市史編纂委員会、1991）。また、山王遺跡町地区の調査でも18世紀後半～19世紀頃の屋敷地の様子が明らかとなっている（宮城県教育委員会、1998；多賀城市教育委員会、2006）。その内部は南北に敷地割りされ、街道に面した南の敷地が建物群と素掘りの井戸跡などで構成された居住域、北の敷地が素掘りの井戸跡や溝、土壌により疎らに構成されていた。また、山王遺跡伊勢地区でも溝で仕切られた屋敷地の一部が調査され（宮城県教育委員会、2004）、山王遺跡八幡地区では墓跡がみつまっている（宮城県教育委員会、1997）。

また、本遺跡周辺の丘陵上には、多賀城跡作貫地区で発見された塩竈神社神宮の屋敷跡、高崎丘陵上の留ヶ谷遺跡や高崎遺跡で発見された屋敷跡などがある（桑原滋郎・高野芳宏・千葉孝弥、1993）。

3. 本遺跡周辺におけるこれまでの調査

本遺跡の周辺において、平成元年度（1989）より大規模な本発掘調査・確認調査が毎年継続的に行われてきた。その調査原因をみると、①仮称・多賀城インター建設事業、②三陸縦貫自動車道（仙塩道路）建設事業、③都市計画道路玉川岩切線建設事業、④砂押川広域基幹河川改修事業（名古曾川遊水池造成工事）、⑤城南土地区画整理事業の5つがある。このうち①は宮城県教育委員会、多賀城市教育委員会、②・③・④は宮城県教育委員会、⑤は多賀城市教育委員会が本発掘調査を担当し、それぞれ発掘調査報告書を刊行してきている（表2）。この他、個人住宅や商店など民間開発事業によるものも多い。これらは多賀城市教育委員会が対応している。

その結果、前節のように本地域における弥生時代から近世にわたる様相とその変遷が次第に明らかになってきてきた。その成果は、これら大規模な発掘調査が行われるようになった平成元年（1989）以前と比べ、多大なものがある。しかし、その反面、大規模な発掘調査によって遺跡の多くが失われてきたことも事実である。



第2図 多賀城跡城外の方格地割と既調査区

なお、①の仮称・多賀城インター建設事業に伴う発掘調査は、本発掘調査区と確認調査区とが混在しており、その後の周辺の本発掘調査で確認されてきた古墳時代の遺物包含層、およびさらにその下層の弥生時代遺物包含層やその遺構面の発掘調査には至っていない。この仮称・多賀城インター建設事業の実現化の目処は現段階ではたっていないが、将来的にこの事業の実現化の動きが再び生じた場合には、

No.	遺跡名	区名	小区	調査面積	調査原因	調査年度	調査主体	報告書	備考
1	山王遺跡	八幡地区	A-DK	13,000㎡	仮称・多賀城インター建設事業	平成元年～3・6年度	宮城県教育委員会	県第161・174巻	
2	山王遺跡	八幡地区	E・F・I・J・NK	14,400㎡	仮称・多賀城インター建設事業	平成2～6年度	多賀城市教育委員会	市第27・30・45巻	砂押川以東、東北本線以北、県道泉塩釜線以北。
3	山王遺跡	伏石地区	GS	900㎡	仮称・多賀城インター建設事業	平成5・6年	宮城県教育委員会	県第161・174巻	
4	山王遺跡	多賀前地区		17,500㎡	三陸縦貫自動車道(仙塩道路)建設事業	平成4～6年度	宮城県教育委員会	県第167・170・171巻	東北本線以南、以北。砂押川右岸堤防西側以内。
5	山王遺跡	八幡地区	I～IV区	5,000㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成4・5年度	宮城県教育委員会	県第142巻	
6	山王遺跡	町地区		7,100㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成7・8年度	宮城県教育委員会	県第175巻	砂押川以東、東北本線以北、県道泉塩釜線以北。
7	山王遺跡	伊勢地区		5,900㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成14・15年度	宮城県教育委員会	県第196巻	
8	市川橋遺跡	船形地区 矢中地区		7,505㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成7～10年度	宮城県教育委員会	県第184巻	砂押川以東、東北本線以北、県道泉塩釜線以北。
9	市川橋遺跡	船形北地区 菟山地区		294㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成16・17年度	宮城県教育委員会	県第209巻	
10	市川橋遺跡	伏石地区		3,616㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成16年度	宮城県教育委員会	本書	砂押川以東、東北本線以北、県道泉塩釜線以北。
11	市川橋遺跡	八幡地区	A区	620㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成19年度	宮城県教育委員会	本書	砂押川以東、東北本線以北、県道泉塩釜線以北。
12	市川橋遺跡	伏石地区	B区	240㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成19年度	宮城県教育委員会	本書	砂押川以東、東北本線以北、県道泉塩釜線以北。
13	市川橋遺跡	砂押川地区	C1区	126㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成19年度	宮城県教育委員会	本書	砂押川右岸堤防上、東北本線以北、県道泉塩釜線以南。
14	市川橋遺跡	砂押川地区	C2区	55㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成19年度	宮城県教育委員会	本書	砂押川中州、東北本線以北、県道泉塩釜線以南。
15	市川橋遺跡	砂押川地区	C3区	194㎡	都市計画道路玉川岩切線建設事業	平成19年度	宮城県教育委員会	本書	砂押川右岸堤防上、東北本線以北、県道泉塩釜線以南。
16	市川橋遺跡	中谷地区		7,500㎡	砂押川広域集積河川改修事業(名古屋川遊水池造成工事)	平成12～14年度	宮城県教育委員会	県第193巻	東北本線以北、県道泉塩釜線以北。
17	市川橋遺跡	高平地区	B区	2,500㎡	城南土地区画整理事業	平成10年度	多賀城市教育委員会	市第60巻	砂押川以東、東北本線以南、県道泉塩釜線以南。
18	市川橋遺跡	水入・丸山・高橋地区	CK	16,941㎡	城南土地区画整理事業	平成11～14年度	多賀城市教育委員会	市第70巻	
19	市川橋遺跡	市川・高岡・浮島地区	A・DK	33,630㎡	城南土地区画整理事業	平成10～14年度	多賀城市教育委員会	市第73巻	
多賀城市教育委員会(千葉孝幸・石本敬雄) 1991 『山王遺跡-第10次調査概報(仙塩道路建設に伴う八幡地区調査)-』(多賀城市文化財調査報告書第27巻)									
多賀城市教育委員会(千葉孝幸編) 1992 『山王遺跡-第12次調査概報(仙塩道路建設に伴う八幡地区調査)-』(多賀城市文化財調査報告書第30巻)									
多賀城市教育委員会(千葉孝幸・鈴木孝行) 1997 『山王遺跡I-仙塩道路建設に係る発掘調査報告書-』(多賀城市文化財調査報告書第45巻)									
多賀城市教育委員会(千葉孝幸編) 2001 『市川橋遺跡-城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書I-』(多賀城市文化財調査報告書第60巻)									
多賀城市教育委員会(千葉孝幸・鈴木孝行編) 2003 『市川橋遺跡-城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書II-』(多賀城市文化財調査報告書第70巻)									
多賀城市教育委員会(千葉孝幸・鈴木孝行編) 2004 『市川橋遺跡-城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書III-』(多賀城市文化財調査報告書第75巻)									
宮城県教育委員会(菅原弘明ほか) 1992 『山王遺跡-仙塩道路建設関係調査-平成3年度発掘調査概報-』(宮城県文化財調査報告書第147巻)									
宮城県教育委員会(菅原弘明・菅原俊典ほか) 1994a 『山王遺跡I-古墳時代中層遺物包含層編-』(宮城県文化財調査報告書第161巻)									
宮城県教育委員会(佐藤秀一・村山晃一編) 1994b 『山王遺跡八幡地区の調査-県道泉塩釜線開通調査報告書II-』(宮城県文化財調査報告書第162巻)									
宮城県教育委員会(菅原弘明ほか) 1995 『山王遺跡II-多賀前地区遺構編-』(宮城県文化財調査報告書第167巻)									
宮城県教育委員会(菅原弘明ほか) 1996a 『山王遺跡III-多賀前地区遺物編-』(宮城県文化財調査報告書第170巻)									
宮城県教育委員会(菅原弘明・佐藤孝幸ほか) 1996b 『山王遺跡IV-多賀前地区考古編-』(宮城県文化財調査報告書第171巻)									
宮城県教育委員会(佐藤則之・佐藤孝幸編) 1997 『山王遺跡V』(宮城県文化財調査報告書第174巻)									
宮城県教育委員会(村山晃一編) 1998 『山王遺跡町地区の調査-県道泉塩釜線開通調査報告書III-』(宮城県文化財調査報告書第175巻)									
宮城県教育委員会(古野武夫) 2004 『山王遺跡伊勢地区の調査-県道「泉-塩釜線」開通調査報告書V-』(宮城県文化財調査報告書第196巻)									
宮城県教育委員会(佐久間光平・古川一朗ほか) 2001a 『市川橋遺跡の調査-県道「泉-塩釜線」開通調査報告書I-』(宮城県文化財調査報告書第184巻)									
宮城県教育委員会(村山晃一編) 2001b 『山王遺跡八幡地区の調査2-県道「泉-塩釜線」開通調査報告書IV-古墳時代後期502060河川研編』(宮城県文化財調査報告書第196巻)									
宮城県教育委員会(大和幸生・佐藤孝幸編) 2007 『市川橋遺跡の調査-県道「泉-塩釜線」開通調査報告書IV-』(宮城県文化財調査報告書第209巻)									

表2 山王遺跡・市川橋遺跡における大規模な本発掘調査一覽

第3章 調査の方法と経過

1. 平成18年度発掘調査

現在の県道泉塩釜線と交差するように建設される都市計画道路玉川岩切線建設工事のうち、市川橋周辺の浮島工区については宮城県土木部仙台東土木事務所（平成20年度に組織統合され、現在は仙台土木事務所）が施工を担当している。

事業者である仙台東土木事務所と調査担当である宮城県文化財保護課との協議の結果、都市計画道路玉川岩切線と現在の県道泉塩釜線との交差点南東部の都市計画道路路線・法尻工事箇所及び県道泉塩釜線の取り付け替え工事箇所を対象として、平成17年度に事業量を積算するための確認調査（約1,200㎡）を実施し、平成18年度に本発掘調査（約3,616㎡）を実施することにした。調査対象面積は約6,000㎡であるが、H鋼埋設工事等の関係で本発掘調査実施面積が少なくなっている。

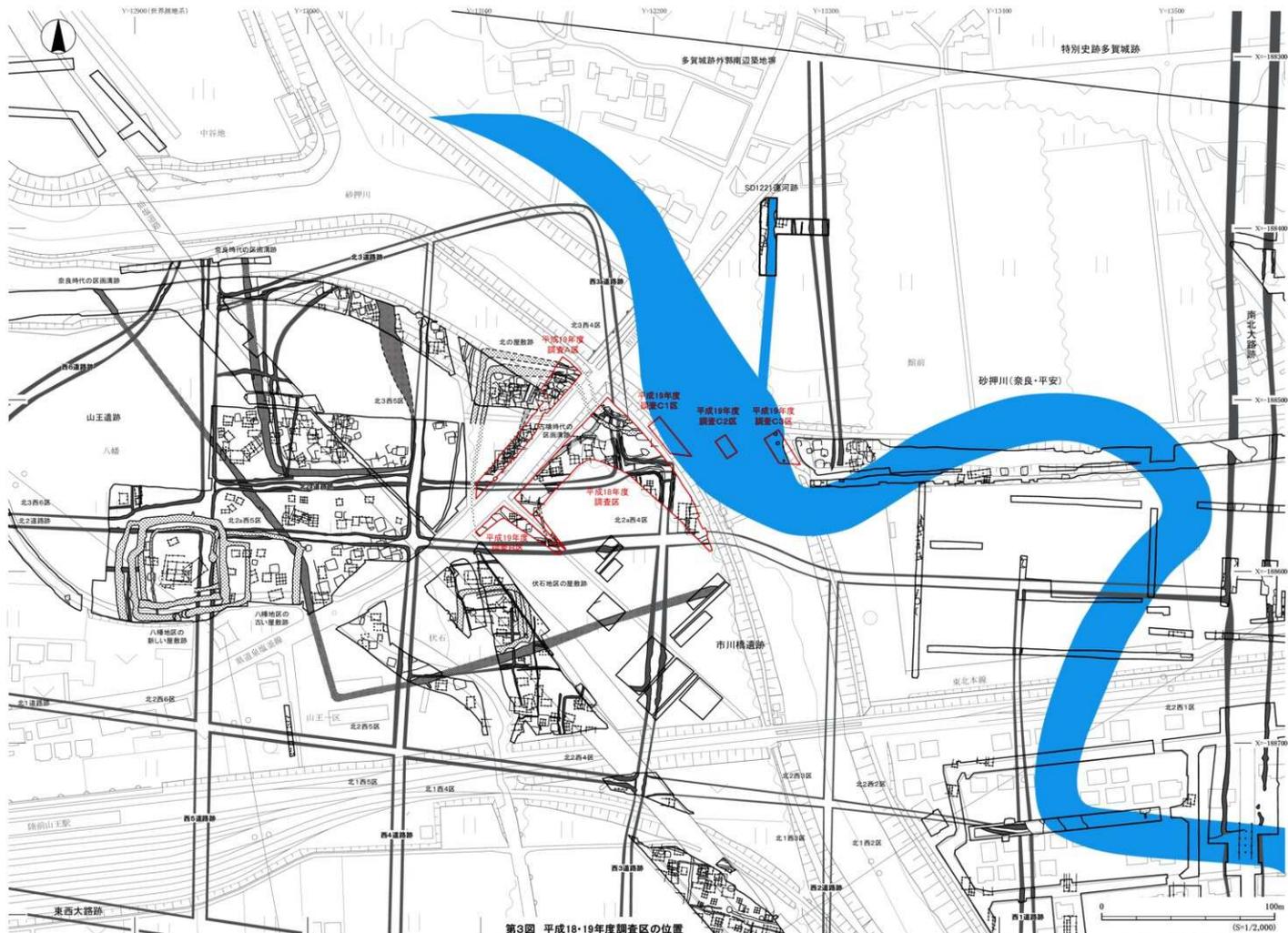
市川橋遺跡伏石地区における平成18年度の本発掘調査区は、砂押川右岸堤防と県道泉塩釜線に面してL字形に設けた（第3図）。後述の現地表下約3m前後の遺構面Ⅲ（遺構検出面Ⅱ）まで発掘調査を行うことから（第4章）、調査区内の安全確保のため、調査区の北壁と東壁の一部に沿って長さ10.5mのH鋼を事業者が設置した。発掘調査事務所用のプレハブ設置場所の確保や排土置き場の制約から、調査区東半部（A区）を先行して調査して古墳時代後期・古代の遺構面Ⅱでの本発掘調査をまず終えてから、その後このA区を排土置き場として西半部（B区）の調査を進めることとした。

重機によるA区の表土排除を開始したのは平成18年5月15日からである。表土除去と並行して遺構確認作業に取り掛かった。表土下には暗褐色土の基本層序の第Ⅱ層が堆積しており、中世以降の新しい溝や河川跡などの遺構面となっていた（遺構面Ⅰ）。また、古墳時代後期（栗園式期）・古代（奈良～平安時代）の遺構は第Ⅱ層に覆われていた（第4章）。しかし、重機による表土除去の過程で、第Ⅱ層上面では新しい溝や河川流路など以外には主要遺構が認められなかったため、調査効率を勘案して中世以降の遺構の検出は、この層直下の第Ⅲa層上面（遺構面Ⅱ）で古墳時代後期（栗園式期）・古代（奈良～平安時代）の遺構検出作業とともに行っている（遺構検出面Ⅰ）。

調査区東半部（A区）で発見された主要遺構には、古墳時代後期から中世までのものが含まれ、多賀城跡南面の方格地割を構成する北2・北2a東西道路跡、西3・西3a南北道路跡を初めとして、掘立柱建物跡、井戸跡、土器埋設遺構、堅穴住居跡、堅穴状遺構、区画溝跡、材木塚跡、柱列跡、整地層、河川跡などがあり、その他多数の土壌、溝跡、ピットを検出した。遺構の分布としては中世の区画溝跡、河川跡、河川流路跡の検出された調査区北側でやや希薄なのに対し、それ以外の場所では極めて密度の高い状況であった。遺構は確認作業の後、段下げし半裁もしくはベルトを残し、土層の観察・記録を経て完掘した。出土遺物としては、多量の土師器、須恵器、須恵系土器の他に施釉陶器、磁器、瓦、石製品、金属製品、土製品、木製品、鉄滓などがある。

調査の成果がある程度まとまった9月23日に、一般の人々を対象とした現地説明会を開催し、80名程の参加をみた。

10月13日からは調査区西半部（B区）の表土排除を実施し、北2a東西道路跡や掘立柱建物跡、井戸跡、



第3図 平成18-19年度調査区の位置

堅穴状遺構、区画溝跡、材木堀跡、柱列跡、土壌、溝跡、ピットなど多数の遺構を検出した。出土遺物には多量の土師器、須恵器、須恵系土器、瓦、石製品、土製品、木製品、鉄滓などがある。

第Ⅲa層上面（遺構検出面Ⅰ）の遺構の精査・完掘終了後、12月13日より調査区内に新たに4箇所を下層調査区を設定した。目的とする弥生時代中期（樹形甕式期）の遺物包含層（基本層序の第Ⅵ層）までの深さが約1.6～1.9mもあり、段掘りしなければ危険なことで排土量が膨大になるため、十分な排土置き場を用意して段掘りにし、遺物包含層を検出した場合には遺物が希薄となるまで周辺を拡張することにした。東側の3箇所の調査区D区・E区・F区では遺物が出土しなかったため、周囲を拡張しなかった。西側の調査区C区では弥生時代中期（樹形甕式期）の遺物包含層（基本層序の第Ⅵ層の黒色粘土層）を検出し、遺物の出土量が少なくなるまで調査区を拡張した。12月20日から12月22日にかけて基本層序の第Ⅵ層（遺物包含層）とその直下の第Ⅶ層上面（遺構検出面Ⅱ）を精査した。遺構検出面Ⅱでは溝等の遺構は検出されなかった。弥生時代については、古墳時代後期・古代（奈良～平安時代）・中世の遺構検出面Ⅰの調査面積約3,616㎡のうち、約27%にあたる約1,000㎡を発掘調査したことになる。12月26日にはその下の第Ⅶ層中までの調査を終了し、本年度の発掘調査を完了した。

検出した遺構の平面図測量には、都市計画道路玉川岩切線建設工事の浮島工区の施工に際して用いられる、以下の3級基準点No.16・17・18（世界測地系第Ⅹ系）を測量原点とし、電子平板を用いて実施し、Adobe社製のIllustrator9.0を用いて報告書用に製図した。

①3級基準点No.16 $X=-188567.914\text{m}$ $Y=13292.132\text{m}$ $H=5.607\text{m}$

②3級基準点No.17 $X=-188474.813\text{m}$ $Y=13158.411\text{m}$ $H=6.585\text{m}$

③3級基準点No.18 $X=-188398.766\text{m}$ $Y=13022.025\text{m}$ $H=6.121\text{m}$

また、併せて随時1/20の遺構断面図を手実測で作成した。遺構の写真撮影には800万画素のデジタルカメラを用い、中判カメラも一部用いた。

2. 平成19年度発掘調査

事業者の仙台東土木事務所と平成17・18年度に再協議した結果、平成19年度の発掘調査は、

- ①都市計画道路玉川岩切線と現在の県道泉塩釜線とが砂押川右岸で斜めに交差することになる交差点箇所の南東部、現県道の取り付け替え箇所（A区：市川橋遺跡八幡地区）
- ②その向かい側の現農道の取り付け替え箇所の法尻部分（B区：市川遺跡伏石地区）
- ③砂押川堤防右岸上の新市川橋（砂押川にかかる現在の市川橋の下流約40mの地点に位置する）橋脚工箇所（C1区：市川遺跡伏石地区）
- ④砂押川中央の新市川橋（砂押川にかかる現在の市川橋の下流約75mの地点に位置する）橋台箇所（C2区）
- ⑤砂押川左岸堤防上の新市川橋（砂押川にかかる現在の市川橋の下流約97mの地点に位置する）橋脚箇所（C3区）

の5調査区で実施することになっていた（第3図）。このうち、①・③～⑤が本発掘調査、②が確認調査の対象である。

①のA区の西に隣接する平成4・5年度発掘調査区（山王遺跡八幡地区Ⅰ～Ⅲ区）では、弥生時代中期

(樹形開式期)の遺物包含層が現地地表下2.0m前後(古墳時代後期・古代・中世の遺構面Ⅱより-1.5m前後下位)で検出された(宮城県教育委員会、1994b)。また、平成18年度発掘調査区でも同じ層準で弥生時代中期(樹形開式期)の遺物包含層が検出された。このためA区については、現在の県道泉塩釜線の下り車線側の法尻付近に沿って、長さ10.5mのH鋼を事業者が打ち込んでから本発掘調査に着手することにし、古墳時代後期(栗開式期)・古代(奈良～平安時代)の遺構面Ⅱの本発掘調査を終了後に重機を再度用いて掘り下げ、弥生時代中期(樹形開式期)の遺構面Ⅲまで本発掘調査することにした。②のB区の現農道部分は同位置での施工のため、「宮城県発掘調査基準」に基づき事業者との協議で予め調査除外とした。

平成19年度の発掘調査は①のA区から7月より着手する予定であったが、工事隣接私有地所有者との交渉、現在の県道泉塩釜線の法尻に沿ったH鋼設置工事、調査区を斜めに横断するように地表下5～6m程(直径約1.7mの管上面が標高約-2m)に埋設されている仙塩流城下水道の詳細な位置確認等、事業者の発掘調査前の準備作業の遅れから、予定より1ヶ月遅れた8月20日より着手した。

また、③～⑤の新市川橋工事箇所(C1・C2・C3区)の本発掘調査は、河川法の適用を受け、湯水期の平成19年5月～平成20年3月までの間に行い、かつ平成20年5月までに新市川橋橋脚基礎工事を終える、という制約を受けていた。本発掘調査に着手する時期が予定より1ヶ月遅れたことや5調査区にまたがることもあって、③～⑤の新市川橋工事箇所(C1・C2・C3区)の本発掘調査は、H鋼設置工事(工事箇所に長さ10.5mのH鋼を打ち込んで取り囲む工事)を新市川橋基礎工事受注業者が終了後、当該が担当する本発掘調査では通常行うことはありえない厳冬期に実施することになった。

平成19年度の発掘調査は、以下の日程と面積で平成19年8月20日～平成20年2月14日にかけて、A区、B区、C2区、C1区、C3区の順に実施した。

なお、橋脚設置工事箇所である砂押川右岸堤防上のC1区と砂押川中州のC2区の本発掘調査に先立ち、この箇所ではH鋼設置工事に着手するためには、その前に平成18年度発掘調査区に大規模な盛土を行い、ここから砂押川右岸堤防上と砂押川中州までの仮設道路を設け、さらに砂押川中州では川を一部塞ぎ止めて盛土工事を行う必要があった。そしてB区がこれら盛土工事のための大型ダンプの進入路であったため、A区の本発掘調査の期間中にA区の本発掘調査を一時中断し、B区の確認調査を行った。

- | | | |
|------|-------------------------|--------------|
| ①A区 | 平成19年8月20日～平成19年11月9日 | 約620㎡(本発掘調査) |
| ②B区 | 平成19年10月15日～平成19年10月22日 | 約240㎡(確認調査) |
| ③C1区 | 平成20年1月15日～平成20年1月18日 | 約126㎡(本発掘調査) |
| ④C2区 | 平成19年12月18日～平成19年12月19日 | 約55㎡(本発掘調査) |
| ⑤C3区 | 平成20年1月18日～平成20年2月14日 | 約104㎡(本発掘調査) |

発掘調査の都合上、A区については現農道下の調査箇所をA2区、現農道より南側の調査区をA1区、北側の調査区をA3区、B区については現農道の東側の調査区をB1区、西側の調査区をB2区として調査を進めたが、本報告ではそれぞれA区、B区に一括して記載することにし、記載の便宜上これら小区の名称も適宜用いた。

またA区では、重機による表土除去の過程で、表土直下の基本層序の第Ⅱ層が主に調査区南半部を中心

に分布しており、第Ⅱ層上面（中世の遺構面Ⅰ）では新しい溝以外には主要遺構が認められなかったため、作業効率を考慮して古墳時代後期（栗圃式期）・古代（奈良～平安時代）・中世の遺構の検出は、基本層序の第Ⅲa層上面（遺構面Ⅱ）で併せて行っている（第4章）。そして、遺構面Ⅱでの本発掘調査を11月2日に終えてから、11月2日より重機を用いてA区の遺構面Ⅲの調査面積約620㎡の約8割にあたる約500㎡を段掘りにし、慎重に掘削を開始した。そして、遺構面Ⅲの上位の弥生時代中期（樹形囲式期）の遺物包含層である第Ⅵa層上面まで重機で掘削した後、手作業で第Ⅵa・b層の弥生時代中期（樹形囲式期）の遺物包含層を掘削し、さらに直下の遺構面Ⅲで溝4条を検出してA区の本発掘調査を11月9日に終えた。

A区での本発掘調査を終了後、C2区における事業者によるH鋼設置工事が完了するのを12月17日まで待ち、12月18日からC2区の本発掘調査を開始した。C1・C3区におけるH鋼設置工事はこれと並行して行われ、この設置工事と本発掘調査が終わり次第、次の発掘調査区の本発掘調査に入ることとした。そして翌平成20年2月14日までに最後のC3区の本発掘調査を終了し、平成19年度の発掘調査一切を完了した。

なお、これらC1・C2・C3区の本発掘調査にあたっては、発掘調査自体が橋脚基礎工事と一連の作業工程の一部で行われたこと、H鋼で周囲を取り囲まれた範囲で深く掘削するため人力による排土は不可能なこと、掘削の過程で危険防止のため間に補強鋼材を横に渡す設置工事を行う必要があったこと、工事期限が迫る中で速やかに本発掘調査を進める必要があったことなどから、事業者である仙台東土木事務所と調査箇所（橋脚基礎工事を受注した藤草刈建設（仮）新市川橋下部工工事現場事務所）に調査協力をいただいた。

測量基準点、測量の方法、遺構写真撮影は、平成18年度発掘調査と同様である。

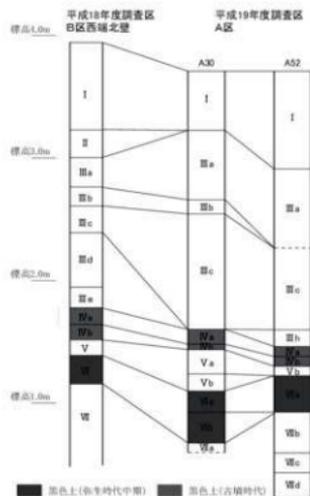
また、都市計画道路玉川岩切線建設事業に伴い、平成4年度（1992）より16年度にわたって実施してきたこれまでの発掘調査のうち、平成17年度までの発掘調査では、測量原点として山王遺跡八幡地区に設置した日本測地系第X系の国家座標 $X=-188880.000\text{m}$ 、 $Y=13230.000\text{m}$ を用い、その成果を報告書で公表してきた（表2）。本報告書の作成に際して、これら既発掘調査区遺構平面図については、国土地理院が提供している座標変換プログラム（TKY2JGD）を利用し、日本測地系から世界測地系に座標変換をまず行った。次に平成18・19年度発掘調査区遺構平面図とこれら既発掘調査区遺構平面図とをAdobe社製のIllustrator9.0上で統合し、全体の遺構平面図を作成した。

第4章 基本層序

1. 平成18年度発掘調査

調査地区は砂押川右岸にあり、標高3.5～4.0mのほぼ平坦な自然堤防上に位置し、調査前は水田として利用されていた。調査箇所では弥生時代中期から現代までの自然堆積層が重層的に認められ、多数の遺構・遺物が検出されている。ここでは調査地区内の基本層序について、模式的に柱状図を示して説明する（第4図）。

遺構面は標高3.2～3.5mの第Ⅱ層上面（中世の遺構面Ⅰ）、標高3.0～3.3mの第Ⅲa層上面（古墳時代後期（栗圃式期）・古代（奈良～平安時代）の遺構面Ⅱ）、標高0.7～1.3mの第Ⅶ層上面（弥生時代中期



第4図 平成18・19年度調査基本層序

は、10世紀前葉頃に十和田火山より降灰した灰白色火山灰（十和田 a 火山灰）が本層直下で部分的に堆積している（付章2）。古墳時代後期（栗園式期）・古代（奈良～平安時代）の遺構面（遺構面 II）の上を覆う。上面が中世の遺構面 I で、中世の遺構はこの層を掘り込んでいる。土師器、須恵器、瓦などを含む。

第 III a 層 黄褐色シルト質粘土層・黄褐色砂層・褐色砂質シルト土層。層厚20～30cm。調査区の西半部では粘土質であるのに対し、東側から南側にかけてシルト質から砂質に漸移的に変化している。また調査区の東南部では、層中に灰白色火山灰に近似した白色粘土ブロックが含まれている（付章2）。上面はいわゆる地山面で、古墳時代後期（栗園式期）・古代（奈良～平安時代）・中世の遺構検出面である（遺構検出面 I）。標高3.0～3.3m。

以下、第 III a 層～第 III e 層までの層準は、大きくみるとシルト土・砂層と粘土層の互層である。古墳時代前期～後期にかけての自然堆積層（層厚1.1～1.6m）であり、この間の層準では遺物は出土していない。

第 III b 層 にぶい黄色粘土・シルト質粘土層。層厚20～30cm。古墳時代後期（栗園式期）・古代（奈良・平安時代）の遺構の地山の層である。調査区東半部では古墳時代中期～後期の河川跡により削平されている。

第 III c 層 褐灰色粘質シルト土層。灰黄褐色粘質土を縞状に含む。一部グライ化。層厚20～40cm。古墳時代後期および奈良・平安時代の遺構の地山の層。調査区東半部では古墳時代の河川跡により削平されている。

第 III d 層 灰黄褐色粘質シルト土層。中間部に同色の砂質シルト層を縞状に含み、全体に炭化物、植物遺

（樹形冪式期）の遺構面 III）の3面である。

なお、重機による表土除去の過程で、第 II 層上面では新しい溝や河川流路など以外には主要遺構が認められなかったため、遺構検出は遺構面 II で行っている（以下「遺構検出面 I」と呼ぶ）。遺構面 II の下位1.6～1.9mに位置する遺構面 III は、平成19年度調査 A 区で溝跡4条を検出した弥生時代中期（樹形冪式期）の遺構面 III（以下「遺構検出面 II」と呼ぶ）に相当するが、本調査区では遺構は検出していない。

第 I 層 表土。現代の水田床土と水田耕作土。標高3.5～3.9 m。褐灰色粘土・灰黄褐色シルト土・灰黄褐色粘質シルト土層。層厚40cm～70cm。調査区の西側では一部現代の盛土整地層がみられるが、これも第 I 層に含めている。土師器、須恵器などの遺物を含む。

第 II 層 暗褐色粘質シルト土層・褐灰色シルト質粘土層。層厚10～20cm。平安時代（10世紀前葉以降）の自然堆積層で、調査区全体にほぼ均一に認められる。調査区の東半部では、

- 体を含む。一部グライ化。層厚20～40cm。調査区東半部では古墳時代の河川跡により削平されている。
- 第Ⅲ e 層 灰黄褐色粘質シルト土層。全体に植物遺体を含む。一部グライ化。層厚20～40cm。
- 第Ⅳ a 層 暗緑灰色粘土層。全体に植物遺体を含む泥炭層。グライ化。層厚15cm程。平成19年度A区の基本層第Ⅳ a 層に対応。
- 第Ⅳ b 層 暗灰黄色粘土層。全体に植物遺体を含む泥炭層。グライ化。層厚15cm程。平成19年度A区の基本層第Ⅳ b 層に対応。
- 第Ⅴ 層 褐色粘土層。植物遺体を多量に含む泥炭層。層厚10cm程。
- 第Ⅵ 層 黒色粘土のグライ化した泥炭層。植物遺体を多量に含む。層厚10～30cm程。西側から東側にかけて緩やかに低く傾斜している。弥生時代中期（樹形甕式期）の遺物包含層で、土器片、石器を多量に含む。遺物は西側下層調査区の北西部分（平成19年度検出の遺物集中箇所）の果道を挟んだ向かいの地点）に集中して発見されている。遺物の出土状況から周辺に当該期の集落が存在していたと考えられる（平成19年度A区の基本層第Ⅵ a・b 層に対応）。
- 第Ⅶ 層 暗オリーブ灰色砂質シルト土・灰色粘土の互層。層厚80cm以上。層中に植物遺体を多量に含む。平成19年度A区の遺構面Ⅲに対応。

2. 平成19年度発掘調査（A区）

A区は砂押川右岸の自然堤防上に位置する。本発掘調査前は水田・荒地であった。後述の遺構面Ⅲ〔弥生時代中期（樹形甕式期）〕の調査にあたって、本調査区北西辺に沿って西より20m間隔で柱状図を作成した（第302・303図）。ここに示した基本層序は、基本的には平成18年度発掘調査区と同様の自然堆積土である（第4図）。

遺構面は標高3.3m前後の第Ⅱ層上面（中世の遺構面Ⅰ）、標高3.0～3.3mの第Ⅲ a 層上面〔古墳時代後期（栗甕式期）・古代（奈良～平安時代）の遺構面Ⅱ〕、その下位1.6～1.9mに位置する標高0.7～1.3mの第Ⅶ層上面〔弥生時代中期（樹形甕式期）の遺構面Ⅲ〕の3面である。

なお、重機による表土除去の過程で、第Ⅱ層が主に調査区南半部を中心に分布しており、第Ⅱ層上面では新しい溝以外には主要遺構が認められず、調査区北東部では表土直下が遺構面Ⅱ（第Ⅲ a 層上面）であったため、作業効率を考慮して古墳時代後期（栗甕式期）・古代（奈良～平安時代）・中世の遺構検出は遺構面Ⅱ（遺構検出面Ⅰ）で併せて行っている。

- 第Ⅰ層 表土・現代水田耕作土。標高3.5～3.7m。灰黄褐色（10YR4/2）粘質シルト土。層厚30～50cm。古代の遺物を少量含む。
- 第Ⅱ層 調査区南半部を中心に分布する平安時代の自然堆積層。古墳時代後期（栗甕式期）・古代（奈良～平安時代）の遺構面Ⅱの上を覆う。層厚10～20cm。黒褐色（10YR3/2）粘質シルト土。古代の遺物を少量含む。
- 第Ⅲ a 層 にぶい黄褐色（10YR6/4）砂層・粘土層。上部は粘土層主体で、下部は粘土層主体。上面はいわゆる地山面で、古墳時代後期（栗甕式期）・古代（奈良～平安時代）・中世の遺構検出面である（遺構検出面Ⅰ）。標高3.0～3.3m。層厚30～50cm。

以下、第Ⅲ a 層～第Ⅲ h 層までの層準は大きくみると砂層と粘土層の互層である。古墳時代前期～

後期にかけての自然堆積層（層厚1.1～1.6m）であり、この間の層準では遺物は出土していない。

第Ⅲb層 ぶい黄褐色（10YR5/4）砂・粘土互層。層厚15～20cm前後。

第Ⅲc層 灰オリーブ色（5YR5/2）粘土層。層厚25～90cm。以下の層準はグライ化。

第Ⅲd層 灰オリーブ色（5YR5/2）砂・粘土互層。調査区南西部にのみ分布する部分的な層。層厚30cm前後。

第Ⅲe層 灰黄褐色（10YR5/2）粘土層。薄い砂層を間を含む。調査区南西部にのみ分布する部分的な層。層厚10cm前後。

第Ⅲf層 灰オリーブ色（5YR5/2）砂層。調査区南西部にのみ分布する部分的な層。層厚5cm前後。

第Ⅲg層 灰黄褐色（10YR5/2）粘土層。薄い砂層を間を含む。調査区南西部にのみ分布する部分的な層。層厚6cm前後。

第Ⅲh層 灰オリーブ色（5YR5/2）粗砂層。調査区北東部にのみ分布する部分的な層。層厚15～25cm。

第Ⅳa層 灰黄褐色（10YR5/2）粘土層。黒色土薄層を間を含む。層厚5～10cm。今回の発掘調査で遺物は出土していないが、近隣の既発掘調査区（平成5年度の山王遺跡八幡地区Ⅱ・Ⅲ区）の調査成果からみて、第Ⅳb層とともに古墳時代前期の塩釜式期の自然堆積層とみられる（宮城県教育委員会、1994b）。

第Ⅳb層 黒色（10YR2/1）粘土層。上層の灰黄褐色粘土ブロックを含む。

第Ⅴa層 灰オリーブ色（5YR5/2）粗砂層。調査区中央部のより低い箇所のみ分布する。遺物は出土していない。

第Ⅴb層 灰黄褐色（10YR6/2）粘土層。層厚10～15cm。遺物は出土していない。

第Ⅵa層 黒色（10YR1.7/1）粘土層。層中には植物遺体を多量に含んでいる。層厚10～30cm。弥生時代中期（樹形罎式期）の土器片、石器を含む。

第Ⅵb層 黒色（10YR1.7/1）粘土層。砂を少量含む。層中には植物遺体を多量に含んでいる。層厚10～25cm。弥生時代中期（樹形罎式期）の遺物包含層で、土器片、石器を多量に含む。遺物の多くは調査区南西部（平成18年度検出の遺物集中箇所の県道を挟んだ向かいの地点）から集中的に出土している。

第Ⅶa層 暗オリーブ黒色（2.5GY4/1）砂層。上部に弥生土器片を少量含む。上面が弥生時代中期（樹形罎式期）の遺構検出面（遺構面Ⅲ）。遺構面Ⅲ（遺構検出面Ⅱ）では調査区中央付近で溝4条が検出された。この溝周辺が標高0.7m～0.9mと調査区の中で最も標高が低く、上位のⅥa・b層も厚く堆積している。最も低い箇所に溝を設けたとみられる。

第Ⅶb層 オリーブ黒色（5YR3/2）砂層。層厚35cm。遺物はほとんど含まない。

第Ⅶc層 黒色（10YR1.7/1）粘土層。層厚15cm。遺物は出土していない。

第Ⅶd層 黒褐色（10YR3/1）粘土層。層厚20cm以上。遺物は出土していない。

第5章 平成18年度調査区

平成18年度伏石地区の調査では、古墳時代から中世にいたる多数の遺構が発見され、縄文時代から近世の遺物が多量に出土した。検出した遺構は、道路跡4条、掘立柱建物跡32棟、材木堀跡10条、柱列跡14条、竪穴住居跡3軒、竪穴状遺構2基、井戸跡2基、土器埋設遺構1基、土壇45基、区画溝跡7条、溝跡42条、整地層2箇所、ピット594個である。この他、河川跡8条、河川流路跡8条を検出している。出土した遺物は整理用テンパコで240箱におよび、弥生土器、土師器、須恵器、須恵系土器、製塩土器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、青磁、近世陶磁器、瓦、石器、石製品、土製品、金属製品、木製品、鉄滓、種子、骨などがある。

以下、時代順に古墳時代後期、奈良・平安時代、中世、時期不明の遺構ならびに出土遺物について説明していくこととする。

1. 古墳時代後期の主要遺構

古墳時代後期の遺構としては、区画溝跡1条、土壇1基がある。また、河川跡4条を検出している。

1) 区画溝跡

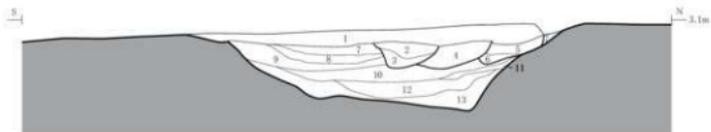
調査区の北端部で1条検出している。これまでに実施してきた周辺の調査状況から、古墳時代後期栗園式期の集落を区画する溝跡と考えられる。

【SD6517区画溝跡】 (第5・6・35・94・98図 図版26・27)

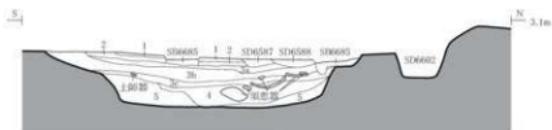
A区の北端部からB区の調査区北壁際に位置する。北東方向から南西方向に緩やかに屈曲しながら延びる区画溝跡で、北東側と南西側は調査区外に位置している。県道泉塩釜線の道路改良事業に伴う山王遺跡の平成4・5年度発掘調査で検出されたSD2050B河川跡もしくは平成4～6年度に仙塩道路（仮称）多賀城インター建設に伴う発掘調査で検出されたSD100河川跡に接続し、古墳時代後期の集落を区画する溝跡と考えられる。地山面で検出した。SA6611材木堀跡、SB6664・6665・6685掘立柱建物跡、SE6584井戸跡、SK6639・6684土壇、SD6583・6587・6588・6602・6676溝跡、SD6501A・B・6504A・B区画溝跡、SX6503河川跡、SX6509河川流路跡と重複し、SK6639土壇を除くすべての遺構より古い。

検出長は62.2mで、上幅2.3～4.1m、下幅1.5～2.2m、深さは60～110cmである。断面形は逆台形状を呈する。底面はほぼ平坦で西側から東側に向かって低く傾斜している。このことから溝内の流水は旧砂押川に向かって流れていたものと考えられる。方向は心線でみるとA区では北で東に約34°偏し、B区では東で北に約33°偏している。堆積土は大別1層から5層に分層され、炭化物を含む灰黄褐色シルト、砂質シルト、地山ブロックを含む黒褐色シルト・粘質シルト、炭化物、地山ブロックを含む褐灰色シルト・粘土などがいずれも自然堆積している。溝の掘り直しの状況は認められていない。また、A区では、1層が1a～1c層、2層が2a～2b層、3層が3a～3f層に細別される箇所がある。堆積土からは古墳時代後期（栗園式期）の土師器・須恵器をはじめ、木製品、輪羽口、砥石、鉄滓などが多量に出土している。

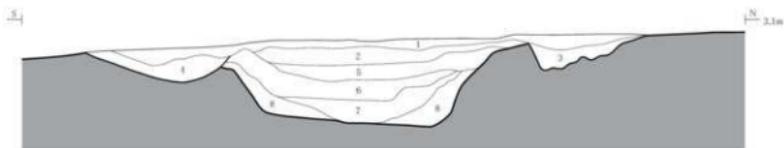
遺物は主に区画溝跡東半部のA区からA区とB区の境にかけて特に多く出土しており、3層中に最も多く含まれている。いずれも一括廃棄されたような状態で層中に含まれている。出土遺物について、以



No.	土色	土性	混入物など	備考	No.	土色	土性	混入物など	備考
1	灰緑色の砂質土	粘質中砂		自然堆積	8	灰緑色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を多数含む	SD617-2層
2	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を含む		9	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を若干含む	SD617-3層
3	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を若干含む		10	灰黄色の砂質土	シルト	粘土フロックを若干含む	SD617-4層
4	黄褐色の砂質土	シルト	粘土フロックを若干、炭化物・酸化鉄を含む		11	黄褐色の砂質土	粘土	酸化鉄を含む	SD617-5層
5	黄褐色の砂質土	シルト	粘土フロックを含む		12	灰黄色の砂質土	シルト	粘土フロックを多数含む	SD617-6層
6	黄褐色の砂質土	粘質中砂	粘土フロックを多数含む		13	黄褐色の砂質土	粘土	粘土フロックを含む	SD617-7層
7	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を含む		SD617-1層				



No.	土色	土性	混入物など	備考	No.	土色	土性	混入物など	備考
1	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を含む	自然堆積	3a	黄褐色の砂質土	粘土	炭化物を多数、粘土・酸化鉄を土を若干含む	自然堆積
2	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を多数含む		4	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を若干含む	
3a	黄褐色の砂質土	粘土	炭化物・酸化鉄を若干含む		5	黄褐色の砂質土	シルト	灰黄色土を若干含む	
3b	灰黄色の砂質土	粘土	炭化物・酸化鉄を若干、粘土フロックを含む						

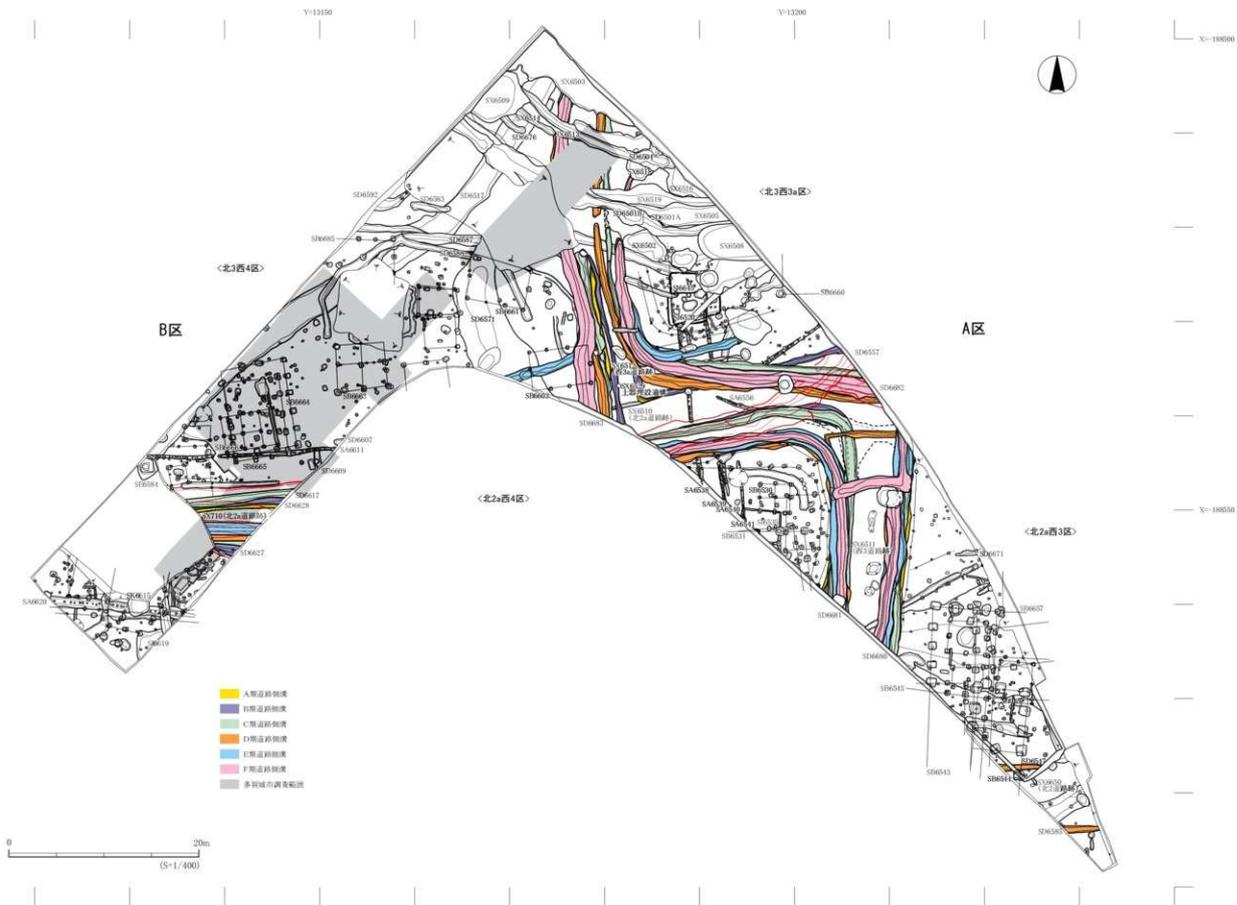


No.	土色	土性	混入物など	備考	No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黄褐色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を含む	自然堆積	5	黄褐色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を含む	SD617-1層
2	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を含む		6	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物を多数に、酸化鉄を含む	SD617-2層
3	灰黄色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を少量、粘土フロックを若干含む		7	黄褐色の砂質土	シルト	酸化鉄を含む	SD617-4層
4	黄褐色の砂質土	シルト	粘土フロックを若干、炭化物・酸化鉄を含む		8	黄褐色の砂質土	シルト	粘土フロックを多数含む	SD617-5層



No.	土色	土性	混入物など	備考	No.	土色	土性	混入物など	備考
1a	黄褐色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を含む	自然堆積	2b	黄褐色の砂質土	粘土	炭化物・酸化鉄を若干、粘土フロックを含む	自然堆積
1b	黄褐色の砂質土	シルト	炭化物を多数に、酸化鉄・酸化鉄を土を若干含む		2c	黄褐色の砂質土	粘土	炭化物を多数に、酸化鉄・酸化鉄を土を若干含む	
1c	黄褐色の砂質土	シルト	炭化物・酸化鉄を少量、粘土フロックを若干含む		3a	黄褐色の砂質土	粘質中砂	炭化物・酸化鉄を土を若干含む	
2	灰黄色の砂質土	粘質中砂	炭化物・酸化鉄を含む		2c	黄褐色の砂質土	粘土	酸化鉄を土を若干、炭化物を含む	
2a	黄褐色の砂質土	粘質中砂	炭化物・酸化鉄を若干含む		3b	黄褐色の砂質土	粘土	粘土フロックを多数含む	
2b	黄褐色の砂質土	粘土	炭化物・酸化鉄を若干含む						

第5図 SD6517区画溝跡断面図

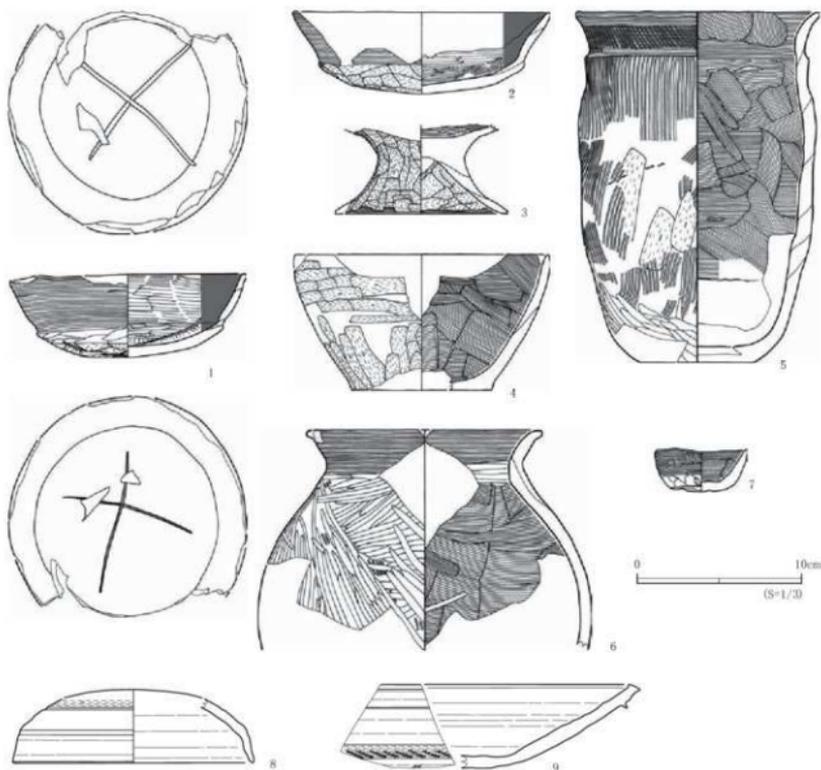


第6図 平成18年度調査 市川橋遺跡遺構全体図

下層位毎に記述していく。なお、各層から抽出・図示した土器の胎土中にはすべてに海綿骨針が含まれている。

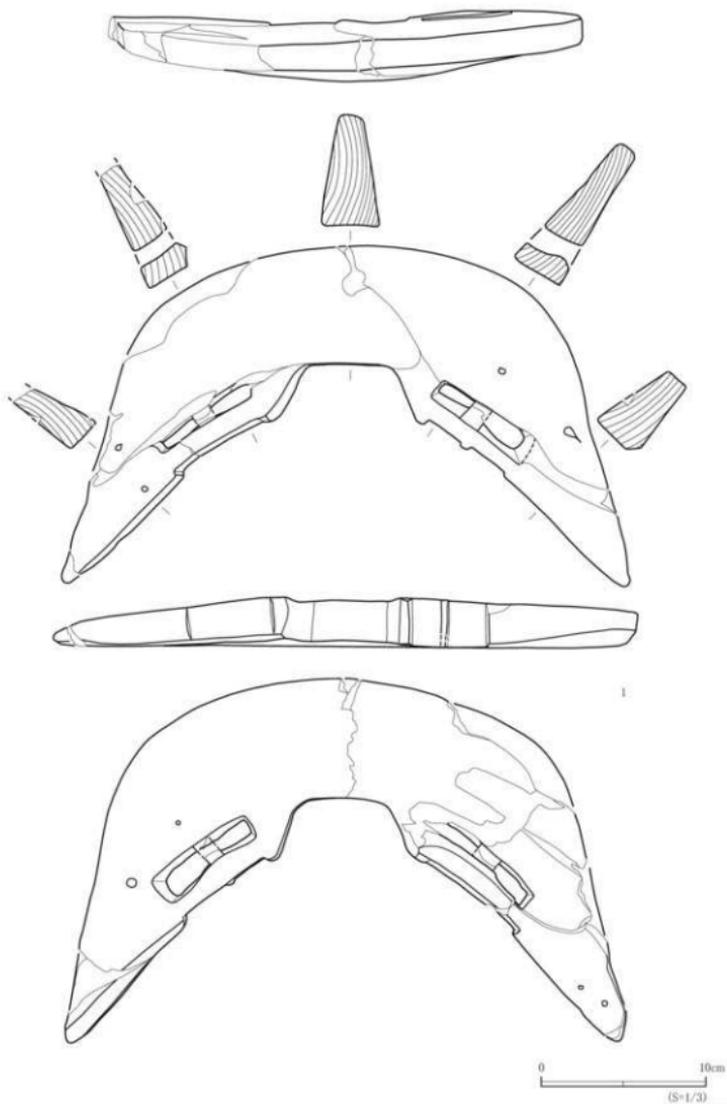
【5層出土遺物】(第7・8図)

非ロクロ調整の土師器、須恵器、ミニチュア土器、木製品(鞍前輪)(第8図1)、砥石(第157図12)が出土している。器種としては土師器杯・鉢・埴・高坏・甕・甗・甔、須恵器坏H蓋・大型鉢・甕・甗がある。



No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	胎 土		付真図録	号数
							外面	内面		
1	土師器・杯	5	14.6		5.2	5/6	外面: コナダ→斜めヘラケズリ 内面: ヘラミダシ→黄色地 底部内面に「」の施部へラケズリ		33-1	K1
2	土師器・杯	5	15.0		5.1	1/3	外面: コナダ→手持ちヘラケズリ 内面: ヘラミダシ→黄色地			K4
3	土師器・鉢	5		(11.4)		1/4	外面: コナダ→斜めヘラケズリ 内面: 伊部ヘラミダシ→黄色地 (裏面) コナダ→斜めヘラケズリ			K6
4	土師器・鉢	5	(15.7)	(6.6)	6.4	口縁部→底部片	外面: 手持ちヘラケズリ 内面: ヘラミダシ			K10
5	土師器・片鉢	5	(15.0)	7.0	21.7	1/4	外面: コナダ→ヘラケズリ→ハケメ→コナダ→ヘラミダシ 内面: コナダ→ナデ		33-2	K3
6	土師器・甕	5	(14.2)			口縁部1/4→体部1/4	外面: ハケメ→コナダ→ヘラミダシ 内面: コナダ→ヘラミダシ			K9
7	ミニチュア土器・甗	5	5.6	3.8	2.7	完形	外面: コナダ→ユビオサシ 内面: コナダ→ナデ		33-3	K12
8	須恵器・坏H蓋	5	14.7		(4.5)	1/4	外面: ロクロナデ→斜めヘラケズリ 内面: ロクロナデ			K2
9	須恵器・大型甗	5				口縁部→底部片	外面: ロクロナデ→斜めヘラケズリ 刺点文 口縁部に突帯あり 内面: ロクロナデ			K11

第7図 SD6517区画溝跡5層出土土器



No.	種別	層位	高さ	幅	厚さ	残存	特徴		写真図録	登録
							木取り・産地	製法		
1	木製輪形物	5	22.3	35.6	1.8~3.5	ほぼ完全	木取り：榎木・榎目	製法：十字金 前・後輪直立板 紐通し孔4個 州形欠き取り 高層部切断、2枚羽木	07-1	K32

第8図 SD6517区画溝跡5層出土木製品

土師器

〈**坏**〉2点図示した(1・2)。いずれも有段丸底坏である。1は口縁部が内湾気味に外傾して立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリののち部分的なヘラミガキで、内面調整はヘラミガキ・黒色処理されている。底部の内外面には焼成前に「+」のヘラ記号が施されている。2は口縁部が外反しながら立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリで、内面調整はヘラミガキ・黒色処理されている。

〈**鉢**〉1点図示した(4)。口径に対して器高が低く、底部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。外面調整は手持ちヘラケズリ、内面調整はヘラナデである。

〈**甕**〉1点図示した(5)。口縁部と体部の境に段を持つ平底の中型長胴甕である。外面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリののちハケメで、体下部から底部周縁にかけてヘラミガキされる。内面調整は口縁部がヨコナデ・ナデ、体部がナデである。

〈**壺**〉1点図示した(6)。頭部がく字状に屈曲し口縁部が短く外傾する球胴壺である。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がハケメののちヘラミガキ、内面調整は口縁部がヨコナデ、頭部がヘラミガキ、体部がヘラナデである。

須恵器

〈**坏H蓋**〉1点図示した(8)。体部と口縁部の境が屈曲する。外面調整は天井部が回転ヘラケズリである。

〈**大型盤**〉1点図示した(9)。平底気味で底部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口唇端部は平坦である。口縁部外面に突帯が巡り、体下端部は回転ヘラケズリののち列点文が施されている。

ミニチュア土器

〈**坏**〉1点図示した(7)。平底で底部から口縁部にかけて直立気味に外傾して立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体下部がユビオサエで、内面調整はヨコナデ・ナデである。

木製品

〈**鞍**〉鞍橋の前輪部分である(第8図1)。調査時はいくつかの破片となって出土しており形状が不明であったが、室内整理作業中に接合して木製鞍前輪であることが判明した。法量は全幅35.6cm、馬扶33.4cm、高さ22.3cm、上端(山側)の厚さ1.8cm、下端(磯側)の厚さ3.2cm、州浜形の厚さ3.5cmである。州浜形には欠き取りがなされ、馬膚側には切り組みがみられる。切り組みの上部に左右2箇所ずつの紐通し孔がある。この紐通し孔に草紐類を通し居木を結束していたものである。切り組みが左右2箇所であることから居木は2枚居木であったことがわかる。木取りは縦木の柁目取りで、樹種はケヤキである。ほぼ完形品であるが、残存状況は腐食のためやや悪い。加工痕や漆塗り・朱塗りの痕跡はみられず、素木造りである。また、裝飾金具、鞍金具の取り付け痕も認められないため、実用的な木製馬鞍と考えられる。第8章総括で検討を加えている。

【4層出土遺物】(第9～13図)

非クロク調整の土師器、須恵器、ミニチュア土器、木製品(ササラゴ)(第13図1)、砥石(第160図34)、鹿角が出土している。器種としては土師器坏・鉢・壺・高坏・甕・台付甕・甗・壺、須恵器短頸蓋・短頸壺・壺・甗・甕がある。

土師器

〈坏〉2点図示した(1・2)。1は有段丸底の坏で口縁部は外反しながら立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリののち部分的にヘラミガキされている。内面調整はヘラミガキ・黒色処理されている。2は関東系土師器の口縁部から体部にかけての破片である。口縁部と体部の境に段をもち、口縁部は内傾して短く立ち上がる。須恵器坏身の模倣形態と考えられる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がナデである。内面調整は口縁部・体部ともにヨコナデである。

〈鉢〉1点図示した(7)。口径に対して器高が低い。底部から体部にかけて直立気味に外傾して立ち上がり、口縁部は短く内湾する。外面調整は全体にハケメが施されたのち口縁部がヨコナデ、体下部から底部周縁がユピオサエで、内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。

〈碗〉2点図示した(8・9)。8は底部から口縁部にかけて内湾して立ち上がり、口縁部と体部の境に段を持つ。外面調整は全体にハケメを施したのち口縁部がヨコナデ、体下部で部分的なヘラミガキ、底部周縁がユピオサエである。内面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がナデである。9は底部から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。外面には輪積み痕が顕著に残る。外面調整は口縁部がヨコナデ、体下部から底部が手持ちヘラケズリである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がナデである。

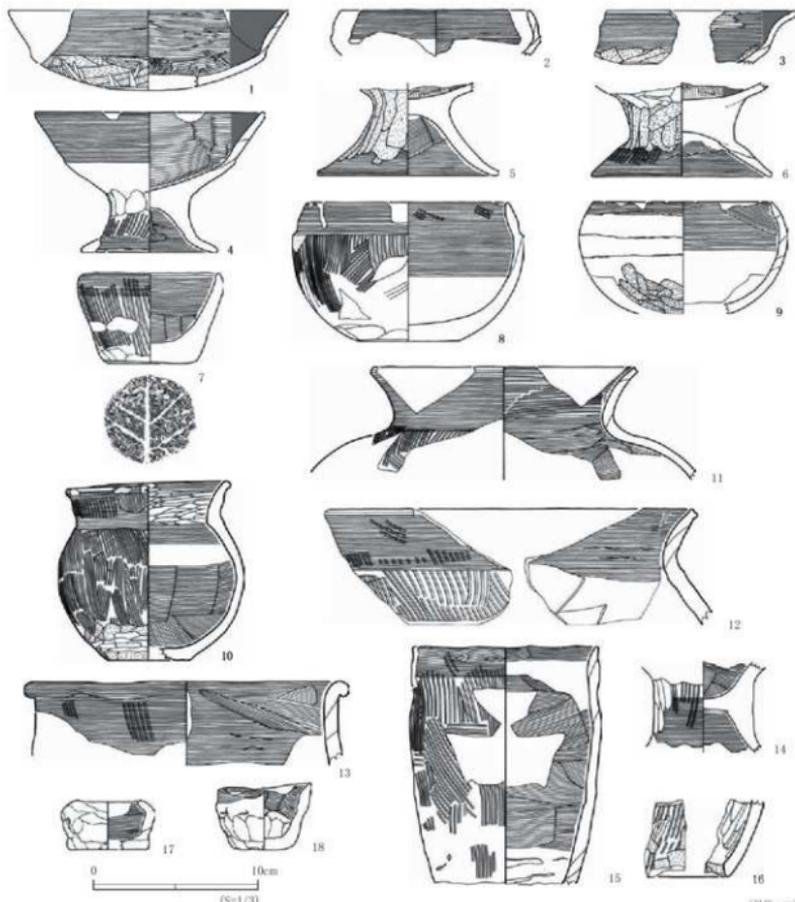
〈高坏〉4点図示した(3~6)。このうち3と6は大型高坏である。3は坏部の破片で、5・6は坏部の大半を欠く。坏部は有段で口縁部にかけて外傾するもの(4)と、体部に稜を持ち口縁部で外反するもの(3)がある。脚部は中空の円錐形で裾部が屈曲して広がるもの(4)、八の字状に広がるもの(5)、脚上部が中実で裾部が八の字状に広がるもの(6)がみられる。調整は坏部外面が口縁部ヨコナデ、体部手持ちヘラケズリで、内面はヘラミガキ・黒色処理されている。脚部は外面がハケメ・ヨコナデののち手持ちヘラケズリされ、内面はヘラナデ・ナデである。

〈壺〉2点図示した(12・13)。いずれも口縁部から体上部にかけての破片である。12は球胴壺で口縁部と体部の境が屈曲し稜をもち、口唇端部は平坦で1条の沈線が巡っている。焼成は極めて堅緻で須恵質を呈する。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、内面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がヘラナデである。13は長胴壺で口縁部と体部の境に段や稜を持たない。口縁は折縁で口唇端部は丸くおさまる。外面調整はハケメののちヨコナデ、内面調整はヨコナデののちヘラナデである。

〈台付壺〉1点図示した(14)。底部から台上部にかけて残る。台部は中空で八の字状に裾部のひろがるものと考えられる。外面調整はハケメののちヨコナデ・ヘラミガキされ、内面調整は底部がヘラナデ、台部がナデである。

〈甔〉2点図示した(15・16)。15は体下部から底部を欠く。寸胴型をした中型の甔である。口縁部と体部には明瞭な境を持たず、体部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデされ体下部には輪積み痕が残る。16は体下部から体下部にかけて残る。無底の甔である。外面調整はハケメののち手持ちヘラケズリ・ヘラミガキ、内面調整はヘラミガキ・手持ちヘラケズリである。

〈壺〉2点図示した(10・11)。10は小型の球胴壺で、口縁部と体部の境がく字状に屈曲し口縁部は外傾する。口唇端部はつまみだされて丸くおさまり、1条の沈線が巡る。外面調整は全体にハケメを施した



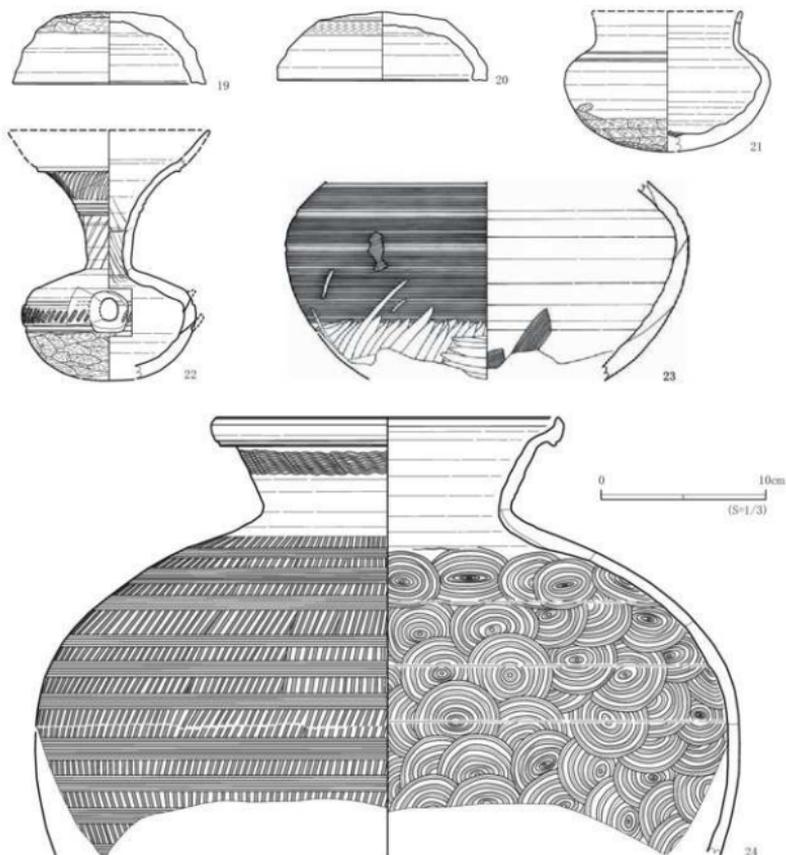
No.	種別	形状	口径	底径	高さ	残存	特徴		写真図録	巻数
							口縁部→底面片	口縁部→体面片		
1	土師器・杯	4	(11.2)		(5.0)	口縁部→底面片/4	内面:ヨコナダ→手持りヘラケズリ→ヘラミダシ	内面:ヘラミダシ→黒色地		823
2	土師器・杯	4	(11.4)			口縁部→体面片	内面:ヨコナダ→ナデ	内面:ヨコナダ	簡直系土師器	825
3	土師器・高杯	4				口縁部→体面片	内面:ヨコナダ→手持りヘラケズリ	内面:ヘラミダシ→黒色地		824
4	土師器・高杯	4	(14.2)	(8.4)	(8.7)	4/5	内面:黒塗ヨコナダ	内面:ナメ	ヨコナダ→ナデ	33-10 830
5	土師器・高杯	4	(11.2)			脚部定形	内面:ヨコナダ→手持りヘラケズリ	内面:黒塗ヘラミダシ→黒色地	脚部ヨコナダ	33-11 833
6	土師器・高杯	4	(11.1)			脚部2/3	内面:ハケメ→ヨコナダ→手持りヘラケズリ	内面:内面ヘラミダシ→黒色地	脚部ヨコナダ	33-12 839
7	土師器・鉢	4	(8.4)	5.6	5.7	3/4	内面:ハケメ→ヨコナダ→ユビオヤシ	内面:ヨコナダ	ヘラナダ→ナデ	33-7 819
8	土師器・地	4	(12.3)	6.2	8.6	3/4	内面:ハケメ→ヨコナダ	内面:ヘラミダシ→黒色地	脚部ヨコナダ→ナデ	33-8 827
9	土師器・地	4	(10.9)			1/5	内面:ヨコナダ→手持りヘラケズリ→ナデ	内面:黒塗	内面:ヨコナダ→ナデ	33-9 828
10	土師器・壺	4	16.2	5.0	11.1	ほぼ定形	内面:ハケメ→ヨコナダ→手持りヘラケズリ	内面:ヘラミダシ	内面:ヨコナダ→ヘラナダ→ヘラミダシ	33-6 814
11	土師器・壺	4	(16.4)			口縁部→体面片	内面:ハケメ→ヨコナダ	内面:ハケメ→ヘラナダ		836
12	土師器・鉢胴横	4				口縁部→体面片	内面:ハケメ→ヨコナダ	内面:ハケメ→ヨコナダ→ヘラナダ	横成縦直質	8206
13	土師器・鉢胴横	4	(20.0)			口縁部→体面片	内面:ハケメ→ヨコナダ	内面:ヨコナダ→ヘラナダ		815
14	土師器・台付横	4				有部片	内面:ハケメ→ヨコナダ→ヘラミダシ	内面:(体面)ヘラナダ	(台部)ナデ	832
15	土師器・瓶	4	(11.4)			口縁部→体面片/2	内面:ハケメ→ヨコナダ	内面:ヨコナダ→ヘラナダ	横成縦直	835
16	土師器・瓶	4				体下面片	内面:ハケメ→手持りヘラケズリ→ヘラミダシ	内面:黒塗		8207
17	ミコトピア土師器・鉢	4	(5.7)	(4.0)	3.1	1/3	内面:ユビオヤシ	内面:ヨコナダ		33-4 816
18	ミコトピア土師器・鉢	4	5.6	3.6	4.2	定形	内面:ヨコナダ	内面:ユビオヤシ	内面:ナデ→ユビオヤシ	33-5 831

第9図 SD6517区面溝跡4層出土土器(1)

のちに口縁部がヨコナデ、体下部から底部周縁が手持ちヘラケズリ・ヘラミガキである。内面調整は口縁部がヨコナデのちヘラミガキ、体部がヘラナデである。11は口縁部と体部の境が強く屈曲する球胴壺である。口縁部は外傾し口唇端部には平坦面をもつ。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデで、内面調整は口縁部がハケメ、体部がヘラナデである。

須恵器

〈短頸壺蓋〉2点図示した(19・20)。19は口径に対して器高がやや高い。体部は内彎気味に外傾する。口



No.	種別	肩位	口径	底径	器高	残存	特徴	所属層	登録
19	須恵器・短頸壺	4	11.8	4.4	3/4		外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ 天井部：ヘラミガキ	34-1	K20
20	須恵器・短頸壺	4	12.8	4.2	1/4		外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ 天井部：ヘラミガキ	34-2	K21
21	須恵器・短頸壺	4	(9.2)		1/2		外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 調整痕 内面：ロクロナデ		K17
22	須恵器・壺	4	(12.8)	(14.9)	3/5		外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 調整痕 調整痕 内面：ロクロナデ 内面：磨り目	34-3	K22
23	須恵器・壺	4			体部1/3		外面：カキメ→ヘラミガキ 内面：ロクロナデ→ヘラナデ		K29
24	須恵器・壺	4	21.6		口縁部2/3～体部片		外面：平行タタキ→ロクロナデ・カキメ 調整痕 内面：貝心削き当て長編→ロクロナデ	34-4	K41

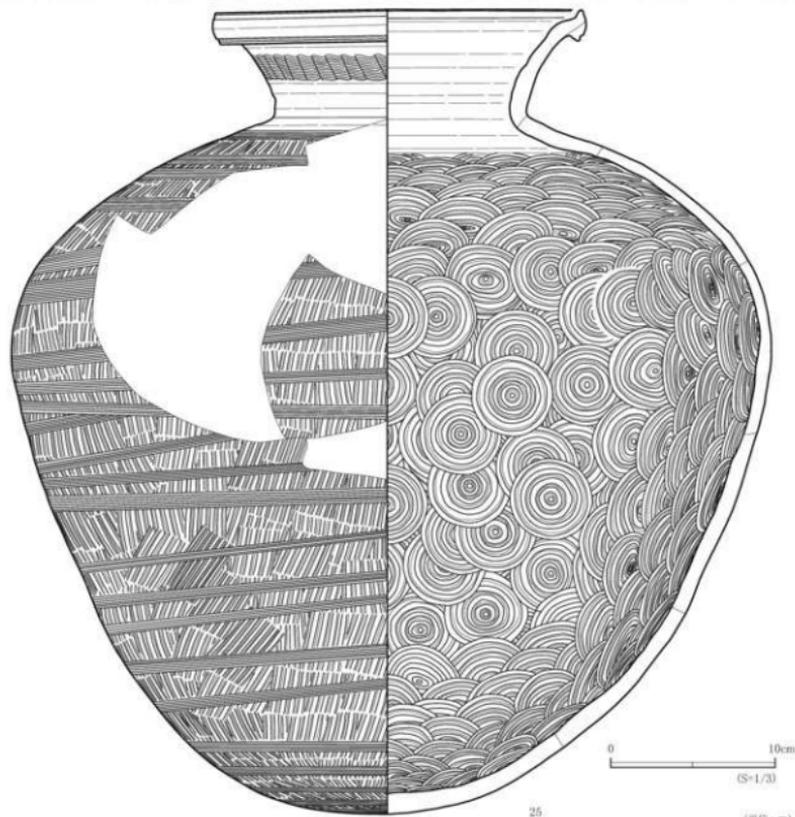
第10図 SD6517区画溝跡4層出土土器(2)

唇端部は平坦で内側に向かって僅かに立ち上がる。天井部はヘラ切りによる切り離しののち手持ちヘラケズリされている。20は口径に対して器高がやや低い。体部は内彎気味に外傾し、口縁部が内側に僅かに屈曲する。口唇端部は平坦である。天井部はやや丸みをもち、ヘラ切りによる切り離しののち回転ヘラケズリされている。

〈短頸壺〉1点図示した(21)。丸底の広口をした短頸壺である。肩部に2条の沈線が巡る。外面調整は体下部から底部にかけて手持ちヘラケズリされる。内面調整は底部にナデがみられる。

〈壺〉1点図示した(23)。体上半部から口頸部と底部を欠く。外面はカキメののち体下部がヘラミガキされ、内面は体下部に一部ヘラナデが施されている。

〈甕〉1点図示した(22)。口縁部と底部、注口の突出部を欠く。頸下部から体部との接合部にかけて頸部

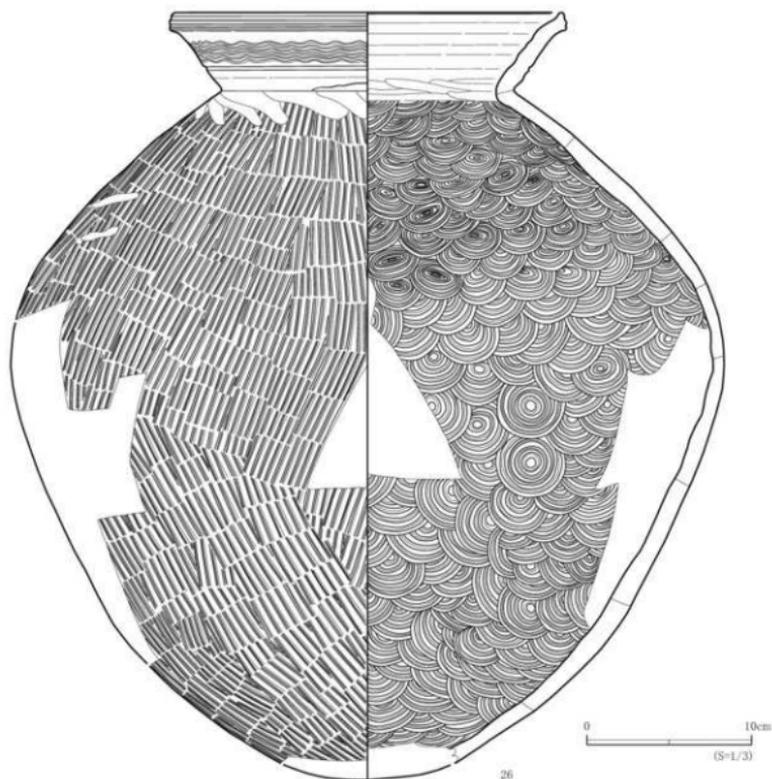


No.	種別	層位	口径	直径	器高	残存	特徴	写真図例	登録
25	須恵器・壺	4	22.9		49.3	口縁部1/3～底部	外面：平行タタキ→ロクロナデ・カキメ 頸部底状文 内面：同心円状当て具痕→ロクロナデ	25-1	K42

第11図 SD6517区画溝跡4層出土土器(3)

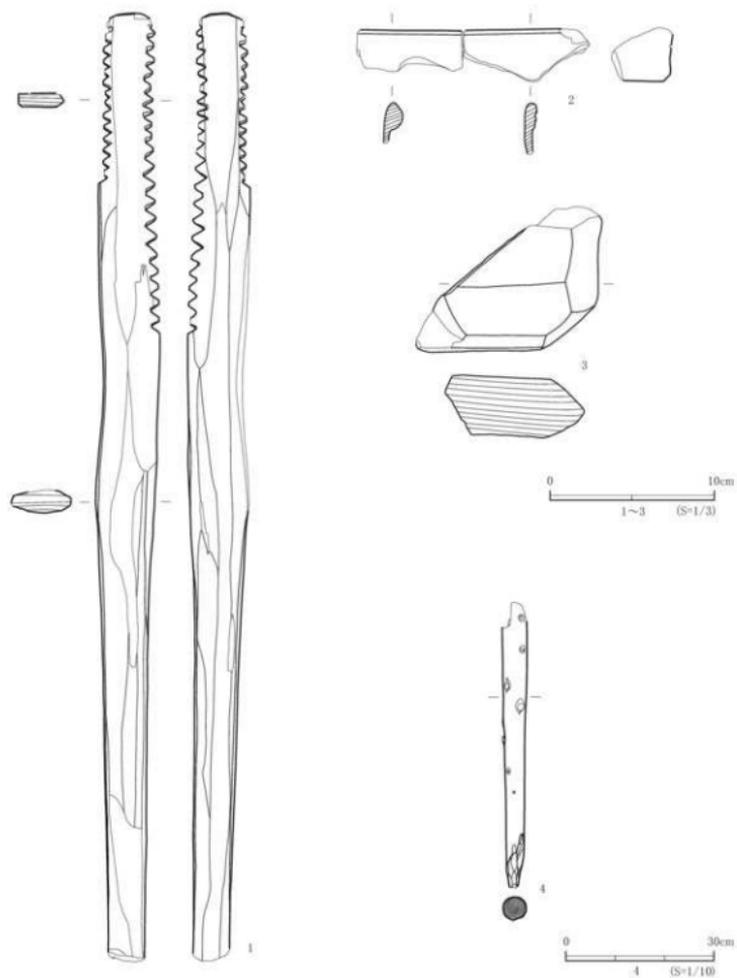
が窄まっており、頭上部はラッパ状に広がっている。頭上部には2条の沈線が巡り、沈線より上位には斜位の刻線文が施されている。体上部の斜め上方から注口が穿たれている。体部には注口を中心として櫛歯状工具による列点文が施され、列点文を挟んで上下に1条ずつ沈線が巡る。体下部から底部は手持ちヘラケズリされる。内面には頸部に絞目痕が顕著にみられる。

〈壺〉3点図示した(24~26)。24は体下部から底部を欠く。体上部に最大径をもつ大型甕である。口縁部は外傾し端部は上下につまみだされて突帯縁となる。頸部には櫛歯状工具による波状文が巡る。体部外面には平行タタキのちカキメが施され、内面には同心円状当て具痕がみられる。25は体上部に最大径をもつ丸底の大型甕である。口縁部は外反し端部は上下につまみだされて突帯縁となる。頸部には櫛歯状工具による波状文が巡る。体部外面には平行タタキのちカキメが施され、内面には同心円状当て具痕がみられる。26は体中央部よりやや上位に最大径をもつ丸底の大型甕である。口縁部は外反し端部



No.	種別	肩位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図版	登録
26	甕・壺	4	24.2	47.1	底面欠損	外面：平行タタキ→口クロナデ・ナデ 心円状当て具痕→口クロナデ・ナデ	頸部波状文 突帯部2条沈線 胴部1条沈線	36-1	K164

第12図 SD6517区画溝跡4層出土土器(4)



(単位: cm)

No.	種別	層位	長	幅	厚さ	残存	特徴	写真図版	登録
1	ササラゴ	4	57.6	3.6	1.5	ほぼ完形	木取り: 縦木・板目 左右に14条と21条の縦溝状の刻み目 工具痕顯著	68-1	W1
2	不明木製品	4	13.8	3.8	1.1		木取り: 板目	68-2	W9
3	不明木製品	3	8.9	8.5	3.5		木取り: 板目	68-3	W3
4	杭	不明	370.0	4.6	4.8		木取り: 芯持材	68-4	W5

第13図 SD6517区画溝跡4層・3層・層位不明出土木製品・杭

は弱く上下につまみだされて突帯縁となりそこに2条の沈線が巡る。頸部には1条の沈線とその上位に櫛歯状工具による波状文が施される。体部外面は平行タタキされ、頸部と体部の境はナデられている。内面には同心円状当て具痕がみられ、頸部と体部の接合部はナデられている。

ミニチュア土器

〈坏〉1点図示した(17)。平底で底部から体部にかけて外傾気味に立ち上がり口縁部は内側に屈曲する。外面調整はユビオサエで、内面調整はヨコナデが施されている。

〈鉢〉1点図示した(18)。丸底気味で底部から口縁部にかけてやや外傾しながら立ち上がる。内外面ともヨコナデ・ユビオサエがなされている。

木製品

〈ササラゴ〉(第13図1)形状は柄部と鋸歯部からなる木刀状を呈し、表面には工具痕が顕著に認められる。先端部の両側にそれぞれ14条と21条の刻み目が鋸歯状に刻みこまれている。左右の刻み目の数の違いから奇数の方を男竹、偶数の方を女竹と呼び習わす民俗例が想起される(久枝秀夫, 1969)。この箇所に茶筌状をしたささら竹をこすりつけて発音させたものとみられる。法量は、全長57.6cm、幅は鋸歯部が2.0~3.2cm、柄部が2.2~3.6cm、厚さは鋸歯部が0.9cm、柄部が1.5cmである。木取りは縦木の板目取りである。柄部の先端が欠損している以外はほぼ完形である。

ササラゴは弥生時代中期頃に朝鮮半島から伝えられたものとされており、主に関東以西での出土例が多い。特に平城京跡から数多く出土している。起源としては稲作に関わる農耕儀礼に伴って奏された(囃し田)とする説がある(木川正夫, 1990)。

〈板状木製品〉(第13図2)長側の側縁部が部分的に残存しているのみで全体の形状は不明である。木取りは柁目取りである。

〔3層出土遺物〕(第14~19図)

非ロク調整の土師器、須恵器、ミニチュア土器、木製品が出土している。器種としては土師器坏・鉢・高坏・甕・台付甕・甌・壺、須恵器坏・坏口蓋・高坏・脚付壺・鉢・播鉢・甌・短頸壺・短頸蓋壺・脚付長頸壺・横甌がある。

土師器

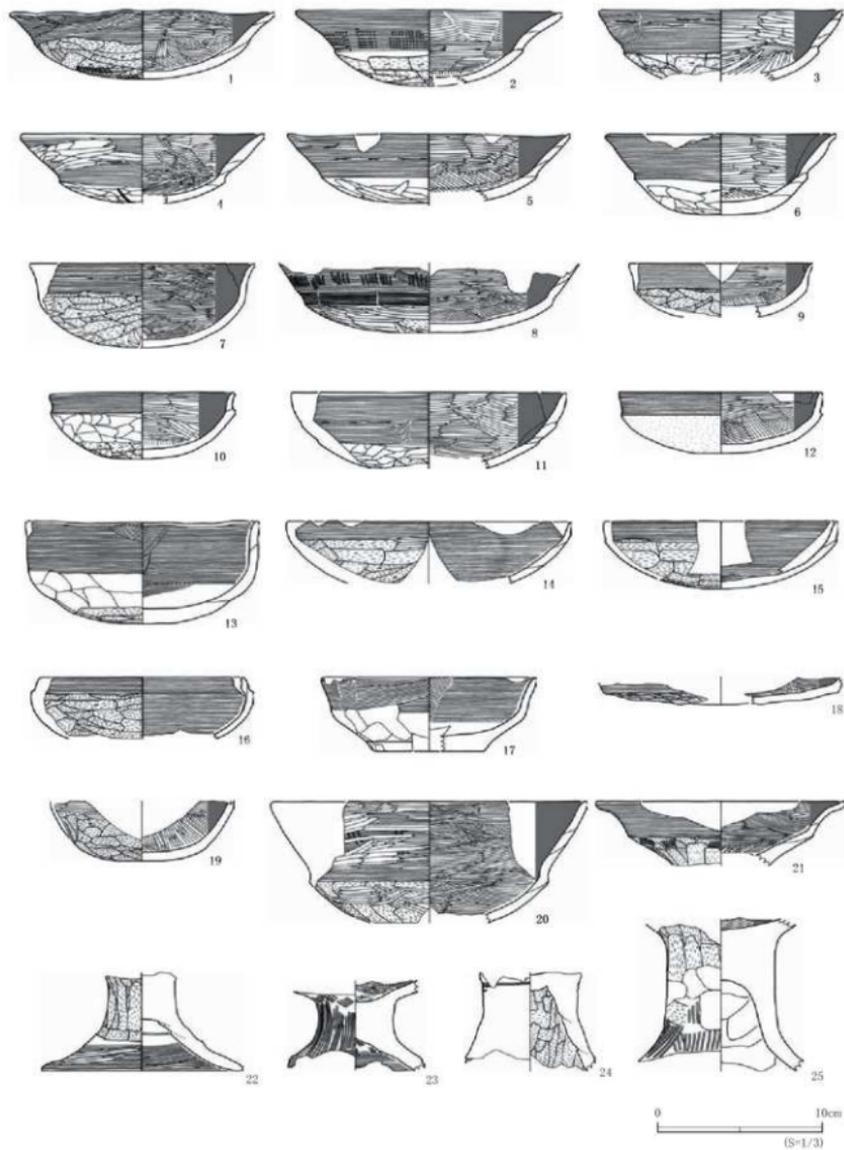
〈坏〉19点図示した(1~19)。1~6・8・11は有段丸底の坏で口縁部が外反するもの(1・2・4・6)と外傾するもの(3・8)、内彎するもの(11)がある。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリされるもの(1・2)、全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリ・ヘラミガキを施されるもの(8)、口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリされるもの(3)、口縁部がヨコナデののちヘラミガキ、体部から底部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキされるもの(4)、口縁部がヨコナデ、体部から底部がヘラミガキされるもの(6)、口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキされるもの(5・11)がある。内面調整はいずれもヘラミガキ・黒色処理されている。7・9・10・12は丸底をした須恵器坏蓋の模倣形態のもので、7・9は底部から口縁部にかけて丸味をもって立ち上がり、体部と口縁部の境が弱く屈曲する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリ、内面調整はヘラミガキ・黒色処理されている。10・12は体部

と口縁部の境に段をもつもので口縁部は弱く外反(10)もしくは直立気味に外傾(12)しながら立ち上がる。外面調整は10が口縁部ヨコナデ、体部から底部は手持ちヘラケズリののちヘラミガキされ、12は口縁部がヨコナデ、体部の調整は摩滅のため不明である。内面調整はいずれもヘラミガキ・黒色処理されている。13~17はいずれも内面調整がヨコナデ・ナデで黒色処理されており関東系土師器の範疇に含まれるものである。13は丸底で底部から体部にかけて丸味をもって立ち上がり、口縁部は直立する。外面調整は口縁部ヨコナデ、体部はナデで底部は手持ちヘラケズリされている。14は底部を欠く。体部は丸味をもって立ち上がり、体部と口縁部の境は僅かに屈曲する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。15は丸底で体部と口縁部の境に弱い段をもち口縁は外傾気味に立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリである。14と15は内外面漆仕上げされている。16は須恵器器身の模倣形態である。体部と口縁部の境に段をもち口縁部は内傾して短く立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリされている。17は平底で体部と口縁部の境が強く屈曲し口縁部は外反気味に立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がナデ・ナデツケである。18・19はともに口縁部を欠き全体の器形は不明である。18は平底気味で底径が大きく口縁部が直立気味に立ち上がることから盤状の坏と思われる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリ、内面調整はヘラミガキ・黒色処理されている。19は丸底で底部から体部にかけて丸味をもって立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。内面調整はヘラミガキ・黒色処理されている。

〈鉢〉5点図示した(28~32)。28は平底で口径に対して器高がやや高い。底部から口縁部にかけて内彎しながら立ち上がり、口縁部と体部の境に弱い段をもつ。外面調整は全体にハケメが施されたのち口縁部がヨコナデ、体下部が手持ちヘラケズリ、底部周縁がナデである。内面調整はヨコナデ、ヘラナデである。29~32は口縁部の破片である。29は口縁部と体部の境に段をもち、口縁部は直立気味に立ち上がる。外面調整はヨコナデ、内面調整はヘラミガキである。30は内彎気味に立ち上がる。外面調整は手持ちヘラケズリののち部分的なヘラミガキである。内面調整はヘラミガキである。31は口縁部が軽く外反する。外面調整はヨコナデののちヘラミガキ、内面調整はヘラミガキ・黒色処理である。32は直立気味に立ち上がる。外面調整はハケメののちヨコナデ、内面調整はヨコナデ・ナデである。

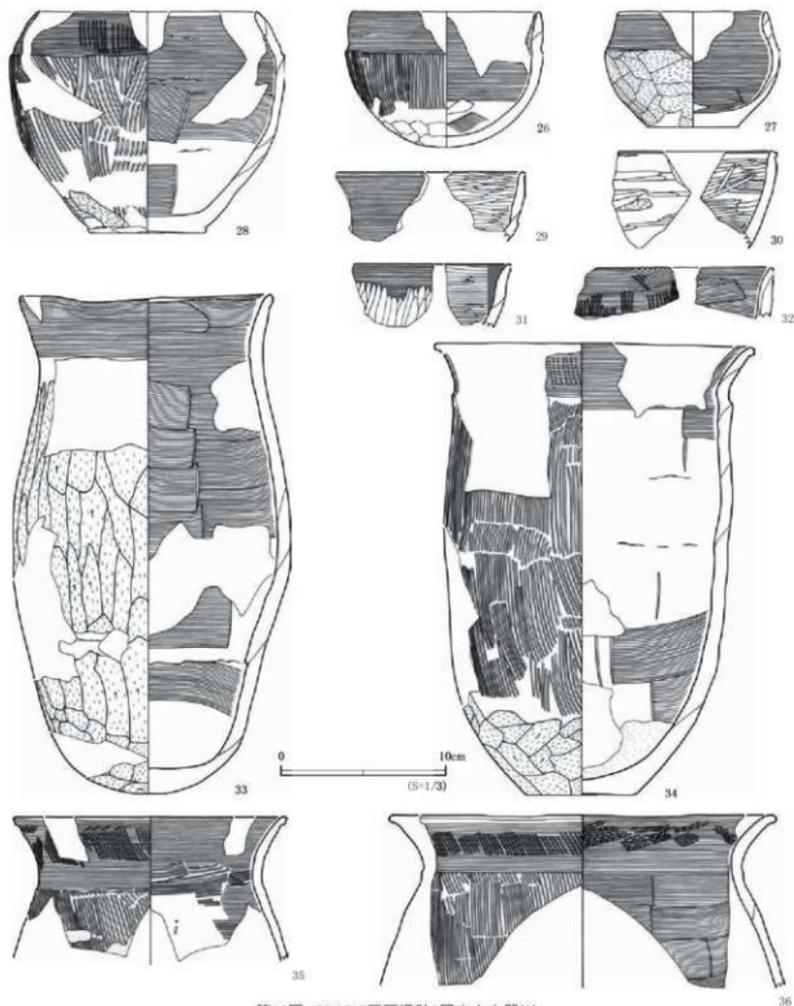
〈壺〉2点図示した(26・27)。26は丸底で口径に対して器高が低い。底部から体部にかけて内彎しながら立ち上がり口縁部は直立している。口縁部と体部の境に段をもつ。外面調整は全体にハケメが施されたのち口縁部がヨコナデ、体部から底部がナデである。内面調整はヨコナデ・ヘラナデである。27は平底で口径に対して器高が低い。底部から口縁部にかけて内彎しながら立ち上がり、口縁部と体部の境に稜をもつ。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。内面調整はヨコナデ・ナデである。

〈高坏〉6点図示した(20~25)。20・21は脚部を欠く。20は大型高坏で口縁部と体部の境に段をもち口縁部は外傾する。外面調整は全体にハケメを施したのち口縁部がヨコナデ・ヘラミガキ、体部が手持ちヘラケズリ・ヘラミガキである。内面調整はヘラミガキ・黒色処理である。21は口縁部と体部の境が屈曲し口縁部は強く外反している。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がハケメののち手持ちヘラケズリである。内面調整はヘラミガキ・黒色処理である。22~25は坏部の大半を欠く。22は脚上部が中実で、裾

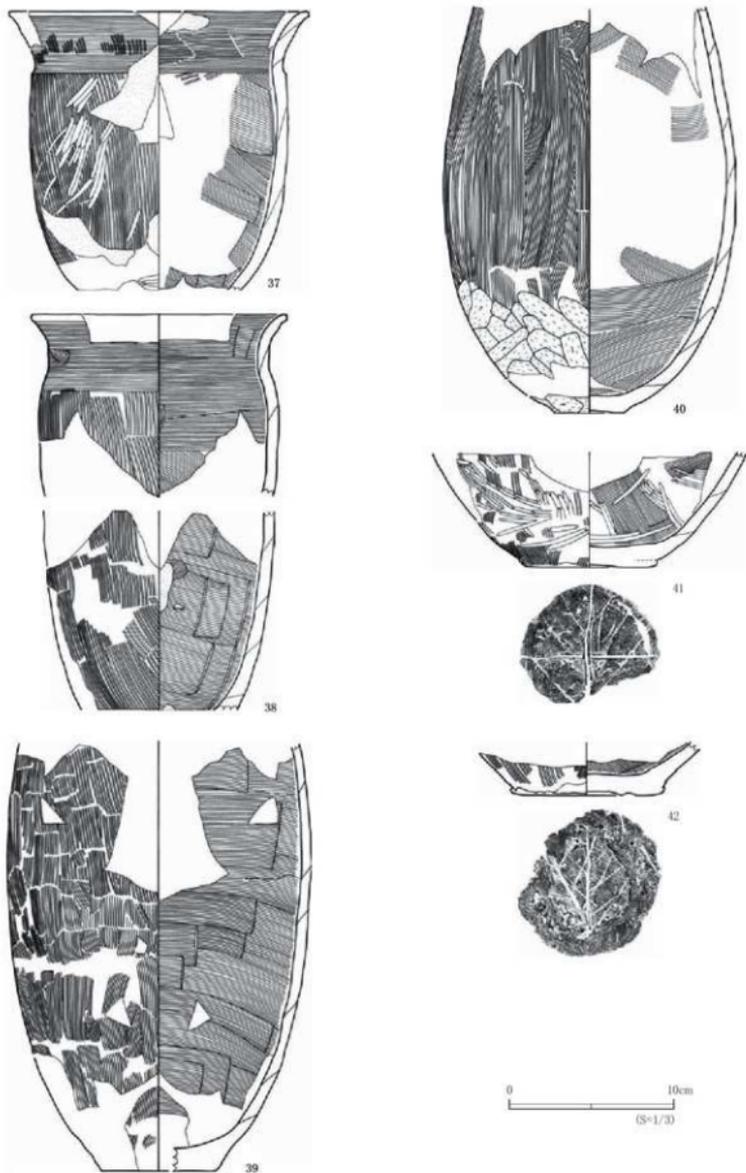


第14图 SD6517区画溝跡3層出土土器(1)

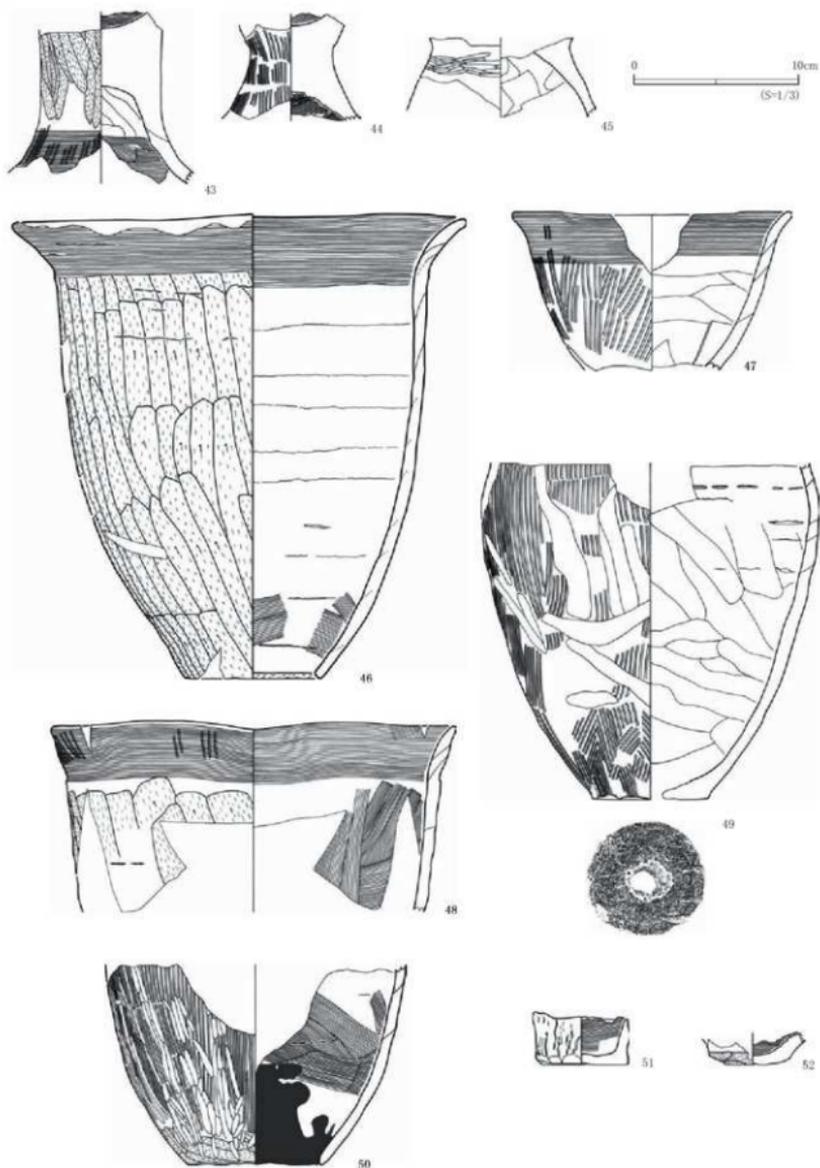
部は八の字状に大きく広がる。外面調整は脚上部が手持ちヘラケズリ、裾部がヨコナデののち部分的にヘラミガキされている。内面調整はヨコナデである。23は脚上部が中実で裾部が屈曲する。外面調整はハケメで、第内面調整はハケメののちヨコナデである。24は脚部が中空である。外面には脚上部に沈線が1条巡る。外面調整はナデ、内面調整は手持ちヘラケズリである。25は大型高杯の脚部で裾端部を欠く。脚上部は棒状の中実である。外面調整はハケメののち手持ちヘラケズリ・ナデで、内面調整はナデである。23・25では坏部内面がヘラミガキ・黒色処理されている。



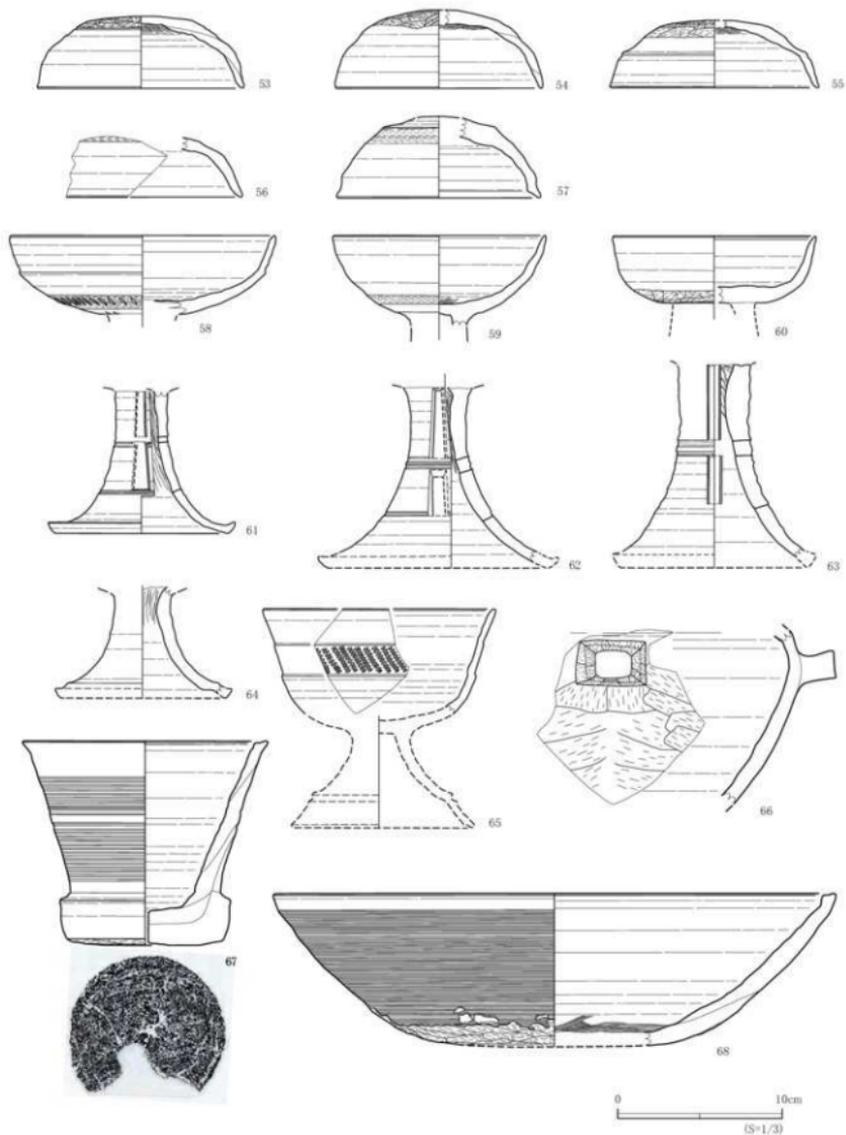
第15図 SD6517区画溝跡3層出土土器(2)



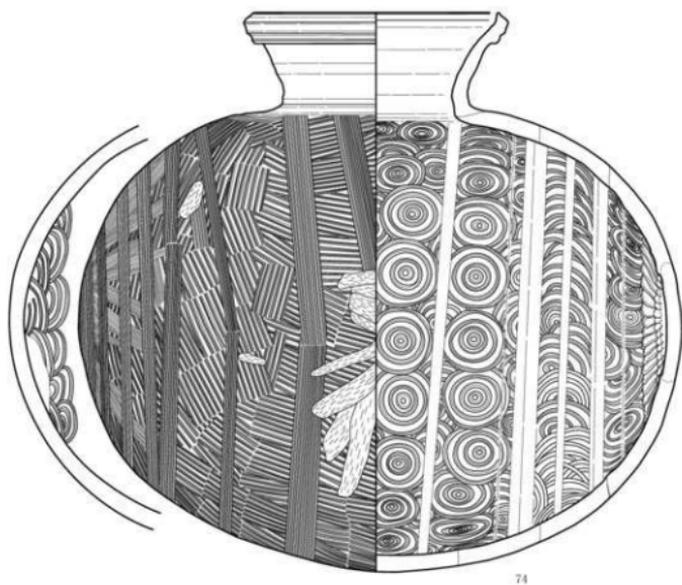
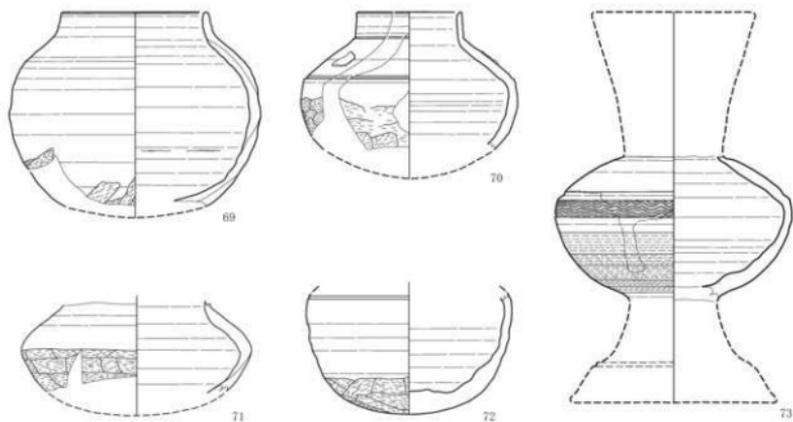
第16图 SD6517区画沟跡3層出土土器(3)



第17图 SD6517区画沟跡3層出土土器(4)



第18图 SD6517区面清跡3層出土土器(5)



第19图 SD6517区画溝跡3層出土土器(6)

No.	種別	層位	口径	底径	深さ	残存	特徴	写真掲載	登録
1	土師器・杯	3(3a)	16.3	4.3	2.0		外面:ハケメヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-1	895
2	土師器・杯	3(3a)	18.4	4.7	3/4		外面:ハケメヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-4	893
3	土師器・杯	3(3a)	15.0			底面欠損	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-1	894
4	土師器・杯	3(3a)	(15.0)		1/3		外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-3	855
5	土師器・杯	3(3a)	(17.4)		1/3		外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-10	895
6	土師器・杯	3(3a)	14.2		5.0	1/2	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-2	876
7	土師器・杯	3(3a)	(13.9)		5.2	1/4	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-6	882
8	土師器・杯	3(3a)				口縁部欠損	外面:ハケメヨコナダ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-13	877
9	土師器・杯	3(3a)	(11.3)			1/5	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダギキ一色焼成		873
10	土師器・杯	3(3a~3f)	11.4		4.0	1/3(底面)	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-1	865
11	土師器・杯	3(3a~3f)	(12.0)			1/5	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-12	867
12	土師器・杯	3(3a)	12.5		3.8	4/5	外面:ヨコナダ マダ 内面:ヘラミダギキ一色焼成	37-5	856
13	土師器・杯	3(3a~3f)	(14.3)		6.2	4/5	外面:ヨコナダ・ナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ・ナダ 腹面系土師器	37-9	892
14	土師器・杯	3(3a)	(17.5)			口縁部~底部片	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ 内外面:唐仕上り 腹面系土師器		8296
15	土師器・杯	3(3a)	(14.2)		4.2	1/3	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ・ナダ 内外面:唐仕上り 腹面系土師器	37-14	863
16	土師器・杯	3	(12.0)			口縁部~底部片	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ 腹面系土師器		8120
17	土師器・杯	3(3a)	(13.2)	(6.0)	4.6	1/3	外面:ヨコナダ・ナダ 内面:ヨコナダ 腹面系土師器	37-8	897
18	土師器・杯	3(3a)				口縁部~底部片	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダギキ一色焼成		878
19	土師器・杯	3(3a)			1/5		外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダギキ一色焼成		884
20	土師器・大型高杯	3(3a~3f)	(18.4)		環頸1/5		外面:ハケメヨコナダ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成		8202
21	土師器・高杯	3(3a)	(15.4)		環頸1/3		外面:ハケメヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダギキ一色焼成		849
22	土師器・高杯	3(3a)		12.4		環頸3/4	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヨコナダ	37-16	850
23	土師器・高杯	3(3a~3f)			環頸2/3		外面:ハケメヨコナダ 内面:(残部)ヘラミダギキ一色焼成 環頸)ハケメヨコナダ		8195
24	土師器・高杯	3(3a)			環頸1/3		外面:ナダ 内面:ヘラケズリ		860
25	土師器・大型高杯	3(3a)			環頸3/4		外面:手持ちヘラケズリ・ハケメ・ナダ 内面:(唐)ヘラミダギキ一色焼成 環頸)ヘラケズリ	37-18	857
26	土師器・高杯	3(3a)	11.6		8.4	1/3	外面:ハケメヨコナダ・ナダ 内面:ヨコナダ・ヘラケズリ	38-1	805
27	土師器・高杯	3(3a)	(8.2)	5.5	7.2	1/3	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ・ナダ	38-2	866
28	土師器・鉢	3(3a)	(13.4)	6.8	13.7	2/3	外面:ハケメヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ・ヘラケズリ	38-3	861
29	土師器・鉢	3(3a~3f)				口縁部~底部片	外面:ヨコナダ 内面:ヘラミダギキ		8197
30	土師器・鉢	3(3a)				口縁部~底部片	外面:手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ		8190
31	土師器・鉢	3(3a)				口縁部~底部片	外面:ヨコナダ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成		879
32	土師器・鉢	3(3a~3f)				口縁部~底部片	外面:ハケメヨコナダ 内面:ヨコナダ・ナダ		8191
33	土師器・長胴瓶	3(3a)	15.4		30.9	3/4	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 輪轡部 内面:ヨコナダ・ヘラケズリ 輪轡底	38-5	875
34	土師器・長胴瓶	3(3a)	(18.7)	6.8	28.0	3/5	外面:ハケメヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ・ヘラケズリ 輪轡底	38-6	885
35	土師器・長胴瓶	3(3a)	16.8			口縁部~底部片	外面:ハケメヨコナダ		887
36	土師器・長胴瓶	3(3a)	(23.8)			口縁部~底部片	外面:ハケメヨコナダ 内面:ハケメヨコナダ・ヘラケズリ		890
37	土師器・長胴瓶	3(3a)	(18.4)			口縁部~底部片	外面:ハケメヨコナダ・ヘラミダギキ 内面:ハケメヨコナダ・ヘラケズリ		858
38	土師器・長胴瓶	3(3a)	(15.7)			口縁部(上~底部)	外面:ハケメヨコナダ 内面:ヨコナダ・ヘラケズリ		8199
39	土師器・長胴瓶	3(3a)		(6.9)		外面:ハケメ 内面:ヘラケズリ 輪轡底		8215	
40	土師器・長胴瓶	3(3a)	4.2			底部~底部完成	外面:ハケメ・手持ちヘラケズリ 内面:ナダ・ヘラケズリ	39-2	856
41	土師器・壺	3(3a)	8.2			底部~底部片	外面:ハケメ・ヘラミダギキ 内面:ヘラミダギキ一色焼成 底部:木葉形 環状ヘラケズリ(+)		843
42	土師器・壺	3(3a)	9.3			底部~底部片	外面:ハケメ 内面:ヘラケズリ 底部:木葉形		892
43	土師器・付付壺	3(3a)				底部片	外面:ハケメ・手持ちヘラケズリ・ヨコナダ 内面:ヘラケズリ	38-4	899
44	土師器・付付壺	3(3a)				底部片	外面:ハケメ 内面:ハケメ・ヘラケズリ	37-17	862
45	土師器・付付壺	3(3a)				底部片	外面:ヘラミダギキ 内面:ヘラケズリ		848
46	土師器・甕	3	27.9	8.4	28.8	1/3(底面)	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ・ヘラケズリ・手持ちヘラケズリ 輪轡底	39-1	818
47	土師器・甕	3	(17.2)			口縁部~底部1/4	外面:ハケメヨコナダ 内面:ヨコナダ・ヘラケズリ・ナダ		8116
48	土師器・甕	3(3a)	(24.9)			口縁部~底部1/4	外面:ハケメヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ・ヘラケズリ		874
49	土師器・甕	3(3a~3f)		7.1		底部~底部完成	外面:ハケメヨコナダ 内面:ナダ 輪轡底 底部:唐仕上り 10mmの穿孔	39-3	896
50	土師器・甕	3(3a)		8.2		底部片	外面:ハケメ・手持ちヘラケズリ・ヘラミダギキ 内面:ヘラケズリ 炭化物付着	39-4	890
51	シコケ土師器・甕	3	5.8	5.6	3.3	完形	外面:コビロヤシ 内面:ナダ	37-15	810
52	シコケ土師器・甕	3(3a)				底部~底部完成	外面:手持ちヘラケズリ 内面:ナダ		8102
53	須恵器・坏蓋	3(3a)	12.6		4.4	3/4	外面:ロコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ・ナダ	40-4	865
54	須恵器・坏蓋	3(3a)	12.7		4.1	1/3(底面)	外面:ロコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ・ナダ	40-2	853
55	須恵器・坏蓋	3	12.7		4.8	1/2	外面:ロコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ・ナダ	40-1	8111
56	須恵器・坏蓋	3				口縁部~底部片	外面:ロコナダ・柄取ヘラケズリ 内面:ロコナダ		8113
57	須恵器・坏蓋蓋	3(3a~3f)	12.5		(5.0)	底部~口縁部	外面:ロコナダ・柄取ヘラケズリ 内面:ロコナダ 天井部:ヘラ焼成	40-3	8175
58	須恵器・坏蓋蓋	3(3a)	18.2			底部片	外面:ロコナダ・柄取ヘラケズリ 内面:羅目瓦 内面:ロコナダ	40-5	818
59	須恵器・坏蓋蓋	3(3a)	13.0			底部片	外面:ロコナダ・柄取ヘラケズリ 内面:ロコナダ・ナダ	40-5	8103
60	須恵器・高杯	3	12.4			底部片	外面:ロコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ	40-7	8213
61	須恵器・高杯	3(3a~3f)		11.4		柄取	長方形形透かし 外面:ロコナダ 透かし孔間系縁部 内面:ロコナダ 総り組	40-8	8213
62	須恵器・高杯	3(3a~3f)		(14.7)		柄取	長方形形透かし 外面:ロコナダ 透かし孔間系縁部 内面:ロコナダ 総り組	40-8	8176
63	須恵器・高杯	3(3a)		(12.4)		柄取	長方形形透かし 外面:ロコナダ 透かし孔間系縁部 内面:ロコナダ 総り組	40-8	8180
64	須恵器・高杯	3(3a~3f)		(10.0)		柄取	内外面:ロコナダ 内面:総り組		8214
65	須恵器・脚付甕	3(3a~3f)				7部片	内外面:ロコナダ 外面:列点瓦	40-9	8182
66	須恵器・甕	3				底部片	外面:ロコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ		8114
67	須恵器・鉢鉢	3(3a)	15.0	9.5	12.5	3/4	外面:ロコナダ・柄取・手持ちヘラケズリ 2段縁部 内面:ロコナダ 底部:羅目の穿孔	40-10	858
68	須恵器・鉢	3(3a)	(34.2)	(19.6)	9.4	(12.6)	外面:ロコナダ・柄取・手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ・ナダ 手すね底		871
69	須恵器・短胴壺	3(3a)	8.0		12.0	3/4	外面:ロコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ	40-11	854
70	須恵器・短胴壺	3(3a)	6.4		(10.2)	1/2	外面:ロコナダ・手持ちヘラケズリ 1段縁部 内面:ロコナダ	40-12	867
71	須恵器・短胴壺	3(3a)				底部片	外面:ロコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ		846
72	須恵器・短胴壺	3(3a)				底部~底部完成	外面:ロコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ	40-14	8184
73	須恵器・柄付長胴壺	3(3a)				底部完成	外面:ロコナダ・柄取ヘラケズリ 輪轡蓋縁部・自然磨成面 内面:ロコナダ	40-13	864
74	須恵器・模瓶	3	15.0		34.0	1/3(底面)	外面:(唐)ロコナダ (唐)サリヤード・柄取・ヘラミダギキ一色焼成 底部:唐仕上り 環状ヘラケズリ(+) 自然磨成面	41-1	8247

SD6517区画跡跡3層出土土器観察表(第14~19回掲載)

《壘》10点図示した(33~42)。33は丸底の大型長胴甕で体中央部に最大径をもつ。口縁部と体部の境は緩やかに屈曲し、口縁部は外反気味に立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。34は平底の大型長胴甕で胴気味である。口縁部と体部の境に段をもち、口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。口唇端部は外側につまみ出されて丸くおさまる。外面調整は全体にハケメが施されたのち口縁部がヨコナデ、体下部から底部周縁が手持ちヘラケズリされている。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。35は胴張形の大型長胴甕で体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境はく字状に屈曲し稜をもつ。口縁端部は上下につまみだされている。外面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がハケメである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部はハケメののちナデである。36は胴張形の大型甕で体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境はく字状に屈曲し稜をもつ。口縁部は強く外反し、口唇端部は外側につまみ出されている。外面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がハケメである。内面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がヘラナデである。37は中型長胴甕で底部を欠く。口縁部と体部の境に段をもち、口縁部は緩やかに外反する。外面調整は全体にハケメが施されたのち口縁部がヨコナデ、体部が部分的にヘラミガキされている。内面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がヘラナデである。38は中型長胴甕である。口縁部から体上部および体上部から体下部にかけての同一非接合の大破片からなる。口縁部と体部の境の屈曲は弱く、口縁部は緩やかに外反する。外面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がハケメである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。39は平底をした大型長胴甕で体上部から口縁部を欠く。外面調整はハケメ、内面調整はヘラナデである。40は口縁部を欠く。下膨れ形の平底をした中型長胴甕である。外面調整はハケメののち体下部から底部周縁が手持ちヘラケズリである。内面調整はナデ・ヘラナデである。41・42はいずれも平底で底部から体下部のみ残る。底部から体下部にかけて外傾しながら立ち上がる。底部には木葉痕がみられる。外面調整は41がハケメののちヘラミガキ、42はハケメである。内面調整は41がヘラナデののち部分的なヘラミガキ、42がヘラナデである。41の底部外面には焼成前の「+」のヘラ記号がみられる。

《台付壘》3点図示した(43~45)。いずれも台部のみ残る。43は台上部が中実の棒状で裾部は八の字状に広がる。外面調整は台上部が手持ちヘラケズリ、台下部から裾部にかけてハケメののちヨコナデである。内面調整はナデである。44は台上部が中実で円錐形を呈する。外面、内面ともにハケメを施されている。45は中空で台上部のみ残る。外面調整は部分的なヘラミガキ、内面調整はナデである。

《甗》5点図示した(46~50)。46は大型無底甗である。口縁部と体部の境は強く屈曲し稜線をもつ。口縁部は外反して立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がナデで、体下端部には手持ちヘラケズリが施される。内面には輪積み痕が顕著にみられる。47は底部を欠く。体部から口縁部にかけて外反気味に立ち上がり、口縁部は軽く外側に屈曲する。外面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がハケメである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がナデ・ヘラナデである。48は体下部から底部を欠く。体上部から口縁部にかけて外傾気味に立ち上がり、口縁部と体部の境に弱い段をもつ。外面調整はハケメののち口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。49は体上部から口

縁部を欠く、中型甕転用甕である。焼成後に底部の内外面から穿孔を施している。外面調整はハケメののち部分的なユビナデ、内面調整はナデである。50は体下部から体下端部のみ残る中型無底甕である。外面調整は体部がハケメ、体下端部が手持ちヘラケズリで、そののち全体に部分的なヘラミガキがなされている。内面調整はヘラナデで、内面には炭化物が付着している。

須恵器

〈坏H蓋〉4点図示した(53~56)。口唇端部は丸くおさまる。また口縁部から体部にかけて内彎しながら立ち上がるもの(53~54)と体部が屈曲するもの(55・56)とに分けられ、55は外面に稜が巡る。切り離しはヘラ切りで、外面調整は天井部が回転ヘラケズリされるもの(56)と手持ちヘラケズリされるもの(53~55)があり、内面にはナデの施されるものがある(53~55)。

〈有蓋高坏〉1点図示した(58)。丸底気味の底部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がり、口縁部と体部の境に段をもつ。外面調整は体下端部が回転ヘラケズリされたのちヘラ描きの刻み目文が施される。

〈高坏〉7点図示した(59~64)。59・60は脚部を欠く。59は丸底気味の底部から口縁部にかけて緩やかに内湾しながら立ち上がる。外面調整は体下端部に回転ヘラケズリが施される。60は平底の底部から口縁部にかけて直立気味に外傾して立ち上がる。外面調整は体下端部から底部にかけて手持ちヘラケズリが施されている。61~64は坏部を欠く。61~63は長方形の2段透かし孔が入り透かし孔の間には2条の沈線が巡る。61・62は下段の透かし孔の下に1条の沈線が巡る。64は短脚気味で透かし孔をもたない。裾部に1条の稜線が巡る。

〈脚付埴〉1点図示した(65)。埴部の破片である。外面には2条の弱い段が巡り、上下の段に挟まれて斜行する列点文が施される。

〈罽鉢〉1点図示した(67)。分厚い平底の底部から口縁部にかけて直線的に外傾しながら立ち上がる。口唇端部は平坦である。外面調整は体部に2条の沈線が巡りその上下にカキメが施されている。底部は手持ちヘラケズリされている。底部中央には焼成前に径4mmの円孔が穿たれている。

〈甕〉1点図示した(66)。把手部から体下部にかけての破片である。肩部に角柱状をした短い把手が付く。外面調整は把手部と体部に手持ちヘラケズリが施されている。

〈鉢〉1点図示した(68)。底部は平底気味で、口縁部にかけて外傾しながら立ち上がる。口唇端部は平坦である。外面調整は体部がカキメ、体下端部から底部が手持ちヘラケズリである。外面には粘土層が付着している。内面調整は体下部から底部がナデである。また、体下部から底部にかけて内面に手ずれ痕がみられる。

〈短頸壺〉4点図示した(69~72)。いずれも丸底の短頸壺と考えられる。69は体部に丸みをもち、最大径は体部中央にある。外面調整は体下部から底部にかけて手持ちヘラケズリである。70は肩部が屈曲し1条の沈線が巡る。外面調整は体下部が手持ちヘラケズリである。外面には粘土層が付着している。71は体部破片である。体部中央で外側に強く屈曲している。外面調整は体下部が手持ちヘラケズリである。72は体上部から口縁部を欠く。最大径を体上部にもつ。外面調整は体下部から底部にかけて手持ちヘラケズリである。

〈短頸壺蓋〉1点図示した(57)。坏H蓋と形態・量が類似するが、口縁部の形態が異なり、口唇端部に

平坦面をもつ。外面調整は天井部が回転ヘラケズリされている。

〈**脚付長頸壺**〉1点図示した(73)。頸部から口縁部と台部を欠く。体部中央に最大径をもつ脚付の長頸壺で、頸下部と体部の接合部と体下端部の割れ面は打ち欠かれている。外面には肩部に櫛歯状工具による波状文が施され、体下部から底部にかけて回転ヘラケズリがなされている。また濃緑色、乳白色の自然釉が付着している。

〈**横瓶**〉1点図示した(74)。依形をした体部に外反する口頸部が取り付く。口縁部は上下につまみだされ突帯縁となる。体部両端は絞り込まれ、体部の片側端部は粘土円板により閉塞されている。外面調整は体部が平行タタキのちカキメ、手持ちヘラケズリで、体両端部はナデのちカキメが施されている。内面調整は同心円状当て具痕を切つて部分的にロクロナデがなされ、粘土円板による閉塞部と体部の継ぎ目にはユビナデがみられる。粘土円板閉塞部と反対側の体側端部外面には円形の焼台痕がみられる。体部、頸部、口縁部には濃緑色の自然釉が付着している。体上部には焼け歪によるヒビ割れがみられ、割れ口にも自然釉が付着している。

ミニチュア土器

〈**坏**〉2点図示した(51・52)。51は平底で底部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。外面調整はユビオサエ、内面調整はナデである。52は丸底で口縁部を欠く。外面調整は手持ちヘラケズリ、内面調整はナデである。

木製品

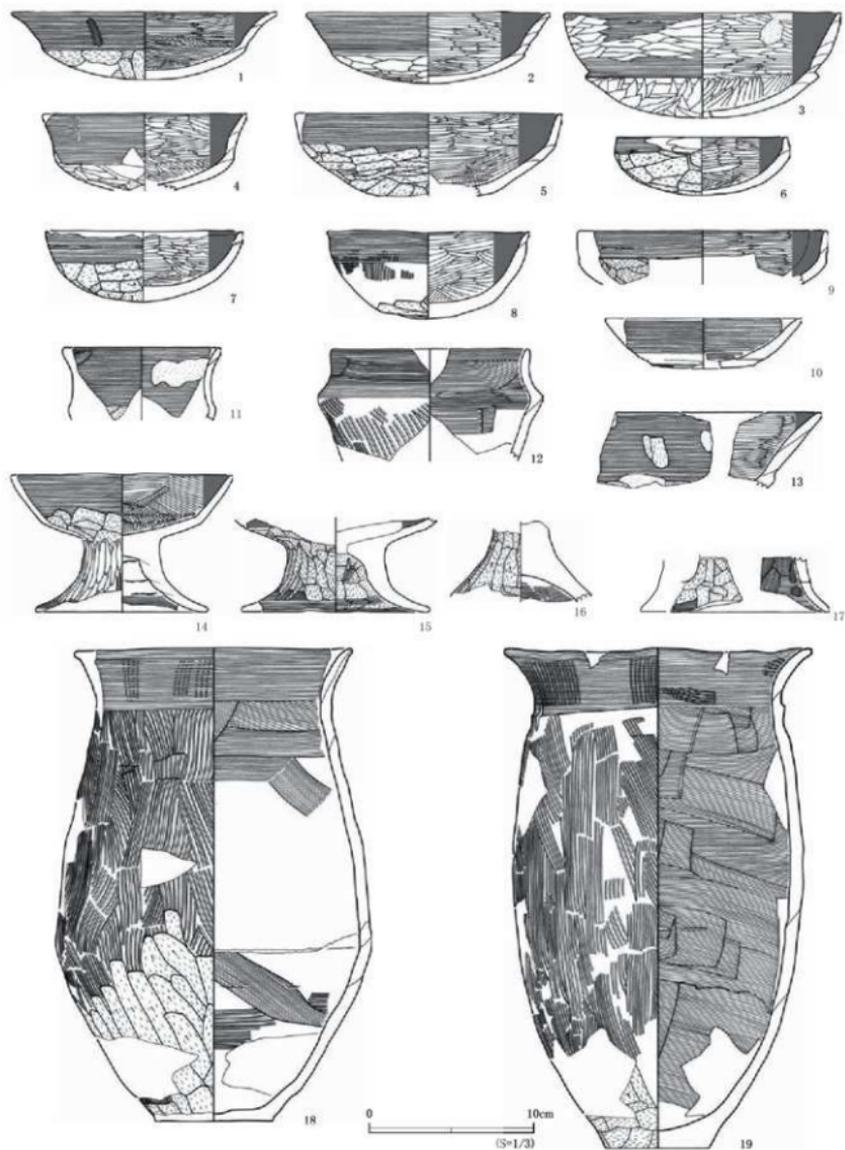
〈**不明木製品**〉木製品の断片である(第13図3)。表面と側面には工具痕が顕著にみられる。全体の形状は不明であるが角材状を呈しており建築部材の可能性も考えられる。木取りは柁目取りである。

〔2層出土遺物〕(第20～24図)

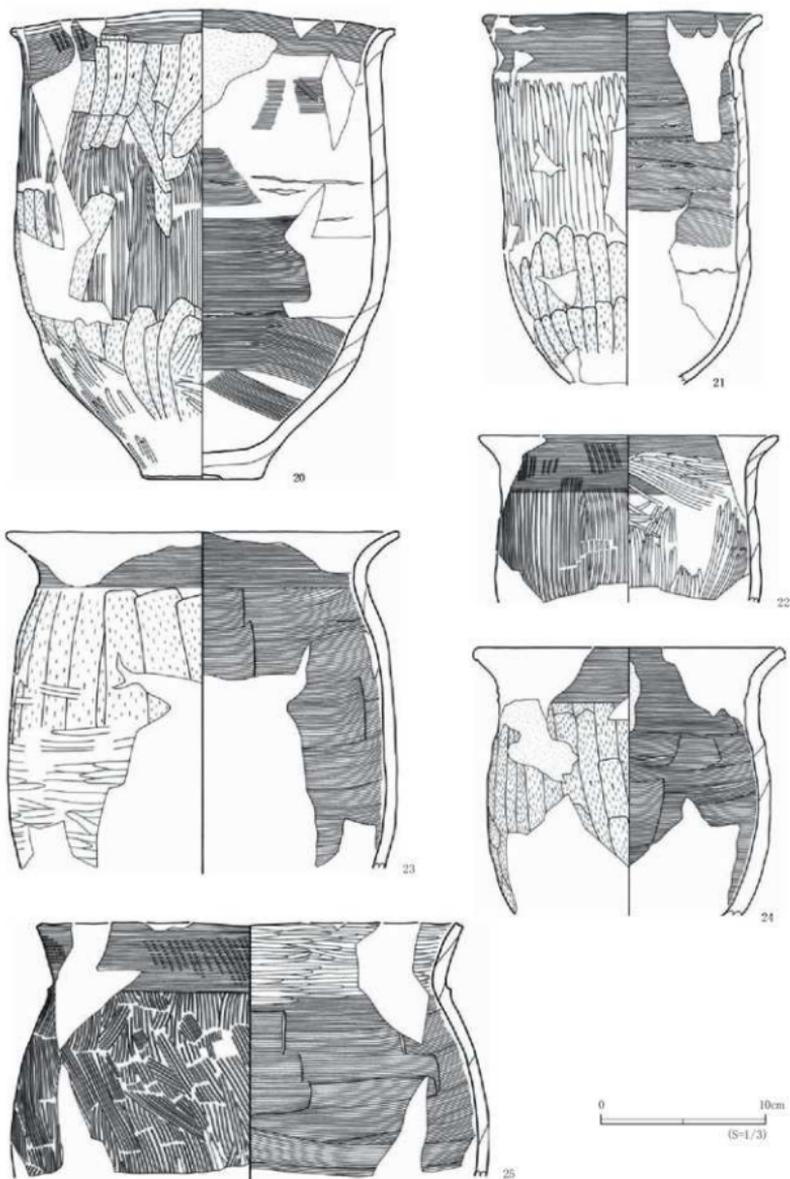
非ロクロ調整の土師器、須恵器、ミニチュア土器、支脚、輪羽口(第151図9)、砥石(第157図11)、鉄滓が出土している。器種としては土師器坏・鉢・高坏・甕・甔・壺、須恵器坏H身・坏H蓋・有蓋高坏身・有蓋高坏蓋・高坏・甕・長頸壺・短頸壺蓋・甔がある。

土師器

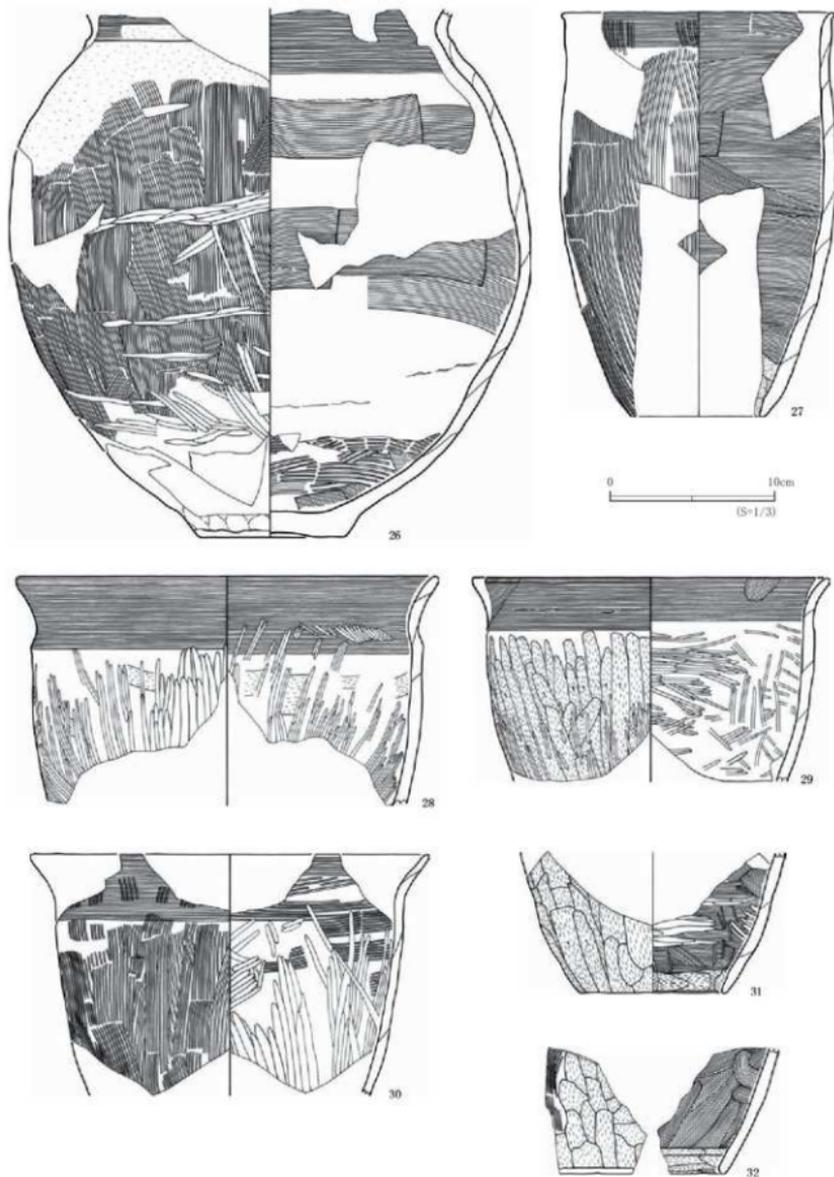
〈**坏**〉9点図示した(1～10)。1～3は有段丸底坏で、1は口縁部と体部の境の段が弱く、口縁部は外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリである。2は口縁部と体部の境の段が弱く、口縁部は直線的に外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキである。3はやや大型の坏で口径に対して器高が高い。口縁部と体部の境には強い段をもち、口縁部は内湾気味に外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデののち部分的なヘラミガキ、体部から底部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキである。4・5・9は底部を欠く。口縁部と体部の境が屈曲し、口縁部は緩やかに外反するもの(4)、外傾気味に立ち上がるもの(5)、直立するもの(9)がある。外面調整は4が口縁部ヨコナデ、体部手持ちヘラケズリののちヘラミガキ、5・9が口縁部ヨコナデ、体部手持ちヘラケズリされている。6～8は丸底で、底部から口縁部にかけて内湾して立ち上がるもの(7)、体部と口縁部の境が弱く屈曲し口縁部が内傾気味に立ち上がるもの(6)、口縁部が弱くくびれ短く外反するもの(8)がある。外面調整は6が口縁部ヨコナデののちヘラミガキ、体部から底部が手



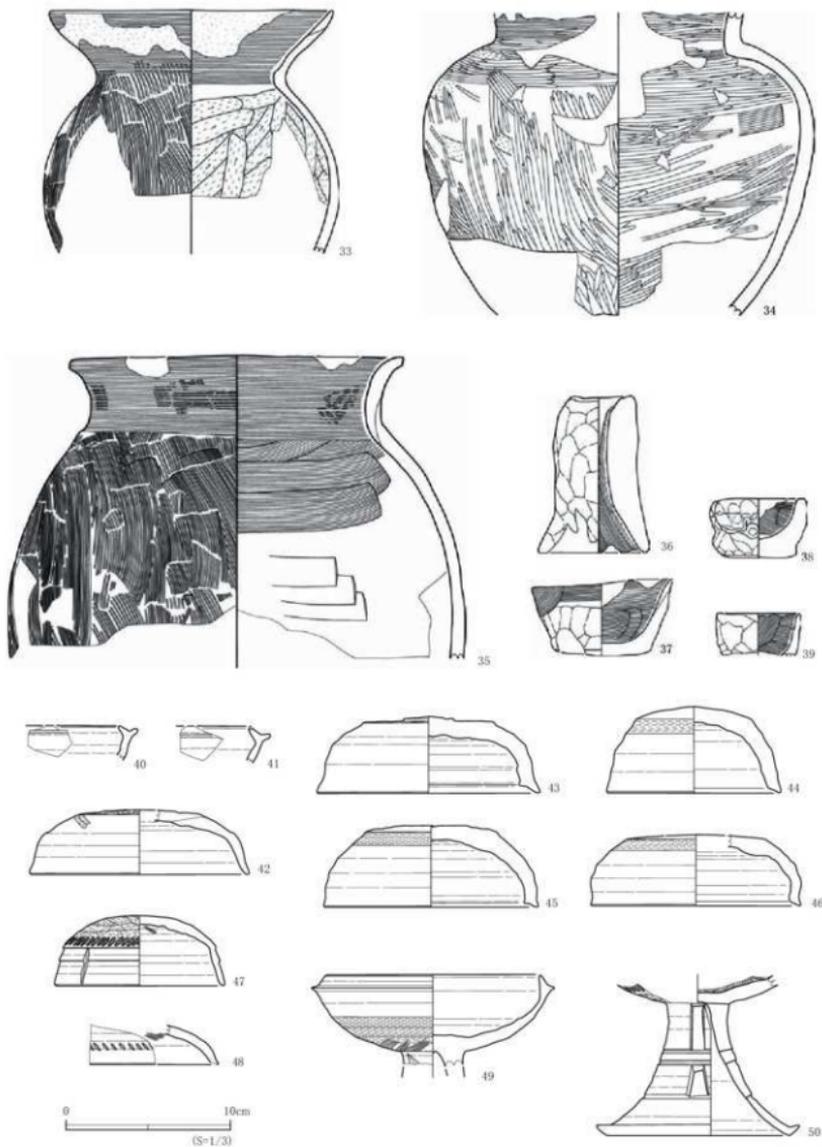
第20图 SD6517区画溝跡2層出土土器(1)



第21图 SD6517区面溝跡2層出土土器(2)



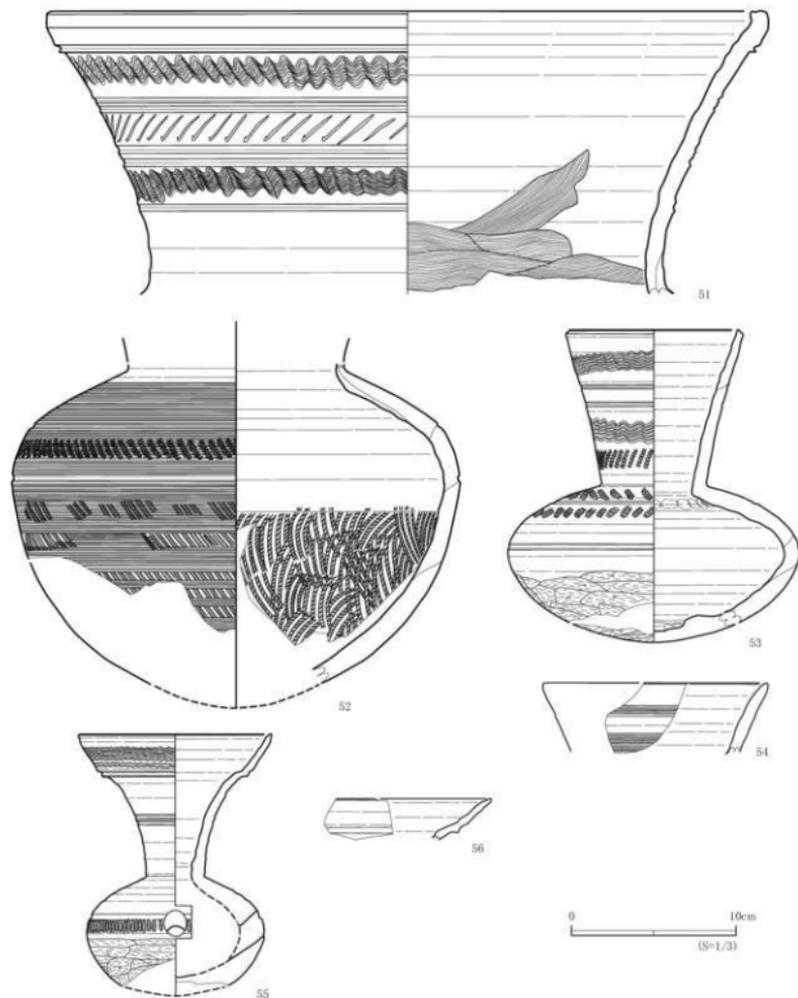
第22图 SD6517区面溝跡2層出土土器(3)



第23图 SD6517区画清跡2層出土土器(4)

持ちヘラケズリ、7が口縁部ヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリ、8がハケメののち口縁部ヨコナデ、体下端部から底部手持ちヘラケズリされている。10は関東系土師器である。底部から口縁部にかけて直線的に外傾する。外面調整は口縁部から体部がヨコナデで、底部が手持ちヘラケズリである。内面調整はヨコナデである。

〈高坏〉5点図示した(13~17)。13は大型高坏の口縁部破片である。口縁部と体部の境には段をもち、口縁部は外傾して立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリされている。14は



第24図 SD6517区画溝跡2層出土土器(5)

No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真掲載
1	土師器・杯	2	(16.4)	4.4	1/2		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ハラミガキ→黒色処理	42-1 K163
2	土師器・杯	2	15.0	4.4	1/2		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ハラミガキ→黒色処理	42-2 K170
3	土師器・杯	2	16.8	6.5	1/3		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ハラミガキ→黒色処理	42-3 K173
4	土師器・杯	2	(12.6)		1/3		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ハラミガキ→黒色処理	42-4 K150
5	土師器・杯	2	(16.4)		1/2		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ハラミガキ→黒色処理	42-4 K174
6	土師器・杯	2	16.4	3.6	完形		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ハラミガキ→黒色処理	42-6 K128
7	土師器・杯	2	(12.1)	4.4	2/3		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ハラミガキ→黒色処理	42-6 K177
8	土師器・杯	2	12.5	4.0	ほぼ完形		外面:ハラミガキ→ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ハラミガキ→黒色処理	42-7 K131
9	土師器・杯	2	(15.4)		1/3		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ハラミガキ→黒色処理	42-7 K217
10	土師器・杯	2	(12.0)	3.2	1/3		外面:ヨコナダ→ナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ 腹面:土師器	42-9 K137
11	土師器・鉢	2	(9.7)		1/6		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ 腹面:土師器	K136
12	土師器・鉢	2	(12.2)		口縁部→体部片		外面:ハラミガキ→ヨコナダ 内面:ヨコナダ→ヘラミガキ	K216
13	土師器・大型高杯	2			口縁部→体部片		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ	K139
14	土師器・高杯	2	(13.6)	8.6	1/3		外面:(坏部)ヨコナダ→手持ちヘラケズリ (脚部)ハラミガキ→ヨコナダ→ヘラミガキ 内面:(坏部)ハラミガキ→黒色処理 (脚部)ヨコナダ 輪積痕	42-10 K199
15	土師器・大型高杯	2	(11.6)		胴部1/4		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ	K200
16	土師器・高杯	2			胴部1/3		外面:手持ちヘラケズリ 内面:ナデ→ヘラミガキ	42-11 K142
17	土師器・高杯	2			胴部1/6		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ナデ	K143
18	土師器・長胴壺	2	(17.1)	7.2	29.3	3/4	外面:ハラミガキ→ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ→ハラミガキ→黒色処理	42-12 K147
19	土師器・長胴壺	2	(19.0)	6.3	31.0	2/3	外面:ハラミガキ→ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ハラミガキ→ヨコナダ	43-1 K135
20	土師器・長胴壺	2	(23.6)	7.5	29.0	3/5	外面:ハラミガキ→ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナダ→ヘラミガキ→ナデ	44-1 K212
21	土師器・長胴壺	2	17.2		底部1/5		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナダ→ヘラミガキ→ナデ	42-17 K151
22	土師器・長胴壺	2	(16.4)		口縁部→体部1/4		外面:ハラミガキ→ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナダ→ヘラミガキ→ナデ	42-17 K151
23	土師器・長胴壺	2	(24.2)		口縁部→体部1/3		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナダ→ヘラミガキ	K141
24	土師器・長胴壺	2	(19.2)		口縁部→体部1/4		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ→ヘラミガキ	K198
25	土師器・長胴壺	2	(26.2)		口縁部1/4→体部片		外面:ハラミガキ→ヨコナダ 口縁部:洗滌 内面:ハラミガキ→ヘラミガキ	K231
26	土師器・長胴壺	2		9.0	胴部→底部1/5		外面:ハラミガキ→ヨコナダ→ヘラミガキ→黒色処理 内面:ヨコナダ→ハラミガキ→ヘラミガキ	43-3 K141
27	土師器・甕	2	(16.7)	(9.2)	25.0	口縁部1/4→体部片	外面:ハラミガキ→ヨコナダ 内面:ナデ→手持ちヘラケズリ	45-1 K154
28	土師器・甕	2	(26.4)		口縁部1/4→体部片		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ	K204
29	土師器・甕	2	(22.0)		口縁部1/4→体部片		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ヨコナダ→ヘラミガキ	K149
30	土師器・甕	2	(24.6)		口縁部1/6→体部片		外面:ハラミガキ→ヨコナダ 内面:ハラミガキ→ヘラミガキ	K129
31	土師器・甕	2		9.0	体下部1/3		外面:手持ちヘラケズリ 内面:ハラミガキ→ヨコナダ→ヘラミガキ	K150
32	土師器・甕	2			体下部片		外面:ハラミガキ→手持ちヘラケズリ 内面:ハラミガキ→手持ちヘラケズリ	K219
33	土師器・甕	2			胴部→体部1/4		外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面:ハラミガキ→ヘラミガキ	42-16 K126
34	土師器・甕	2	(17.4)		口縁部→体部1/4		外面:ハラミガキ→ヨコナダ 内面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ	44-2 K148
35	土師器・甕	2	20.4		口縁部1/4→体部片		外面:ハラミガキ→ヨコナダ 内面:ハラミガキ→ヨコナダ→ヘラミガキ	44-3 K152
36	土師器・甕	2	(16.4)		2/3		底:丸 体:7.1 胴高:15.6 口縁部:6.6 外面:ナデ→ナデ→ナデ 内面:ナデ	42-12 K206
37	土師器・甕	2	8.7	5.9	4.8	ほぼ完形	外面:ヨコナダ→ユビナダ 内面:ヨコナダ	42-14 K133
38	土師器・甕	2	5.6	4.5	3.7	ほぼ完形	外面:ユビナダ→ユビナダ 内面:ナデ	42-13 K155
39	土師器・甕	2	5.1		口縁部→体部3/4		外面:ユビナダ→ユビナダ 内面:ナデ	42-15 K132
40	須恵器・坏身盆	2			口縁部→体部片		内外面:ロコナダ	K258
41	須恵器・坏身盆	2			口縁部→体部片		内外面:ロコナダ	K267
42	須恵器・坏身盆	2	13.4	(3.9)	1/5		外面:ロコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ロコナダ 天部:ヘラ切り→ヘラナダ	K263
43	須恵器・坏身盆	2	13.6	4.7	3/4		外面:ロコナダ 内面:ロコナダ 天部:ヘラ切り→ナデ	45-9 K180
44	須恵器・坏身盆	2	10.6	5.3	1/3ほぼ完形		外面:ロコナダ→回転ヘラケズリ 内面:ロコナダ 天部:ヘラ切り	K211
45	須恵器・坏身盆	2	13.1	6.0	ほぼ完形		外面:ロコナダ→回転ヘラケズリ 内面:ロコナダ 天部:ヘラ切り→ナダ	45-2 K181
46	須恵器・坏身盆	2	12.8	4.3	1/3		外面:ロコナダ→回転ヘラケズリ 内面:ロコナダ	45-4 K121
47	須恵器・高身高杯	2	16.4	4.3	1/2		外面:ロコナダ→手持ちヘラケズリ 腹縁状片文 内面:ロコナダ→ナダ	45-5 K157
48	須恵器・高身高杯	2			胴部→体部片		外面:ロコナダ 肩文 内面:ロコナダ→ナダ	45-6 K183
49	須恵器・高身杯	2	13.0		胴部2/3		外面:ロコナダ→回転ヘラケズリ→ナダ 内面:ロコナダ	45-7 K179
50	須恵器・高杯	2	(44.2)	14.4	胴部完形		底:方切 体:高切し 口縁部:丸 外面:ロコナダ 内面:ロコナダ 透かし孔部:体部の透かし	45-8 K169
51	須恵器・甕	2			口縁部1/2		外面:ロコナダ 腹縁状片文 2条1線状片文 2 頸文 内面:ロコナダ→ナダ	46-1 K153
52	須恵器・甕	2			胴部→体部3/4		外面:管行タタキ→ロコナダ→ナダ 腹縁状片文 内面:腹縁状片文→ロコナダ	45-10 K130
53	須恵器・長胴壺	2	10.8	(19.2)	口縁部→体部2/3		外面:ロコナダ→手持ちヘラケズリ 腹縁状片文×2 2条線 内面:丸切 腹縁状片文 内面:ロコナダ ユビナダ	45-9 K123
54	須恵器・長胴壺	2			口縁部片		外面:ロコナダ→カキメ 内面:ロコナダ	K160
55	須恵器・甕	2	11.8	(16.0)	口縁部→体下部完形		外面:ロコナダ→手持ちヘラケズリ 腹縁状片文 2条線 腹縁状片文 内面:ロコナダ	46-1 K178
56	須恵器・甕	2	(13.5)		口縁部1/5		内外面:ロコナダ	K262

SD6517区画溝跡2層出土土器観察表 (第20~24回掲載)

口縁部と体部の境が屈曲し、口縁部は外傾して立ち上がる。脚部は中空の円錐形で裾部は八の字状に広がっている。外面調整は口縁部がヨコナダ、体部が手持ちヘラケズリ、脚部がハケメ・ヨコナダのちヘラミガキである。内面調整は坏部がヘラミガキ・黒色処理、脚部はヨコナダ・ナデで、輪積み痕がみられる。15は大型高杯で口縁部を欠く。口縁部と体部の境は屈曲する。脚部は中空で裾部は八の字状に広がっている。外面調整は口縁部がヨコナダ、体部が手持ちヘラケズリ、脚部がヨコナダのち手持ちヘラケズリである。内面調整は坏部がヘラミガキ・黒色処理、脚部が手持ちヘラケズリののち部分的なヘラミガキである。16は坏部と脚裾部を欠く。脚上部は中実で円錐形を呈する。外面調整は手持ちヘラケズリ、内面調整はハケメ・ナデである。17は脚部の破片である。裾部は緩やかに屈曲し、部分的に透かし孔が残っている。外面調整はヨコナダのち手持ちヘラケズリ、内面調整はナデ・ユビナダである。

〈鉢〉2点図示した(11・12)。11は口縁部から体部にかけての破片である。口縁部と体部の境に段をもち、口縁部は直立気味に外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリで、内面調整はヨコナデである。12は体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境は強く屈曲し口縁部は直立気味に外反する。外面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がハケメである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。

〈壺〉9点図示した(18~26)。21以外はすべて大型甕である。底部の残るものはいずれも平底である。長胴甕(18~24)、球胴甕(25・26)に分かれる。18は、最大径が体下部にくる下膨れ形を呈する。口縁部と体部の境に弱い稜をもち、口縁部は緩やかに外反する。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、体下部から体下部端部が手持ちヘラケズリである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がハケメののちヘラナデである。体下部内面には継ぎ目痕がみられる。19は体部が砲弾状の長胴甕である。口縁部と体部の境に段をもち口縁部は外反する。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、体下部から底部周縁が手持ちヘラケズリである。内面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がヘラナデである。20は底部から体下部にかけて外反しながら立ち上がり体部は寸胴気味である。口縁部と体部の境に段や稜を持たず口縁部は外側につまみ出される。外面調整は全体にハケメが施されたのちに口縁部がヨコナデ、体部が部分的な手持ちヘラケズリののちに体下部がヘラミガキである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデ・ナデである。内面には輪積み痕がみられる。21は底部を欠く。寸胴形をした長胴甕である。口縁部と体部の境に段をもち、口縁部は緩やかに外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリののちに体上部がヘラミガキである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。内面には輪積み痕が顕著にみられる。22は体下部から底部を欠く。口縁部は強く外反する。口縁部と体部の境には段や稜をもたない。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、内面調整は口縁部がヨコナデののちヘラミガキ、体部がヘラミガキである。23は体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境に稜をもち口縁部は強く外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。24は体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境に稜をもつ。口縁部は強く外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。25は体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境に段をもち口縁部は外傾気味に立ち上がる。口唇端部は平坦で1条の沈線が巡る。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデである。内面調整は口縁部がヘラミガキ、体部がヘラナデである。26は口縁部を欠く。口縁部と体部の境には弱い段がみられる。外面は体下部から底部にかけて被熱による赤変が著しい。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部がハケメののち部分的なヘラミガキ、底部周縁がユビオサエである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体上部がヘラナデ、体下部がハケメ・ヘラナデである。内面には接合痕がみられる。

〈甕〉6点図示した(27~32)。底部の残るものについてはいずれも無底の甕である。27は寸胴形で口縁部と体部の境に段や稜をもたない。口唇端部はつまみ出されている。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデである。内面調整は口縁部から体部にかけてがナデで、体下部端部は手持ちヘラケズリである。28は体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境に稜をもち、口縁部は緩やかに外反する。外面調

整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキである。内面調整は口縁部がヨコナデののち部分的なヘラミガキ、体部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキである。29は体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境に弱い段をもち、口縁部は緩やかに短く外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリののち部分的なヘラミガキである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラミガキである。30は体下部から底部を欠く。口縁部は緩やかに外傾しながら立ち上がる。口縁部と体部の境には段や稜をもたない。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、内面調整は口縁部がハケメ、体部がハケメののちヘラミガキである。31は体下部から体下端部の破片である。外面調整は手持ちヘラケズリ、内面調整はヘラナデののち部分的なヘラミガキで、体下端部は手持ちヘラケズリである。32は体下部から体下端部の破片である。外面調整はハケメののち手持ちヘラケズリである。内面調整はヘラナデののち体下端部が手持ちヘラケズリである。

〈壺〉3点図示した(33~35)。33は体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境は強く屈曲し、口縁部は外傾して立ち上がる。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、内面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。34は口縁部と底部を欠く。頸部と体部の境は強く屈曲し頸部は直立気味に立ち上がる。最大径は肩部にありかり肩を呈する。外面調整は頸部がヨコナデののちヘラミガキ、体部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキである。内面調整は全体にヘラミガキが施されているが前段階の調整であるヘラナデの残る部分もみられる。35は体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境に弱い段をもち、口縁部は強く外反する。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、内面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がヘラナデである。

須恵器

〈坏H身〉2点図示した(40・41)。いずれも口縁部から受け部の破片であり、高坏の可能性も考えられる。口縁部は内傾して短く立ち上がる。受部はやや上方につまみ出されてY字形を呈している。

〈坏H蓋〉1点図示した(42)。口唇端部は丸くおさまり、体部は屈曲する。切り離しはヘラ切りである。外面調整は手持ちヘラケズリがなされている。

〈有蓋高坏身〉1点図示した(49)。高坏身部と脚上部が残る。坏身部は丸底で、口縁部は内傾して短く立ち上がる。口縁部には水平に受部がつまみ出されている。外面調整は体下部が回転ヘラケズリで脚部との接合部にはナデが施されている。脚部の割れ口の状況から3単位の透かし孔があったものとみられる。

〈高坏〉1点図示した。脚部と坏部の下端部が残る。脚部には長方形の2段透かし孔が入り、上下の透かし孔の間には2条の沈線が巡る。脚端部は外側につまみ出されている。外面調整は坏部の体下端部に回転ヘラケズリがなされその上に斜行する刻み目文が施されている。坏部内面にはナデがみられる。

〈有蓋高坏蓋〉2点図示した(47・48)。いずれも口唇端部は丸くおさまる。47は体部が屈曲する。外面に2条の段が巡り、上の段の上方には櫛歯状工具により斜行する列点文が施されている。48は体部に斜行する刻み目文が施され、内面には部分的にナデがみられる。

〈甕〉2点図示した(51・52)。51は大型甕の口縁部から頸部のみ残る。口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がり端部では直立気味に内傾する。口唇端部はつまみ出されて突帯縁となる。頸部には斜行する刻線文を中心にその上下に、2条の平行沈線と櫛歯状工具による波状文が巡る。突帯縁の下と下段の波状文

の下にはそれぞれ1条の沈線が巡る。内面は頸部と体部との接合部分がナデられている。52は小型甕の体部である。肩部に最大径をもつ。外面調整は平行タタキののちカキメがなされている。肩部には2条の沈線が巡り、その間に斜行する列点文が施されている。内面には体下部に渦巻き状の当て具がみられる。

〈長頸壺〉2点図示した(53・54)。53は丸底の長頸壺である。最大径を体部中央にもちやや扁平な形をしている。口頸部は外傾しながら立ち上がり、口唇端部は平坦である。頸部には櫛歯状工具による波状文が2段施されており、その下に斜行する列点文が施されている。波状文の間には2条の沈線が巡っている。体上部には矢羽根状に列点文が施され、その間に1条の沈線が巡る。外面調整は体下部に手持ちヘラケズリがなされ、内面には頸部と体部の境に接合時のユビオサエがみられる。54は口縁部破片である。外面にはカキメが施されている。

〈短頸壺蓋〉4点図示した(43~46)。口唇端部は平坦である。口縁部から体部にかけて内湾しながら立ち上がる。44~46は天井部に回転ヘラケズリが施されている。

〈甕〉2点図示した(55・56)。55は底部を一部欠く。頸部は体部との接合部で窄まり、頭上部から口縁部にかけてラッパ状に広がる。頸部と口縁部の境は外側に屈曲し、口縁部には櫛歯状工具により波状文が施されている。頸部には2条の沈線が巡る。体部中央の斜め上方から注口が穿たれ、体上部には櫛歯状工具により列点文が施されている。外面調整は体下部から底部にかけて手持ちヘラケズリがなされている。56は口縁部破片である。頸部と口縁部の境で強く屈曲し、口縁部は強く外傾しながら立ち上がる。

ミニチュア土器

〈坏〉2点図示した(38・39)。38は平底で底部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。外面調整はユビナデ・ユビオサエ、内面調整はナデである。39は底部を欠く。口縁部は直立気味に立ち上がる。外面調整はユビナデ・ユビオサエ、内面調整はナデである。

〈鉢〉1点図示した(37)。平底で底部から口縁部にかけて外傾気味に立ち上がる。外面調整はヨコナデ・ユビオサエ、内面調整はヨコナデである。

土製品

〈支脚〉1点図示した(36)。中空で、下端部がやや開く。外面調整はナデ・ナデツケ、内面調整はナデである。

【1層出土遺物】(第25~27図)

非クロク調整の土師器、須恵器、ミニチュア土器、鉄滓が出土している。器種としては土師器坏・甕・台付甕・甌・壺、須恵器坏H身・高坏・甕がある。

土師器

〈坏〉2点図示した(1・2)。1は有段丸底坏で口縁部はやや内湾気味に外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリである。内面調整はヘラミガキ・黒色処理である。2は関東系土師器である。底部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がり、口縁部は内側に僅かに屈曲する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリ、内面調整はナデである。

〈甕〉7点図示した(3~9) 長胴甕(3~7)、球胴甕(8)に分かれる。3は大型甕で体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境に稜をもつ。口縁部は外反し口唇端部には1条の沈線が巡る。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデである。内面調整は口縁部がハケメののちヨコナデ、体部がハケメの

のちヘラナデである。4は中型甕で底部を欠く。口縁部と体部の境には段や稜をもたない。口縁部は外反し口唇端部は丸くおさまる。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデである。内面調整は口縁部がハケメののちヨコナデで、体部がヘラナデである。5は中型甕で体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境に段をもつ。口縁部は外傾しながら立ち上がる。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がヘラナデである。6は大型甕で体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境に段をもつ。口縁部は外傾しながら立ち上がる。口唇端部はつまみ出されて丸くおさまり1条の沈線が巡る。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデである。内面調整は口縁部がハケメで、体部がヘラナデ・ナデである。7は小型甕で体下部から底部を欠く。口縁部と体部の境には鋭く突き出た稜をもち、口縁部は強く外傾する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリである。内面調整は口縁部がヨコナデ、体部がナデである。8は中型甕で底部を欠く。台付甕の可能性もある。口縁部と体部の境に稜をもち、口縁部は短く外反する。外面調整は口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリののち体下部に部分的なヘラミガキがなされている。内面調整は口縁部がヨコナデで、口唇部にはヘラ先による刺突痕がみられる。体部はヘラナデである。9は体下部から底部にかけての破片である。分厚い底部から体下部にかけてく字状に屈曲しながら立ち上がる。外面調整は体部がハケメで、底部周縁がユビオサエである。内面調整はヘラナデである。

〈台付壘〉1点図示した(10)。口縁部と台下半部を欠く。口縁部と体部の境は緩やかに屈曲する。体部は胴張形である。底部には八の字状に広がる台部が取り付くものとみられる。外面調整は全体にハケメが施されたのち口縁部がヨコナデで、台部が手持ちヘラケズリである。内面調整はハケメののちヘラナデである。

〈甕〉1点図示した(11)。体下部から底部のみ残る甕転用甕である。焼成後に底部外面から穿孔を施している。外面調整はハケメ、内面調整はナデである。底部には木葉痕がみられる。

〈壺〉2点図示した(12・13)。12は口縁部と体部の境に稜をもち口縁部は外傾する。口唇端部は平坦である。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデで体部は部分的にヘラミガキされている。内面調整は口縁部がハケメで、体部がヘラナデ・ナデである。体下部には接合痕がみられる。13は頸部から体上部にかけて残る球胴壺である。頸部と体部の境に弱い稜をもつ。頸部は口縁部にむかって緩やかに外反する。外面調整は全体にハケメののち口縁部がヨコナデ、体部がヘラミガキで部分的に手持ちヘラケズリされている。内面調整は口縁部がハケメののちヨコナデで、体部がヘラナデである。

須恵器

〈坏H身〉1点図示した(16)。口縁部から受け部にかけての破片である。高坏の可能性もある。口縁部は内傾しながら短く立ち上がる。受部はやや上方につまみ出されてY字形をなしている。

〈高坏〉1点図示した(17)。大型高坏の脚上部の破片である。長方形の2段の透かし孔が入り、透かし孔の間には2条の沈線が巡る。内面には絞り痕がみられる。

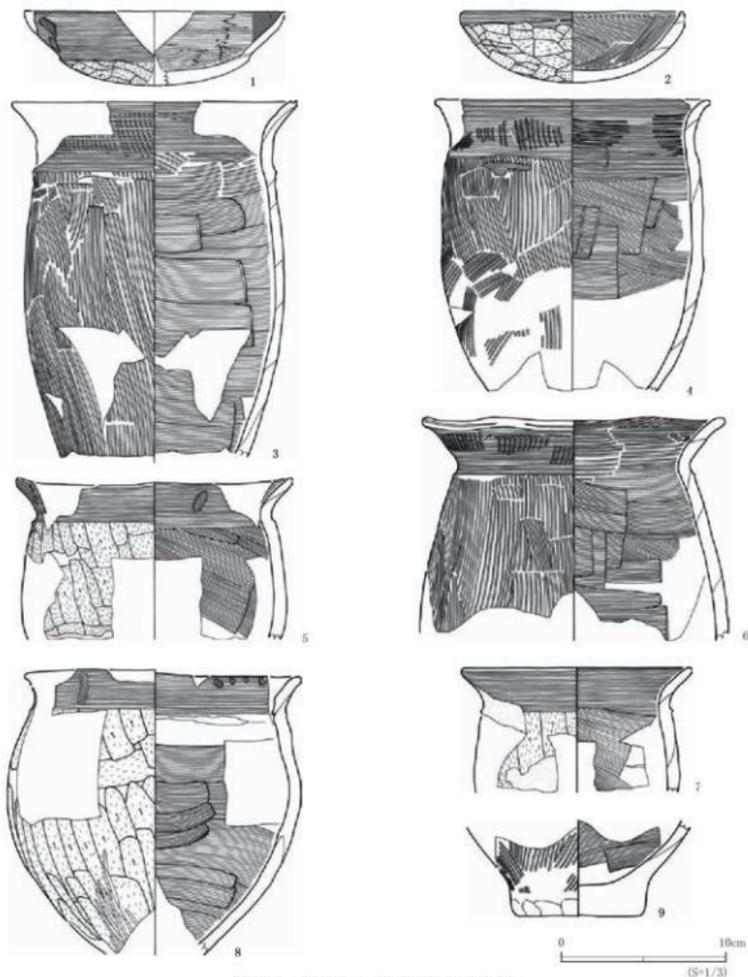
〈甕〉2点図示した(18・19)。いずれも大型甕である。18は口縁部から頸部の破片である。口縁部は外反しながら立ち上がり、口縁端部は上下につまみ出されて突帯縁となる。頸部には上下2段に歯齒状工具による波状文が施されている。19は丸底の甕である。最大径を肩部にもつ。口縁部は緩やかに外反しながら立ち上がる。口縁端部は上下につまみ出されて突帯縁となる。口縁端部、突帯縁部に1段、頸部に2段ずつ

櫛歯状工具による波状文が施されている。外面調整は体部に平行タタキがなされそののち体上半部でカキメが施されている。内面には同心円状当て具痕がみられ、底部には焼け膨れによる空洞が開いている。

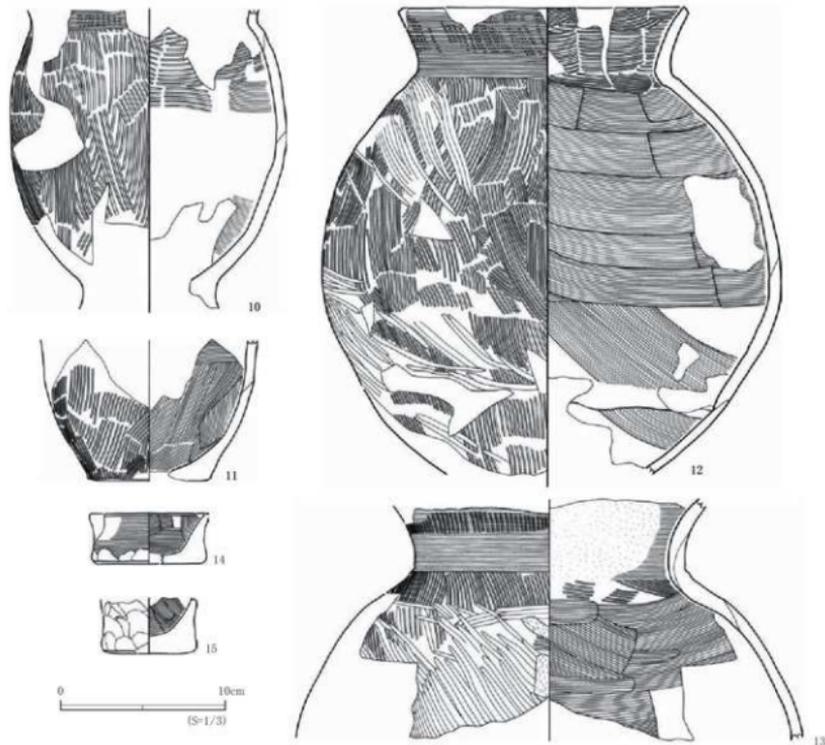
ミニチュア土器

〈坏〉2点図示した(14・15)。いずれも平底を呈する。14は底部から緩やかに外反しながら口縁部に至る。外面調整はヨコナデ・ユピオサエ、内面調整はナデである。15は口縁端部を欠く。底部から直立気味に外反して立ち上がる。外面調整はユピオサエ、内面調整はナデである。

2) 土境

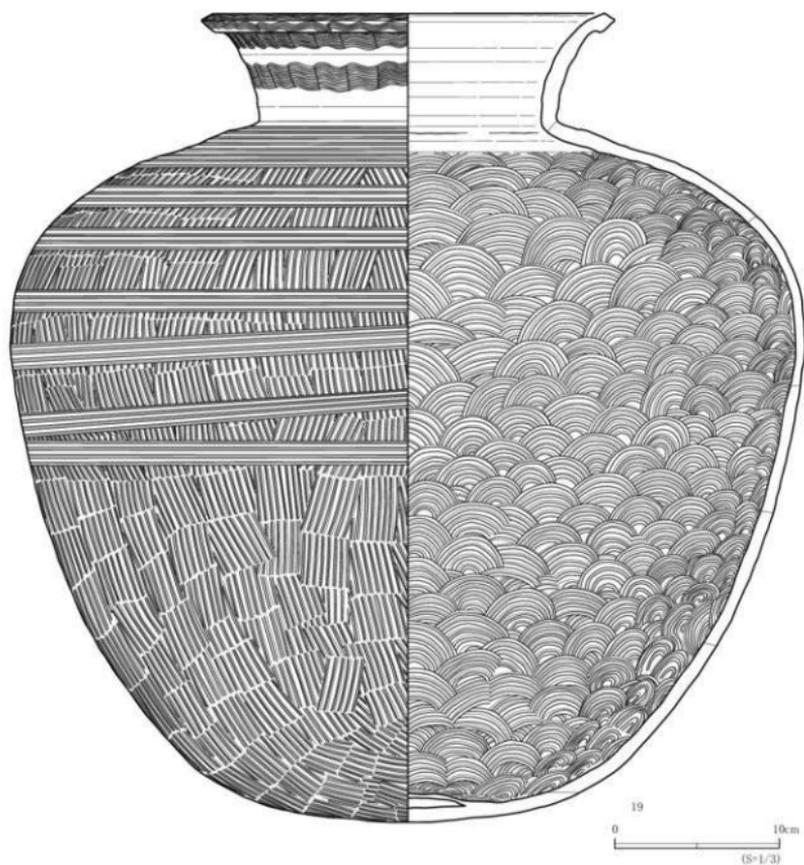
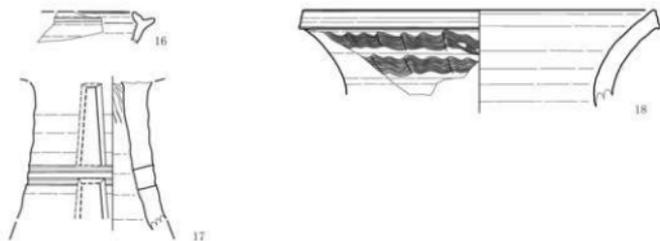


第25図 SD6517区画溝跡1層出土土器(1)



No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録	発掘
1	土師器・杯	1(Ia~Ic)	106.0		4.6	1/4	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダキ→黒色地肌		K240
2	土師器・杯	1(Ia~Ic)	12.8		4.4	ほぼ完形	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ナダ 頸部系土師器	46-3	K171
3	土師器・長胴甕	1(Ia~Ic)	117.4			口縁部~体部1/2	外面:ハケメ→ヨコナダ 口縁部部:片蓋 内面:ハケメ→ヨコナダ・ヘラナダ	47-2	K228
4	土師器・長胴甕	1(Ia~Ic)	106.90			口縁部1/4~体部片	外面:ハケメ→ヨコナダ 内面:ハケメ→ヨコナダ・ヘラナダ		K229
5	土師器・長胴甕	1(Ia~Ic)	117.0			口縁部1/4~体部片	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ・ヘラナダ		K224
6	土師器・長胴甕	1(Ia~Ic)	118.0			口縁部1/3~体部片	外面:ハケメ→ヨコナダ 口縁部部:片蓋 内面:ハケメ→ヘラナダ・ナダ		K239
7	土師器・長胴甕	1(Ia~Ic)	114.2			口縁部1/4~体部片	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ・ナダ		K223
8	土師器・短胴甕	1(Ia~Ic)	117.0			1/3	外面:ヨコナダ・手持ちヘラケズリ→ヘラミダキ 内面:ヨコナダ・ヘラナダ 口縁部部に削突部	46-6	K226
9	土師器・甕	1(Ia~Ic)		7.6		体下部~底部完形	外面:ハケメ→ヨコナダ 内面:ヘラナダ		K236
10	土師器・台付甕	1(Ia~Ic)				口縁部~体部2/3	外面:ハケメ→ヨコナダ 内面:ハケメ→ヘラナダ	46-7	K227
11	土師器・甕	1(Ia~Ic)		7.5		体下部~底部完形	外面:ハケメ 内面:ナダ 底部:木葉痕→外面より變成後径3.3mmの穿孔	47-3	K235
12	土師器・壺	1(Ia~Ic)	17.8			口縁部3/4~体下部	外面:ハケメ→ヨコナダ→ヘラミダキ 内面:ハケメ・ヘラナダ・ナダ 接合部	47-1	K220
13	土師器・壺	1(Ia~Ic)				口縁部1/3~体上部	外面:ハケメ→ヨコナダ→ヘラミダキ・手持ちヘラケズリ 内面:ハケメ→ヨコナダ・ヘラナダ		K230
14	ミナツクス土師器	1	72.0	66.80	3.2	1/2	外面:ヨコナダ・ヨコナダ 内面:ナダ	46-4	K162
15	ミナツクス土師器	1(Ia~Ic)		5.6		3/4	外面:ヨコナダ 内面:ナダ	46-5	K238
16	須恵器・坪持鉢	1(Ia~Ic)				口縁部~体部片	内外面:ロクロナダ	47-4	K234
17	須恵器・高鉢	1(Ia~Ic)				胴部片	長方形2段凸孔 外面:ロクロナダ 内面:ロクロナダ 凸孔孔縁部の沈線		K233
18	須恵器・甕	1(Ia~Ic)	122.0			口縁部1/4	外面:ロクロナダ 縦線波状文×2 内面:ロクロナダ		K186
19	須恵器・甕	1(Ia~Ic)	25.3	49.6		ほぼ完形	外面:ロクロナダ 口縁部部・突起 縦線波状文 (断面)縦線波状文×2 (体部)平行ナキ→カキメ 内面:同心状凸部 底部:變成時空による凸部	48-1	K232

第26図 SD6517区画溝跡1層出土土器(2)



第27图 SD6517区画满跡1層出土土器(3)

A区の北端部で1基検出している。

【SK6639土壌】(第35・128図)

A区の北端部に位置する。地山面で検出した。SD6504、6517区画溝跡と重複し、これらより古い。

SD6504、6517区画溝跡により遺構の西半部が壊されているが、長辺1.0m以上、短辺0.8mの隅丸長方形を呈するものと思われる。深さは32cmである。底面には凹凸がある。壁はやや急に立ち上がり、断面形はU字状である。堆積土は2層に細分され、黒褐色粘質シルト土ブロックを含む灰黄褐色シルト、地山ブロックを含む灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

3) 河川跡

A区の南半部で4条検出している。

【SX6652河川跡】(第28・84図)

A区の南半部に位置する。調査区を東西方向に延びる河川跡で西から東に向かって流れていたと考えられる。地山面で検出した。SD6680西3道路跡東側溝、SB6543・6655・6656・6708・6710・6711掘立柱建物跡、SD6667溝跡、SK6549土壌、SX6658河川跡と重複し、SX6658河川跡を除くすべての遺構より古い。

規模は検出長が13.1m、上幅3.4～7.2m、下幅1.6～4.4m、深さ50cm前後である。堆積土は9層に細分され、にぶい黄褐色粘質シルト、灰黄褐色シルト質粘土、黒褐色シルトなどが堆積している。

遺物は出土していない。

【SX6653河川跡】(第84図)

A区南半部の調査区東壁際に位置する。調査区を南北方向に延びる河川跡の西岸部を検出したものである。遺構の東半部は調査区外に延びているものと考えられる。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

規模は検出長が3.8m、上幅0.6m以上、下幅および深さは不明である。堆積土は3層に細分され、褐灰色砂、灰黄褐色砂、黒褐色砂が堆積している。

遺物は出土していない。

【SX6658河川跡】(第28・84図)

A区南半部に位置する。調査区を東西方向に延びる河川跡で西から東に向かって流れていたと考えられる。地山面で検出した。SD6680西3道路跡東側溝、SB6543・6544・6654・6655・6656・6708・6710・6711掘立柱建物跡、SD6667溝跡、SK6548・6549・6640・6641・6642・6643土壌、SX6658・6668河川跡と重複し、これらのすべての遺構より古い。

規模は検出長が12.5mで、上幅4.9～11.8m、下幅3.2～6.8m、深さ90cm前後である。堆積土は3層に細分され、黄褐色粘質シルト、灰オリーブ色細砂、オリーブ褐色細砂が堆積している。

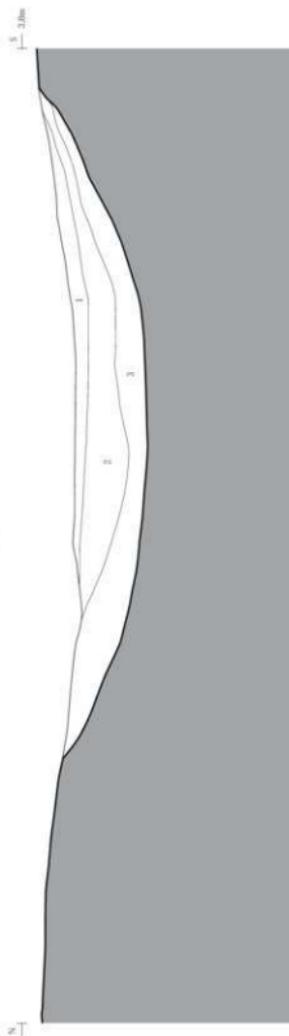
遺物は堆積土から非クロ調整の土師器甕が出土している。口縁部から体上部にかけての大破片で球胴甕と思われる。口縁部と体部の境はく字状に屈曲し口縁部は外傾しながら立ち上がる。口唇端部は平坦である。外面調整はハケメののちに手持ちヘラケズリ・ヘラミガキされ、内面調整は口縁部がハケメ

SX6652



No.	土 色	土 質	個人観念	備 考
1	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	人集積
2	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	
3	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	
4	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	
5	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	自然積
6	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	
7	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	
8	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	
9	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	

SX6658



No.	土 色	土 質	個人観念	備 考
1	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	自然積
2	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	
3	黄褐色砂質土	砂質土	河川堆積物、礫石の存在あり	



第28図 SX6652・6658河川断面図

のちヘラミガキ、体部がナデである。

【SX6668河川跡】(第84図)

A区南半部の調査区西壁際に位置する。河川跡の東側の一部を検出したもので遺構の大半は調査区外に延びているものと考えられる。地山面で検出した。SX6658河川跡と重複し、これより新しい。

規模は長軸2.3m、短軸1.8m、深さは不明である。堆積土は1層で地山ブロックを含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

2. 奈良・平安時代の遺構

奈良・平安時代の遺構としては、道路跡4条、材木堀跡10条、柱列跡13条、区画溝跡2条、掘立柱建物跡31棟、竪穴住居跡3軒、竪穴状遺構2基、井戸跡1基、土器埋設遺構1基、土壇2基、溝跡36条、整地層2箇所、ピット多数がある。

1) 道路跡・交差点

道路跡は4条検出している。これらの道路跡は南北道路跡2条、東西道路跡2条である。すべての道路跡には両側に素掘りの側溝が伴い、多賀城跡の南面に施行された方格地割の道路跡と考えられている。

道路跡の名称については、これまで東西・南北大路を基準とした名称が付されており、本報告においてもこれに倣って各道路跡を呼称する。すなわち、東西道路跡ではSX710・SX6510が北2a道路跡、SX6650が北2b道路跡、南北道路跡では、SX6511が西3道路跡、SX6512が西3a道路跡である。また、これらの道路跡や過去の調査によって既に検出している道路跡で区画された場所毎に、調査区(A区・B区)とは別に「北3西4区」、「北3西3a区」、「北2a西4区」、「北2a西3区」、「北2西3区」の名称を与え、道路跡および道路跡上で検出したもの以外の遺構の検出箇所について表記していくこととする。

(1) 道路跡

【西3道路跡(SX6511南北道路跡)】(第29～34図 図版3・5・6・9)

A区中央部やや南寄りで長さ約24mにわたって検出した。検出面は地山面およびSX6552・6558河川跡堆積土上面である。SD6542溝跡、SK6698・6709土壇、SX6527整地層、SX6652・6658河川跡と重複し、SD6542溝跡、SX6652・6658河川跡より新しく、SK6698・6709土壇、SX6527整地層より古い。側溝心を結んだ道路の方向は北で東に約4°偏している。

東側溝SD6680、西側溝SD6681ともに6時期(A期→B期→C期→D期→E期→F期)の変遷がある。路面には3時期(路面Ⅰ→路面Ⅱ→路面Ⅲ)の変遷があり、路面Ⅰが側溝A・B・C期に、路面Ⅱが側溝D期に、路面Ⅲが側溝E・F期にそれぞれ対応している。北側溝と南側溝の中心間の距離はA期が6.0m、B期が5.5m、C期が5.6m、D期が5.9m、E期が5.4m、F期が5.3m、路面幅はA期が4.8m、B期が4.4m、C期が4.2m、D期が3.7m、E期が4.0m、F期が4.0mである。

路面の状況を見ると、路面Ⅰでは波板状圧痕を伴う掘り込み地業と地山土を用いた整地によって路面が構築されている。路面Ⅱは削平のため不明である。路面Ⅲは地山土によって路面が構築されており、構築土中に灰白色火山灰ブロックが含まれる。

側溝の接続状況を見ると、西側溝とSX6510北2a道路跡の南側溝とはA～C・E期にかけて「L」字形に接続し、D・F期では「T」字形に接続している。

東側溝の規模は、A期・B期が後続する側溝に壊されていて不明である。C期は上幅0.8～1.4m、下幅0.3～0.8m、深さ50cm、D期は上幅1.2～1.4m、下幅0.3～0.4m、深さ50cm、E期は1.5～2.3m、下幅0.4～0.9m、深さ70cm、F期は上幅0.9～1.4m、下幅0.2～0.5m、深さ50cmである。方向は心線でみると、A期・B期が不明、C期が北で東に約6°、D期が北で東に約3°、E期が北で東に約4°、F期が北で東に約2°偏している。断面形はいずれも逆台形状である。堆積土は、炭化物を少量含む灰黄褐色粘質シルト・シルト、褐灰色粘質シルト・シルト、黒褐色粘質シルト・シルト・砂質シルト、暗灰黄色シルト・砂、にぶい黄色粘質シルト、にぶい黄褐色粘質シルト、灰黄褐色粘質シルト、にぶい黄褐色粘質シルトが自然堆積している。E期・F期堆積土中には灰白色火山灰が含まれる。

西側溝の規模は、A期が上幅1.0～1.3m、下幅0.5m、深さ30cm、B期が上幅1.0～1.4m、下幅0.7～0.9m、深さ30cm、C期が上幅1.5～1.8m、下幅0.7～1.4m、深さ30cm、D期が上幅1.4～1.9m、下幅0.5～0.7m、深さ50cm、E期が上幅1.2～2.0m、下幅0.4～0.9m、深さ70cm、F期が上幅1.0～1.3m、下幅0.4～0.7m、深さ45cmである。方向は心線でみると、A期が北で東に約2°、B期が北で東に約4°、C期が北で西に約2°、D期が北で西に約3°、E期が北で西に約2°、F期が北で西に約4°偏している。断面形はいずれも逆台形状である。堆積土は、炭化物、地山ブロックを含む灰黄褐色粘質シルト・シルト・砂質シルト、褐灰色粘土・粘質シルト・シルト、黒褐色シルト、灰黄色粘質シルト、淡黄色粘土、にぶい黄褐色粘質シルト、にぶい黄褐色粘質シルトが自然堆積しており、E期・F期の堆積土中には灰白色火山灰が含まれる。

遺物は東側溝A期の堆積土から非ロクロ調整の土師器杯（第32図1）・甕が出土している。土師器杯は底部が丸底のものと平底のものがあり、丸底のものでは口縁部と体部の境に稜が巡っている。

東側溝C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯（第32図2）・盤（第32図6）・甕（第32図7）、ロクロ調整の土師器杯（第32図5）・高台杯・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯（第32図3・4）・高杯・高台杯・稜塊・蓋・甕・短頸壺（第32図8）、丸瓦、平瓦、砥石（第155図1）、鉄滓が出土している。このうち非ロクロ調整土師器杯には有段丸底のものと平底気味のものがある。ロクロ調整の土師器杯の底部は回転糸切り無調整のものと回転糸切り後回転ヘラケズリされるものがある。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。

東側溝E期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器杯（第32図9・10・17）・甕・小型甕、瓶（第32図21）、内外面ヘラミガキ・黒色処理された土師器蓋（第32図20）、調整不明の土師器甕、須恵器杯（第32図11・12）・高台杯・鉢・甕・壺、須恵系土器杯（第32図13～16・18）、緑釉陶器皿（第148図2）、白磁碗（第148図6）、円面硯（第150図9）、多賀城跡政庁第Ⅱ期・第Ⅳ期の丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期～第Ⅳ期の平瓦、板状木製品（第155図1）、砥石（第158図15）、鉄滓、馬歯が出土している。このうち土師器杯の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占めており、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるものがわずかに含まれる。また体部外面に不明墨書

のあるものや油煙が付着しているものがみられる。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵系土器の外面には不明墨書のみられるものがある。緑釉陶器皿は洛北産と考えられる。板状木製品は長さ8.3cm、幅2.8cm、厚さ1.3cmの長方形の板状を呈する。用途は不明である。木取りは板目取りである。

東側溝F期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器杯・高台杯・鉢・甕・調整不明の土師器甕、須恵器杯・高台杯・蓋・甕・壺、須恵系土器杯・高台杯、緑釉陶器碗（第148図4）、白磁碗（第148図9）、土製円板（第152図2・3）、多賀城跡政庁第Ⅱ期の丸瓦と平瓦、砥石（第158図20）、鉄滓、馬歯が出土している。土師器杯の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものと回転ヘラケズリにより切り離しが不明のものがわずかに含まれる。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整のものとヘラ切り無調整のものがほぼ同数含まれ、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものと、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがわずかに含まれる。

西側溝A期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯、丸瓦が出土している。

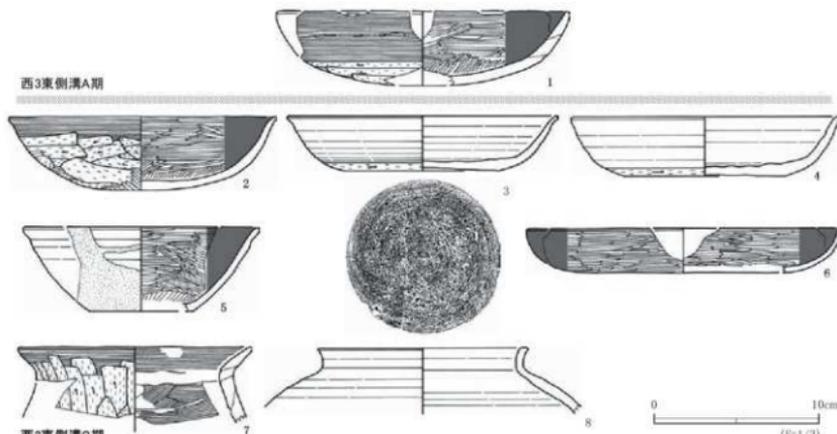
西側溝C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯、油煙の付着した甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・高台杯（第33図3）・高台杯（第33図1）・蓋（第33図2）・甕・壺、多賀城跡政庁第Ⅱ期の丸瓦と平瓦、馬歯が出土している。土師器杯の底部は手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。須恵器杯の底部は静止糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り後ナデられているものがある。

西側溝D期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器杯（第33図4）・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・甕・壺、丸瓦、平瓦が出土している。土師器杯の底部は回転糸切り無調整である。

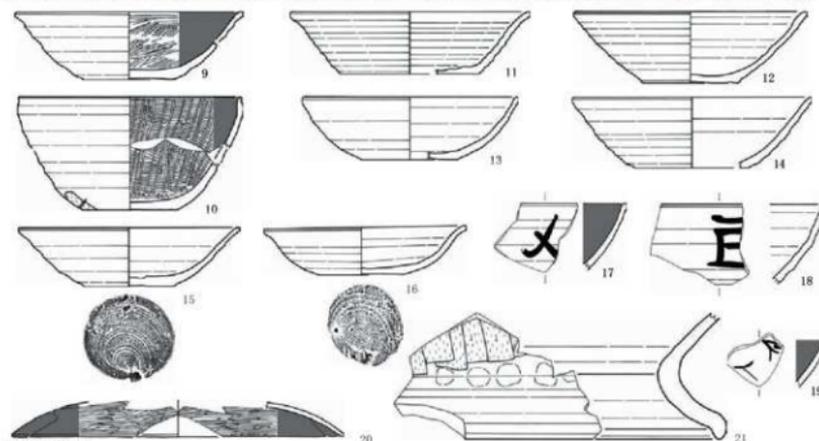
西側溝E期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・甕（第33図12）、ロクロ調整の土師器杯（第33図5～8）・甕・小型甕・鉢（第33図11）、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯（第33図9）・高台杯（第33図10）・甕・壺・広口壺・長頸壺（第33図13）、緑釉陶器陰刻花文四輪花皿（第148図1）、単弧文軒平瓦（第153図7・8）、多賀城跡政庁第Ⅰ期・第Ⅱ期の丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅰ期の平瓦、砥石（第157図10）、馬の下顎骨（L）、馬歯、牛または馬の四肢骨、鹿？の四肢骨が出土している。このうち非ロクロ調整の土師器甕には内面に炭化物の付着しているものが含まれる。土師器杯の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものが少量含まれる。また外面に墨書「乙大」・「岑」カや不明墨書のみられるものが含まれる。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後ナデの施されるもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器壺には会津大戸窯の製品とみられるものが含まれる。緑釉陶器陰刻花文四輪花皿は黒笹90号室式期のものである。

西側溝F期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器杯（第34図1）・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・高台杯・蓋・甕・壺、須恵系土器杯（第34図2～4）・高台杯（第34図5）、灰釉陶器碗、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期～第Ⅳ期の平瓦、砥石（第158図19）が出土している。土師器杯の

西3東側溝A期



西3東側溝C期



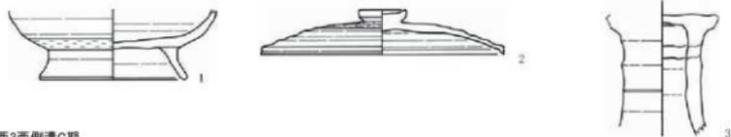
西3東側溝E期

No.	種別	属位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録	巻数
1	土師器・杯	西3東側溝A期 (17.8)		4.6	1/4		外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理		R178
2	土師器・杯	西3東側溝C期 16.2		4.5	3/4		外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	49-3	R181
3	須恵器・杯	西3東側溝C期 16.5 9.4 3.4	完形				外面: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底面: ヘラ磨り→回転ヘラケズリ	49-8	R184
4	須恵器・杯	西3東側溝C期 16.4 9.6 3.4	2/3				外面: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 底面: 磨き 内面: ロクロナデ 底面: 磨き→回転ヘラケズリ	49-7	R183
5	土師器・杯	西3東側溝C期 (14.2) 6.2	5.2	口径部1/6→底部			外面: ロクロナデ 裏面にすり割部 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転ホ切り		R180
6	土師器・壺	西3東側溝C期 (19.0) (12.8)	2.7	口径部1/4→底部			内外面: ヘラミガキ→黒色処理		R179
7	土師器・壺	西3東側溝C期 (14.2)		口径部1/6→体上部			外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ロクロナデ→ヘラナデ		R182
8	須恵器・短冊壺	西3東側溝C期 (12.6)		口径部1/6→体上部			内外面: ロクロナデ		R185
9	土師器・杯	西3東側溝E期 (13.9) 5.3	4.1	1/2			外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転ホ切り		R205
10	土師器・杯	西3東側溝E期 (13.4) 6.0	6.9	1/3			外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転ホ切り		R197
11	須恵器・杯	西3東側溝E期 (14.6) 6.4	3.8	1/3			内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ磨り 西外面: 磨き→磨き		R199
12	須恵器・杯	西3東側溝E期 14.2 5.8 4.4	2/3				内外面: ロクロナデ 底面: 回転ホ切り	49-11	R202
13	須恵器・土師器・杯	西3東側溝E期 (13.1) 6.0	3.8	1/4			内外面: ロクロナデ 底面: 回転ホ切り	49-12	R208
14	須恵器・土師器・杯	西3東側溝E期 (14.4) 6.0	4.3	1/5			内外面: ロクロナデ 底面: 回転ホ切り	49-13	R196
15	須恵器・土師器・杯	西3東側溝E期 13.5 5.4 3.6	3/4				内外面: ロクロナデ 内面: 磨き→磨き 底面: 回転ホ切り	49-10	R194
16	須恵器・土師器・杯	西3東側溝E期 12.3 5.0 3.0	ほぼ完形				内外面: ロクロナデ 底面: 回転ホ切り	49-9	R195
17	土師器・壺	西3東側溝E期		口径部→体部片			外面: ロクロナデ 墨書 内面: ヘラミガキ→黒色処理	49-18	R191
18	須恵器・土師器・杯	西3東側溝E期		口径部→体部片			内外面: ロクロナデ 外面: 墨書	49-17	R190
19	土師器・杯	西3東側溝E期		体部片			外面: ロクロナデ 墨書 内面: ヘラミガキ→黒色処理	49-20	R200
20	土師器・壺	西3東側溝E期 (30.2)		口径部1/6→体部			内外面: ヘラミガキ→黒色処理	49-23	R198
21	土師器・瓶	西3東側溝E期		体下部片			外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ→ユビオヤシ 内面: ロクロナデ		R207

第32図 SX6511西3道路跡出土土器(一)東側溝A・C・E期-

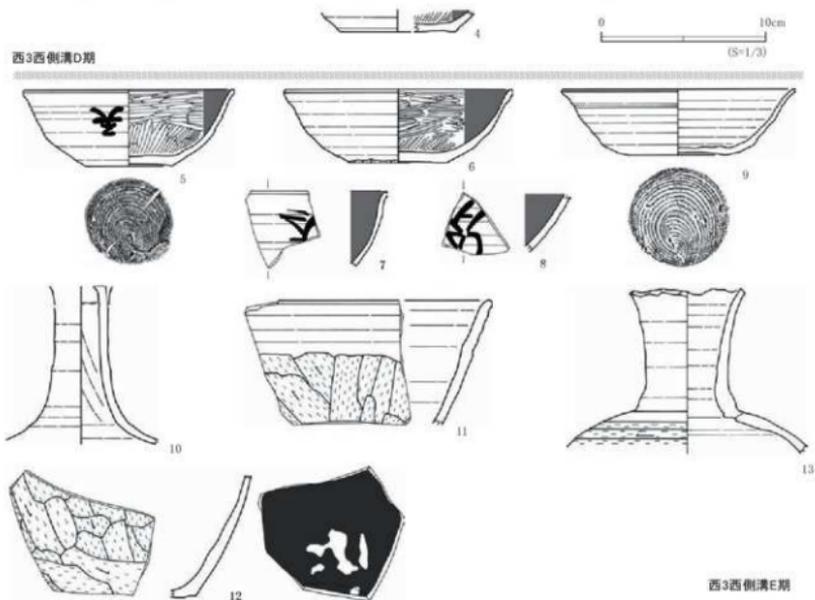
底部には回転糸切り無調整のものと回転糸切り後回転ヘラケズリされるものがある。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整である。

路面1波板状圧痕からは非ロクロ調整の土師器杯・高杯・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯(第34図6)・高台杯・鉢・甕・壺・長頸壺、ミニチュア土器杯(第34図7)、丸瓦、多賀城跡政庁第I期・第II期の平瓦が出土している。このうち土師器杯の底部は手持ちヘラケズリ再調



西3西側溝C期

西3西側溝D期



西3西側溝E期

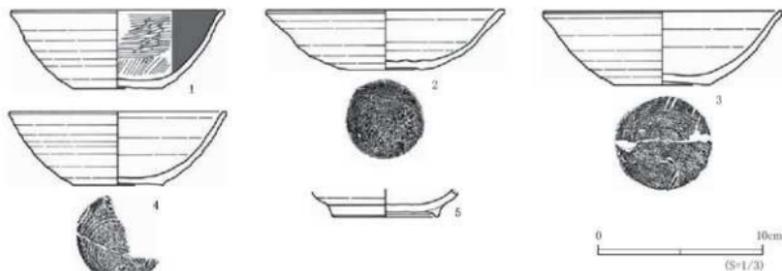
								(単位: cm)	
No.	種別	部位	口径	底径	器高	残存	特徴	所属層	登録
1	須恵器・高台杯	西3西側溝C期		8.9		体下部~高台2/4	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ 底部:ヘラミダリ→回転ヘラケズリ→付成		R151
2	須恵器・甕	西3西側溝C期	14.7		2.7	2/3	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 火燻底 リンゴ状つまみ 内面:ロクロナデ	49-16	R152
3	須恵器・高杯	西3西側溝C期				胴上部1/4	外面:ロクロナデ 沈線 内面:ロクロナデ 輪筋底		R153
4	土師器・杯	西3西側溝D期		(7.0)		体下部~底部1/4	外面:ロクロナデ 内面:ヘラミダリ→白色地焼 底部:回転糸切り		R154
5	土師器・杯	西3西側溝D期	12.9	5.3	4.7	2/3	外面:ロクロナデ 蓋痕「乙」 内面:ヘラミダリ→白色地焼 底部:回転糸切り→薄板状圧痕	49-5	R154
6	土師器・杯	西3西側溝D期	14.0	6.0	4.5	1/2	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 底部:ヘラミダリ→白色地焼 蓋痕「乙」→付成	49-4	R157
7	土師器・杯	西3西側溝D期				口縁部~体部片	外面:ロクロナデ 蓋痕「乙」 内面:ヘラミダリ→白色地焼	49-19	R165
8	土師器・杯	西3西側溝D期				体部片	外面:ロクロナデ 蓋痕「乙」 内面:ヘラミダリ→白色地焼	49-21	R166
9	須恵器・杯	西3西側溝D期	14.4	5.9	4.1	2/3	内外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り	49-6	R168
10	須恵器・高杯	西3西側溝D期				胴部定形	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ 輪筋底 絞り底		R161
11	土師器・鉢	西3西側溝D期				口縁部~体部片	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ロクロナデ		R163
12	土師器・甕	西3西側溝D期				体下部~底部1/6	外面:手持ちヘラケズリ 内面:炭化物付着 底部:ナデ		R162
13	須恵器・長頸壺	西3西側溝D期				胴部定形~体上部	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面:ロクロナデ 口縁部付片 内外面:白色地焼		R169

第33図 SX6511西3道路跡出土土器(2)-西側溝C・D・E期-

整により切り離し不明のものと同転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器杯の底部は同転糸切り無調整のもの、ヘラ切り無調整のもの、同転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。また底部外面に不明墨書のみられるものが含まれる。

路面Ⅰの構築土からはロクロ調整の土師器杯、調整不明の土師器甕、須恵器鉢・甕・壺、多賀城跡政庁第Ⅰ期・第Ⅱ期の平瓦が出土している。

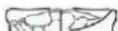
路面Ⅲの構築土からは非ロクロ調整の土師器杯(第34図8)・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・高台杯・杯蓋・蓋・甕・長頸壺、須恵系土器杯、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期



西3西側溝F期



西3路面Ⅰ(波板状圧痕)



西3路面Ⅲ



西3路面堆積土



No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録	登録
1	土師器・杯	西3西側溝F期 (13.6)	5.4	4.8	1/3		外面:ロクロナデ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 底部:同転糸切り		R175
2	須恵系土器・杯	西3西側溝F期 (14.7)	4.6	3.7	2/4		内外面:ロクロナデ 底部:同転糸切り	49-13	R171
3	須恵系土器・杯	西3西側溝F期 (14.5)	5.7	4.5	2/3		内外面:ロクロナデ 底部:同転糸切り	49-14	R172
4	須恵系土器・杯	西3西側溝F期 (13.2)	5.5	4.5	1/2		内外面:ロクロナデ 底部:同転糸切り	49-15	R173
5	須恵系土器・高台杯	西3西側溝F期		6.2		底部・高台完整	内外面:ロクロナデ 底部:同転糸切り→付高台		R174
6	須恵器・杯	路面Ⅰ				杯下部～底部1/4	内外面:ロクロナデ 底部:ヘラ切り 墨書口		R631
7	ミヅノア土器・杯	路面Ⅰ	(5.6)	(5.4)	1.8	口縁部～底部1/4	内外面:ナデ・ユビオサニ		R632
8	土師器・杯	路面Ⅲ				口縁部～杯底片	外面:ロクロナデ→非同転ヘラケズリ 内面:漆喰付着	57-19	R119
9	須恵器・杯	路面堆積土上層 (14.0)	5.8	3.8	1/3		内外面:ロクロナデ 底部:同転糸切り		R294
10	須恵器・甕	路面堆積土上層		7.5		杯下部～底部2/3	内外面:ロクロナデ 底部:跡土糸切り		R403
11	土師器・甕	路面堆積土上層				つまみ部	外面:手形ヘラケズリ・ヘラミガキ 完整つまみ部 内面:ヘラミガキ→黒色処理		R400
12	須恵器・小壺	路面堆積土上層	3.6			口縁部完整	内外面:ロクロナデ 外面:自然釉付着		R407
13	須恵器・小壺	路面堆積土上層				底部片	内面:ロクロナデ 底部:切り離し不明→同転ヘラケズリ 焼成面ヘラ記号「Ⅹ」	49-24	R409
14	製塩土器	路面堆積土上層				底部片	内外面:ナデ マメツ	57-27	R401

第34図 SX6511西3道路跡出土土器(3)-西側溝F期・路面Ⅰ・Ⅲ・路面堆積土-

の平瓦が出土している。このうち図示した非ロクロ調整の土師器坏は内面に漆紙の付着している有段坏である。ロクロ調整の土師器坏の底部は手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。須恵器坏の底部は回転系切り無調整のもの、ヘラ切り無調整のものがある。

路面堆積土および確認面からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏・高台坏・蓋(第34図11)・鉢・高台鉢・甕、須恵器坏(第34図9)・皿(第34図10)・高坏・高台坏・蓋・鉢・甕・壺・小壺(第34図12・13)、須恵系土器坏・高台坏、灰輪陶器埴、製塩土器(第34図14)、ミニチュア土器坏、輪羽口、鉄滓、丸瓦、多賀城跡政庁第1期～第4期の平瓦、砥石(第158図14、第158図27)、馬歯が出土している。このうち非ロクロ調整の土師器坏には丸底と平底のものがある。ロクロ調整の土師器坏の底部は回転系切り無調整のもの、回転系切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転系切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器坏の底部は回転系切り無調整のもの、回転系切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転系切り後回転ヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるものなど多様である。須恵器皿の底部は静止系切りで擬似高台状となっている。須恵器壺には会津大戸窯の製品とみられるもの含まれる。

【西3a道路跡(SX6512南北道路跡)】(第35～37図 図版4～6・10)

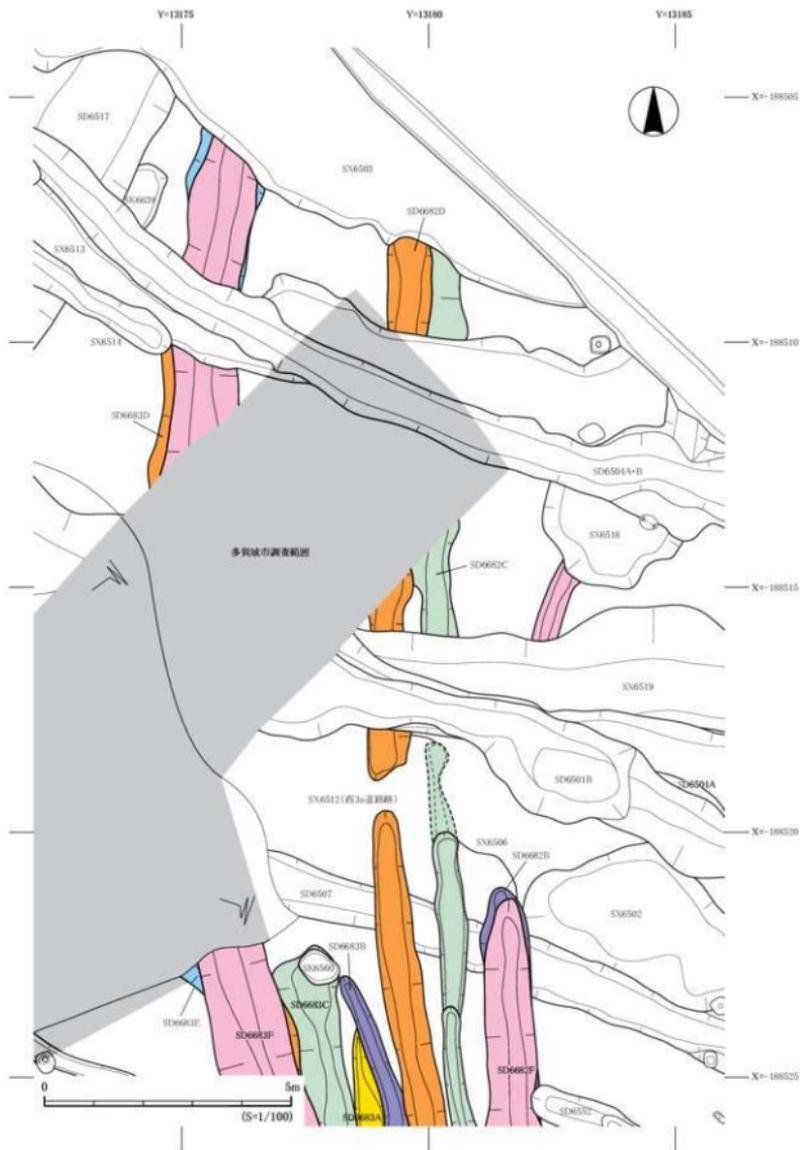
A区北寄りで長さ約36mにわたって検出した。検出面は地山面である。SD6501・6504・6517区画溝跡、SD6507・6523・6552・6577溝跡、SK6560土壌、SX6503・6505・6506河川跡、SX6502・6518河川流路跡と重複し、SD6517区画溝跡、SD6507・6552・6577溝跡より新しく、SD6523溝跡、SK6560土壌、SD6501・6504区画溝跡、SX6503・6505・6506河川跡、SX6502・6518河川流路跡より古い。側溝心を結んだ道路の方向は、北2a道路跡との交差点付近では北で西に約9°偏し、調査区の北壁際では北で東に約8°偏している。

東側溝SD6682、西側溝SD6683ともに6時期(A期→B期→C期→D期→E期→F期)の変遷がある。路面には3時期(路面Ⅰ→路面Ⅱ→路面Ⅲ)の変遷があり、路面Ⅰが側溝A・B・C期に、路面Ⅱが側溝D期に、路面Ⅲが側溝E・F期にそれぞれ対応している。側溝A期・B期・C期に対応する路面Ⅰは削平され残存していない。東側溝と西側溝の心間距離はA期が2.0m、B期が2.8m、C期が3.2m、D期が2.3m、E期が4.5m、F期が4.3m、路面幅はA期が1.2m、B期が2.0m、C期が2.0m、D期が1.4m、E期が3.6m、F期が2.5mである。

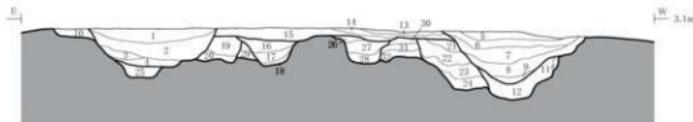
路面は、幅が狭く東西側溝が互いに近接して掘り込まれていることから残存状況はよくない。路面Ⅰは削平のため不明である。路面Ⅱは砂質土を用いて構築されており、上面に硬化面を伴っている。路面Ⅲは砂質土を多く含む地山土によって構築されており、構築土中に灰白色火山灰ブロックが含まれる。

側溝の接続状況を見ると、東側溝とSX6510北2a道路跡の北側溝とはA～F期にかけていずれも「L」字形に接続している。西側溝についてみるとA～D期・F期では西側に北2a道路跡の北側溝が「L」字形に延びておらず、接続関係は不明である。E期では「L」字形に接続している。

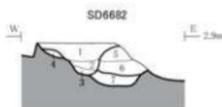
東側溝の規模は、A期が上幅0.4～0.7m、下幅0.2～0.4m、深さ25cm、B期が上幅0.4～0.8m、下幅0.2～0.3m、深さ60cm、C期が上幅1.0m、下幅0.4m、深さ30cm、D期が上幅0.6～0.8m、下幅0.2～



第35圖 SX6512西3a道路跡平面圖

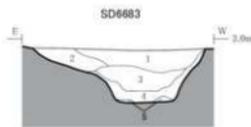
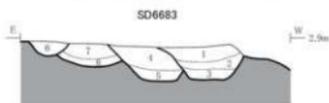


No.	土色	土性	混入物など	備考	No.	土色	土性	混入物など	備考
1	灰黄褐色(10)B(2)	シルト	マンゼンを含む		17	灰褐色(10)B(5)	粘質シルト	粘土質ブロックを多数含む	西3a道路側溝
2	灰褐色(10)B(4)	粘質シルト		西3a道路側溝	18	灰褐色(10)B(5)	粘質シルト	粘土質ブロックを含む	西3a道路側溝
3	灰黄褐色(10)B(2)	シルト	粘土質ブロックを少量含む		19	灰褐色(10)B(5)	粘質シルト		西3a道路側溝
4	黄褐色(10)B(3)	シルト			20	灰褐色(10)B(5)	粘質シルト	粘土質ブロックを中量含む	西3a道路側溝
5	黄褐色(10)B(2)	シルト	灰白色大石(砂岩)を少量、マンゼンを含む		21	灰褐色(10)B(5)	粘質シルト	マンゼンを含む	
6	灰褐色(10)B(4)	粘質シルト	マンゼンを含む		22	黄褐色(10)B(2)	シルト	粘土質ブロックを少量含む	西3a道路側溝
7	灰白色(10)A(1)	シルト	硬質土	西3a道路側溝	23	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土	
8	黄褐色(10)B(2)	シルト	硬質土		24	黄褐色(10)B(2)	シルト	粘土質ブロックを少量含む	
9	灰黄褐色(10)B(2)	粘質シルト			25	黄褐色(10)B(2)	粘質シルト	粘土質ブロックを中量含む	西3a道路側溝
10	黄褐色(10)B(2)	粘質シルト	粘土質ブロックを含む	西3a道路側溝	26	黄褐色(10)B(2)	粘質シルト		
11	黄褐色(10)B(2)	粘質シルト	粘土質ブロックを含む	西3a道路側溝	27	灰褐色(10)B(5)	シルト	粘土質ブロックを多数含む	西3a道路側溝
12	黄褐色(10)B(2)	粘土			28	灰褐色(10)B(5)	粘質シルト		
13					29	灰白色(10)A	粘土	灰白色土(砂岩)を中量含む	西3a道路側溝
14	灰黄褐色(10)B(2)	粘質シルト	マンゼンを含む、灰白色大石(砂岩)を含む	硬質砂岩層上	30	黄褐色(10)B(2)	シルト	マンゼンを含む、粘土質ブロックを含む	西3a道路側溝
15	黄褐色(10)B(2)	粘質シルト	灰白色大石(砂岩)を中量含む	硬質砂岩層上	31	灰黄褐色(10)B(2)	シルト	粘土質ブロックを少量含む	西3a道路側溝
16	灰褐色(10)B(4)	粘質シルト	砂岩を少量、マンゼンを含む	西3a道路側溝	32	黄褐色(10)B(2)	シルト	粘土質ブロックを多数含む	



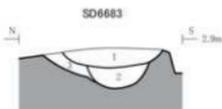
No.	土色	土性	混入物など	備考
1	灰白色(10)A(2)	シルト	砂を多数、灰白色大石(砂岩)を含む	
2	黄褐色(10)B(2)	粘土	粘土質ブロックを多数含む	西3a道路側溝(排水側)
3	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土	
4	黄褐色(10)B(2)	シルト	粘土質ブロックを多数含む	
5	灰白色(10)A(2)	シルト	砂を少量、マンゼンを含む	西3a道路側溝(排水側)
6	黄褐色(10)B(2)	シルト	粘土質ブロックを多数含む	
7	灰白色(10)A(2)	シルト	粘土質ブロックを多数含む	西3a道路側溝(排水側)

No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土(粘土質土)を少量含む	西3a道路側溝(排水側)
2	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土	
3	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土	西3a道路側溝(排水側)



No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土(マンゼンを含む)	
2	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土(マンゼンを含む)	西3a道路側溝(排水側)
3	黄褐色(10)B(2)	粘土	粘土質ブロックを少量含む	
4	黄褐色(10)B(2)	シルト	粘土質マンゼンを含む	西3a道路側溝(排水側)
5	黄褐色(10)B(2)	粘土	粘土質ブロックを含む	
6	灰黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土を少量含む	西3a道路側溝(排水側)
7	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土を少量含む、マンゼンを含む	西3a道路側溝(排水側)
8	灰黄褐色(10)B(2)	粘土	粘土質ブロックを含む	

No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土(粘土質土)を少量含む	
2	灰黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土(粘土質土)を少量含む	
3	黄褐色(10)B(2)	粘質シルト	砂質土(粘土質土)を少量含む	西3a道路側溝(排水側)
4	灰褐色(10)B(5)	粘質シルト	粘土質ブロックを多数含む	
5	黄褐色(10)B(2)	粘土	粘土質土(マンゼンを含む)	



No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土(灰白色大石(砂岩)を少量含む)	西3a道路側溝(排水側)
2	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土(灰白色大石(砂岩)を少量含む)	西3a道路側溝(排水側)
3	黄褐色(10)B(2)	シルト	砂質土を多数含む	西3a道路側溝(排水側)



第36図 SX6512西3a道路跡、SD6682東側溝、SD6682西側溝断面図

0.4m、深さ35cm、E期が上幅0.7~1.5m、下幅0.3~0.5m、深さ40cm、F期が上幅0.7~1.3m、下幅0.3~0.7m、深さ45cmである。方向は心でみると、A期が北で西に約5°、B期が北で西に約4°、C期が北で西に約5°、D期が北で西に約7°、E期が北で西に約5°、F期が北で西に約5°偏している。断面形はいずれも逆台形状である。堆積土は、地山ブロックを少量含む灰黄褐色シルト、褐色粘質シルト、黒褐色粘土・粘質シルト・砂質シルト、淡黄色粘土、暗オリーブ褐色シルトが自然堆積している。

西側溝の規模は、A期が上幅0.4~0.6m、下幅0.2~0.5m、深さ30cm、B期が上幅0.4~0.8m、下幅0.2~0.4m、深さ30cm、C期が上幅0.6~1.2m、下幅0.2~0.6m、深さ60cm、D期が上幅0.6~1.0m、下幅0.3~0.4m、深さ50cm、E期が上幅0.7~1.2m、下幅0.4~0.8m、深さ80cm、F期が上幅1.2~2.0m、下幅0.2~0.7m、深さ65cmである。方向は心でみると、A期が北で西に約7°、B期が北で西に約6°、C期が北で西に約7°、D期が北で西に約12°、E期が北で西に約10°、F期が北で西に約9°偏している。断面形はいずれも逆台形状である。堆積土は、地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト・シルト質粘土・粘土・シルト・砂、褐色粘質シルト、黄褐色粘質シルト、暗灰黄色シルト、灰黄褐色シルト・砂、黄褐色細砂が自然堆積しており、E期・F期の堆積土中には灰白色火山灰が含まれる。

遺物は東側溝A期の堆積土から非ロクロ調整の土師器鉢（第37図2）・甕、須恵器杯（第37図1）・鉢・甕が出土している。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整である。

東側溝B期の堆積土中からは非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器甕（第37図5）、須恵器杯（第37図3・4）・甕・壺、丸瓦、平瓦が出土している。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整のものが主体を占め、ヘラ切り後ナデられているものが含まれる。また須恵器杯の中には内外面がヘラミガキされた特殊なものがみられる。

東側溝C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器杯（第37図6）・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・甕・壺、多賀城跡政庁Ⅰ期・Ⅱ期の丸瓦が出土している。土師器杯の底部は回転ヘラズリ再調整により切り離し不明のものである。須恵器杯の底部は回転系切り後手持ちヘラズリされるものとヘラ切り無調整のものがある。

東側溝D期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器鉢・甕、ロクロ調整の土師器杯（第37図7）、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・高台杯・蓋・甕・壺（第37図9）・小壺（第37図8）、丸瓦、多賀城跡政庁Ⅱ期の平瓦、鉄滓が出土している。土師器杯の底部は回転系切り後手持ちヘラズリされている。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整である。須恵器壺には会津大戸窯の製品とみられるもの含まれている。

東側溝E期の堆積土からは多賀城跡政庁Ⅳ期の平瓦、馬歯が出土している。

東側溝F期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・高杯・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・高杯・高台杯・鉢・甕・壺・短頸壺、須恵系土器小型杯（第37図10）・杯、緑釉陶器壺（第148図4）、多賀城跡政庁Ⅱ期の丸瓦、多賀城跡政庁Ⅳ期の平瓦が出土している。土師器杯の底部は回転系切り無調整のもののみである。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後回転ヘラズリされるもの、手持ちヘラズリ再調整により切り離し不明のものがある。

西側溝A期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・甕、須恵器杯（第38図1）・甕、丸瓦、平瓦が出土している。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整である。

西側溝B期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯（第38図2）・高台杯・鉢・甕、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅰ期～第Ⅲ期の平瓦が出土している。このうち土師器杯の底部は回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整である。平瓦には下伊場野窯の製品とみられるものが含まれる。

西側溝C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器杯、調整不明の土師器杯、須恵器杯・高台杯・鉢・甕、多賀城跡政庁第Ⅱ期の平瓦、鉄滓が出土している。このうち須恵器杯の底部は静止糸切り後手持ちヘラケズリされるものとヘラ切り無調整のものがある。

西側溝D期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器杯・大型杯（第38図3）、調整不明の土師器甕、須恵器杯・甕・壺、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期の平瓦、馬歯が出土している。非ロクロ調整の土師器甕には内面に漆の付着しているものが含まれる。土師器杯の底部は回転糸切り無調整のものと手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。また土師器杯の外面には不明墨書のみられるものがある。

西側溝E期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・杯蓋・高台杯・甕・壺・長頸壺（第38図4）・壺G（第38図5）、灰軸陶器壺（第149図4）、偏行唐草文軒平瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期の丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅳ期の平瓦、転用砥（第151図12）、鉄滓が出土している。このうち土師器杯の底部は回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものと手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整のものと回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。灰軸陶器壺は折戸53号室式期のものである。

西側溝F期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・高杯・甕・甕把手、ロクロ調整の土師器杯（第38図6）・高台杯・鉢・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・蓋・鉢・甕・壺（第38図10）・甕把手（第38図11）、須恵系土器杯（第38図7）・高台杯・柱状高台杯（第38図9）・高台皿（第38図8）、風字硯（第150図10）、多賀城跡政庁第Ⅰ期・第Ⅱ期の丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅰ期～第Ⅳ期の平瓦、砥石（第155図2・147図21）、鉄滓、馬歯が出土している。このうち非ロクロ調整の土師器杯には平底で内外面ヘラミガキ・黒色処理されているものが含まれる。ロクロ調整の土師器杯の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後回転ヘラケズリされるものがわずかに含まれる。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるものとみられる。丸瓦、平瓦ともに下伊場野窯の製品とみられるものが含まれる。

路面Ⅱの構築土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・鉢・甕・壺、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期・第Ⅲ期の平瓦、馬歯が出土している。

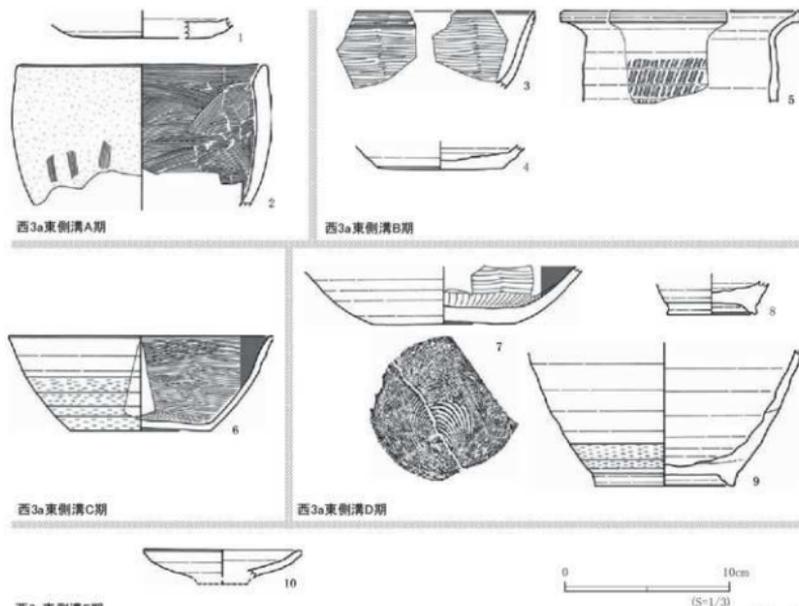
路面Ⅲの構築土からは非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器杯、須恵器杯・高台杯（第38図12）・蓋・甕・壺、多賀城跡政庁第Ⅱ期の丸瓦が出土している。このうち須恵器杯の底部はヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器高台杯は内外面ヘラミガキされた特殊なものである。

路面の堆積土・確認面からは非ロクロ調整の土師器杯・鉢・甕、ロクロ調整の土師器杯・小型高台杯（第38図14）・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・高台杯・蓋・鉢・甕・壺・小壺（第38図15）、須恵系

土器杯 (第38図13)・高台杯、灰砂陶器壺、製塩土器 (第38図17)、ミニチュア土器杯 (第38図16)、重弁蓮花文軒丸瓦 (第153図4)、二重弧文軒平瓦 (第153図9)、丸瓦、多賀城跡政庁第二期～第四期の平瓦、鉄滓が出土している。このうち土師器杯の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるものがある。須恵器杯の底部は静止糸切り無調整のもの、静止糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるものなど多様である。

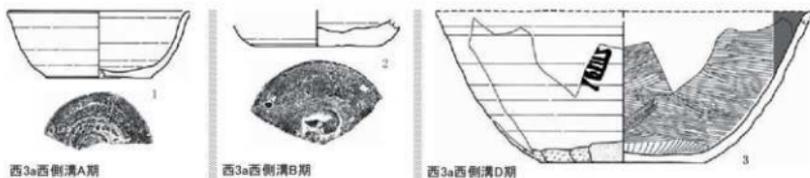
【北2道路跡 (SX6650東西道路跡)】 (第39・40図 図版10)

A区南端で長さ約8mにわたって検出した。検出面は地山面である。SB6544掘立柱建物跡、SD6591溝跡、SK6593・6597土壌、SX6586整地層と重複し、SK6597土壌より新しく、SK6593土壌、SX6586整地層より古い。SB6544掘立柱建物跡、SD6591溝跡との新旧関係は不明である。側溝心を結んだ道路の方向は真東西方向である。



№	種別	単位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録	号数
1	須恵器・杯	西3a東側溝A期	(8.2)			体下部～底面1/4	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り		R250
2	土師器・鉢	西3a東側溝A期	(15.0)			口縁部1/2～体部1/2	外面：ナデ マメテ 内面：ココナデ・ナデ		R249
3	須恵器・杯	西3a東側溝B期				口縁部～体部片	内外面：ロクロナデ→ヘラミダキ 沈積	SI-3	R251
4	須恵器・杯	西3a東側溝B期	7.8			体下部～底面1/2	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り→ナデ		R252
5	土師器・壺	西3a東側溝B期	(14.6)			口縁1/6～体上部	外面：平打タタキ→ロクロナデ 内面：ロクロナデ		R265
6	土師器・杯	西3a東側溝C期	(16.0)	8.5	5.8	1/3	外面：ロクロナデ→編ヘラナデ 内面：ヘラミダキ→黒色沈積 底面：盛り直し平打→ヘラナデ	SI-1	R254
7	土師器・杯	西3a東側溝C期		8.8		体部～底面3/4	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→黒色沈積 底面：回転糸切り→手持ちヘラケズリ		R255
8	須恵器・小壺	西3a東側溝D期	(14.0)	5.8	3.8	体下部～底面完形	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り→付台		R255
9	須恵器・壺	西3a東側溝D期		8.4		体下部～底面・高径1/2	外面：ロクロナデ→編ヘラナデ 口縁部片 内面：ロクロナデ 底面：盛り直し平打→付台 大口蓋跡		R256
10	須恵器・土器・小壺	西3a東側溝F期	(9.6)			口縁部1/4～体下部	内外面：ロクロナデ 多賀城跡第61次第7層相当 粘土質良 淡黄褐色		R259

第37図 SX6512西3a道路跡出土土器(1) -東側溝A・B・C・D・F期-

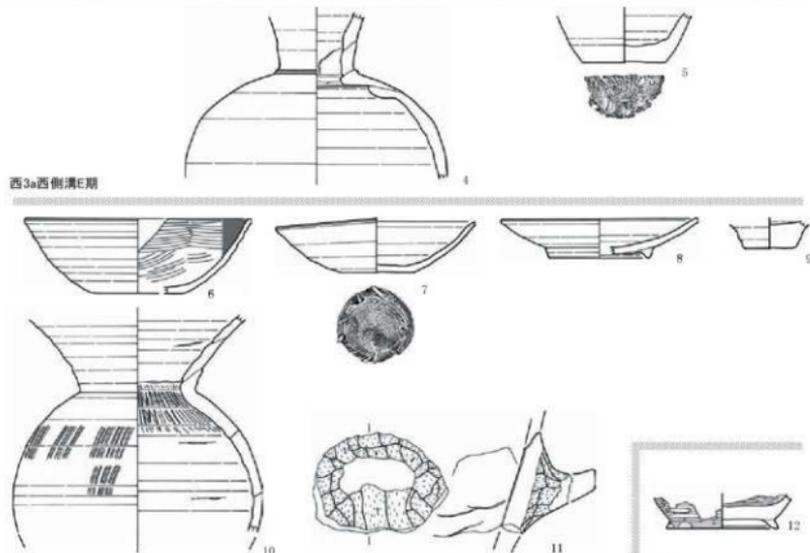


西3a西側溝A期

西3a西側溝B期

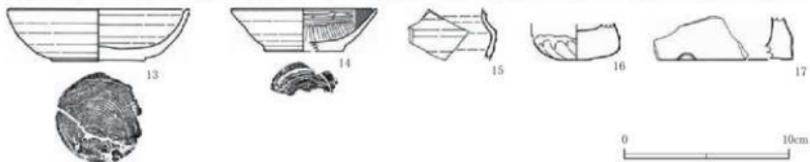
西3a西側溝D期

西3a西側溝E期



西3a西側溝F期

西3a路面皿



西3a路面堆積土・確認面

No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	特徴	平直図略	登録
1	深鉢部・杯	西3a西側溝A期	11.0	6.4	4.1	1/3	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り	51-2	R263
2	深鉢部・杯	西3a西側溝A期		7.0		体下部～底面1/3	内外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切り		R264
3	上鉢部・大型杯	西3a西側溝A期		10.0		1/3	外面：ロクロナデのヘラナデ 器口角：1/2程度 底面：厚板1/2～1/3のヘラナデ	51-8	R266
4	深鉢部・長頸壺	西3a西側溝A期				体下部～体部	外面：ロクロナデ リンゴ状突起 自然釉付着 内面：ロクロナデ 2段作り		R268
5	深鉢部・壺	西3a西側溝A期		5.0		体下部～底面1/3	内外面：ロクロナデ 底面：回転車切り		R267
6	上鉢部・杯	西3a西側溝A期	13.6	6.0	4.5	1/4	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→部色処理 底面：回転車切り		R271
7	深鉢部・大形杯	西3a西側溝A期	12.1	4.4	3.1	定形	内外面：ロクロナデ 底面：回転車切り→棒状圧痕	51-5	R277
8	深鉢部・高台付	西3a西側溝A期	12.0	6.2	2.4	1/4	内外面：ロクロナデ 底面：回転車切り→付高台	51-7	R278
9	深鉢部・杯	西3a西側溝A期				底面・高台定形	底面：回転車切り 柱状高台 透明黄灰色 砂粒ガラスを多く含む	51-4	R276
10	深鉢部・壺	西3a西側溝A期				体下部～体部	外面：平行ミダキ→ロクロナデ 自然釉付着 内面：ロクロナデ 段り底		R274
11	深鉢部・壺	西3a西側溝A期				杯片	外面：平行ミダキ→ロクロナデ 内面：部文当て具底		R279
12	深鉢部・高台付	路面堆積土上層		6.7		1/2	内外面：ロクロナデ→ヘラミダキ 底面：部文当て具底		R277
13	深鉢部・大形杯	路面堆積土上層	11.0	5.6	3.2	1/3	内外面：ロクロナデ 底面：回転車切り	51-6	R274
14	上鉢部・大形杯	路面堆積土上層	8.0	4.8	2.6	1/3	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→部色処理 底面：回転車切り		R260
15	深鉢部・小壺	路面堆積土上層				体下部～体部片	内外面：ロクロナデ		R225
16	中口径土器	路面堆積土上層		4.3		体下部～底面定形	外面：ナデ・ユビオサエ 内面：ナデ		R421
17	製塩土器	路面堆積土上層				体下部～底面片	内外面：ナデ	57-26	R422

第38図 SX6512西3a道路跡出土土器(2) -西側溝A・B・D・E・F期・路面皿・路面堆積土・確認面-

北側溝SD6547、南側溝SD6585ともにそれぞれ1時期のみ検出している。堆積土の状況から両側溝とも灰白色火山灰降灰頃は埋まり切ったものと考えられる。北側溝と南側溝の心間距離は6.8m、路面幅は5.7mである。

路面は地山土により厚さ10～25cmにわたって構築されており、路面上面にはやや起伏がある。路面中央から北側では高まり、南側溝に向かって緩やかに低く傾斜している。

北側溝の規模は、上幅0.5～0.7m、下幅0.2～0.4m、深さ33cmである。方向は心線でみると西で南に約2°偏している。断面形は逆台形状である。堆積土は灰白色火山灰小ブロック、地山小ブロックを含む黒褐色シルト質粘土、地山ブロックを竊状に含む灰黄褐色シルト質粘土が自然堆積している。

南側溝の規模は、上幅0.5～0.8m、下幅0.3～0.5m、深さ14cmである。方向は心線でみると西で南に約1°偏している。断面形は逆台形状である。堆積土は灰白色火山灰小ブロック、地山をラミナ状に含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は南側溝堆積土から調整不明の土師器杯、須恵器杯・甕が出土している。

【北2a東西道路跡 (SX6510東西道路跡)】(第41図～第51図 図版3～8)

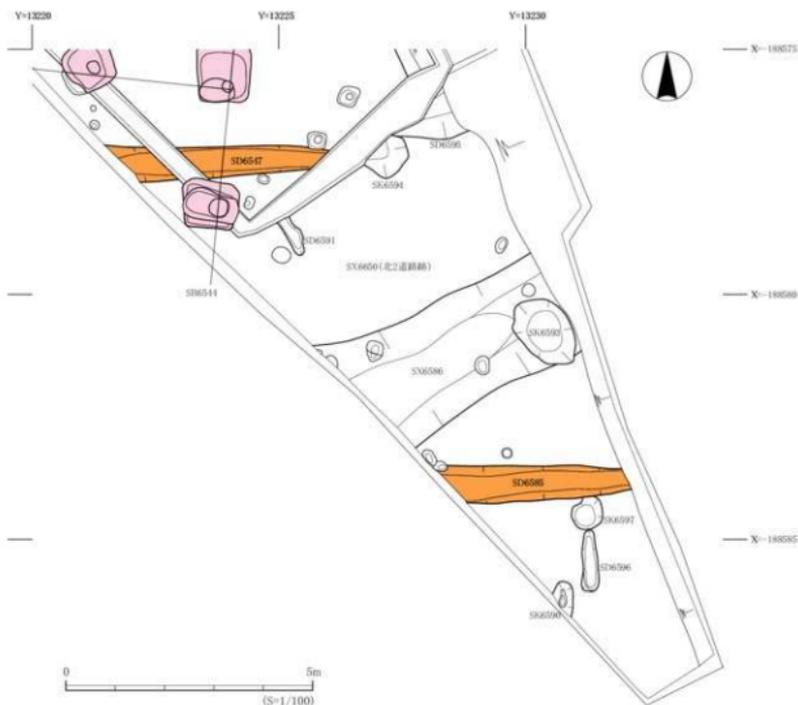
A区中央部やや北寄りで長さ約38mにわたって検出した。検出面は地山面およびSD6557区画溝跡堆積土上面である。SA6538・6553・6555材木堀跡、SD6557区画溝跡、SE6528井戸跡、SX6529土器埋設遺構、SI6537竪穴状遺構と重複し、SA6538・6553・6555材木堀跡、SD6557区画溝跡、SI6537竪穴状遺構より新しく、SE6528井戸跡、SX6529土器埋設遺構より古い。側溝中心を結んだ道路の方向は東で北に約10°偏している。

北側溝SD6682、南側溝SD6681ともに6時期(A期→B期→C期→D期→E期→F期)の変遷がある。路面には3時期(路面Ⅰ→路面Ⅱ→路面Ⅲ)の変遷があり、路面Ⅰが側溝A・B・C期に、路面Ⅱが側溝D期に、路面Ⅲが側溝E・F期にそれぞれ対応している。北側溝と南側溝の心間距離はA期が不明、B期が4.4m、C期が5.4m、D期が6.4m、E期が6.5m、F期が6.2m、路面幅はA期が不明、B期が3.4m、C期が4.2m、D期が5.1m、E期が5.1m、F期が4.8mである。

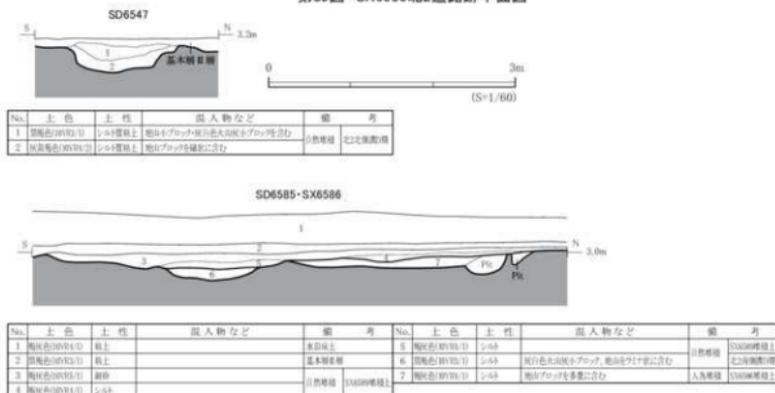
路面の状況を見ると、路面Ⅰでは波板状圧痕を伴う掘り込み地業によって路面が構築されている。路面Ⅱでは土器片、瓦片等を路面構築土に混入して整地したバラス敷きである。路面Ⅲは地山土によって路面が構築されており、構築土中に灰白色火山灰ブロックが含まれる。

側溝の接続状況を見ると、北側溝とSX6512西3a道路跡の東側溝とはA～F期にかけていずれも「L」字形に接続している。また南側溝とSX6511西3道路跡の西側溝とはA～C・E期にかけて「L」字形に接続し、D・F期では「T」字形に接続している。

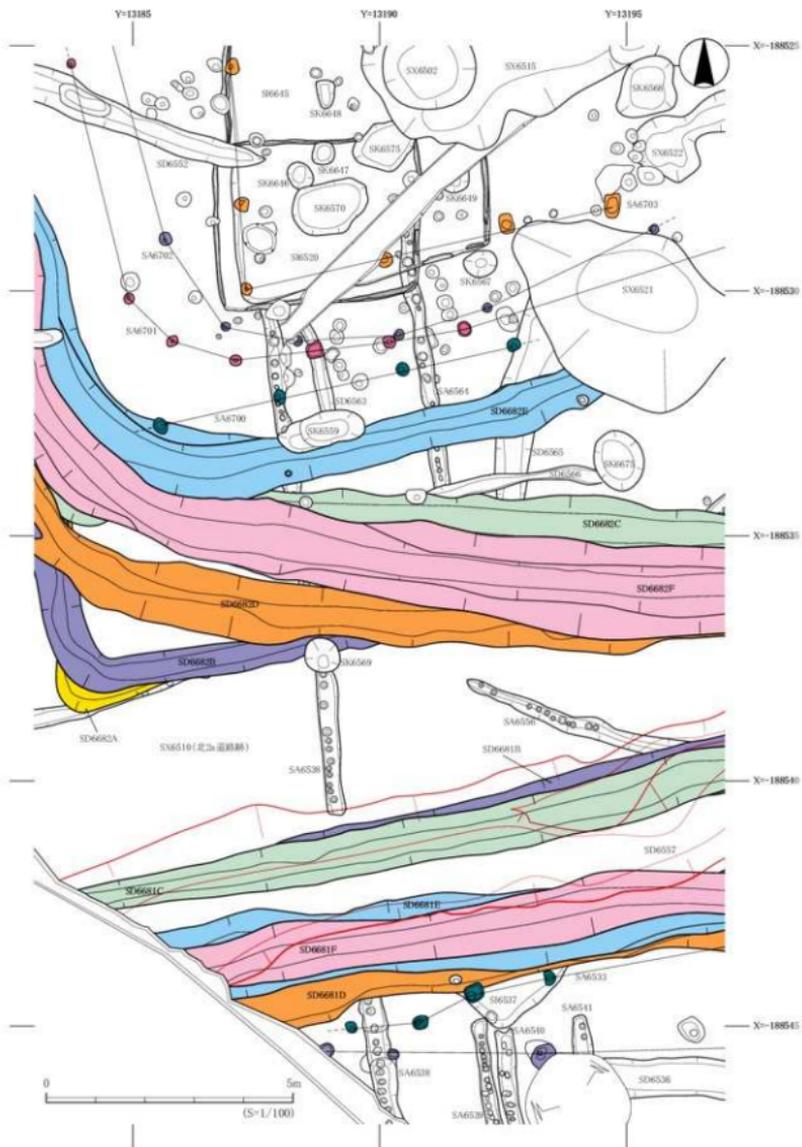
北側溝の規模は、A期が上幅0.5～0.7m、下幅0.2～0.3m、深さ20cm、B期が上幅0.5～1.0m、下幅0.2～0.4m、深さ50cm、C期が上幅0.7～1.2m、下幅0.4～0.6m、深さ50cm、D期が上幅0.5～1.2m、下幅0.2～0.6m、深さ30cm、E期が0.8～1.0m、下幅0.2～0.5m、深さ30cm、F期が上幅1.0～1.8m、下幅0.3～0.8m、深さ40cmである。方向は心線でみると、A期が西で南に約9°、B期が西で南に約16°、C期が西で北に約7°、D期が西で北に約11°、E期が西で南に約12°、F期が西で北に約4°偏している。断面形はいずれも逆台形状である。堆積土は、炭化物、地山ブロックを含む褐色粘質シルト、地



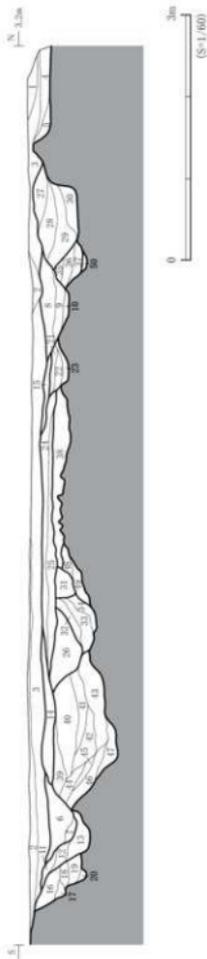
第39図 SX6650北2道路跡平面図



第40図 SD6547北側溝、SD6585南側溝、SX6586整地層断面図

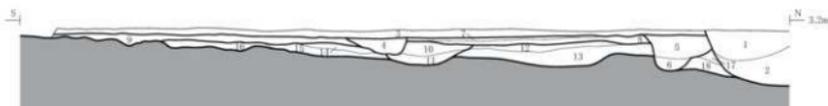


第41圖 SX6510北2a道路跡平面圖

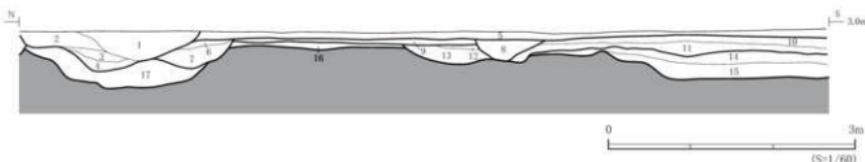


No.	上 色	上 性	掘 入 物 な ど	備 考	No.	上 色	上 性	掘 入 物 な ど	備 考
1	緑色(新105)	植草小			26	緑色(新105)	植草小		植草小
2	緑色(新105)	植草小	掘草小		27	緑色(新105)	植草小		植草小
3	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	28	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
4	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	29	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
5	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	30	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
6	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	31	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
7	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	32	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
8	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	33	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
9	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	34	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
10	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	35	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
11	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	36	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
12	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	37	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
13	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	38	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
14	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	39	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
15	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	40	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
16	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	41	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
17	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	42	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
18	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	43	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
19	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	44	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
20	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	45	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
21	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	46	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
22	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	47	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
23	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	48	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
24	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	49	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小
25	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小	50	緑色(新105)	植草小	掘草小	植草小

新42号 SX6510北2a道路踏断面図(1)



No.	土色	土性	埋人物など	備考	No.	土色	土性	埋人物など	備考
1	灰黄褐色(砂状)②	シルト	砂を若干、灰白色火山灰質を微量含む	②は土壌調査用	10	黒褐色(粘状)②	シルト	炭化物少量、砂を含む	②は土壌調査用
2	黒褐色(砂状)②	シルト	地山ブロック少量、灰白色火山灰質を含む		11	黒褐色(粘状)②	シルト	砂を少量に、炭化物少量を含む	②は土壌調査用
3	こげ茶色(粘状)②	シルト	砂・灰白色火山灰質を含む	調査用観察上	12	灰黄褐色(粘状)②	シルト	砂を少量、炭化物少量を含む	
4	灰黄褐色(粘状)②	シルト	砂を含む	②は土壌調査用	13	黒褐色(粘状)②	シルト	砂を少量を含む	
5	黒褐色(粘状)②	シルト	砂・炭化物少量を含む		14	黒褐色(粘状)②	粘質シルト	炭化物少量、砂を含む	調査用観察上
6	黒褐色(粘状)②	粘質シルト	地山ブロックを多量に、砂を少量含む	②は土壌調査用	15	橙オリーブ褐色(粘状)②	砂	炭化物少量を含む	
7	緑状灰色(粘状)②	粘質シルト	炭化物少量、砂を若干、酸化鉄・マンガンを含む		16	橙オリーブ褐色(粘状)②	砂	炭化物を若干含む	
8	橙オリーブ褐色(粘状)②	粘質シルト	炭化物・砂を少量、マンガンを含む	調査用観察上	17	黒褐色(粘状)②	粘質シルト		②は土壌調査用
9	橙オリーブ褐色(粘状)②	シルト	砂を多量に、炭化物を少量含む		18	黒褐色(粘状)②	粘質シルト	地山を多量に含む	



No.	土色	土性	埋人物など	備考	No.	土色	土性	埋人物など	備考
1	灰黄褐色(砂状)②	シルト	砂を若干、灰白色火山灰質を微量含む		10	橙オリーブ褐色(粘状)②	シルト	砂を多量に、炭化物少量を含む	
2	黒褐色(砂状)②	シルト		②は土壌調査用	11	黒褐色(粘状)②	シルト		②は土壌調査用
3	黒褐色(粘状)②	シルト	炭化物・灰白色火山灰質を少量含む		12	黒褐色(粘状)②	シルト	炭化物少量、砂を含む	②は土壌調査用
4	黒褐色(粘状)②	粘質シルト	炭化物を含む		13	黒褐色(粘状)②	シルト	炭化物少量、地山ブロックを若干含む	
5	こげ茶色(粘状)②	シルト	砂・灰白色火山灰質を含む	調査用観察上	14	黒褐色(粘状)②	砂	砂を少量含む	②は土壌調査用
6	黒褐色(粘状)②	シルト	砂・炭化物少量を含む	②は土壌調査用	15	橙オリーブ褐色(粘状)②	シルト	砂を少量含む	②は土壌調査用
7	黒褐色(粘状)②	粘質シルト	地山ブロックを多量に、砂を少量含む		16	灰黄褐色(粘状)②	シルト	砂を少量に、炭化物・地山ブロックを含む	調査用観察上
8	灰黄褐色(粘状)②	シルト	砂を含む	②は土壌調査用	17	黒褐色(粘状)②	粘質シルト	地山ブロックを少量含む	②は土壌調査用
9	灰黄褐色(粘状)②	粘質シルト	炭化物少量、砂を若干、酸化鉄・マンガンを含む	調査用観察上					

第44図 SX6510北2a道路跡断面図(3)

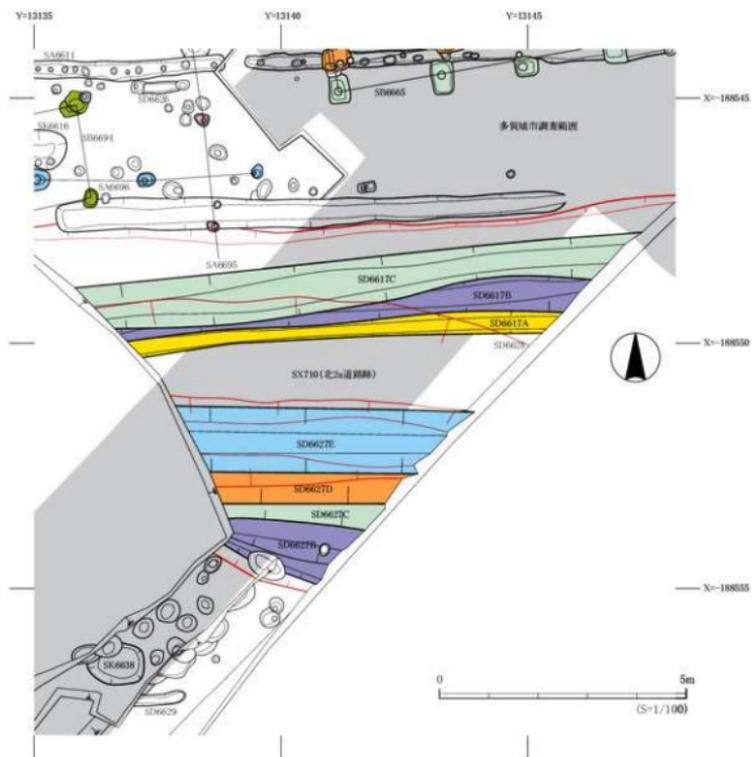
山を含む黒褐色粘質シルト、灰黄褐色砂質シルト・シルト、オリーブ黒色粘質シルトなどが自然堆積しており、E期・F期の堆積土中には灰白色火山灰ブロックが含まれる。

南側溝の規模は、A期が後続する側溝に横たわって不明、B期が上幅0.4~1.6m、下幅0.2~0.8m、深さ50cm、C期が上幅0.7~1.3m、下幅0.2~0.7m、深さ40cm、D期が上幅1.2~1.5m、下幅0.5~0.7m、深さ60cm、E期が上幅1.0~1.6m、下幅0.3~0.7m、深さ70cm、F期が上幅0.7~1.2m、下幅0.3~0.5m、深さ50cmである。方向は心線でみると、A期が不明、B期が西で南に約10°、C期が西で南に約11°、D期が西で南に約8°、E期が西で南に約5°、F期が西で南に約6°偏している。断面形はB期・D期・E期・F期が逆台形状で、C期は上が開いたU字状である。堆積土は、炭化物を含む褐色粘質シルト、地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、にぶい褐色粘質シルト、灰黄褐色粘質シルトなどが自然堆積しており、E期・F期の堆積土中には灰白色火山灰ブロックが含まれる。

遺物は北側溝A期の堆積土から非ロクロ調整の土師器環(第47図1)・甕、ロクロ調整の土師器環・甕、調整不明の土師器甕、須志器環が出土している。

北側溝B期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器環(第47図4)、ロクロ調整の土師器甕、須志器環・甕・蓋、有孔土製円板(第151図1)、丸瓦、平瓦、馬歯が出土している。須志器環の底部は回転糸切り後手持ちへラケズリされるものとへラ切り無調整のものがある。

北側溝C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器環(第47図6)・甕、土師器



第45図 SX710北2a道路跡平面図

坏、須恵器坏（第47図7）・高台坏・甕・壺蓋（第47図8）、石帯巡方（第150図5）、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期の平瓦が出土している。土師器坏の底部は回転糸切り後手持ちへラケズリされているものが含まれている。須恵器坏の底部は回転糸切り後手持ちへラケズリされるもの、へら切り無調整のもの、手持ちへラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。また須恵器坏の中には内面に油煙の付着しているものもみられる。須恵器甕には内面に漆の付着しているものがあり、この破片は北2a西3交差点の路面Ⅱ構築土から出土したものと接合している。

北側溝D期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏・高台坏（第47図10）・甕、調整不明の土師器甕、須恵器坏（第47図9）・高台坏・蓋・甕・壺・長頸壺（第47図11）、丸瓦、平瓦、馬歯が出土している。土師器坏の底部は回転糸切り無調整のものと回転糸切り後手持ちへラケズリが施されているものがある。土師器高台坏には底部外面に「丈」の墨書のみられるものがある。須恵器坏の底部は回転糸切り後手持ちへラケズリされるもの、へら切り無調整のもの、へら切り後手持ちへラケズリされるものがある。須恵器甕には会津大戸窯の製品とみられるものが含まれている。

北側溝E期の堆積土からはロクロ調整の土師器甕、須恵器甕、多賀城跡政庁第Ⅳ期の平瓦が出土して

いる。

北側溝F期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・鉢（第47図14）・甕、ロクロ調整の土師器坏・甕・甗（第47図15）、調整不明の土師器甕、須恵器坏（第47図12）・高坏・高台坏・双耳坏・甕・壺・壺G、須恵系土器坏（第47図13）・高台坏、灰釉陶器埴（第149図2・13）、ミニチュア土器坏（第47図16）、土製円板（第152図4）、製塩土器、多賀城跡政庁第IV期の歯車状文軒丸瓦427（第153図6）、多賀城跡政庁第II期・第III期の丸瓦、多賀城跡政庁第II期～第IV期の平瓦、砥石（第158図22）、鉄滓が出土している。このうちロクロ調整の土師器坏の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるものが少量含まれる。須恵器坏の底部は回転糸切り無調整、ヘラ切り無調整、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器壺には会津大戸窯の製品とみられるものがある。灰釉陶器埴はいずれも黒埴90号窯式期のものである。

南側溝B期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・鉢・甕、須恵器坏・高台坏・甕が出土している。須恵器坏の底部はヘラ切り無調整のものと手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。

南側溝C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕（第48図4）・鉢（第48図3）、須恵器坏（第48図1）・鉢（第48図5）・甕・壺、重弁蓮花文軒丸瓦（第153図1）、丸瓦（第154図17）、平瓦が出土している。土師器甕の中には漆容器として使われていたものも含まれる。須恵器坏の底部は静止糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後ナデや手持ちヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。丸瓦には下伊場野窯製品とみられるものも含まれる。

南側溝D期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏（第48図6・7）、須恵器坏（第48図8）・蓋（第48図9）・甕、多賀城跡政庁第II期の丸瓦、多賀城跡政庁第IV期の平瓦（第154図-24）、馬歯が出土している。ロクロ調整の土師器坏の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリされているものが少量含まれる。須恵器坏の底部は回転糸切り無調整とヘラ切り無調整とがある。

南側溝E期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏（第49図1～5）・高台坏（第49図10）・甕、調整不明の土師器坏・甕、須恵器坏（第49図6・7）・高台坏（第49図9）・蓋・甕・壺・長頸壺、須恵系土器坏（第49図8）、製塩土器、重弁蓮花文軒丸瓦（第153図3）、多賀城跡政庁第II期の丸瓦、多賀城跡政庁第II期の平瓦、砥石（第157図10）、牛または馬の四肢骨、馬歯が出土している。ロクロ調整の土師器坏、須恵器坏ともに底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリを施されるものがわずかに含まれる。土師器坏には体部外面に「又」、「東」の墨書が書かれているものがある。

南側溝F期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器坏・高台坏・甕（第49図15）、調整不明の土師器甕、須恵器坏・高台坏・鉢・甕・壺・長頸壺、須恵系土器坏（第49図12・13）・高台坏（第49図14）、灰釉陶器埴（第149図15）、ミニチュア土器壺（第49図16）、製塩土器、多賀城跡政庁第II期の丸瓦、多賀城跡政庁第II期～第IV期の平瓦、砥石（第156図3）が出土している。土師器坏の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリを施されるものが僅かに含まれる。

須恵器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。灰軸陶器坏は黒笹90号窯式期のものである。

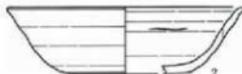
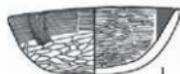
路面Ⅰの波板状圧痕からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏（第50図1）・甕・壺、丸瓦（第153図12）が出土している。このうち土師器坏の底部は回転糸切り後手持ちヘラケズリされている。須恵器坏の底部はヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後ナデられているものがある。須恵器壺には会津大戸窯の製品とみられるものが含まれる。丸瓦には「伊」の刻印がなされているものがある。

路面Ⅰの構築土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、調整不明の土師器甕、須恵器坏（第50図1）・蓋・甕・壺、鉄滓が出土している。須恵器坏の底部はヘラ切り後手持ちヘラケズリされている。

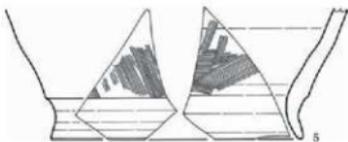
路面Ⅱの構築土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏（第50図2）・鉢（第50図6）・甕、須恵器坏（第50図3～5）・高坏・稜塊・坏蓋・鉢・甕・壺、灰軸陶器坏（第149図3・7）・壺、ミニチュア土器坏、丸瓦、多賀城跡政庁Ⅱ期の平瓦が出土している。このうち土師器坏の底部は回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるものがある。須恵器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後ナデられているもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるものがある。また外面に墨書「立」カの墨書と不明墨書のみられるものがある。

路面Ⅲの構築土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏・甕、調整不明の土師器坏・高坏、須恵器坏（第50図7・8）・高台坏・蓋・鉢・甕・壺、土鍾（第151図6）、丸瓦、平瓦が出土している。このうち土師器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるものがある。須恵器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、静止糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後ナデの施されるものがある。

路面堆積土・確認面からは非ロクロ調整の土師器坏（第51図1）・高坏（第51図4）・鉢（第51図16）・甕、ロクロ調整の土師器坏（第51図2・3）・高台坏・甕（第51図17）・小型甕・土師器櫃把手（第51図18）、調整不明の土師器坏・甕、須恵器坏（第51図5・6・9）・高台坏（第51図12）・稜塊・蓋・鉢・甕・壺・長頸壺（第51図20）、須恵系土器坏（第51図7・8）・高台坏（第51図13・14）・台付鉢（第51図15）、灰軸陶器坏（第149図5・6・8・12・16）・壺（第149図24）、緑軸陶器稜塊（第148図5）、製塩土器、土製円板（第152図6～9）、土鍾（第151図4）、輪羽口、丸瓦、多賀城跡政庁Ⅱ期～Ⅳ期の平瓦、砥石（第158図24、第159図25）、鉄滓、馬歯が出土している。このうち土師器坏の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものが含まれる。須恵器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、静止糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。灰軸陶器は黒笹14号、90号窯式期のものである。



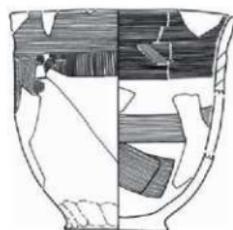
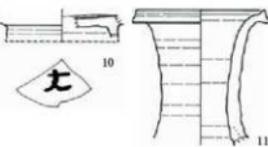
北2a北側溝A期



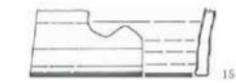
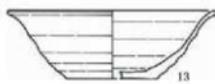
北2a北側溝B期



北2a北側溝C期



北2a北側溝D期



北2a北側溝F期

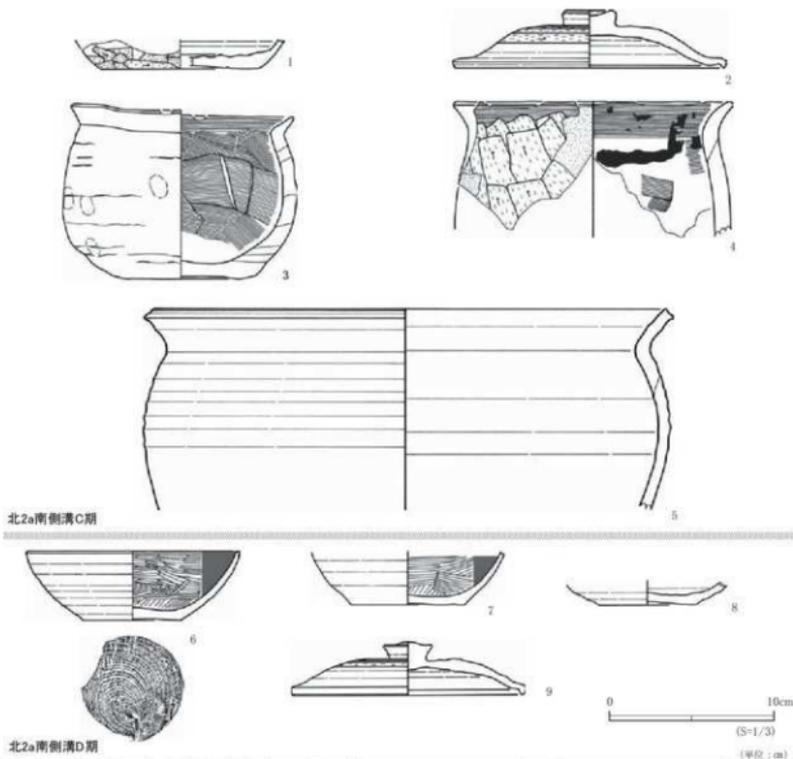
No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録登録
1	土師器・杯	北2a北側溝A期	10.8	4.2	4.2	ほぼ完整	外面:ヨコナダ→ナダ、ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	50-1 R253
2	須恵器・杯	北2a北側溝A期	13.8	4.4	1/4	口縁部~底面片	内外面:ヨコナダ 底面:ヘラ切り	R294
3	土師器・杯	北2a北側溝B期	(10.5)	(3.0)		口縁部~底面片	外面:ヨコナダ マメツ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	R299
4	土師器・杯	北2a北側溝B期				口縁部~底面片	外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	R213
5	土師器・瓶	北2a北側溝B期	(11.4)			体下部~底面片	内外面:ヨコナダ→ナダ	R295
6	土師器・杯	北2a北側溝C期	13.0	7.0	4.5	2/3	外面:ヨコナダ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 底面:回転糸切り(2度切り)	50-2 R217
7	須恵器・杯	北2a北側溝C期	14.4	10.0	3.5	1/3	外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズ 内面:ヨコナダ 底面:大輪 底面:ヘラ切り→手持ちヘラケズ	R225
8	須恵器・壺蓋	北2a北側溝C期	12.6			口縁部~体面1/3	外面:ヨコナダ→回転ヘラケズ 内面:ヨコナダ	R222
9	須恵器・杯	北2a北側溝D期	14.2	6.5	4.0	3/4	内外面:ヨコナダ 底面:回転糸切り	50-7 R224
10	土師器・盃台片	北2a北側溝D期				壺蓋・盃台片	外面:ヨコナダ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 底面:墨書「上」	50-12 R225
11	須恵器・長頸壺	北2a北側溝D期	8.2			口頸部完整	内外面:ヨコナダ 自然釉付着	R228
12	須恵器・杯	北2a北側溝E期	13.8	8.5	3.9	2/3	内外面:ヨコナダ 内面:火はね底 底面:ヘラ切り	50-8 R238
13	須恵器・土師器・杯	北2a北側溝E期	12.8	5.7	4.3	1/2	内外面:ヨコナダ 底面:回転糸切り	50-10 R229
14	土師器・鉢	北2a北側溝F期	13.6	6.3	13.6	1/2	外面:ハケメ→ヨコナダ、ナダ、ユビオキエ 内面:ハケメ→ヘラナダ 底面:本家製	50-19 R237
15	土師器・瓶	北2a北側溝F期				体下部~底面片	内外面:ヨコナダ	R230
16	コテア上蓋・壺	北2a北側溝F期	5.6	5.4	2.4	3/4	外面:ユビナダ 内面:ナダ	50-22 R232

第47図 SX6510・710北2a道路跡出土土器(1) -北側溝A・B・C・D・F期-

【北2a道路跡 (SX710東西道路跡)】(第45・46図 図版22)

B区中央部やや南寄りで長さ約14mにわたって検出した。A区で検出したSX6510東西道路跡の西延長部にあたり、今回の調査による北2a道路跡の検出総長は約72mである。地山面およびSD6628区画溝跡堆積土上面で検出した。SD6628区画溝跡と重複しこれより新しい。側溝心を結んだ道路の方向は西で南に約3°偏している。

北側溝SD6617では3時期(A期→B期→C期)、南側溝SD6627では5時期(A期→B期→C期→D期→E期)の変遷があり、路面Ⅰが側溝A期・B期、路面Ⅱが側溝C期、路面Ⅲが側溝D・E期に対応している。北側溝と南側溝の心の間距離はA期が4.5m、B期が5.5m、C期が5.1m、路面幅はA期が4.1m、B期が4.6m、C期が4.3mである。

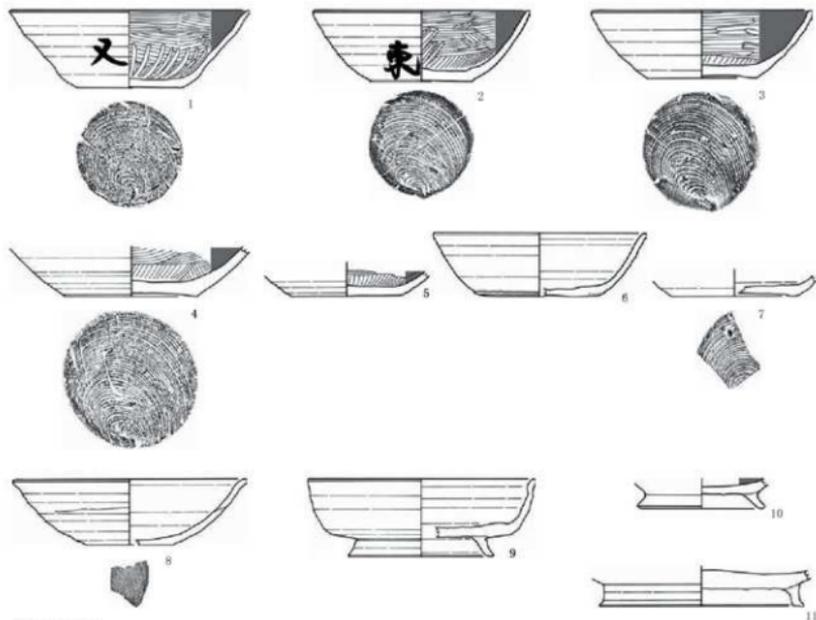


北2a南側溝C期

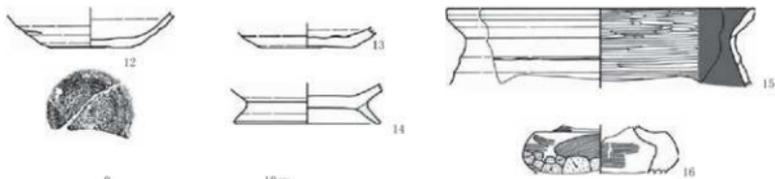
北2a南側溝D期

No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	特徴		写真図録	登録		
							外	内				
1	頸部・杯	北2a南側溝C期	10.8		4.2	体下部～底面1/4	外面：ロクロナデ→手捏しヘラケズリ	内面：ロクロナデ	底面：漆と赤土→手捏しヘラケズリ	縁部：漆→ヘラケズリ	B94	
2	頸部・蓋	北2a南側溝C期	16.8		3.6	1/3	外面：ロクロナデ→手捏しヘラケズリ	内面：ロクロナデ	リング状つまみ		B290	
3	土胴部・鉢	北2a南側溝C期	13.6	7.0	10.8	ほぼ完整	外面：ユビオケテ	輪部底	マメテ	内面：ヨコナデ→ヘラケズリ・ナデ	50-18	B95
4	土胴部・蓋	北2a南側溝C期	(17.0)			口縁部～体部片	外面：ヨコナデ→手捏しヘラケズリ	内面：ヨコナデ→ヘラケズリ	縁付巻		57-2	B93
5	頸部・鉢	北2a南側溝C期	(22.0)			口縁部1/3～体下部	内外面：ロクロナデ					B98
6	土胴部・杯	北2a南側溝D期	13.0	6.1	4.3	2/3	外面：ロクロナデ	内面：ヘラミガキ→藍色地肌	底面：回転成形		57-3	B92
7	土胴部・杯	北2a南側溝D期		7.0		体部～底面2/3	外面：ロクロナデ	内面：ヘラミガキ→藍色地肌	底面：回転成形			B91
8	頸部・杯	北2a南側溝D期		6.2		体下部～底面1/2	内外面：ロクロナデ	底面：回転成形				B94
9	頸部・蓋	北2a南側溝D期	14.2		3.3	1/3	外面：ロクロナデ→手捏しヘラケズリ	内面：漆	リング状つまみ			B95

第48図 SX6510・710北2a道路跡出土土器(2) -南側溝C・D期-



北2a南側溝E期



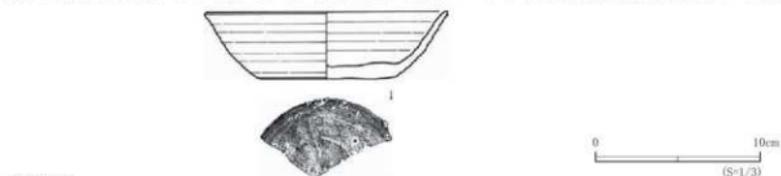
北2a南側溝F期

No.	種別	部位	口径	底径	器高	残存	特徴		(単位: cm)		
							数量	登録	貯蔵国庫	登録	
1	土師器・杯	北2a南側溝E期	14.7	6.4	4.8	ほぼ完了	外面: ロクロナデ 墨書「又」	内面: ヘラミガキ→黒色処理	底部: 回転糸切り	50-5	R98
2	土師器・杯	北2a南側溝E期	13.3	6.2	4.9	3/4	外面: ロクロナデ 墨書「甕」	内面: ヘラミガキ→黒色処理	底部: 回転糸切り	50-4	R99
3	土師器・杯	北2a南側溝E期	13.5	6.7	4.2	1/2	外面: ロクロナデ	内面: ヘラミガキ→黒色処理	底部: 回転糸切り		R102
4	土師器・杯	北2a南側溝E期		8.2		体下部～底部定形	外面: ロクロナデ	内面: ヘラミガキ→黒色処理	底部: 回転糸切り		R101
5	土師器・杯	北2a南側溝E期		6.6		体下部～底部2/3	外面: ロクロナデ 陶輪ヘラミガキ→黒色処理	底部: 切り難し不明→手打ちヘラミガキ			R291
6	須恵系土器・杯	北2a南側溝E期	13.0	7.2	3.9	1/3	内外面: ロクロナデ	底部: ヘラ切り			R292
7	須恵系土器・杯	北2a南側溝E期		18.0		体下部～底部1/6	内外面: ロクロナデ	底部: 回転糸切り			R194
8	須恵系土器・杯	北2a南側溝E期	12.6			1/6	内外面: ロクロナデ	底部: 回転糸切り			R107
9	須恵系土器・高台杯	北2a南側溝E期	14.0	8.0	4.8	1/2	内外面: ロクロナデ	底部: ヘラ切り→付高台		50-15	R96
10	土師器・高台杯	北2a南側溝E期		7.8		底部・高台定形	内外面: ロクロナデ	底部: 回転糸切り→付高台			R106
11	須恵系土器・高台杯	北2a南側溝E期		12.6		底部～高台1/3	内外面: ロクロナデ	底部: 切り難し不明→陶輪ヘラミガキ→付高台 転用碗		50-16	R100
12	須恵系土器・杯	北2a北側溝F期		5.2		体下部～底部3/4	内外面: ロクロナデ	底部: 回転糸切り			R111
13	須恵系土器・杯	北2a北側溝F期		5.4		体下部～底部1/3	内外面: ロクロナデ	底部: 回転糸切り			R112
14	須恵系土器・高台杯	北2a北側溝F期	13.6	6.3	13.6	底部～高台1/4	内外面: ロクロナデ	底部: 回転糸切り→付高台			R117
15	土師器・甕	北2a北側溝F期 (R1, 9)				口縁部～体上部1/4	外面: ロクロナデ	内面: ヘラミガキ→黒色処理			R113
16	ミコトア上蓋・甕	北2a北側溝F期				胴下部～体上部1/3	外面: ヘラミガキ→ヘラミガキ	内面: ナデ		50-21	R119

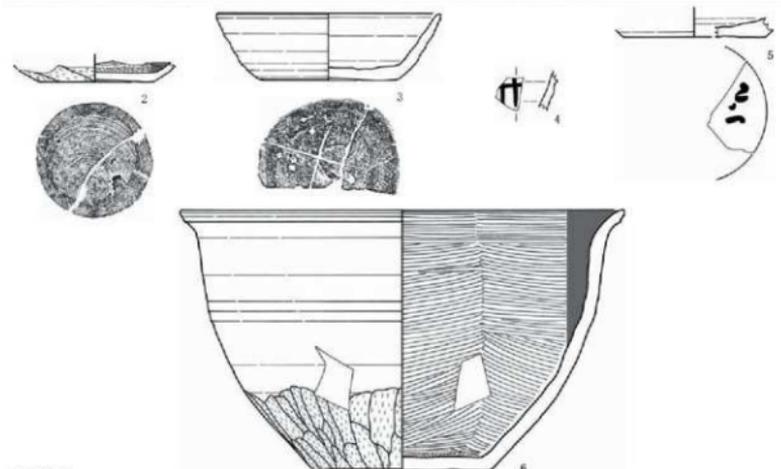
第49図 SX6510・710北2a道路跡出土土器(3) -南側溝E・F期-

調査区内では路面が削平されており平面的に路面の状況を把握することはできなかった。調査区南壁断面から路面構築土の状況を観察すると、路面Ⅰでは地山土によって厚さ20~40cmにわたって大規模に整地されているのに対し、路面Ⅱ・Ⅲでは路面の高上げはそれぞれ厚さ10cm前後にとどまっている。

北側溝の規模は、A期が上幅0.7m、下幅0.3~0.5m、深さ50cm、B期が上幅1.0m、下幅0.3~0.4m、深さ50cm、C期が上幅0.7~1.1m、下幅0.3~0.6m、深さ50cmである。方向は心線でみると、A期が西で南に約9°、B期が西で南に約7°、C期が西で南に約6°偏している。断面形はA期・C期が逆台形状で、B期では上が開いたU字状である。堆積土は、地山小ブロックを多量に含む褐色粘質シルト、黄



北2a路面Ⅰ



北2a路面Ⅱ



北2a路面Ⅲ

No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図例	登録
1	須恵器・杯	北2a路面Ⅰ	14.7	8.2	4.1	1/2	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→手持ちヘラケズリ		K340
2	土師器・杯	北2a路面Ⅱ		7.2		残下部～底部完形	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミダキ→褐色粘土 底部：須恵器→手持ちヘラケズリ		K343
3	須恵器・杯	北2a路面Ⅱ	13.6	8.5	4.1	1/2	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 焼成前ヘラミダキ		K344
4	須恵器・杯	北2a路面Ⅱ				残部片	内外面：ロクロナデ 外面：塗土	50-14	K341
5	須恵器・杯	北2a路面Ⅱ		(8.6)		残部片	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 塗土「立」a	50-13	K345
6	土師器・鉢	北2a路面Ⅱ	27.2	10.6	16.0	3/4	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミダキ→褐色粘土 底部：手持ちヘラケズリ→ナデ	49-1	K346
7	須恵器・杯	北2a路面Ⅲ	(12.4)	(7.2)	3.6	1/4	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ		K353
8	須恵器・杯	北2a路面Ⅲ				口縁部～底部片	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り		K354

第50図 SX6510・710北2a道路跡出土土器(4)-路面Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-



No.	種別	部位	口径	底径	器高	残存	特徴	行真図録 登録
1	土師器・杯	縁部面				口縁部～体部片	外面:ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面:ヨコナダ 簡素系土師器	R275
2	土師器・杯	縁部増積土1層	(12.8)	(5.4)	4.6	1/2	外面:ロクロナダ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 底面:回転糸切り	R312
3	土師器・杯	縁部面		(5.4)		体下部～底面1/3	外面:ロクロナダ→ナシ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 底面:回転糸切り→ナシ コツ除	R438
4	土師器・高台	縁部面				胴部片	内外面:ヨコナダ→黒色処理 高さし孔あり	R276
5	須恵系土器・杯	縁部増積土1層	13.6	5.5	4.3	2/3	内外面:ロクロナダ 底面:回転糸切り	R214
6	須恵系土器・杯	縁部増積土1層	12.4	6.1	3.5	4/5	内外面:ロクロナダ 底面:ヘラ切り	R220
7	須恵系土器・杯	縁部増積土2層			5.8	体下部～底面1/3	内外面:ロクロナダ 底面:回転糸切り	R210
8	須恵系土器・杯	縁部増積土2層		4.9		体下部～底面定形	内外面:ロクロナダ 底面:回転糸切り	R200
9	須恵系土器・杯	縁部面				体下部～底面片	内外面:ロクロナダ 外面:黒塗	R206
10	須恵系土器・鉢	縁部増積土1層				口縁部片	内外面:ロクロナダ	R231
11	須恵系土器・不明	縁部増積土1層				口縁部片	内外面:ロクロナダ	R227
12	須恵系土器・高台	縁部増積土1層	14.2	8.2	9.0	3/4	外面:ロクロナダ→回転ヘラケズリ 内面:ロクロナダ 底面:回転糸切り→付高台	50-17 R219
13	須恵系土器・高台	縁部増積土2層		(10.4)		底面～高台1/4	内外面:ロクロナダ 底面:回転糸切り→付脚高台	R207
14	須恵系土器・高台	縁部増積土2層		(8.0)		底面～高台1/4	内外面:ロクロナダ 底面:回転糸切り→付高台	R208
15	須恵系土器・付台	縁部増積土1層	27.6			胴部定形高台欠部	内外面:ロクロナダ 底面:回転糸切り→付高台	49-2 R218
16	土師器・鉢	縁部増積土2層	(21.0)			口縁部1/4～体部	外面:ハケメ→ヨコナダ→黒塗 内面:ハケメ→ヨコナダ	R211
17	土師器・壺	縁部増積土1層	(20.4)			口縁部1/3～体上部	内外面:ロクロナダ	R213
18	土師器・瓶	縁部面				把手部片	ユビオサケ	50-20 R217
19	須恵系土器・瓶	縁部面				把手部片	手持ちヘラケズリ	R1091
20	須恵系土器・片断	縁部増積土1層				胴下部1/2～体上部	外面:ロクロナダ→カキメ リング状突部 内面:ロクロナダ 2段作り	R221

第51図 SX6510-710北2a道路跡出土土器(5) -路面増積土・確認面-

灰色粘質シルト・シルト、黒褐色粘質シルト、灰色粘質シルトがいずれも自然堆積している。

南側溝の規模は、A期が上幅0.4m、下幅0.2m、深さ20cm、B期が上幅1.3m、下幅0.6m、深さ50cm、C期が上幅1.0m、下幅0.4m、深さ55cm、D期が上幅1.8m、下幅0.5m、深さ80cm、E期が上幅1.3m、下幅0.4m、深さ40cmである。方向は心線でみると、A期が西で北に約1°、D期が西で南に約2°偏している。B期・C期・E期が真東西方向である。断面形は、A期が上に開いたU字状で、B期・C期・D期・E期が逆台形状である。堆積土は、炭化物、焼土粒を含む褐灰色シルト、地山ブロックを多量に含む褐灰色粘質シルト、炭化物粒、地山粒を多量に含む黒褐色粘質シルトなどがいずれも自然堆積しており、D期・E期の堆積土中には灰白色火山灰ブロックが含まれる。

遺物は北側溝A期の堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏・甕、調整不明の土師器甕、須恵器坏（第47図2）・高台坏・甕・壺、製塩土器、丸瓦が出土している。このうち土師器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器坏の底部はヘラ切り無調整である。

北側溝B期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏（第47図3）・甕、ロクロ調整の土師器坏・甕・甔（第47図5）、調整不明の土師器甕、須恵器坏・蓋・鉢・甕、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期の平瓦が出土している。このうち土師器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものがある。須恵器坏の底部はヘラ切り無調整である。

北側溝C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏、調整不明の土師器甕、須恵器坏・高坏・蓋・甕・壺、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅰ期～第Ⅲ期の平瓦、輪羽口が出土している。このうち土師器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものがある。須恵器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のものがある。

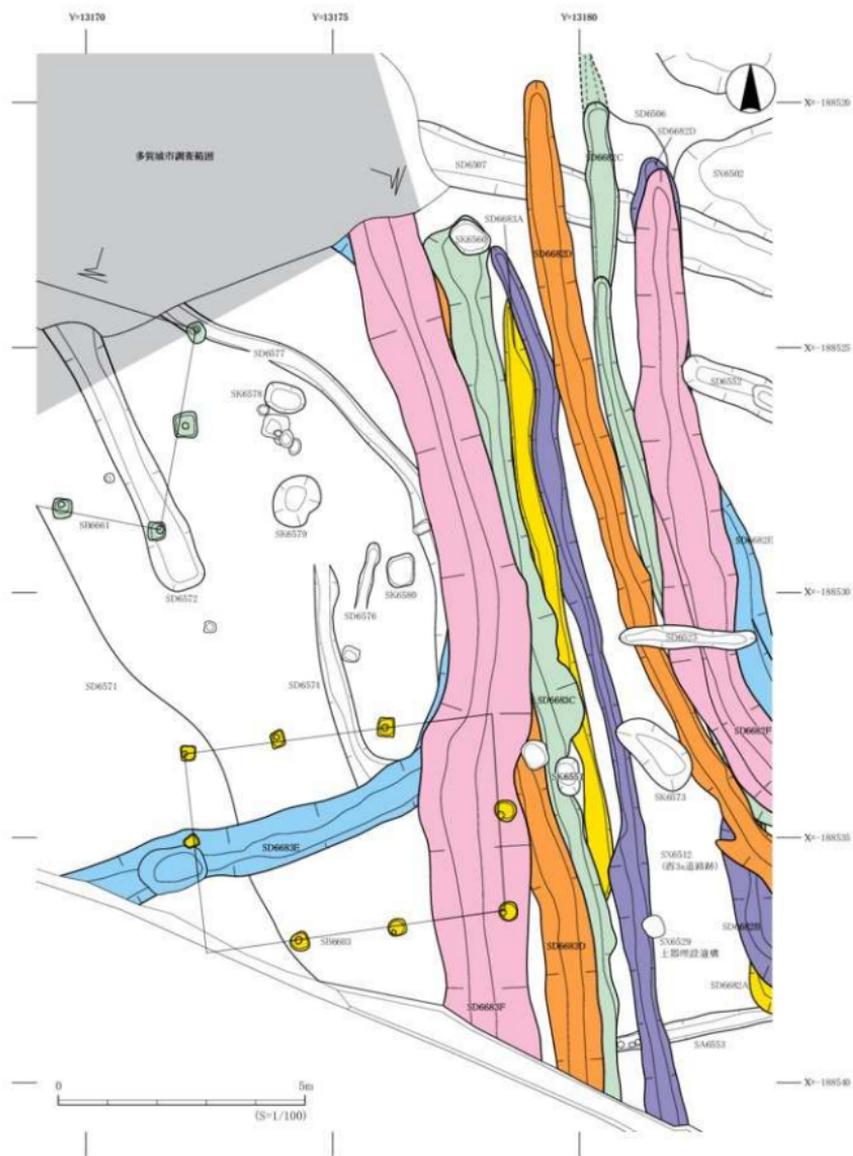
南側溝C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏・高台坏・甕、調整不明の土師器甕、須恵器坏・蓋（第48図2）・鉢・甕・壺、丸瓦が出土している。このうち土師器坏の底部は回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。

南側溝E期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏（第49図5）・甕、調整不明の土師器甕、須恵器坏（第49図6）・高台坏・甕・壺、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅰ期・第Ⅱ期の平瓦が出土している。このうち土師器坏の底部は手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り無調整のもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。また須恵器坏の中には内外面または外面に油煙の付着しているものがみられる。

（2）北2a・西3a道路跡交差点（第41・52・54図 図版4～6）

北2a道路跡、西3a道路跡それぞれ側溝で6時期（A期～F期）、路面で3時期（Ⅰ期～Ⅲ期）の変遷があり、E期・F期の側溝には灰白色火山灰の堆積がみられる。

各道路跡の接続状況を見ると、側溝A期～D期・F期で西3a道路跡は北2a道路跡に「L」字形に接続し、側溝E期では逆「T」字形に接続している。なお、B区で北2a道路跡の延長部分を確認している。



第52図 SX710北2a道路跡・SX6512西3a道路跡交差点平面図

このことから、側溝A期～D期・F期で北2a道路跡は、交差点西側においては、調査区外にあたる南方にずれた位置から西に延びているものと考えられる。西3a道路跡の交差点南側における延長部は未確認である。

遺物は北2a道路跡北側溝、西3a道路跡東側溝の交差点部分においてB期の堆積土から非ロクロ調整の土師器鉢・小型甕・甕、須恵器杯・高台杯・鉢・甕・壺、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期の平瓦（第154図28）が出土している。このうち須恵器杯の底部はヘラ切り無調整のものと手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。平瓦には「物」と刻印されているものが含まれる。

C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・高台杯・蓋・甕・壺、転用硯（第150図11）、丸瓦、平瓦、砥石（第158図18）が出土している。このうち土師器杯の底部は回転糸切り後手持ちヘラケズリされている。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるものがある。

D期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・甕・壺、丸瓦が出土している。このうち須恵器杯の底部は回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるものがある。

このほか、F期の堆積土からは鉄滓が、路面Ⅱの構築土からは馬歯が出土している。

（3）北2a・西3道路跡交差点（第29・53～58図 図版3・5・6）

北2a道路跡、西3道路跡それぞれ側溝で6時期（A期～F期）、路面で3時期（Ⅰ期～Ⅲ期）の変遷があり、E期・F期の側溝には灰白色火山灰の堆積がみられる。

各道路跡の接続状況を見ると、西3道路跡は調査区内において北2a道路跡の北側には延びておらず、「L」字形の接続となっている。ただし、交差点東側に北2a道路跡が延びていると想定した場合は「T」字形の接続も考えられる。側溝のD期・F期では西3道路跡の路面を跨いで東西側溝を結ぶ溝が掘り込まれている。

遺物は北2a道路跡南側溝、西3道路跡西側溝の交差点部分においてB期の堆積土から非ロクロ調整の土師器甕（第55図4）・小型甕（第55図3）、須恵器杯（第55図1）・高台杯（第55図2）、馬歯が出土している。須恵器杯の底部は手持ちヘラケズリ再調整により切り離しが不明のものである。須恵器高台杯は、底部の切り離しが回転糸切りで、底部外面に不明墨書がみられる。C期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・鉢・甕（第55図18）、ロクロ調整の土師器杯（第55図5・6・7）・鉢（第55図15・16）・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯（第55図8～13）・小型杯（第55図14）・高台杯・蓋・鉢（第55図17）・甕・壺・長頸壺（第55図20）・甕（第55図19）、円面硯（第150図8）、土製円板（第152図1）、多賀城跡政庁第Ⅱ期の丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅰ期と第Ⅱ期の平瓦（第154図28）、鉄滓、砥石（第158図18）、馬歯が出土している。このうち土師器杯の底部は回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後ナデられているもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整とヘラ切り後ナデられているものが多く、それ以外では回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがみられる。また須恵器杯の中には内面に漆の付着しているものがある。須恵

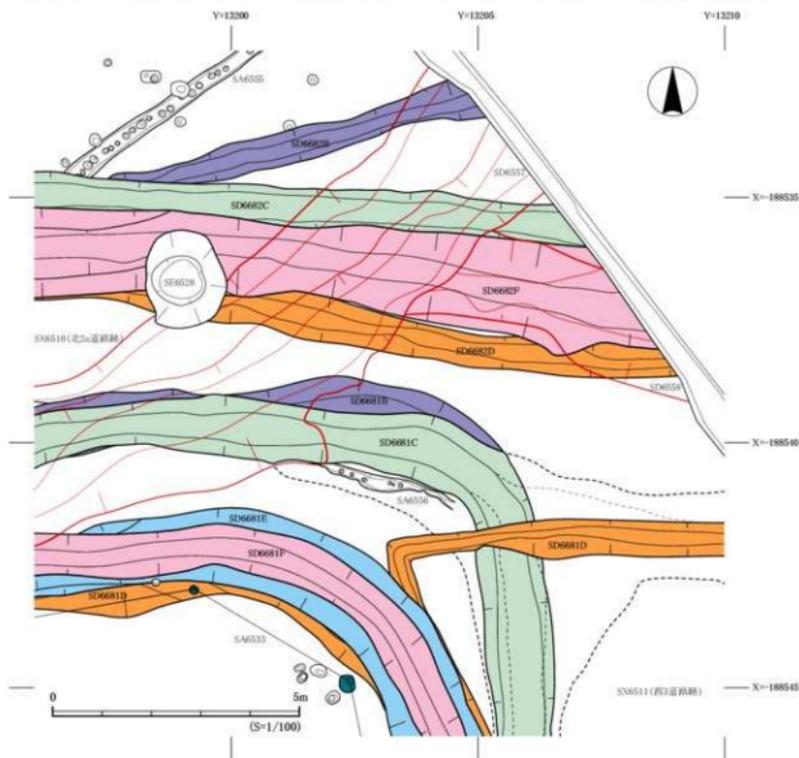
器鉢は内外面ロクロナデのち部分的にヘラミガキが施されている。平瓦には「物」の刻印瓦が含まれている。

D期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏、須恵器高台坏・甕、馬歯が出土している。

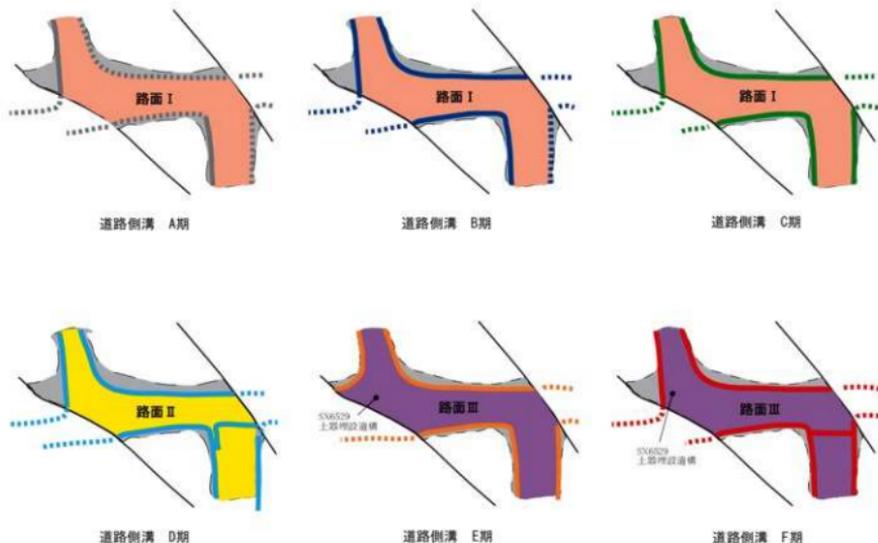
E期の堆積土からはロクロ調整の土師器坏・高台坏、須恵系土器坏、多賀城跡政庁第IV期の平瓦が出土している。このうち土師器坏の底部は回転系切り無調整のものである。

F期の堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器坏（第56図21・22）・高台坏（第56図24）・甕・瓶（第56図25・26）、須恵器坏・甕・壺G（第56図27）、須恵系土器坏（第56図23）、多賀城跡政庁第II期の丸瓦、平瓦、砥石、鉄滓が出土している。このうち土師器坏の底部は回転系切り無調整のものが主体となり、回転系切り後手持ちヘラケズリされるものと回転系切り後回転ヘラケズリされるものがごくわずかに含まれる。須恵器坏の底部は回転系切り無調整のものとヘラ切り後手持ちヘラケズリされるものがある。

交差点の路面I構築土からは非ロクロ調整の土師器坏・鉢・甕、ロクロ調整の土師器坏、須恵器坏・



第53図 SX6510北2a道路跡・SX6511西3道路跡交差点平面図

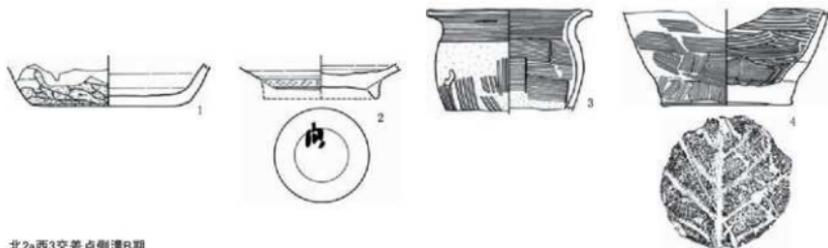


第54図 北2・西3a道路跡交差点、北2・西3道路跡交差点の変遷模式図

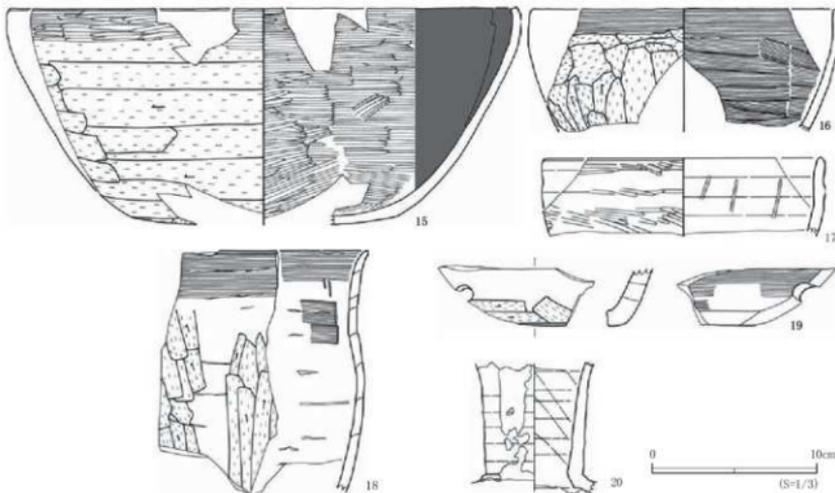
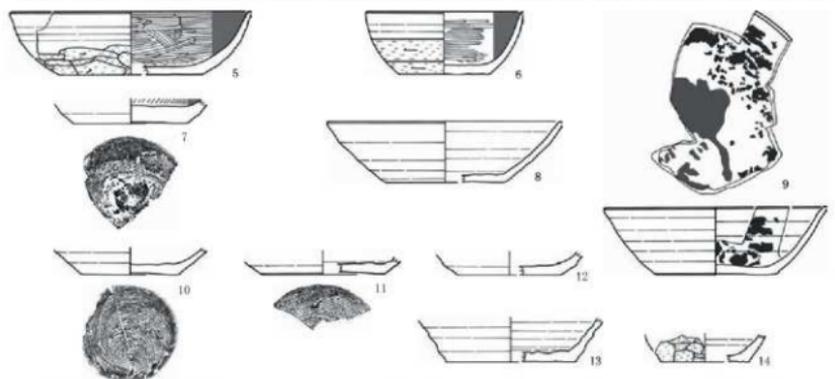
蓋・鉢（第57図1）・甕、多賀城跡政庁第1期丸瓦、平瓦、馬歯が出土している。このうち須恵器坯の底部はヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。

路面Ⅱの構築土からは非ロクロ調整の土師器坯・甕（第57図9）、ロクロ調整の土師器坯・甕、調整不明の土師器坯・甕、須恵器坯（第57図2～6）・高台坯・壺蓋（第57図7）・鉢（第57図8）・甕・壺・小壺、土製円板（第152図11・12）、重弁蓮花文軒丸瓦（第153図5）、丸瓦、多賀城跡政庁第1期・第Ⅲ期の平瓦、馬歯が出土している。このうち非ロクロ調整の土師器坯には有段九底のものと無段で平底気味のものがある。ロクロ調整の土師器坯の底部は、回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器坯の底部はヘラ切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものが含まれる。また須恵器坯の中には内面に漆の付着しているもの、外面に「井」・「〇」カの墨書のみられるものがある。須恵器甕には内面に漆の付着しているものがみられる。

路面Ⅲの構築土からは非ロクロ調整の土師器坯・甕、ロクロ調整の土師器坯・高台坯・鉢・甕、内面をヘラミガキされた須恵器坯（第57図10）・高台坯（第57図11・12）・後埵・双耳坯（第57図13）・蓋・鉢・甕・壺・壺G（第57図14・15）、須恵系土器坯、灰釉陶器坯、多賀城跡政庁第1期・第Ⅱ期の丸瓦（第57図13・16）、多賀城跡政庁第Ⅱ期・第Ⅲ期の平瓦、鉄滓、砥石（第157図17）が出土している。この

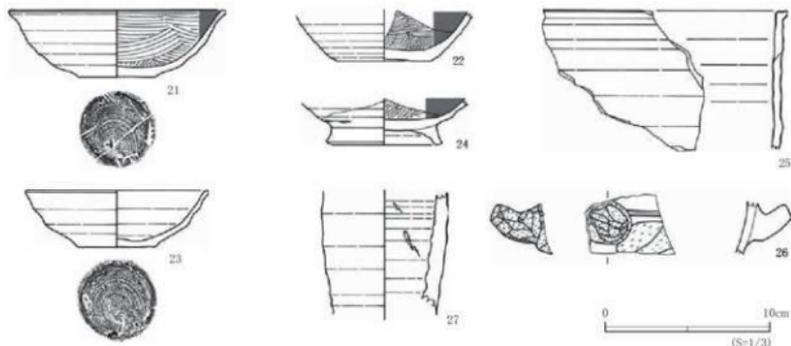


北2a西3交差点側溝B期



北2a西3交差点側溝C期

第55図 北2a・西3道路跡交差点出土土器(1) -側溝B・C期-



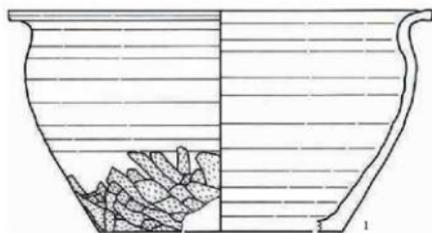
北2a・西3道路跡交差点側溝F期

No.	種別	形状	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図版	登録
1	須恵器・坏	側面図	(9.4)			体下部～底部1/3	外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底面: 磨り減らした手持ちヘラケズリ		K245
2	須恵器・高台坏	側面図				体下部～底部完形	外面: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底面: 回転糸切り→高台 墨目	51-9	K246
3	土師器・小型甕	側面図	(10.6)			口縁部1/4～体下部	外面: ハケメ・ヨコナデ マメツ 内面: ヨコナデ→ヘラケズリ マメツ		K243
4	土師器・甕	側面図	8.0			体下部～底部完形	外面: ナデ・ユビナカシ 内面: ハケメ・ヘラケズリ 底面: 大塚		K244
5	土師器・坏	側面図	(14.8)	(8.8)	3.9	1/4	外面: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面: ハラミ(目)→回転糸 底面: 磨り減らした手持ちヘラケズリ	51-10	K134
6	土師器・坏	側面図	(9.4)	5.5	3.9	1/3	外面: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面: ハラミ(目)→染色処理 底面: ハラミ(目)→回転ヘラケズリ	51-11	K123
7	土師器・坏	側面図		7.0		体下部～底部1/4	外面: ロクロナデ 内面: ハラミ(目)→染色処理 底面: ハラミ(目)→ナデ		K124
8	須恵器・坏	側面図	(14.4)	7.2	3.8	1/4	内外面: ロクロナデ 外面: 磨り減らした底面: ハラミ(目)		K141
9	須恵器・坏	側面図	(13.7)	(7.0)	4.2	1/3	内外面: ロクロナデ 底面: 漆付着 底面: ハラミ(目)	57-1	K137
10	須恵器・坏	側面図		5.8		体下部～底部完形	内外面: ロクロナデ 底面: 漆付着 底面: ハラミ(目)		K142
11	須恵器・坏	側面図		(7.6)		体下部～底部1/4	内外面: ロクロナデ 底面: 回転糸切り		K120
12	須恵器・坏	側面図		(6.2)		体下部～底部1/4	内外面: ロクロナデ 底面: 回転糸切り		K140
13	須恵器・坏	側面図		(7.9)		体下部～底部1/2	内外面: ロクロナデ 底面: ハラミ(目)→ナデ		K139
14	須恵器・小型坏	側面図	(5.4)			体下部～底部1/4	外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底面: 回転糸切り		K126
15	土師器・鉢	側面図	(20.4)	(16.0)		1/5	外面: 手持ちヘラケズリ→ハラミ(目) 内面: ハラミ(目)→染色処理 底面: 手持ちヘラケズリ	51-16	K133
16	土師器・鉢	側面図	(18.2)			口縁部1/6～体部	外面: ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ヨコナデ→ヘラケズリ	51-18	K130
17	須恵器・鉢	側面図	(16.9)			口縁部1/4～体上部	内外面: ロクロナデ→ハラミ(目)	51-15	K129
18	土師器・甕	側面図				外面: ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 輪縁部 内面: ヨコナデ→ヘラケズリ		K132	
19	須恵器・甕	側面図				体下部完形	外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ロクロナデ→ナデ 体下部完形	51-21	K143
20	須恵器・長頸壺	側面図					外面: ロクロナデ リング状突起 自然漆付着 内面: ロクロナデ 縁り底		K127
21	土師器・坏	側面図	(13.2)	4.6	4.1	2/3	外面: ロクロナデ 内面: ハラミ(目)→染色処理 底面: 回転糸切り→縁状圧痕	50-6	K241
22	土師器・坏	側面図		5.8		体下部～底部完形	外面: ロクロナデ 内面: ハラミ(目)→染色処理 底面: 回転糸切り		K147
23	須恵系土師器・坏	側面図	11.2	4.7	3.5	ほぼ完形	内外面: ロクロナデ 底面: 回転糸切り	50-11	K110
24	土師器・高台坏	側面図		7.0		器下部～器口部	外面: ロクロナデ 内面: ハラミ(目)→染色処理 底面: 回転糸切り→高台		K150
25	土師器・甕	側面図				口縁～体上部	内外面: ロクロナデ		K146
26	土師器・甕	側面図				把手部	外面: 手持ちヘラケズリ 内面: ナデ	51-20	K148
27	須恵器・甕G	側面図				体部	内外面: ロクロナデ		K242

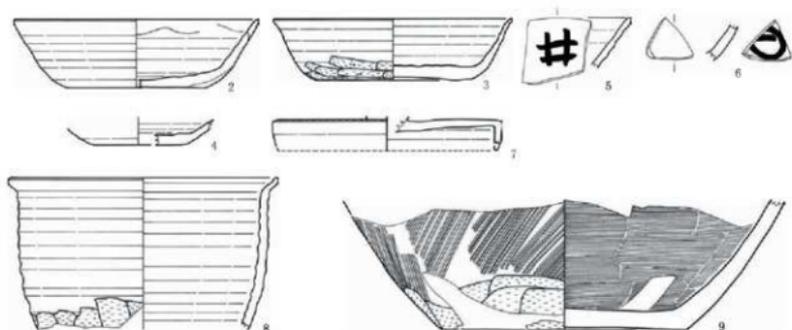
第56図 北2a・西3道路跡交差点出土土器(2) -側溝F期-

うち土師器坏の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがみられる。須恵器坏の底部はヘラ切り無調整のものが主体を占め、その他に回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器高台坏には内外面ヘラミガキされた特殊なものがある。多賀城跡政庁第1期の丸瓦には下伊場野窯の製品とみられるものが含まれる。多賀城跡政庁第2期の丸瓦には「占」の刻印瓦がある。

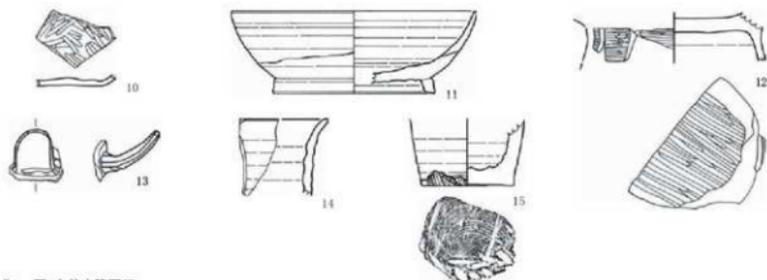
北2a・西3道路跡交差点部分の路面堆積土・確認面からは、非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏(第58図1・2)・高台坏・鉢・甕、土師器甕、底部に籬状圧痕のある土師器甕(第58図8)、須恵器坏(第58図3・5)・高坏・高台坏・稜塊・杯蓋・蓋・盤・鉢・甕(第58図9)・壺・短頸壺(第58図10)・長頸壺・壺G(第58図11・12)、須恵系土師器坏(第58図4)・小型坏(第58図6)・高台坏(第58図7)、



北2a・西3交差点路面 I



北2a・西3交差点路面 II



北2a・西3交差点路面 III

No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録	巻数
1	須志郎・鉢	路面 I	(25.8)	(14.8)	13.5	口縁部1/6～底部	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：ナデ		R355
2	須志郎・片	路面 II	(14.9)	18.4	4.2	1/3	内外面：ロクロナデ 底部：静止糸切り→手持ちヘラケズリ		R365
3	須志郎・片	路面 II	14.5	9.4	3.8	ほぼ定形	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	51-12	R358
4	須志郎・片	路面 II				体下部～底面1/4	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り		R359
5	須志郎・片	路面 II				口縁部～体部片	内外面：ロクロナデ 外面：置き「井」	51-22	R362
6	須志郎・片	路面 II				体部片	内外面：ロクロナデ 内面：置き「口」	51-23	R363
7	須志郎・空器	路面 II				体部1/4	外面：ロクロナデ→回転ヘラケズリ 内面：ロクロナデ		R366
8	須志郎・片	路面 II	(16.3)			口縁部～体部1/4	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面：ロクロナデ		R369
9	須志郎・片	路面 II		14.8		体下部～底面1/2	外面：要行タタキ→手持ちヘラケズリ 内面：ナデ・ムビオサキ	51-17	R371
10	須志郎・片	路面 II				体下部～底面片	外面：ロクロナデ→ヘラケズリ 内面：ロクロナデ→ヘラ1字木 底部：置き「井」→手持ちヘラケズリ		R374
11	須志郎・高台片	路面 II	(14.8)	19.4)	5.0	口縁部～高台片1/4	内外面：ロクロナデ 外面：輪縁板 底部：切り離し不磨→付高台		R360
12	須志郎・高台片	路面 II				底部・高台片	内外面：ロクロナデ→ヘラミダキ 底部：静止糸切り→回転ヘラケズリ→付高台		R378
13	須志郎・取耳片	路面 II				耳部片	外面：手持ちヘラケズリ・ナデ		R367
14	須志郎・底C	路面 II				口縁部片	内外面：ロクロナデ		R375
15	須志郎・底C	路面 II	5.5			体下部～底面1/4	内外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り→棒状圧痕		R368

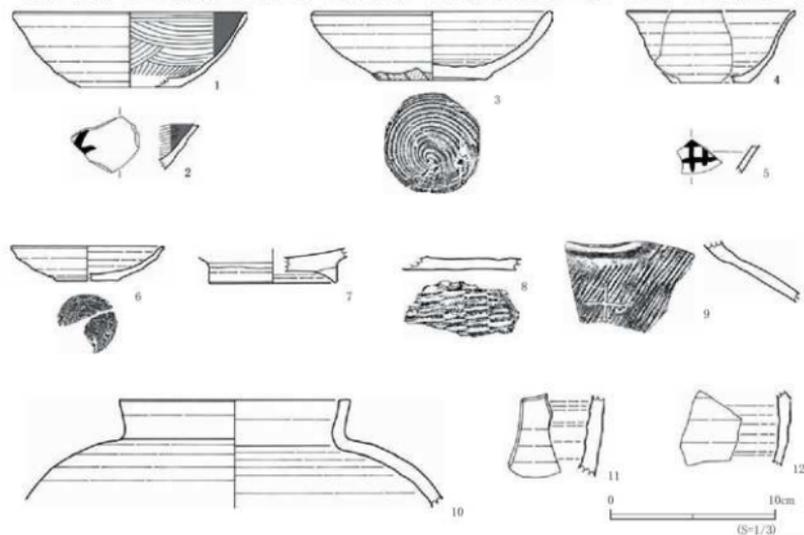
第57図 北2a・西3道路跡交差点出土土器(3)-路面 I・II・III-

灰釉陶器壺 (第149図9・18)・皿 (第149図19)、平瓶把手 (第149図22)、白磁碗 (第148図10)、製塩土器、土製円板 (第152図13～15)、棒状土製品 (第151図8)、多賀城跡政庁第1期の丸瓦、多賀城跡政庁第1期～第III期の平瓦、多賀城跡政庁第IV期の平瓦 (第154図19)、砥石 (第160図30)、馬歯が出土している。このうち、土師器環の底部は回転糸切り無調整のものが主体を占め、これ以外に回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものが含まれる。須恵器環の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器壺には会津大戸窯の製品とみられるものが含まれる。灰釉陶器皿は黒笹90号窯式期のものとみられ、底部外面には「今」かもしくは「令」カの墨書が書かれている。丸瓦には下伊場野窯の製品とみられるものが含まれる。

2) 材木堀跡・柱列跡

(1) 材木堀跡

A区で8条、B区で2条検出している。時期的にはいずれも道路期以前のものである。A区で検出して



No.	種別	層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録登録
1	土師器・环	路面堆積土層	(14.2)	(6.6)	4.6	1/4	外面:ロクロナダ 内面:ヘラミガキ一色処理 底部:回転糸切り	R388
2	土師器・环	路面堆積土				体部片	外面:ロクロナダ 器口 内面:ヘラミガキ一色処理	R437
3	須恵器・环	路面堆積土層	14.6	6.4	4.2	ほぼ完整	外面:ロクロナダ→回転ヘラケズリ 内面:コクロナダ 手持ち 底部:回転糸切り→手持ちヘラケズリ	51-13 R411
4	須恵器・土器・杯	路面堆積土層	(10.2)	(4.6)	4.4	1/3	内外面:ロクロナダ 底部:回転糸切り	E200
5	須恵器・杯	礎石部				体部片	外面:墨書「今」	51-24 R443
6	須恵器土器・小壺	路面堆積土層	(9.2)	(3.8)	2.1	1/2	内外面:ロクロナダ 底部:回転糸切り	51-14 R418
7	須恵器土器・高台杯	路面堆積土層			(7.8)	傘下部～器口部	内外面:ロクロナダ 底部:回転糸切り→付高台	R417
8	土師器・壺	路面堆積土層				底部片	外面:摩紋圧痕 内面:ナダ	51-25 R381
9	須恵器・壺	路面堆積土層				傘下部～体部片	外面:宇行タタキ→ロクロナダ ヘラ処理「今」 内面:ロクロナダ・ユビオサエ	51-19 R413
10	須恵器・瓶類壺	礎石部	(3.4)	0.1		口縁部1/2～体上部	内外面:ロクロナダ 外面:自然釉付着	R442
11	須恵器・壺C	路面堆積土層				体部片	内外面:ロクロナダ	R410
12	須恵器・壺C	路面堆積土層				体部片	内外面:ロクロナダ	R412

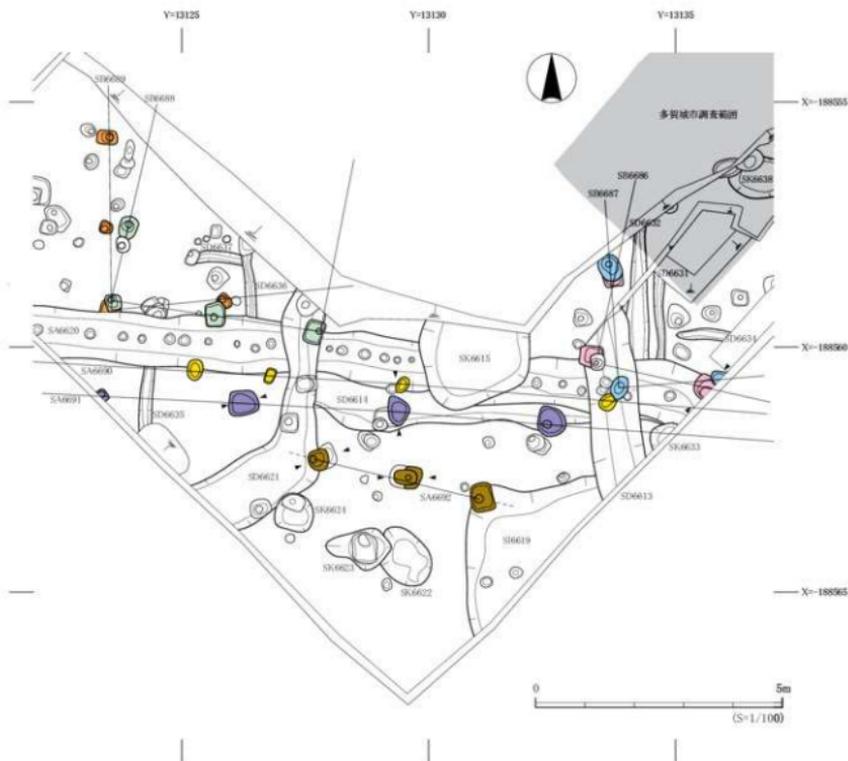
第58図 北2a・西3道路跡交差点出土土器(4) -路面堆積土・確認面-



第59图 北3西3a区平面图



第60图 北2a西4区平面图(1)



第61図 北2a西4区平面図(2)

いるものについては、他の遺構との重複や削平のため遺存状況がよくない。

【SA6538材木堀跡】 (第59・60・62・72図 図版16)

A区中央部西寄りに位置する。北2a道路跡南北側溝に寸断されながら南北に延びる材木堀跡である。布堀り状の堀方をもつ。地山面で検出した。SX6510北2a道路跡、SA6553材木堀跡、SA6532・6533・6700・6701・6702柱列跡、SI6520・6645竪穴住居跡、SK6569土壇、SD6557区画溝跡、SD6681・6682溝跡と重複し、これらすべての遺構より古い。東側2.5mに位置するSA6540材木堀跡と同時に存在した可能性がある。

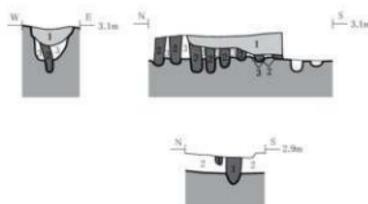
検出した長さは約17.5mで、南側は調査区外に延びる。上幅0.2～0.5m、下幅0.15～0.3m、残存している深さ8～40cmで、断面形はU字状である。方向は柱痕跡をもとにみると北で西に約8°偏する。柱は、北2a西4区で検出した箇所では部分的に切り取られている。柱痕跡は径8～22cmの円形で、柱痕跡の間隔は15～60cmである。堀方埋土は地山ブロックを含むにぶい黄褐色シルト、黒褐色シルト、地山粒を含む

暗褐色シルトである。柱痕跡の堆積土は黒褐色粘質シルト・シルトである。切り取り溝の堆積土は1層で、地山ブロックを含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器甕、須恵器環・蓋が出土している。このうち須恵器環の底部はヘラ切り後ナデられている。また、切り取り溝の堆積土から非ロクロ調整の土師器甕、須恵器鉢(第72図1)が出土している。このうち須恵器鉢は、北2a道路跡路面堆積土1層出土のものと接合関係にある。



No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色(10YR5/2)	粘質シルト	地山塊を含む	柱痕跡
2	上白(10YR8/3)	シルト	地山ブロック多数を含む	掘方埋土



No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色(10YR5/2)	シルト	地山ブロック・炭化植物・酸化鉄・酸化マンガンを含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR5/2)	粘質シルト	炭化植物・酸化鉄・酸化マンガンを含む	柱痕跡
3	黒褐色(10YR5/2)	シルト	地山ブロックを多数に、酸化鉄・酸化マンガンを含む	掘方埋土

No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色(10YR5/2)	シルト	地山塊・炭化植物を含む	柱痕跡
2	黒褐色(10YR5/2)	シルト	地山塊・炭化植物を含む	掘方埋土

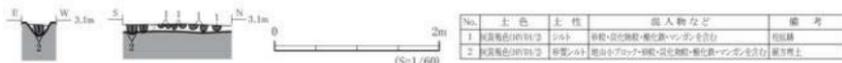
第62図 SA6538材木塚跡断面図

【SA6539材木塚跡】(第60・63図 図版16)

北2a西4区の調査区南壁際に位置する南北方向の材木塚跡である。布掘り状の掘方をもつ。地山面で検出した。SA6532柱列跡と重複し、これより古い。

掘方は約4.2m検出しているが、南側は調査区外に延びる。上幅約0.25~0.37m、下幅0.12~0.24m、残存している深さ7~16cmで断面形はU字状である。方向は柱痕跡をもとにみると北で西に約9°偏する。柱痕跡は径10~18cmの円形で、柱痕跡の間隔は10~25cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色砂質シルトである。柱痕跡の堆積土は灰黄褐色シルトである。

遺物は出土していない。



第63図 SA6539材木塚跡断面図

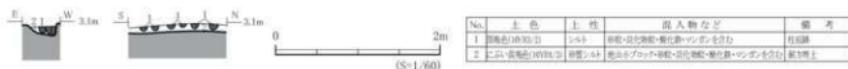
【SA6540材木塚跡】(第60・64図 図版16)

北2a西4区の調査区南壁際にSA6539材木塚跡と平行して延びる材木塚跡である。布掘り状掘方をもつ。地山面で検出した。SA6532柱列跡、SI6537竅穴状遺構と重複し、これらより古い。

掘方は約3.5m検出しているが、南側は調査区外に延びる。上幅0.2~0.35m、下幅0.1~0.2m、残存している深さ14cmで、断面形は逆台形状である。方向は柱痕跡をもとにみると北で西に約9°偏する。

柱痕跡は径10～18cmの円形で、柱痕跡の間隔は15～45cmである。掘方埋土は地山ブロックを含むいぶい黄褐色砂質シルトである。柱痕跡の堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は出土していない。



第64図 SA6540材木塚断面図

【SA6541材木塚跡】(第60・65図)

北2a西4区の調査区南壁際に位置する南北方向の材木塚跡である。布掘り状の掘方をもつ。地山面で検出した。SA6532柱列跡、SI6535竪穴住居跡と重複し、SI6535竪穴住居跡より新しく、SA6532柱列跡より古い。西側2.0mに位置するSA6539材木塚跡と同時に存在した可能性がある。

掘方は約6.3m検出しているが、南側は調査区外に延びる。上幅0.16～0.4m、下幅0.1～0.22m、残存している深さ12cmで、断面形はU字状である。方向は柱痕跡をもとにみると北で西に約7°偏する。柱痕跡は径10～16cmの円形で、柱痕跡の間隔は10～60cmである。掘方埋土は灰黄褐色粘質シルトである。柱痕跡の堆積土はにぶい黄褐色シルト、黒褐色シルト・砂質シルトである。

遺物は出土していない。



第65図 SA6541材木塚断面図

【SA6553材木塚跡】(第52・66図)

北2a西3a道路跡交差点部分から北2a道路跡下を東西に延びる材木塚跡である。布掘り状の掘方をもつ。道路跡路面構築土下および北2a道路跡北側溝底面の地山面で検出した。SA6538材木塚跡、SX6510北2a道路跡、SD6682北2a道路跡北側溝A期、SD6683西3a道路跡西側溝A期、SK6569土壌と重複し、SA6538材木塚跡より新しいが、これ以外のすべての遺構より古い。

検出した長さは約13.7mであるが、東側ではSA6555材木塚跡、西側ではSA6611材木塚跡と連続する一連の遺構と考えられる。上幅0.25m、下幅0.2m、残存している深さ16～38cmで、断面形はU字状である。方向は柱痕跡をもとにみると東で北に約13°偏する。柱は抜き取られており、底面近くで径10～20cmの円形を呈する柱痕跡を確認している。柱痕跡の間隔は10～45cmである。掘方埋土は黄褐色粘質シルト、柱痕跡の堆積土は黒褐色粘土、褐灰色粘質シルトである。抜き取り溝の堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄色粘質シルトで人為的に埋め戻されている。

遺物は出土していない。



第66図 SA6553材木塚断面図

【SA6555材木塚跡】(第59・67図 図版17)

A区中央部の東壁際を東西方向に延びる材木塚跡である。布掘り状の掘方をもつ。地山面で検出した。東側では調査区外に延びている。北2a道路跡下で検出したSA6553材木塚跡およびB区で検出したSA6611材木塚跡は本遺構と一連のものと考えられる。SD6682北2a道路跡北側溝D期と重複しこれより古い。

検出した長さは約7.5mである。上幅0.2~0.5m、下幅0.12~0.3m、残存している深さ7~22cmで断面形はU字状である。方向は柱痕跡をもとにみると東で北に約34°偏する。柱痕跡は径10~24cmの円形で、柱痕跡の間隔は約15~80cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む暗褐色シルト、柱痕跡の堆積土は暗褐色シルトである。

遺物は出土していない。



第67図 SA6555材木塚跡断面図

【SA6556材木塚跡】(第60・68・72図 図版17)

北2a西3交差点西側から斜めに北2a道路跡を横断するように延びる材木塚跡である。布掘り状の掘方をもつ。道路跡路面構築土下および北2a道路跡南側溝底面の地山面で検出した。SX6510北2a道路跡、SD6681北2a道路跡南側溝B期・C期、SD6557区画溝跡と重複しSX6510北2a道路跡、SD6681北2a道路跡南側溝B期・C期より古い。SD6557区画溝跡との新旧関係は不明である。

検出した長さは約13mである。上幅0.2m、下幅0.1m、残存している深さ26cmで、断面形はU字状である。方向は柱痕跡をもとにみると西で北に約19°偏する。柱は切り取られており、底面近くで径10cm前後の円形の柱痕跡を確認している。柱痕跡の間隔は10~70cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、柱痕跡の堆積土は黒褐色粘質シルトである。切り取り溝の堆積土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト・シルトで、人為的に埋め戻されている。

遺物は掘方埋土から非クロコ調整の土師器杯(第72図2)・甕が出土している。また、抜き取り溝の堆積土から非クロコ調整の土師器甕、須恵器杯(第72図3)・甕が少量出土している。このうち土師器杯は口縁部と体部の境に稜をもち、外面調整は口縁部がヘラミガキ、体部が手持ちヘラケズリで、内面調整はヘラミガキ・黒色処理である。須恵器杯の底部は、ヘラ切り無調整のもの、静止糸切り後ナデられるもの、静止糸切り後手持ちヘラケズリされるものがある。



第68図 SA6556材木塚跡断面図

【SA6564材木塚跡】(第59・69・72図 図版17)

A区中央部北寄りを南北方向に延びる材木塚跡である。布掘り状の掘方をもつ。地山面で検出した。

SA6700・6701・6702・6703柱列跡、SI6520・6645堅穴住居跡、SD6562北2a道路跡北側溝E期、SD6566溝跡と重複し、これらすべての遺構より古い。

検出した長さは約5.6mである。上幅0.24～0.35m、下幅0.1～0.25m、残存している深さ9～14cmで断面形はU字状である。方向は柱痕跡をもとにみると北で西に約9°偏する。柱痕跡は径10～20cmの円形で、柱痕跡の間隔は10～55cmである。掘方埋土は暗褐色シルト、柱痕跡の堆積土は黒褐色粘質シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器鉢（第72図4）が出土している。また、柱痕跡の堆積土から非ロクロ調整の土師器杯（第72図5）・甕が出土している。このうち土師器杯は平底で、外面調整は手持ちヘラケズリののちヘラミガキ、内面調整はヘラミガキ・黒色処理である。



第69図 SA6564材木堀跡断面図

【SA6611材木堀跡】（第70・98図 図版25）

北3西4区の南寄りを東西方向に延びる材木堀跡である。布掘り状の掘方をもつ。地山面で検出した。北2a道路跡路面構築土下で検出したSA6553材木堀跡およびA区東壁際で検出したSA6555材木堀跡は本遺構と一連のものと考えられる。SA6695柱列跡、SB6664・6665掘立柱建物跡、SD6517区画溝跡、SD6609溝跡、SK6625土壌、SE6584井戸跡と重複し、SD6517区画溝跡、SD6609溝跡、SK6625土壌より新しく、SB6664・6665掘立柱建物跡、SA6695柱列跡、SE6584井戸跡より古い。

検出した長さは約20mである。上幅0.25～0.55m、下幅0.15～0.4m、残存している深さ6～12cmで断面形はU字状である。方向は柱痕跡をもとにみると東で北に約3°偏する。柱痕跡は径8～25cmの円形で、柱痕跡の間隔は15～90cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトで、柱痕跡の堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器甕が出土している。また、柱痕跡の堆積土から非ロクロ調整の土師器鉢が出土している。



第70図 SA6611材木堀跡断面図

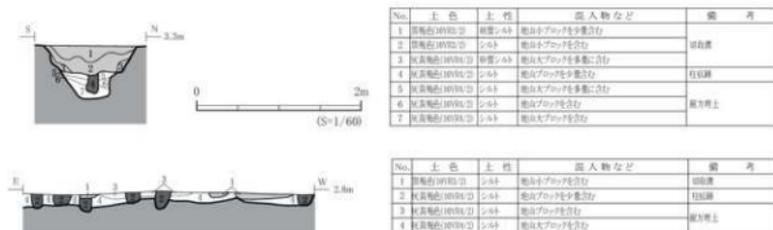
【SA6620材木堀跡】（第61・71図 図版25）

北2a西4区の調査区南西コーナー部を東西方向に延びる材木堀跡である。布掘り状の掘方をもつ。地山面で検出した。SA6690柱列跡、SB6686・6687・6688・6689掘立柱建物跡、SD6613・6614・6621・6631・6632・6635・6636溝跡、SK661・56630・6633土壌と重複し、SD6631・6632・6635・6636溝跡より新しく、これ以外のすべての遺構より古い。

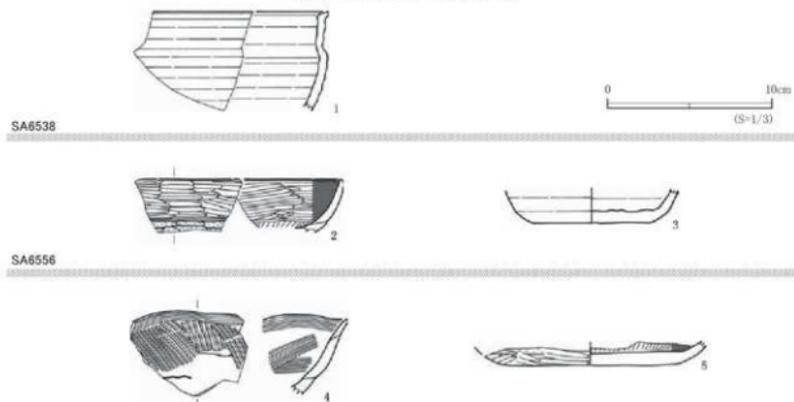
検出した長さは約14.4mである。東側、西側とも調査区外に延びる。上幅0.65m、下幅0.35m、残存している深さ55～65cmで断面形は逆台形状である。方向は柱痕跡をもとにみると西で北に約4°偏する。

柱は切り取られており、切り取り溝の底面で径10～22cmの円形の柱痕跡を検出している。柱痕跡の間隔は25～100cmである。掘方埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルト、褐灰色シルトで、柱痕跡の堆積土は灰黄褐色シルトである。切り取り溝の堆積土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、灰黄褐色砂質シルト、褐灰色シルトで自然堆積土である。

遺物は切り取り溝の堆積土から非ロクロ調整の土師器杯・鉢・甕、須恵器杯・蓋・甕が出土している。このうち須恵器杯の底部には静止糸切り後回転ヘラズリされているもの、ヘラ切り無調整のものがある。



第71図 SA6620材木堀跡断面図



第72図 材木堀跡出土土器 -SA6538・6556・6564-

(2) 柱列跡

A区で9条、B区で4条検出している。A区で検出したもののうちの6条は、道路側溝に沿って発見されており、数時期の変遷が考えられる。

【SA6532柱列跡】(第60・73図 図版18)

北2a西4区の北東寄りに位置しSD6681北2a道路跡南側溝・西3道路跡西側溝に沿ってやや湾曲しながら

ら折れ曲がって延びる南北5間以上、東西5間以上の柱列跡である。地山面で検出した。SA6538・6539・6540・6541材木堀跡と重複し、これらすべての遺構より新しい。

検出した長さは東西10.7m、南北11.7mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると南北が北より2.38m、2.74m、2.45m、2.44m、1.66m、東西が西より1.38m、2.98m、4.2m（2間分）、3.1mである。方向は南北方向が北で東に約3°偏し、東西方向がほぼ真東西方向である。柱穴は一边15～54cmの正方形・長方形である。残存している深さは24～40cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルト、にぶい黄褐色シルトである。柱痕跡は径11～18cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から須恵器甕が出土している。



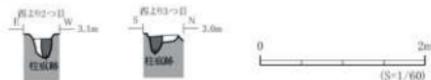
第73図 SA6532柱列跡柱穴断面図

【SA6533柱列跡】(第60・74図)

北2a西4区の北東寄りに位置しSD6681北2a道路跡南側溝・西3道路跡西側溝に沿ってやや湾曲しながら折れ曲がって延びる南北6間以上、東西6間以上の柱列跡である。地山面で検出した。SA6538材木堀跡、SI6537竪穴状遺構と重複し、これらすべての遺構より新しい。

検出した長さは東西10.1m、南北17.3mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると南北が北より3.68m、3.18m、2.22m、2.66m、2.52m、3.04m、東西が西より1.35m、1.12m、1.64m、5.96m（3間分）である。方向は南北方向が北で東に約2°偏し、東西方向が東で北に約12°偏する。柱穴は一边15～33cmの正方形・長方形、径16～40cmの円形・楕円形である。残存している深さは24～30cmである。埋土は地山ブロックを含む褐灰色砂質シルト、灰黄褐色シルト、にぶい黄褐色シルトである。柱痕跡は径12～16cmの円形で、堆積土は暗褐色砂質シルト、灰黄褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器高台杯、調整不明の土師器甕、須恵器甕が出土している。



第74図 SA6533柱列跡柱穴断面図

【SA6690柱列跡】(第61図)

北2a西4区の調査区南西コーナー一部に位置しSA6620材木堀跡に沿って東西方向に4間以上延びる柱列跡である。地山面で検出した。SA6620材木堀跡、SB6687掘立柱建物跡、SD6613・6621溝跡、SK6615土壌と重複し、SA6620材木堀跡より新しく、SK6615土壌、SD6613溝跡より古い。SD6621溝跡の新旧関係は不明である。

検出した長さは東西8.34mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると、西より1.5m、2.66m、4.18m

(2間分)である。方向は西で北に約4°偏する。柱穴は一辺15～28cmの長方形、径24～40cmの楕円形である。いずれも柱痕跡は確認されていない。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。

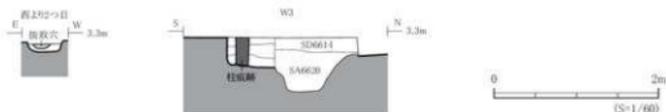
遺物は出土していない。

【SA6691柱列跡】(第61・75図 図版25)

北2a西4区の調査区南西コーナー部に位置しSA6620材木堀跡に沿って東西方向に3間以上延びる柱列跡である。地山面で検出した。SA6620材木堀跡、SD6613・6614・6621・6635溝跡と重複し、SA6620材木堀跡より新しく、SD6614溝跡より古い。SD6613・6621・6635溝跡との新旧関係は不明である。

検出した長さは東西8.98mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると、西より2.84m、3.15m、3.0mである。方向は西で北に約5°偏する。柱穴は一辺24～63cmの長方形・不整形形で、残存している深さは11～45cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径13～19cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。柱は1ヶ所で抜き取られており、抜き取り穴の堆積土は地山粒を含む灰黄褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から調整不明の土師器甕、須恵器坏が出土している。



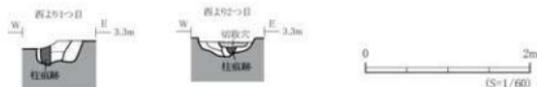
第75図 SA6691柱列跡柱穴断面図

【SA6692柱列跡】(第61・76図 図版25)

北2a西4区の調査区南西コーナー部に位置し東西方向に2間延びる柱列跡である。地山面で検出した。SI6619竪穴状遺構、SD6621溝跡と重複し、これらより新しい。

検出した長さは3.48mで、柱間寸法は西より1.98m、1.50mである。方向は西で北に約13°偏する。柱穴は一辺30～55cmの長方形・隅丸長方形で、残存している深さは21～29cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径12～15cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。柱は1ヶ所で切り取られており、切り取り穴の堆積土は地山粒を含む黒褐色シルトである。

遺物は、柱痕跡の堆積土から調整不明の土師器坏・甕が出土している。



第76図 SA6692柱列跡柱穴断面図

【SA6696柱列跡】(第98図)

北3西4区の北西寄りに位置し東西方向に延びる2間の柱列跡である。地山面で検出した。SA6695柱列跡、SB6694掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明である。

検出した長さは4.45mで、柱間寸法は西より2.22m、2.23mである。方向は東で北に約2°偏する。柱穴は一辺25～43cmの長方形・不整形形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、暗褐色シルト

である。柱痕跡は径8～16cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から調整不明の土師器甕が出土している。

【SA6700柱列跡】（第59図）

北3西3a区の南西寄りに位置しSD6682北2a道路跡北側溝に沿って東西方向に3間以上延びる柱列跡である。地山面で検出した。SA6538・6564材木堀跡、SD6563・6565溝跡と重複し、SA6538・6564材木堀跡、SD6565溝跡より新しい。SD6563溝跡との新旧関係は不明である。

検出した長さは東西7.42mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると、西より2.48m、2.58m、2.36mである。方向は東で北に約12°偏する。柱穴は径29cmの円形、長軸29～34cm、短軸22～26cmの楕円形である。いずれも柱痕跡は確認されていない。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。

遺物は出土していない。

【SA6701柱列跡】（第59図）

北3西3a区の南西寄りに位置しSD6682北2a道路跡北側溝・西3a道路跡東側溝に沿って湾曲しながら延びる南北4間以上、東西8間の柱列跡である。地山面で検出した。SA6538・6564材木堀跡、SD6552・6563・6565溝跡、SX6521河川流路跡と重複し、SA6538・6564材木堀跡、SD6563溝跡より新しい。SD6552・6565溝跡、SX6521河川流路跡との新旧関係は不明である。

検出した長さは東西12.5m、南北6.2mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると南北が北より4.98m（3間分）、1.24m、東西が西より1.35m、1.64m、1.52m、1.57m、6.4m（4間分）である。方向は南北方向が北で西に約14°偏し、東西方向が東で北に約17°偏する。柱穴は一辺14～32cmの長方形、径24cmの円形、長軸27～32cm、短軸22～26cmの楕円形である。いずれも柱痕跡は確認されていない。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。

遺物は出土していない。

【SA6702柱列跡】（第59図）

北3西3a区の南西寄りに位置しSD6682北2a道路跡北側溝・西3a道路跡東側溝に沿って湾曲しながら延びる南北5間以上、東西5間の柱列跡である。地山面で検出した。SA6538・6564材木堀跡、SD6552・6563溝跡、SX6521河川流路跡と重複し、SA6538・6564材木堀跡より新しく、SX6521河川流路跡より古い。SD6552・6563溝跡との新旧関係は不明である。

検出した長さは東西9.3m、南北6.6mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると南北が北より4.4m（3間分）、1.34m、0.85m、東西が西より1.54m、2.06m、1.88m、3.8m（2間分）である。方向は南北方向が北で西に約15°偏し、東西方向が東で北に約25°偏する。柱穴は一辺15～18cmの正方形、径20～27cmの円形、長軸23～28cm、短軸17～25cmの楕円形である。いずれも柱痕跡は確認されていない。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。

遺物は出土していない。

【SA6703柱列跡】（第59・77図）

北3西3a区の南西寄りに位置しSD6682北2a道路跡北側溝・西3a道路跡東側溝に沿ってL字状に折れ曲

がって延びる南北3間以上、東西3間の柱列跡である。地山面で検出した。SA6564材木堀跡、SI6520・6645竪穴住居跡、SD6552溝跡、SX6521河川流路跡と重複し、SA6564材木堀跡、SI6520・6645竪穴住居跡より新しく、SX6521河川流路跡より古い。SD6552溝跡との新旧関係は不明である。

検出した長さは東西7.6m、南北7.7mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると南北が北より2.97m、2.84m、1.75m、東西が西より2.87m、2.64m、2.22mである。方向は南北方向が北で西に約4°偏し、東西方向が東で北に約13°偏する。柱穴は一辺25～44cmの長方形、径32cmの円形、長軸26～37cm、短軸22～30cmの楕円形である。残存している深さは26cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト・シルト、灰黄褐色シルトである。柱穴の1ヶ所で柱が切り取られており、切り取り穴の底面で柱痕跡を確認している。柱痕跡は径12cmの円形で、堆積土は地山ブロック、炭化物粒を含む黒色粘質シルトである。切り取り穴の堆積土は黒色粘質シルトである。



第77図 SA6703柱列跡柱穴断面図

遺物は出土していない。

【SA6705柱列跡】(第29図)

北2a西3区の西寄り位置しSD6680西3道路跡東側溝に沿って南北方向に延びる10間以上の柱列跡である。地山面で検出した。SD6542溝跡と重複し、これより新しい。

検出した長さは南北15.7mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると北より4.64m (3間分)、1.66m、1.72m、1.12m、3.34m (2間分)、1.35m、1.88mである。方向は北で東に約5°偏する。柱穴は一辺16～32cmの長方形、径14～36cmの円形・楕円形である。残存している深さは10～25cmである。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。柱痕跡は確認されなかった。

遺物は掘方埋土から須恵器甕が出土している。

【SA6706柱列跡】(第29図)

北2a西3区の北西寄りに位置し東西方向に延びる2間の柱列跡である。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

検出した長さは3.8mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると西より1.85m、1.95mである。方向は東で北に約24°偏する。柱穴は一辺12～25cmの長方形、径18～22cmの円形・楕円形である。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルト、にぶい黄褐色シルトである。柱痕跡は確認されなかった。

遺物は掘方埋土から底部が回転ヘラ切り無調整の須恵器坏、丸瓦が出土している。

【SA6707柱列跡】(第84・78図 図版18)



第78図 SA6707柱列跡柱穴断面図

北2a西3区の北西寄りに位置し東西方向に延びる4間以上の柱列跡である。地山面で検出した。SD6542溝跡と重複し、これより新しい。

検出した長さは7.25mで、柱間寸法は柱穴の中央で計測すると西より1.67m、1.54m、1.62m、2.42mである。方向は東で北に約29°偏する。柱穴は一辺18～28cmの長方形、径20～38cmの円形・楕円形である。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径20cmの円形で、堆積土は灰黄褐色シルトである。

遺物は出土していない。

3) 区画溝跡

A区で1条、B区で1条検出している。いずれも道路期以前に機能していたもので、遺構の規模や材木堀との並行関係から何らかの区画に伴う溝跡と推定される。

【SD6557区画溝跡】(第41～43・53・79・80図 図版20)

A区の中央部北寄りに位置する東西方向の区画溝跡である。遺構の東半部では東西方向から北東方向にやや屈曲している。東側と西側は調査区外に延びている。地山面および北2a道路跡路面I構築土下、北2a道路跡北側溝底面、北2a道路跡南側溝底面で検出した。SD6681北2a道路跡南側溝、SD6682北2a道路跡北側溝、SA6538・6556材木堀跡、SD6558溝跡と重複し、SA6538材木堀跡、SD6558溝跡より新しく、SD6681北2a道路跡南側溝、SD6682北2a道路跡北側溝、SA6556材木堀跡より古い。

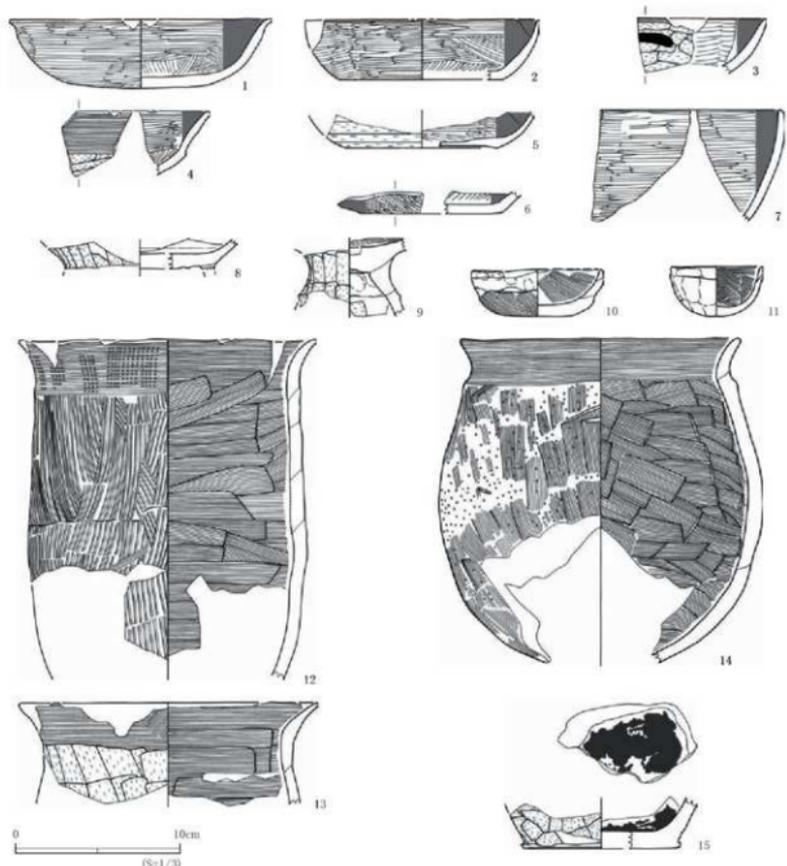
検出長は17.5mで、上幅2.4～3.5m、下幅0.8～2.1m、深さは55～65cmである。断面形は逆台形状を呈する。方向は心線でみると東半部では東に北に約44°偏し、西半部では西で南に約11°偏している。堆積土は9層に細分され、灰オリーブ色粘土、灰黄褐色粘質シルト、褐灰色シルト質粘土、暗灰黄色シルト、浅黄色シルトなどが自然堆積している。また、底面付近には自然木が含まれている。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器坏(第79図1～4・6)・高坏(第79図9)・鉢(第79図7)・甕(第79図12・13)、ロクロ調整の土師器坏(第79図5)、調整不明の土師器坏・甕、須恵器坏(第80図1・2・5～11)・高台坏(第80図13～17)・稜塊(第80図12)・鉢・甕・長頸壺、ミニチュア土器坏(第79図10)、丸瓦(第153図11)、平瓦(第154図18)、砥石(第158図13、第159図28)、曲物側板(第155図2)、板状木製品(第155図3)、牛又は馬の四肢骨、馬歯、鹿歯、種子(桃・オニグルミ)が出土している。このうち非ロクロ調整の土師器坏には有段丸底のものと段を持たずに平底気味のものがみられる。また体部外面に墨書のみられるものが含まれている。須恵器坏では底部がへら切り後手持ちへラケズリされるものが主体を占め、へら切り後ナデを施されるもの、静止糸切り後手持ちへラケズリを施されるもの、回転へラケズリ再調整により切り離し不明のもの、回転糸切り無調整のものが含まれている。また内外面にへらミガキを施された特殊なものもみられる。高台坏には静止糸切り後回転へラケズリされたのち付高台のものとへら切り後付高台のものがみられる。丸瓦には「伊」の刻印瓦がある。曲物は側板のみ出土しており底板は失われている。側板の下端部には底板との結合に使われた径3～4mmの木製の釘が打ち込まれている。板状木製品は、残存長72.8cm、残存幅18cm、厚さ4.2cmで、表面には加工痕や刃先の痕がみられる。木取りは板目取りである。建築部材の可能性が有る。

【SD6628区画溝跡】(第45・46・79・80図)

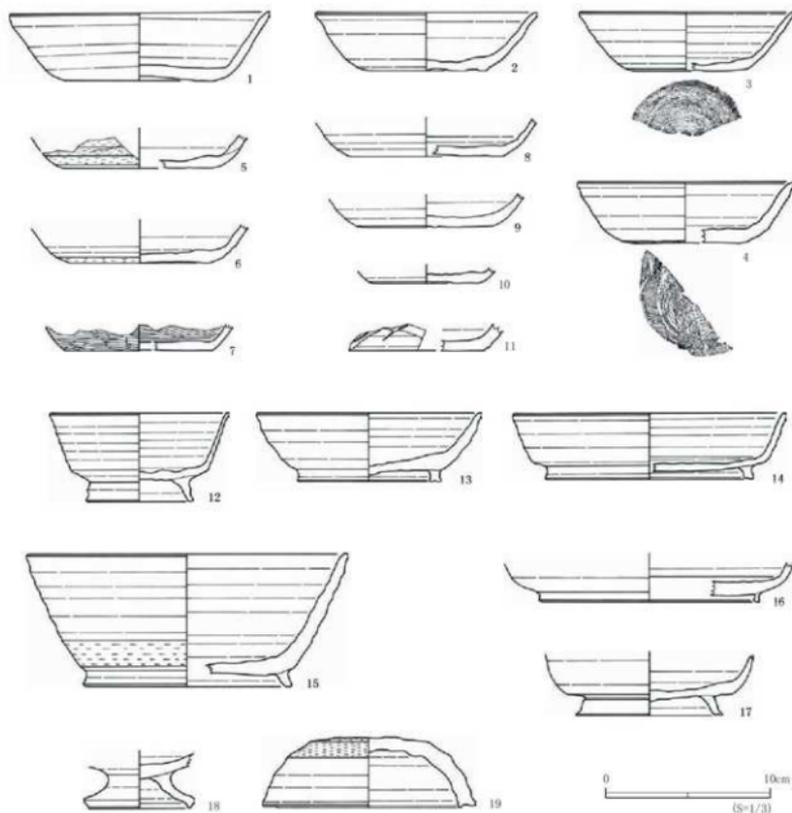
B区の中央部南寄りに位置する東西方向の区画溝跡である。東側は調査区外に延びており、西側は攪乱により壊されている。地山面および北2a道路跡路面I構築土下、北2a道路跡北側溝底面で検出した。SD6617北2a道路跡北側溝、SD6627北2a道路跡南側溝と重複し、これらより古い。

検出長は8.8mで、上幅2.9～3.2m、下幅1.6～2.4m、深さは95～105cmである。断面形は逆台形状を呈する。方向は心線でみると西で南に約7°偏している。堆積土は4層に細分され地山ブロック、細砂を含む黄灰色粘土・シルトが自然堆積している。なお、規模や方向、他の遺構との重複関係から本遺構はSD6557区画溝跡と連続する遺構と考えられる。



№	種別	遺積/層位	口徑	底径	器高	残存	特 徴	写真図版
1	土師器・杯	S6557層位上	16.1		4.3	ほぼ完整	外面：ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ-黒色処理	55-1 876
2	土師器・杯	S6557層位上 (14, 4)	(16.0)		3.7	1/4	外面：ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ-黒色処理 底面：ヘラミダキ	817
3	土師器・杯	S6557層位下層				口縁部-体部片	外面：ヨコナダ-手持ちヘラケズリ 蓋口 内面：ヘラミダキ-黒色処理	8797
4	土師器・杯	S6557層位上				口縁部-体部片	外面：ヨコナダ-手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミダキ-黒色処理	833
5	土師器・杯	S6557層位上				体下部-底部1/4	外面：ヨコナダ-手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミダキ-黒色処理	849
6	土師器・杯	S6557層位上				体下部-底部1/6	内外面：ヘラミダキ-黒色処理	834
7	土師器・鉢	S6557層位上				口縁部-体部片	外面：ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ-黒色処理	848
8	土師器・高台杯	S6557層位上				体下部-底部1/4	外面：ヨコナダ-手持ちヘラケズリ 内面：ヨコナダ 底面：磨り出し平一付高台	875
9	土師器・高台杯	S6557層位下層				底部-胴上部	外面：ヨコナダ-手持ちヘラケズリ 内面：ヨコナダ-黒色処理 底部：ヨコナダ-黒色処理	842
10	コチャア上部+杯	S6557層位下層	8.0	4.5	2.9	ほぼ完整	外面：ナダ・ユビオサエ 輪郭底 内面：ナダ	841
11	コチャア上部+杯	S6628層位下層	5.6		3.1	ほぼ完整	外面：ナダ・ユビオサエ 輪郭底 内面：ナダ	8599
12	土師器・壺	S6557層位上層下層 (18, 2)				口縁部1/3-体下部	外面：ハケメ-ヨコナダ 輪郭底 内面：ヨコナダ-ヘラナダ	840
13	土師器・壺	S6557層位上層下層 (18, 2)				口縁部-体上部1/4	外面：ヨコナダ-手持ちヘラケズリ 内面：ヨコナダ-ヘラナダ 輪郭底	836
14	土師器・壺	S6628層位上				口縁部1/4-体下部	外面：ヨコナダ・ナダ・ヘラナダ 尖口縁底 内面：ヨコナダ・ヘラナダ	8596
15	土師器・壺	S6557層位上				体下部-底部1/4	外面：手持ちヘラケズリ 内面：ヘラナダ 通行底 底面：手持ちヘラケズリ	57-8 853

第79図 S6557・6628区画清跡出土土器(1)



								(単位: cm)	
No.	種別	遺積/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	学名	数量
1	須志郎・杯	SD6557墳墓上層	16.0	9.6	4.3	ほぼ定形	内外面: ロクロナデ 底面: 切り隠し不明→手持ちヘラケズリ		844
2	須志郎・杯	SD6557墳墓上層	13.6	7.6	3.6	ほぼ定形	内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り	55-2	869
3	須志郎・杯	SD6628墳墓上層	(13.0)	(7.4)	3.5	1/3	内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→ナデ		8597
4	須志郎・杯	SD6628墳墓上層	(13.0)	(7.4)	3.8	1/3	内外面: ロクロナデ 底面: 切隠し不明→手持ちヘラケズリ		8598
5	須志郎・杯	SD6557墳墓上層下層			(10.4)		体下部～底面1/4 外面: ロクロナデ→切隠しヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→ナデ		828
6	須志郎・杯	SD6557墳墓上層下層			(8.4)		体下部～底面1/4 外面: ロクロナデ→切隠しヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底面: 切隠し不明→切隠しヘラケズリ		846
7	須志郎・杯	SD6557墳墓上層下層			(9.0)		体下部～底面1/4 内外面: ロクロナデ→ヘラケズリ 底面: 切り隠し不明→ヘラケズリ		829
8	須志郎・杯	SD6557墳墓上層			(9.4)		体下部～底面1/2 内外面: ロクロナデ 火押痕 内面: 手持ち痕 底面: ヘラ切り→ナデ		856
9	須志郎・杯	SD6557墳墓上層			(8.2)		体下部～底面1/4 内外面: ロクロナデ 内面: 手持ち痕 底面: ヘラ切り→ナデ		837
10	須志郎・杯	SD6557墳墓上層			(7.0)		体下部～底面1/4 内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→ナデ		852
11	須志郎・杯	SD6557墳墓上層					体下部～底面1/6 内外面: ロクロナデ 内面: 焼け痕 底面: 切隠し不明		872
12	須志郎・椀	SD6557墳墓上層	11.0	6.6	5.0	2/3	内外面: ロクロナデ 自然輪付着 底面: 切り隠し不明→付け高台	55-3	867
13	須志郎・高台杯	SD6557墳墓上層	13.8	8.8	4.3	1/2	内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→付高台		853
14	須志郎・高台杯	SD6557墳墓上層	(16.0)	(12.0)	4.1	1/3	内外面: ロクロナデ 底面: 切り隠し不明→切隠しヘラケズリ→付高台		857
15	須志郎・高台杯	SD6557墳墓上層	(19.0)	(12.0)	8.2	1/4	外面: コロナデ→切隠しヘラケズリ 内面: ロクロナデ 底面: 自然輪付着→切隠しヘラケズリ→付高台		859
16	須志郎・高台杯	SD6628墳墓上層	(13.0)				体下部～底面: 底面1/4 内外面: ロクロナデ 底面: 切り隠し不明→切隠しヘラケズリ→付高台		835
17	須志郎・高台杯	SD6557墳墓上層			(9.0)		体下部～底面: 底面1/4 内外面: ロクロナデ 底面: 切隠し不明→切隠しヘラケズリ→付高台		858
18	須志郎・高台杯	SD6557墳墓上層			6.2		底面～高台発着 内外面: ロクロナデ 底面: 付高台		860
19	須志郎・椀	SD6628墳墓上層下層	13.1		4.4	2/3	外面: ロクロナデ→切隠しヘラケズリ 内面: ロクロナデ 天井部: ヘラ切り		8600

第80図 SD6557・6628区画溝跡出土土器(2)

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・小型甕・甕（第79図14）、須恵器坏（第80図3・4）・短頸壺（第80図19）・甕・甕、ミニチュア土器坏（第79図11）が出土している。このうち須恵器坏の底部はヘラ切り後手持ちヘラケズリを施されるものが主体を占め、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものと回転糸切り無調整のものが少量含まれている。

4) 掘立柱建物跡

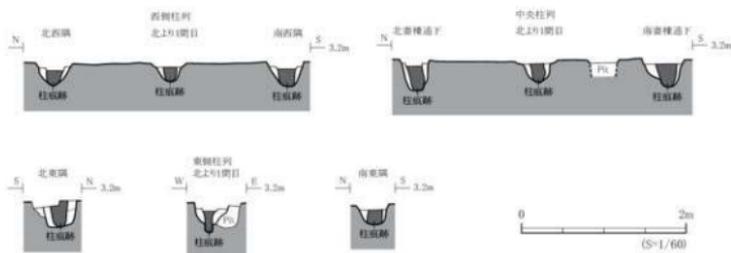
A区で17棟、B区で14棟検出している。大半のものが側柱建物であるが、総柱建物が3棟、廂付建物が1棟含まれている。分布状況を見ると、「北2a西3区」、「北2a西4区」の東側、「北3西4区」の西側において密集しており、数時期にわたって変遷している。とくに「北2a西3区」では、他の区画に比べて、規模の大きな建物跡が見つかった。

【SB6530掘立柱建物跡】（第60・81図 図版12）

北2a西4区の中央部に位置する東西2間、南北2間の総柱建物跡である。柱穴は地山面で9ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SB6672掘立柱建物跡、SI6535竪穴住居跡、SD6536溝跡と重複し、SI6535竪穴住居跡、SD6536溝跡より新しい。SB6672掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は北側柱列で総長3.15m、柱間寸法が西より1.62m、1.65m、東側柱列で総長3.05m、柱間寸法が北より1.38m、1.67mである。方向は東側柱列でみると北で東に約1°偏する。柱穴は一辺20～50cmの正方形・長方形で、残存している深さは20～37cmである。埋土は地山ブロックを含む褐色シルト、暗褐色シルトである。柱痕跡は径16～25cmの円形で、堆積土は黒褐色シルト、褐色シルト、暗灰色シルトである。

遺物は掘方埋土から須恵器鉢が出土している。



第81図 SB6530掘立柱建物跡柱穴断面図

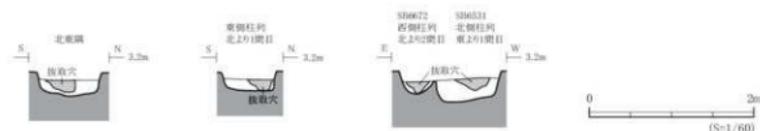
【SB6531掘立柱建物跡】（第60・82図 図版12）

北2a西4区の調査区南壁際に位置する東西2間以上、南北1間以上の建物跡である。柱穴は地山面で4ヶ所検出しているが、いずれも柱痕跡は確認されなかった。SB6659・6672掘立柱建物跡、SI6535竪穴住居跡と重複し、SI6535竪穴住居跡より新しい。SB6659・6672掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は北側柱列で総長5m以上、柱間寸法が抜き取り穴中央で計測すると西より約2.5m、2.5m、東側柱列で柱間寸法が3.0mである。方向は東側柱列でみると北で西に約6°偏する。柱穴は一辺60～76cmの隅丸方形で、残存している深さは25～37cmである。埋土は黄褐色粘質シルト、灰黄褐色砂質シルト

トである。3ヶ所で柱の抜き取りがみられ、抜き取り穴の堆積土は黒褐色シルト・粘質シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器甕、須恵器杯・蓋・甕が少量出土している。



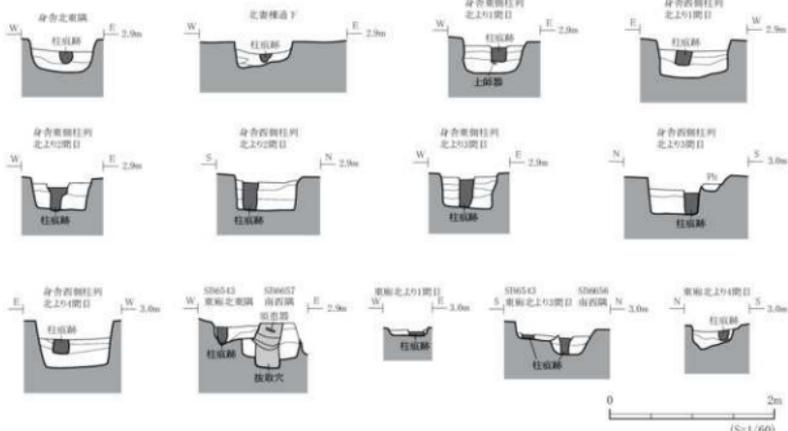
第82図 SB6531掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6543掘立柱建物跡】(第83・84図 図版12・13)

北2a西3区の西寄りに位置する桁行6間以上、梁行3間の東廂付の南北棟建物跡である。柱穴は地山面およびSX6652・6658河川跡堆積土上面で19ヶ所検出し、この中の身舎9ヶ所、廂5ヶ所で柱痕跡を確認している。SB6544・6645・6654・6655・6656・6657・6708・6710・6711掘立柱建物跡、SD6546溝跡、SK6548・6549・6642土壌、SX6652・6658河川跡と重複し、SB6656・6657掘立柱建物跡、SK6548・6549土壌、SX6652・6658河川跡より新しく、SB6544掘立柱建物跡、SD6546溝跡より古い。SB6645・6654・6655・6708・6711掘立柱建物跡、SK6642土壌との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が西側柱列で総長8.28m以上、柱間寸法が北より2.3m、2.0m、2.0m、1.96m、梁行が北妻で総長4.68m、柱間寸法が西より約2.4m、2.28m、廂の出は2.08mである。方向は西側柱列でみると北で東に約2°偏する。柱穴は身舎、廂とも一辺30～100cmの正方形・長方形で、残存している深さは10～60cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト・シルト・粘土、灰黄褐色粘質シルト、灰黄色粘質シルト・シルト、暗灰黄色粘質シルトである。柱痕跡は径14～25cmの円形で、堆積土は黒褐色シルト・粘質シルト・粘土である。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器杯・小型杯・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・高台杯・蓋・甕、多賀城跡政庁Ⅱ期の平瓦が少量出土している。このうち土師器小型杯は内外面へ



第83図 SB6543掘立柱建物跡柱穴断面図

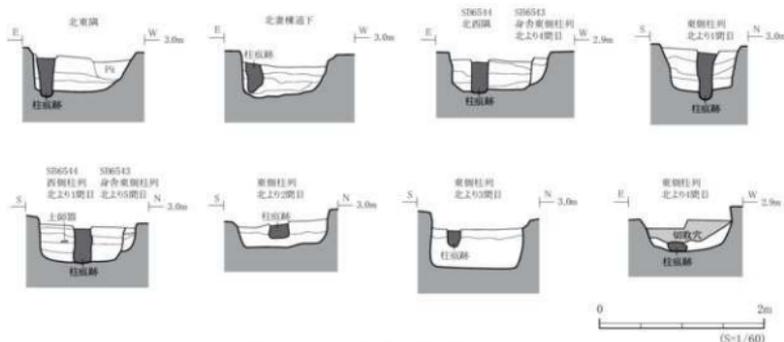
ラミガキ・黒色処理されている。須恵器坏の底部はヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後ナデられるものがある。柱痕跡の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕が少量出土している。

【SB6544掘立柱建物跡】 (第84・85・106図 図版12~14)

北2a西3区の南西寄りに位置する桁行4間以上、梁行2間の南北棟建物跡で、北妻より3間目に間仕切りの柱穴をもつ。柱穴は地山面およびSX6658河川跡堆積土上面で10ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SB6543・6545・6655・6708・6710掘立柱建物跡、SD6546溝跡、SK6642土壌、SX6658河川跡と重複し、SB6543掘立柱建物跡、SK6642土壌、SX6658河川跡より新しく、SD6546溝跡より古い。SB6545・6655・6708・6710掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が東側柱列で総長8.97m以上、柱間寸法が北より1.98m、2.32m、2.18m、2.44m、梁行が北妻で総長5.28m、柱間寸法が西より2.65m、2.63mである。方向は東側柱列でみると北で東に約6°偏する。柱穴は一辺78~114cmの正方形・隅丸方形で、残存している深さは48~69cmである。N4E1の柱穴と間仕切りの柱穴には礎板が据えられている。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト・粘質シルト、灰黄褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、暗灰黄色粘質シルトである。柱痕跡は径18~31cmの円形で、堆積土は黒褐色粘質シルト、灰黄褐色シルトである。2ヶ所で柱の切り取りがみられ、切り取り穴の堆積土は黒褐色粘質シルト・シルト、灰黄褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器坏 (第106図1・2)・蓋 (第106図3)・甕、須恵器坏・蓋・甕・壺、丸瓦が少量出土している。このうち土師器坏の中には内面に漆の付着しているもの含まれる。須恵器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り無調整のものがある。また、柱痕跡の堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏が出土している。



第85図 SB6544掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6545掘立柱建物跡】 (第84・86図 図版12・14)

北2a西3区の南西寄りに位置する桁行2間以上、梁行2間以上の建物跡である。柱穴は地山面で5ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SB6543・6544・6654・6655掘立柱建物跡、SD6546溝跡と重複し、SB6655掘立柱建物跡、SD6546溝跡より古い。SB6543・6544・6654掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は北側柱列で柱間寸法が西より1.95m、2.23m、東側柱列が北より2.1m、2.1mである。方向は東側柱列でみると北で東に約4°偏する。柱穴は一辺48～65cmの正方形・長方形で、残存している深さは43～52cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト・シルト、灰黄褐色粘質シルトである。

柱痕跡は径12～22cmの円形で、堆積土は黒褐色粘質シルト、灰黄褐色粘質シルトである。

遺物は掘方埋土から非クロロ調整の土師器甕、須恵器甕・壺が少量出土している。また、柱痕跡の堆積土から非クロロ調整の土師器杯、須恵系土器杯が少量出土している。



第86図 SB6545掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6603掘立柱建物跡】(第87・90図 図版11)

北3西4区南東寄りに位置する桁行3間、梁行2間の東西棟建物跡である。柱穴は地山面で8ヶ所検出し、この中の7ヶ所で柱痕跡を確認している。北東隅柱穴と南西隅柱穴は削平され残存していない。SX710北2a道路跡、SD6683北側溝E期、SX6512西3a道路跡、SD6683西側溝F期と重複し、これらより古い。

平面規模は、桁行が北側柱列で総長約6.4m、柱間寸法が西より1.87m・2.22m、推定2.25m、梁行が東側柱列で総長約4.0m、柱間寸法が北より推定2.05m、1.96mである。方向は、東側柱列でみると北で西に約2°偏している。柱穴は一辺22～38cmの長方形・隅丸長方形で、残存している深さは17～38cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト・シルト・砂質シルト、褐灰色シルト、灰黄褐色砂である。柱痕跡は径12～15cmの円形で、堆積土は黒褐色粘質シルト・シルトである。

遺物は出土していない。



第87図 SB6603掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6654掘立柱建物跡】(第84・88図 図版12～14)

北2a西3区の南西寄りに位置する東西1間以上、南北1間以上の建物跡である。柱穴は地山面およびSX6658河川跡堆積土上面で3ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SB6543・6544・6545・6710掘立柱建物跡、SX6658河川跡と重複し、SB6710掘立柱建物跡、SX6658河川跡より新しい。SB6543・6544・6545・6710掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は北側柱列で柱間寸法が1.9m、東側柱列で柱間寸法が1.8mである。方向は東側柱列でみると北で東に約2°偏する。柱穴は一辺35～45cmの正方形・長方形で、残存している深さは20～40cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径15～19cmの円形で、堆積土は黒褐色粘土・粘質シルト、灰黄褐色シルトである。

遺物は柱痕跡の堆積土から調整不明の土師器甕が出土している。



第88図 SB6654・6710掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6655掘立柱建物跡】(第84・86・89図 図版12~14)

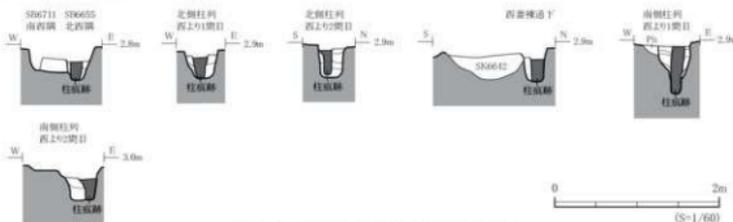
北2a西3区の調査区東寄りに位置する桁行2間以上、梁行2間の東西棟の建物跡である。

柱穴は地山面およびSX6652・6658河川跡で7ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。

SB6543・6544・6545・6656・6708・6711掘立柱建物跡、SX6652・6658河川跡と重複し、SB6545・6711掘立柱建物跡、SX6652・6658河川跡より新しい。SB6543・6544・6656・6708掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は北側柱列で柱間寸法が西より1.7m、1.95m、西側柱列で柱間寸法が北より2.25m、2.15mである。方向は西側柱列でみると北で東に約1°偏する。柱穴は一辺25~50cmの長方形で、残存している深さは35~60cmである。N3W1の柱穴に礎板が据えられている。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト・粘土である。柱痕跡は径12~18cmの円形で、堆積土は黒褐色粘質シルトである。

遺物は掘方埋土から非クロコ調整の土師器杯、須恵器蓋・甕が少量出土している。また、柱痕跡の堆積土から磨石が出土している。

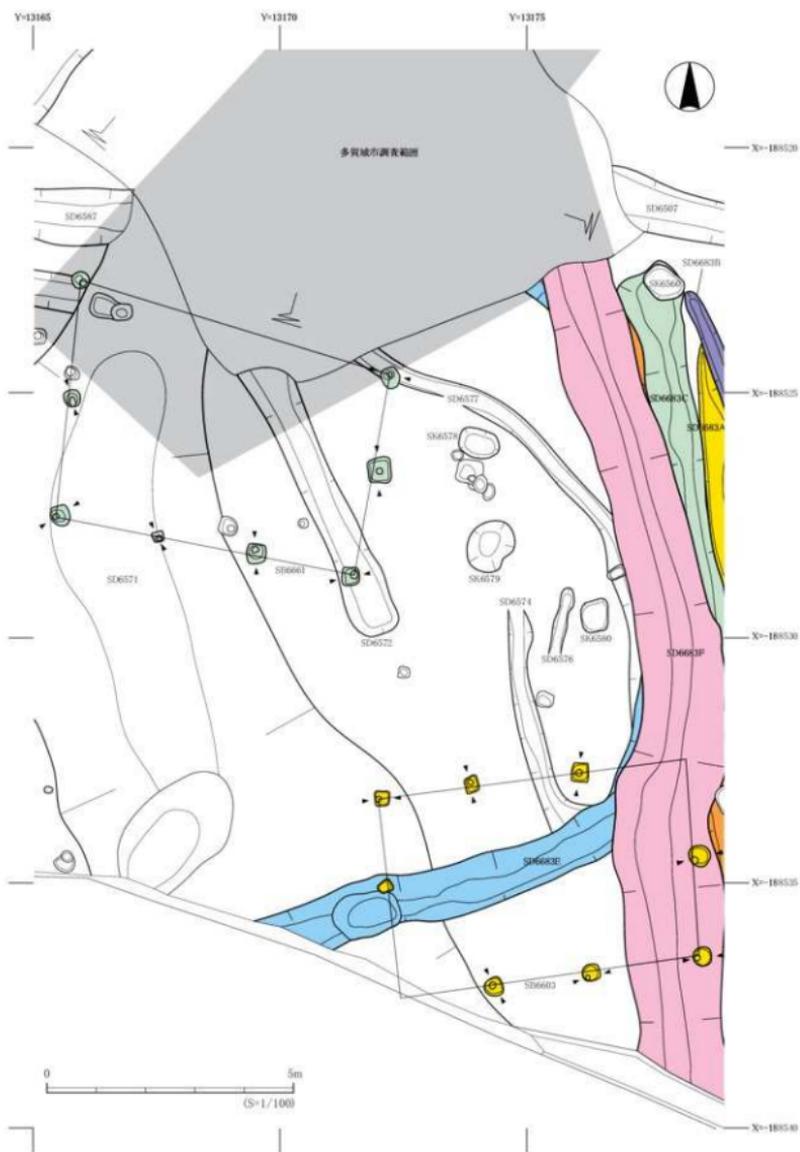


第89図 SB6655掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6656掘立柱建物跡】(第84・91図 図版12~14)

北2a西3区の調査区東寄りに位置する桁行2間以上、梁行2間の東西棟建物跡である。柱穴はSX6652・6658河川跡堆積土上面で5ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SB6543・6655・6708掘立柱建物跡、SX6652・6658河川跡と重複しSB6708掘立柱建物跡、SX6652・6658河川跡より新しく、SB6543掘立柱建物跡より古い。SB6655掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は西側柱列で柱間寸法が北より2.0m、2.1m、南側柱列で柱間寸法が西より2.0m、2.1mである。方向は西側柱列でみると北で西に約7°偏する。柱穴は一辺25~70cmの長方形で、残存している深さは10~30cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、黄褐色粘質シルト、褐色シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径14~19cmの円形で、堆積土は黒褐色粘質シルト、褐色シルトである。



第90图 北3西4区平面图(1)

遺物は出土していない。



第91図 SB6656掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6657掘立柱建物跡】(第83・84・106図 図版12・13)

北2a西3区の調査区東壁際で検出した建物跡である。柱穴はSX6658河川跡堆積土上面で1ヶ所検出したのみで南西隅柱になるものと思われる。SB6543掘立柱建物跡、SX6658河川跡と重複し、SX6658河川跡より新しく、SB6543掘立柱建物跡より古い。

平面規模・方向は不明である。柱穴は一边60～100cmの長方形で、残存している深さは45cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、暗灰黄色シルトである。柱は抜き取られており柱痕跡は確認されていない。抜き取り穴の堆積土は地山ブロック、焼土粒を含む黒褐色シルト・粘質シルトである。

遺物は掘方埋土から輪羽口が出土している。また、抜き取り穴の堆積土から非クロコ調整の土師器甕、須惠器杯・高台盤(第106図-4)が出土している。須惠器杯の底部は回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明である。須惠器高台盤の底部はヘラ切り後回転ヘラケズリされている。

【SB6659掘立柱建物跡】(第60・92図)

北2a西4区の調査区南壁際に位置する東西1間以上、南北2間以上の建物跡である。柱穴は地山面で4ヶ所検出し、この中の3ヶ所で柱痕跡を確認している。SB6531・6672掘立柱建物跡、SI6535竪穴住居跡と重複し、SI6535竪穴住居跡より新しい。SB6531・6672掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

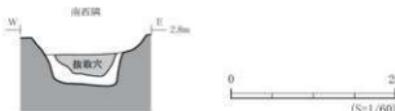
平面規模は北側柱列で柱間寸法が柱穴中央で計測すると2.53m、東側柱列で柱間寸法が北より1.80m、2.02mである。方向は東側柱列でみると北で西に約8°偏する。柱穴は一边25～50cmの正方形・長方形で、残存している深さは27～44cmである。埋土は地山ブロックを含む灰褐色シルトである。柱痕跡は径11～16cmの円形で、堆積土は黒褐色シルト、暗褐色シルト、灰黄褐色シルトである。

遺物は、掘方埋土から丸瓦が出土している。



第92図 SB6659掘立柱建物跡柱穴断面図

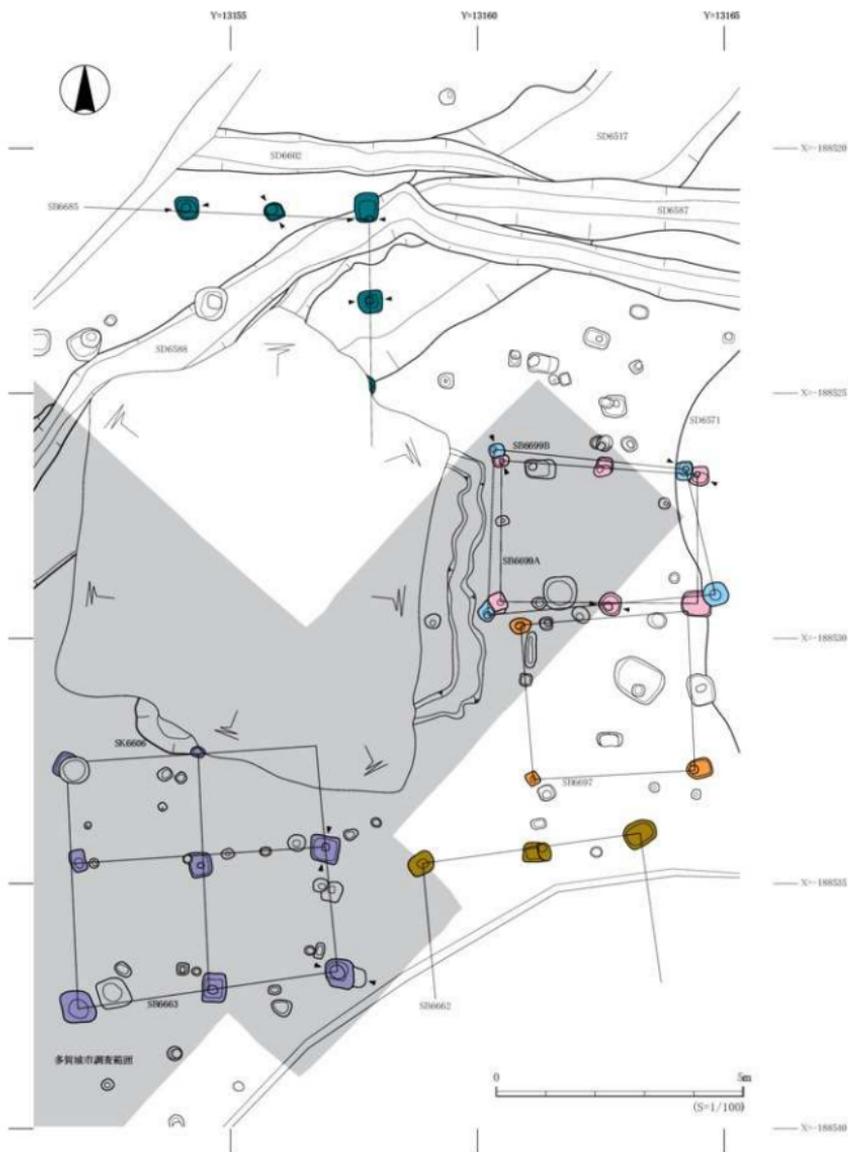
【SB6660掘立柱建物跡】(第59・93・106図 図版11)



第93図 SB6660掘立柱建物跡柱穴断面図

北3西3a区の調査区東壁際で検出した建物跡である。地山面で柱穴を1ヶ所検出したのみであるが、建物跡の南西隅柱になるものと思われる。他の遺構との重複関係はない。

平面規模・方向は不明である。柱穴は一边70～



第94圖 北3西4區平面圖(2)

90cmの長方形で、残存している深さは62cmである。埋土は地山ブロックを含むにぶい黄褐色砂である。柱は抜き取られており、柱痕跡は確認されていない。抜き取り穴の堆積土は黒褐色粘質シルトである。

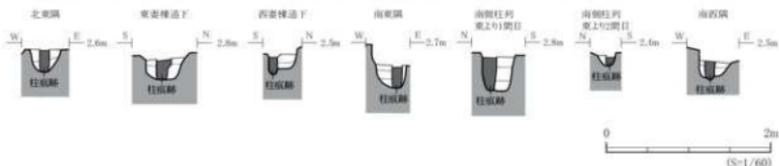
遺物は掘方埋土から須恵器甕が出土している。また、抜き取り穴の堆積土から非ロクロ調整の土師器鉢（第105図-5）・甕が少量出土している。このうち土師器鉢は、平底気味の丸底で、外面調整は体部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキ、底部がヘラミガキで、内面調整はヘラミガキ・黒色処理である。

【SB6661掘立柱建物跡】（第90・95図 図版11）

北3西4区南東寄りに位置する桁行3間、梁行2間の東西棟建物跡である。柱穴は地山面で8ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。北側柱列のうち北東隅柱穴と北西隅柱穴以外の柱穴は擾乱のため残存していない。SD6571・6572・6577・6588溝跡と重複し、SD6658溝跡より新しく、SD6571・6572・6577溝跡より古い。

平面規模は、桁行が南側柱列で総長6.12m、柱間寸法が西より2.13m、1.95m、2.07m、梁行が東側柱列で総長4.1m、柱間寸法が北より1.95m、2.14mである。方向は、東側柱列でみると北で東に約10°偏している。柱穴は一辺22～52cmの正方形・隅丸方形で、残存している深さは28～52cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径11～18cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器杯、須恵器鉢が出土している。



第95図 SB6661掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6662掘立柱建物跡】（第94図）

北3西4区の調査区南壁際に位置する東西2間、南北1間以上の建物跡と推定される。柱穴は地山面で3ヶ所検出した。他の遺構との重複関係はない。

平面規模は北側柱列で総長4.44m、柱間寸法が柱穴中央で計測すると西より2.3m、2.1mである。方向は北側柱列でみると東で北に約6°偏する。柱穴は一辺が35～60cmの隅丸長方形で、埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は確認されなかった。1ヶ所で柱の抜き取りがみられる。

遺物は出土していない。

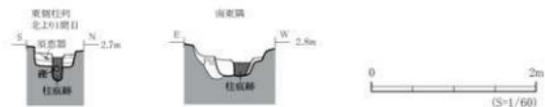
【SB6663掘立柱建物跡】（第94・96図）

北3西4区の中央部南寄りに位置する東西2間、南北2間の総柱建物跡である。柱穴は地山面で8ヶ所検出し、この中の4ヶ所で柱痕跡を確認している。北東隅柱穴は削平され残存していない。SK6605・6606土壌と重複し、これらより新しい。

平面規模は南側柱列で総長5.28m、柱間寸法が柱穴中央で計測すると西より2.68m、2.58m、西側柱

列で総長4.95m、柱間寸法が柱穴中央で計測すると北より2.02m、2.94mである。方向は東側柱列でみると北で西に約5°偏する。柱穴は一辺18～57cmの正方形・長方形で、残存している深さは11～41cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト・シルト、暗褐色シルト、灰黄褐色粘質シルトである。柱痕跡は径12～24cmの円形で、堆積土は黒褐色粘質シルト・シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器杯・甕、須恵器杯・壺が少量出土している。また、柱痕跡の堆積土から非ロクロ調整の土師器杯、須恵器杯（第106図6）が出土している。このうち須恵器杯は、底径が大きく、口縁部が直線的に外傾している。底部はヘラ切り無調整である。



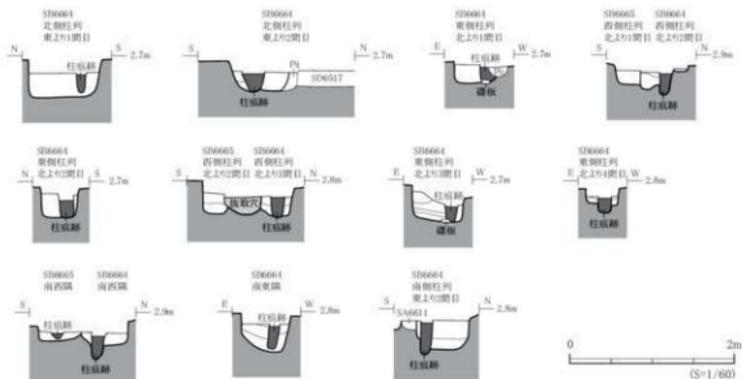
第96図 SB6663 掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6664 掘立柱建物跡】（第97・98図）

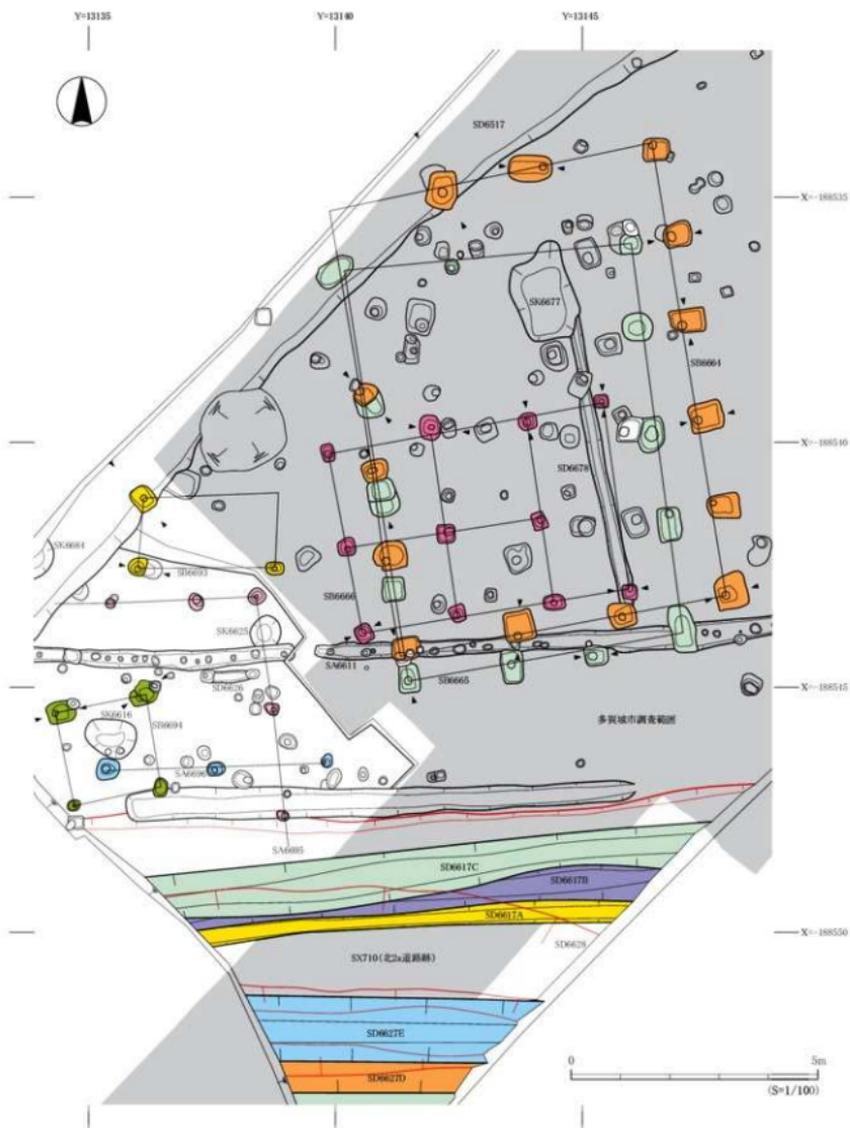
北3西4区の南西寄りに位置する桁行5間、梁行3間の南北棟建物跡である。柱穴は地山面で14ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SA6611材木堀跡、SB6665・6666掘立柱建物跡、SD6517区画溝跡、SD6678溝跡、SK6677土境と重複し、SA6611材木堀跡、SB6665掘立柱建物跡、SD6517区画溝跡、SD6678溝跡より新しい。SB6666掘立柱建物跡、SK6677土境との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が東側柱列で総長9.27m、柱間寸法が北より1.92m、1.81m、1.94m、1.7m、1.9m、梁行が南妻で総長6.7m、柱間寸法が西より2.37m、2.2m、2.13mである。方向は東側柱列でみると北で西に約10°偏する。柱穴は一辺26～80cmの正方形・長方形・隅丸長方形で、残存している深さは28～48cmである。このうち2ヶ所の柱穴に礎板が据えられている。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径12～26cmの円形で、堆積土は黒褐色シルト、暗褐色シルト、灰黄褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器甕が出土している。また、柱痕跡の堆積土から非ロクロ調整の土師器甕が出土している。



第97図 SB6664・6665 掘立柱建物跡柱穴断面図



第98図 北3西4区平面図(3)

【SB6665掘立柱建物跡】(第97・98図)

北3西4区の南西寄りに位置する桁行4間、梁行3間の南北棟建物跡である。柱穴は地山面で13ヶ所検出し、この中の6ヶ所で柱痕跡を確認している。SA6611材木崩跡、SB6664・6666掘立柱建物跡、SD6517区画溝跡、SD6678溝跡、SK6677土壌と重複し、SA6611材木崩跡、SD6517区画溝跡より新しく、SB6664掘立柱建物跡より古い。SB6666掘立柱建物跡、SD6678溝跡、SK6677土壌との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が西側柱列で総長約8.5m、柱間寸法が柱穴中央で計測すると北より2.8m、1.8m、2.0m、1.85m、梁行が南妻で総長5.65m、柱間寸法が西より2.12m、1.66m、1.88mである。方向は東側柱列でみると北で西に約8°偏する。柱穴は一边20～95cmの正方形・長方形・隅丸長方形で、残存している深さは26～40cmである。このうち1ヶ所の柱穴には礎板が据えられている。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。柱痕跡は径10～25cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。1ヶ所で柱が抜き取られており、抜き取り穴の堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

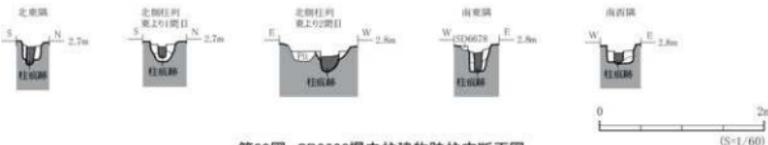
遺物は掘方埋土から非クロロ調整の土師器甕が少量出土している。

【SB6666掘立柱建物跡】(第98・99・106図)

北3西4区の南西寄りに位置する桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、東側に1間分の張り出しがある。柱穴は地山面で11ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SB6664・6665掘立柱建物、SD6678溝跡と重複し、SD6678溝跡より新しい。SB6664・6665掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が北側柱列で総長5.58m、柱間寸法が西より2.14m、1.92m、1.54m、梁行が西妻で総長3.63m、柱間寸法が北より1.96m、1.7mである。方向は西側柱列でみると北で西に約11°偏する。柱穴は一边18～40cmの正方形・長方形で、残存している深さは21～33cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、暗褐色シルトである。柱痕跡は径10～22cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非クロロ調整の土師器壺(第106図7)・甕が出土している。このうち土師器壺は、頸部と体部の境が緩やかに屈曲し、口縁部は強く外反する。外面調整は、口縁部がヨコナデで、頸部から体部は全体に磨滅しており不明瞭であるが部分的なヘラミガキが観察される。内面調整は、口縁部がヨコナデで、体部はヘラナデである。



第99図 SB6666掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6672掘立柱建物跡】(第60・100図)

北2a西4区の東寄りに位置する東西1間以上、南北3間の建物跡である。柱穴は地山面で6ヶ所検出し、この中の2ヶ所で柱痕跡を確認している。SB6530・6531・6659掘立柱建物跡、SD6536溝跡と重複するがこれらとの新旧関係は不明である。

平面規模は、南側柱列で柱間寸法が3.03m、西側柱列で柱間寸法が柱穴中央で計測すると北より、1.87m、2.02m、1.94mである。方向は西側柱列でみると北で東に約2°偏する。柱穴は一边34～53cmの

方形・長方形で、残存している深さは12～38cmである。埋土は黄褐色シルト質粘土、暗褐色シルトである。柱痕跡は径12～28cmの円形で、堆積土は暗褐色シルトである。4ヶ所で柱の抜き取りがみられ、抜き取り穴の堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から底部が静止糸切り後手持ちヘラケズリされた須恵器帯が出土している。



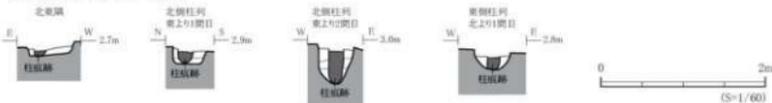
第100図 SB6672掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6685掘立柱建物跡】(第94・101図)

北3西4区の中央部北寄りに位置する東西2間以上、南北2間以上の建物跡である。柱穴は地山面で5ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SD6517区画溝跡、SD6587・SD6588溝跡と重複し、これらより新しい。

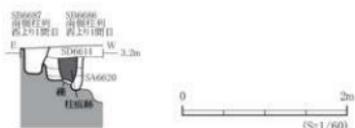
平面規模は、北側柱列で総長3.68m以上、柱間寸法が東より1.95m、1.76m、東側柱列で総長3.42m以上、柱間寸法が北より1.65m、1.76mである。方向は、東側柱列でみると北で西に約1°偏している。柱穴は一辺32～56cmの正方形・長方形で、残存している深さは17～48cmである。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルト、黒褐色粘質シルト・シルトである。柱痕跡は径15～18cmの円形で、堆積土は黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。

遺物は出土していない。



第101図 SB6685掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6686掘立柱建物跡】(第61・102図)



第102図 SB6686・6687掘立柱建物跡柱穴断面図

北2a西4区の調査区南壁際に位置する東西1間以上、南北1間以上の建物跡である。柱穴は地山面で3ヶ所検出し、この中の2ヶ所で柱痕跡を確認している。

SA6620材木堀跡、SB6687掘立柱建物跡、SD6613・6614・6613・6632溝跡と重複し、SA6620材木堀跡より新しく、SB6687掘立柱建物跡、SD6613・6614溝跡より古い。SD6631・6632溝跡との新旧関係は不明である。

平面規模は東西が南側柱列で2.45m、南北が西側柱列で1.66mである。方向は西側柱列でみると北で東に約17°偏する。柱穴は一辺32～40cmの正方形・長方形で、残存している深さは55cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。柱痕跡は径12～25cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は出土していない。

【SB6687掘立柱建物跡】(第61・102図)

北2a西4区の調査区南壁際に位置する東西1間以上、南北1間以上の建物跡である。柱穴は地山面で3ヶ所検出し、この中の1ヶ所で柱痕跡を確認している。SA6620材木堀跡、SB6686掘立柱建物跡、SD6614・6631・6632溝跡と重複し、SA6620材木堀跡、SB6686掘立柱建物跡、SD6614溝跡より新しい。SD6631・6632溝跡との新旧関係は不明である。

平面規模は柱穴中央で計測すると東西が南側柱列で2.0m、南北が西側柱列で2.5mである。方向は西側柱列でみると北で西に約5°偏する。柱穴は一辺35～55cmの長方形で、残存している深さは33cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径13cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から底部がへら切り無調整の須恵器帯が出土している。

【SB6688掘立柱建物跡】(第61図)

北2a西4区の北西寄りに位置する東西2間、南北1間以上の建物跡である。柱穴は地山面で4ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SA6620材木堀跡、SB6689掘立柱建物跡、SD6621・6636・6637溝跡と重複し、SA6620材木堀跡、SB6689掘立柱建物跡より新しく、SD6621溝跡より古い。SD6636・6637溝跡との新旧関係は不明である。

平面規模は東西が南側柱列で総長4.27m、柱間寸法が西より2.12m、2.15m、南北が西側柱列で柱間寸法1.58mである。方向は南側柱列でみると西で北に約9°偏する。柱穴は一辺22～50cmの長方形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径12～15cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非クロロ調整の土師器帯が出土している。また、柱痕跡の堆積土からクロロ調整の土師器帯が出土している。

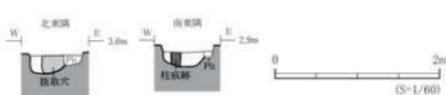
【SB6689掘立柱建物跡】(第61図)

北2a西4区の北西寄りに位置する東西1間以上、南北2間以上の建物跡である。柱穴は地山面で4ヶ所検出し、この中の3ヶ所で柱痕跡を確認している。SA6620材木堀跡、SB6688掘立柱建物跡と重複し、これらより古い。

平面規模は柱穴中央で計測すると東西が南側柱列で柱間寸法2.3m、南北が西側柱列で柱間寸法は北より2.0m、1.64mである。方向は西側柱列でみると北で西に約6°偏する。柱穴は一辺22～34cmの長方形・不整形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。柱痕跡は径12～14cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から調整不明の土師器帯が出土している。

【SB6694掘立柱建物跡】(第98・103・106図)



第103図 SB6694掘立柱建物跡柱穴断面図

北3西4区の南西寄りに位置する桁行1間、梁行1間の南北棟建物跡である。柱穴は地山面で4ヶ所検出し、この中の2ヶ所で柱痕跡を確認している。SA6696柱列跡、

SK6616土壇と重複するが、新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が西側柱列で総長1.9m、梁行が南側柱列で総長1.8mである。方向は東側柱列でみると北で西に約10°偏する。柱穴は一辺22～50cmの隅丸方形・不整形で、残存している深さは24～26cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。柱痕跡は径7～13cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。1ヶ所で柱が抜き取られており、抜き取り穴の堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は柱穴埋土から非ロクロ調整の土師器甕、須恵器杯(第106図8)、丸瓦が少量出土している。このうち須恵器杯は、底径が大きく、口縁部は直線的に外傾している。底部はへら切り無調整である。抜き取り穴の堆積土からは須恵器甕が出土している。

【SB6697掘立柱建物跡】(第94図)

北3西4区の南東寄りに位置する東西1間、南北1間の建物跡である。柱穴は地山面で3ヶ所検出し、この中の2ヶ所で柱痕跡を確認している。SB6699A・B掘立柱建物跡と重複し、これらより古い。

平面規模は、南側柱列で柱間寸法が3.25m、西側柱列で柱間寸法が3.13mである。方向は西側柱列でみると北で西に約5°偏している。柱穴は一辺22～45cmの正方形・隅丸方形で、残存している深さは11～45cmである。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルト、地山粒を含む黒褐色シルトである。柱痕跡は径17～20cmの円形である。堆積土は不明である。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器杯・甕、須恵器杯・甕・壺が少量出土している。また、柱痕跡の堆積土から非ロクロ調整の土師器甕が出土している。このうち須恵器壺には会津大戸窯の製品とみられるものが含まれる。

【SB6699A・B掘立柱建物跡】(第94・104・106図)

北3西4区の中央部に位置する桁行2間、梁行1間の東西棟建物跡で、桁行1間、梁行1間の東西棟に建て替えられている(SB6699A→B)。地山面で検出した。SB6697掘立柱建物跡、SD6571溝跡と重複し、SB6697掘立柱建物跡より新しく、SD6571溝跡より古い。

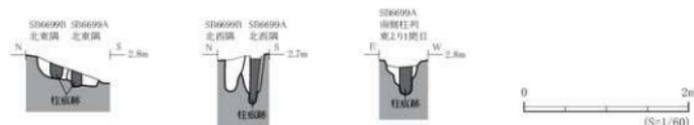
SB6699Aは6ヶ所で柱穴を検出し、この中の3ヶ所で柱痕跡を確認している。平面規模は桁行が北側柱列で総長3.94m、柱間寸法が西より2.06m、1.88m、梁行が東側柱列で2.63mである。方向は東側柱列でみるとほぼ真北方向である。柱穴は一辺14～50cmの正方形・長方形で、残存している深さは22～62cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。柱痕跡は径9～14cmの円形で、1ヶ所で柱の抜き取りがみられる。堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器甕、須恵器杯・甕・壺が出土している。また、柱痕跡の堆積土からロクロ調整の土師器杯(第106図9)、調整不明の土師器杯、須恵器杯が出土している。このうち土師器杯は、外面が体下部から底部にかけて手持ちへラケズリされており、切り離し不明のものである。

SB6699Bは4ヶ所で柱穴を検出し、この中の2ヶ所で柱痕跡を確認している。SB6699Aとほぼ同位置で重複しているが、東側柱列が西に傾き、歪んだ平面形を呈する。平面規模は桁行が北側柱列で3.84m、梁行が東側柱列で2.6mである。方向は東側柱列でみると北で西に約13°偏している。柱穴は一辺20～40cmの方形で、残存している深さは40～47cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

柱痕跡は径12～18cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器環・甕が少量出土している。また、柱痕跡の堆積土から非ロクロ調整の土師器甕が少量出土している。



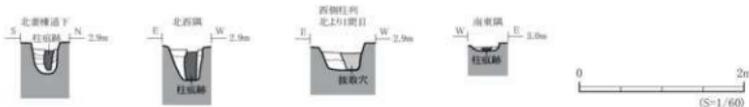
第104図 SB6699A・B掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6708掘立柱建物跡】(第84・105図 図版12・14)

北2a西3区の調査区東寄りに位置する桁行2間、梁行2間の南北棟建物跡である。柱穴は地山面およびSX6652・6658河川跡堆積土上で7ヶ所検出し、この中の4ヶ所で柱痕跡を確認している。SB6543・6544・6655・6656掘立柱建物跡、SX6652・6658河川跡と重複し、SX6652・6658河川跡より新しく、SB6656掘立柱建物跡より古い。SB6543・6544・6655掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が西側柱列で総長4.5m、柱間寸法が柱穴中央で計測すると北より1.9m、2.6m、梁行が北妻で総長3.6m、柱間寸法が西より1.85m、1.7mである。方向は西側柱列でみると北で東に約10°偏する。柱穴は一辺20～55cmの長方形で、残存している深さは10～40cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、黄褐色粘質シルト、灰黄褐色シルトである。柱痕跡は径12～21cmの円形で、1ヶ所で柱の抜き取りがみられる。堆積土は黒褐色粘質シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器環・甕、ロクロ調整の土師器環、調整不明の土師器環・甕、須恵器環・蓋・甕・鉢・壺、丸瓦が少量出土している。このうち土師器環の底部は回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。また、抜き取り穴の堆積土から須恵器環が出土している。



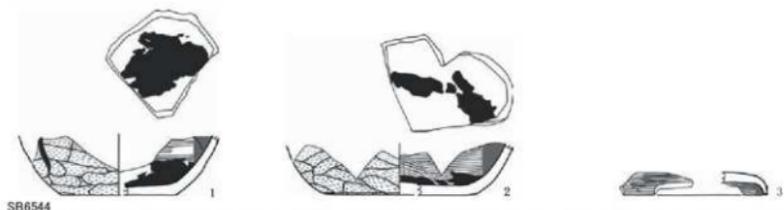
第105図 SB6708掘立柱建物跡柱穴断面図

【SB6710掘立柱建物跡】(第84・88図 図版12・14)

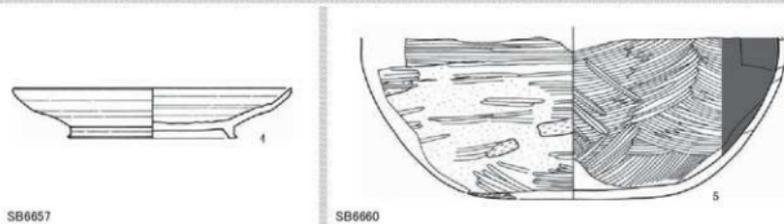
北2a西3区の調査区南西寄りに位置する桁行2間、梁行1間の東西棟建物跡である。柱穴は地山面およびSX6658河川跡堆積土上で5ヶ所検出し、この中の3ヶ所で柱痕跡を確認している。SB6543・6544・6654掘立柱建物跡、SK6642土壌、SX6658河川跡と重複し、SX6658河川跡より新しく、SB6544・6654掘立柱建物跡、SK6642土壌より古い。SB6543掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が北側柱列で総長3.3m、柱間寸法が西より1.8m、1.5m、梁行が西妻で2.0mである。方向は西側柱列でみると北で東に約1°偏する。柱穴は一辺が30～50cmの長方形・隅丸方形で、残存している深さは20～30cmである。埋土は地山ブロックを含む黄褐色粘質シルト、灰黄褐色粘質シルト、黒褐色シルトである。柱痕跡は径16～26cmの円形で、堆積土は黒褐色粘質シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器甕が出土している。



SB6544



SB6657

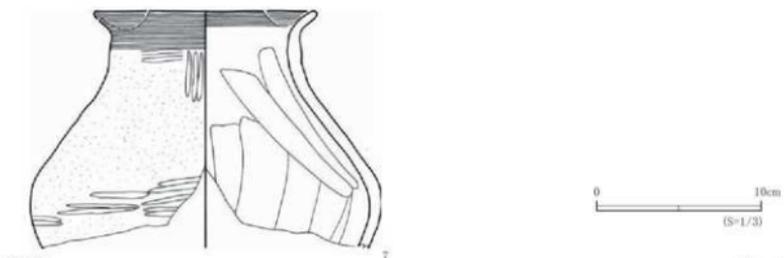
SB6660



SB6663

SB6694

SB6699A



SB6666

(単位: cm)

№	種別	遺構/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図版	登録
1	上群器・杯	SB6544北側柱列 北より1間目柱穴		(7.6)		体下部～底部片	外面：半持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 縁付き 底部：半持ちヘラケズリ	S7-7	R453
2	上群器・杯	SB6544北西隅柱穴		(9.4)		体下部～底部1/4	外面：半持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 縁付き 底部：半持ちヘラケズリ	S7-9	R454
3	上群器・蓋	SB6544北西隅道下 柱穴東方				口縁部～体部片	内外面：ヘラミガキ→黒色地埋		R455
4	灰色部・土作層	SB6657南西隅柱列敷 北より2間目柱穴	(17.0)	10.3	3.1	2/3	内外面：ロクロナダ 底部：ヘラ切り→回転ヘラケズリ→付着台	S2-2	R449
5	上群器・鉢	SB6660北西隅柱列敷		12.8		体部～底部定形	外面：半持ちヘラケズリ→ヘラミガキ 輪積痕 内面：ヘラミガキ→黒色地埋	S2-1	R462
6	須恵器・杯	SB6663東側柱列北より 1間目柱穴直縁	(14.8)	8.4	4.1	3/4	内外面：ロクロナダ 底部：ヘラ切り→半持ちヘラケズリ	S2-3	R456
7	上群器・甕	SB6666北側柱列 北より2間目柱穴東方	(13.6)			口縁部1/4～体部	外面：ヨコナダ・ナダ、ヘラミガキ 内面：ヨコナダ・ナダ	S2-4	R459
8	須恵器・杯	SB6694北西隅柱列敷	(13.8)	8.5	4.1	1/2	内外面：ロクロナダ 底部：ヘラ切り		R461
9	上群器・杯	SB6699A北西隅柱穴	(13.2)	(7.4)	3.6	1/4	外面：ロクロナダ→半持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色地埋 底部：切り履し不明→半持ちヘラケズリ		R458

第106図 掘立柱建物跡出土土器 -SB6544・6657・6660・6663・6664・6666・6699A-

標識No.	位置	分類	建築物数	棟方向	面積		延床面積 (㎡)	延床積率 (%)	建築の方向 角度 / 方位角 (%)	柱間隔 (cm)	柱 六 方		時期	新旧関係、出土建築物之	平面図	断面図	写真図版
					延床面積 (㎡)	延床積率 (%)					平面形	規模 (cm)					
S06020	北2西4区	C群 2	2	東西横	3.2	北	1.92 + 1.65	3.1	東	16 ~ 25	方形, 長方形	20 ~ 60	古代	S16035 瓦葺・S2654 青銅・S2653 漆喰・S2652 漆喰と土葺中心部白磁器土葺	60	81	12-1-2
S06021	北2西4区	D群 2	2	東西横	2.5	北	2.5 + 2.3	3.0	東	30 ~ 40	方形	60 ~ 70	古代	S14635 瓦葺・S2653 漆喰・S2652 漆喰と土葺中心部白磁器土葺	60	82	12-1-3
S06022	北2西4区	C群	1	東西横 東側・南 北往回	16.7	北	12.98 + 2.98 + 4.2 (土葺部分) + 3.1	13.7	東	11 ~ 18	正方形, 長方形	15 ~ 54	古代	S4632 材木葺・S4633 瓦葺・S4629・S4640 ~ S4641 材木葺と土葺中心部白磁器土葺	60	72	18-1
S06023	北2西4区	C群	1	東西横 北往回	10.1	北	1.35 + 1.12 + 1.64 + 5.96 (土葺部分)	12.3	東	12 ~ 16	正方形, 長方形, 円形, 扇形	15 ~ 40	古代	S16037 瓦葺・S2653 漆喰・S2652 漆喰と土葺中心部白磁器土葺	60	74	18-1
S06043	北2西3区	C群 2	2	南北横	2.8	南	2.8 + 2.6 + 2.0 + 1.96	4.7	東	14 ~ 25	正方形, 長方形	30 ~ 100	古代	S2656 ~ S2657 漆喰・S2658 ~ S2659 土葺・S2653 漆喰・S2654 漆喰・S2655 漆喰・S2656 漆喰	84	83	12-4 12-1-2 12-1-3 12-1-4 12-1-5 14-1
S06044	北2西3区	D群 2	2	南北横	2.8	南	1.98 + 2.22 + 2.18 + 2.44	4.7	東	18 ~ 31	正方形, 扇形	70 ~ 110	古代	S2653 漆喰・S2654 漆喰・S2655 漆喰・S2656 漆喰	84	85	12-4 12-1-2 12-1-3 14-1
S06045	北2西3区	C群 2	2	南北横	2.4	東	2.1 + 2.1	2.4	東	12 ~ 22	正方形, 長方形	40 ~ 65	古代	S2653 漆喰・S2654 漆喰・S2655 漆喰・S2656 漆喰	84	86	12-4 12-1-2
S06063	北3西4区	C群 3	2	東西横	6.4	北	1.27 + 2.22 + (土葺)	4.0	東	12 ~ 15	方形, 扇形	22 ~ 38	古代	S2653 漆喰・S2654 漆喰・S2655 漆喰・S2656 漆喰	90	87	11-1-2
S06064	北2西3区	C群 3	1	南北横	2.1	東	1.8	2.1	東	15 ~ 19	正方形, 長方形	35 ~ 45	古代	S26719 漆喰・S2654 漆喰・S2653 漆喰・S2654 ~ S2654 + 6545 漆喰・土葺中心部白磁器土葺	84	88	12-4 14-0
S06065	北2西3区	C群 2	2	東西横	2.3	北	1.7 + 1.95	4.4	東	12 ~ 18	長方形	25 ~ 30	古代	S2654 ~ S2654 漆喰・S2655 漆喰・S2656 漆喰・S2657 漆喰・S2658 漆喰・土葺中心部白磁器土葺	84	89	12-4 14-4
S06066	北2西3区	D群 2	2	東西横	2.4	南	2.0 + 2.1	4.1	東	14 ~ 19	長方形	35 ~ 70	古代	S26708 漆喰・S2656 漆喰・S2653 漆喰・S2654 漆喰・S2655 漆喰・土葺中心部白磁器土葺	84	91	12-4 14-5
S06067	北2西3区	C群 2	2	南北横	2.3	北	1.8 + 2.02	2.2	東	11 ~ 16	方形, 長方形	25 ~ 30	古代	S2653 漆喰・S2654 漆喰・S2655 漆喰・S2656 漆喰・土葺中心部白磁器土葺	60	92	
S06068	北3西3区	D群 3	2	東西横	6.2	南	2.13 + 1.95 + 2.07	4.1	東	11 ~ 18	方形, 扇形	22 ~ 62	古代	S2653 漆喰・S2654 漆喰・S2655 漆喰・S2656 漆喰・土葺中心部白磁器土葺	90	95	11-3
S06069	北3西4区	D群	1	不明	5.3	南	2.08 + 2.58	5.0	東	12 ~ 24	方形, 長方形	18 ~ 37	古代	S2653 漆喰・S2654 漆喰・S2655 漆喰・S2656 漆喰・土葺中心部白磁器土葺	94	96	
S06071	北3西4区	D群	1	不明	5.3	南	1.92 + 1.81 + 1.94 + 1.7 + 1.9	6.7	東	12 ~ 26	長方形, 扇形	25 ~ 80	古代	S26716 漆喰・S2653 漆喰・S2654 漆喰・S2655 漆喰・S2656 漆喰・土葺中心部白磁器土葺	90	97	

表 3-1 平成 18 年度調査 市川橋遺跡掘立柱建物跡・柱列跡一覧

遺構No.	位置	分類	建群数	棟数	棟方向	平面		断面		傾斜	築造年代	遺構の方向 角度/方位	柱間隔 (cm)	柱 六 方		種類	新旧関係・出土遺物など	平面図	断面図	写真位置
						柱間寸法 (a)	柱間寸法 (b)	幅	高さ					平面形	規模 (cm)					
S6070	北3区3a区	D群	単1	相行 縦行	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 2.48 + 2.58 + 2.36	高さ 1.38 + 1.64 + 1.52			方位	22 ~ 34	古代	S6058 柱本遺跡→S6070 柱間跡・S6052 遺跡 → S6099 柱間跡・S6054 柱本遺跡・S6055 遺跡 跡と重なる部分の柱間跡不明	59				
S6070	北3区3a区	D群	東西・南 北北行	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 1.38 + 1.64 + 1.52 1.58 + 1.64 (1段分)	高さ 6.2	東西 4.86(3段分) + 1.24			方位	34 ~ 32	古代	S6053 遺跡→S6071 柱間跡・S6053・S604 柱 本と重なる部分の柱間跡不明	59				
S6070	北3区3a区	D群	東西・南 北北行	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 1.38 + 2.06 + 1.88 + 3.8(2段分)	高さ 6.6	東西 4.4(3段分) + 1.34 + 0.95			方位	35 ~ 28	古代	S6058・S604 柱本遺跡・S6052・S6043 遺跡 S6051 河川段跡と重なる部分の柱間跡不明	59				
S6070	北3区3a区	C群	東西・南 北北行	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 2.02 + 2.84 + 2.22	高さ 7.7	東西 2.92 + 2.84 + 1.33			方位	32 ~ 44	古代	S6054 柱本遺跡→S6042 遺跡・S1625(1区) 跡・S6052 遺跡・S6051 河川段跡と重なる部分 の柱間跡跡不明	59	77			
S6070	北2a区3区	D群	南北北行	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 4.46(3段分) + 1.96 + 1.72 + 1.12 + 2.7(2段分) + 1.25 + 1.88	高さ 7.7	東西 2.92 + 2.84 + 1.33			方位	34 ~ 36	古代	S6052 遺跡と重なる部分の柱間跡不明	29				
S6070	北2a区3区	A群	東西北行	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 1.46 + 1.96	高さ 7.7	東西 2.92 + 2.84 + 1.33			方位	32 ~ 25	古代	他の遺構との重複なし	29				
S6070	北2a区3区	A群	東西北行	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 1.42 + 1.54 + 1.62 + 2.42	高さ 7.7	東西 2.92 + 2.84 + 1.33			方位	38 ~ 38	古代	S6052 遺跡→S6070 柱間跡	84	78			
S6070	北2a区3区	D群	2	南北北行	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 1.9 + 2.6	高さ 3.6	東西 1.46 + 1.7		方位	30 ~ 55	古代	S6070 遺跡→S6056 遺跡・S6043・6544・ 6655 遺跡跡と重なる部分の柱間跡不明	94	105		12-4 14-6	
S6070	北2a区3区	C群	2	東西	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 1.8 + 1.5	高さ 2.0	東西 1.0 + 2.6		方位	30 ~ 50	古代	S6070 遺跡→S6054 遺跡・S6043 遺跡跡 と重なる部分の柱間跡不明	84	88		12-4 14-7	
S6071	北2a区3区	C群	2	東西	東西	柱間寸法 (a) 92	柱間寸法 (b) 93	幅 2.0 + 2.2	高さ 3.4	東西 1.7 + 1.7		方位	35 ~ 60	古代	S6071 遺跡→S6055 遺跡・S6043・6556 遺跡・S6049 土壁と重なる部分の柱間跡不明	84	107		12-4 14-6	

※1 A群・北2区3区に29・30・31と大きく異なる。B群→南・北2区3区に32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・107・108・109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・119・120・121・122・123・124・125・126・127・128・129・130・131・132・133・134・135・136・137・138・139・140・141・142・143・144・145・146・147・148・149・150・151・152・153・154・155・156・157・158・159・160・161・162・163・164・165・166・167・168・169・170・171・172・173・174・175・176・177・178・179・180・181・182・183・184・185・186・187・188・189・190・191・192・193・194・195・196・197・198・199・200・201・202・203・204・205・206・207・208・209・210・211・212・213・214・215・216・217・218・219・220・221・222・223・224・225・226・227・228・229・230・231・232・233・234・235・236・237・238・239・240・241・242・243・244・245・246・247・248・249・250・251・252・253・254・255・256・257・258・259・260・261・262・263・264・265・266・267・268・269・270・271・272・273・274・275・276・277・278・279・280・281・282・283・284・285・286・287・288・289・290・291・292・293・294・295・296・297・298・299・300・301・302・303・304・305・306・307・308・309・310・311・312・313・314・315・316・317・318・319・320・321・322・323・324・325・326・327・328・329・330・331・332・333・334・335・336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354・355・356・357・358・359・360・361・362・363・364・365・366・367・368・369・370・371・372・373・374・375・376・377・378・379・380・381・382・383・384・385・386・387・388・389・390・391・392・393・394・395・396・397・398・399・400・401・402・403・404・405・406・407・408・409・410・411・412・413・414・415・416・417・418・419・420・421・422・423・424・425・426・427・428・429・430・431・432・433・434・435・436・437・438・439・440・441・442・443・444・445・446・447・448・449・450・451・452・453・454・455・456・457・458・459・460・461・462・463・464・465・466・467・468・469・470・471・472・473・474・475・476・477・478・479・480・481・482・483・484・485・486・487・488・489・490・491・492・493・494・495・496・497・498・499・500・501・502・503・504・505・506・507・508・509・510・511・512・513・514・515・516・517・518・519・520・521・522・523・524・525・526・527・528・529・530・531・532・533・534・535・536・537・538・539・540・541・542・543・544・545・546・547・548・549・550・551・552・553・554・555・556・557・558・559・560・561・562・563・564・565・566・567・568・569・570・571・572・573・574・575・576・577・578・579・580・581・582・583・584・585・586・587・588・589・590・591・592・593・594・595・596・597・598・599・600・601・602・603・604・605・606・607・608・609・610・611・612・613・614・615・616・617・618・619・620・621・622・623・624・625・626・627・628・629・630・631・632・633・634・635・636・637・638・639・640・641・642・643・644・645・646・647・648・649・650・651・652・653・654・655・656・657・658・659・660・661・662・663・664・665・666・667・668・669・670・671・672・673・674・675・676・677・678・679・680・681・682・683・684・685・686・687・688・689・690・691・692・693・694・695・696・697・698・699・700・701・702・703・704・705・706・707・708・709・710・711・712・713・714・715・716・717・718・719・720・721・722・723・724・725・726・727・728・729・730・731・732・733・734・735・736・737・738・739・740・741・742・743・744・745・746・747・748・749・750・751・752・753・754・755・756・757・758・759・760・761・762・763・764・765・766・767・768・769・770・771・772・773・774・775・776・777・778・779・780・781・782・783・784・785・786・787・788・789・790・791・792・793・794・795・796・797・798・799・800・801・802・803・804・805・806・807・808・809・810・811・812・813・814・815・816・817・818・819・820・821・822・823・824・825・826・827・828・829・830・831・832・833・834・835・836・837・838・839・840・841・842・843・844・845・846・847・848・849・850・851・852・853・854・855・856・857・858・859・860・861・862・863・864・865・866・867・868・869・870・871・872・873・874・875・876・877・878・879・880・881・882・883・884・885・886・887・888・889・890・891・892・893・894・895・896・897・898・899・900・901・902・903・904・905・906・907・908・909・910・911・912・913・914・915・916・917・918・919・920・921・922・923・924・925・926・927・928・929・930・931・932・933・934・935・936・937・938・939・940・941・942・943・944・945・946・947・948・949・950・951・952・953・954・955・956・957・958・959・960・961・962・963・964・965・966・967・968・969・970・971・972・973・974・975・976・977・978・979・980・981・982・983・984・985・986・987・988・989・990・991・992・993・994・995・996・997・998・999・1000

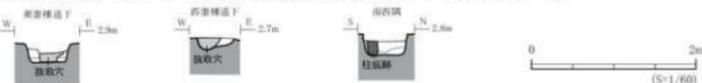
表3-3 平成18年度調査 市川橋遺跡掘立柱建物跡・柱列跡一覧

【SB6711掘立柱建物跡】(第84・107図 図版12・14)

北2a西3区の中央部に位置する桁行2間、梁行2間の東西棟建物跡である。柱穴は地山面およびSX6652・6658河川跡堆積土上面で5ヶ所検出し、この中の1ヶ所で柱痕跡を確認している。SB6543・6655・6656掘立柱建物跡、SK6549土壌、SX6652・6658河川跡と重複し、SX6652・6658河川跡より新しく、SB6655掘立柱建物跡より古い。SB6543・6656掘立柱建物跡、SK6549土壌との新旧関係は不明である。

平面規模は桁行が南側柱列で総長4.2m、柱間寸法はN3E2に該当する柱穴が未検出のため不明である。梁行は東側柱列で総長3.4m、柱間寸法が柱穴中央で計測すると北より1.7m、1.7mである。方向は東側柱列でみると北で東に約1°偏する。柱穴は一边が35～60cmの正方形・長方形で、残存している深さは15～25cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルト・粘質シルト、地山粒を含む褐色シルト、黄褐色粘質シルト、暗灰黄色砂質シルトである。柱痕跡は径16～20cmの円形で、堆積土は黒褐色粘土である。2ヶ所で柱の抜き取りがみられ、堆積土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器甕、須恵器甕が少量出土している。



第107図 SB6711掘立柱建物跡柱穴断面図

5) 竪穴住居跡・竪穴状遺構

(1) 竪穴住居跡

A区で3軒検出している。いずれも道路建設以前のもので、遺構の遺存状況はよくない。

【SI6520竪穴住居跡】(第59・108・110図 図版15)

北3西3a区の南西部、北2a西3a交差点の北東部に位置する。地山面で検出した。SA6538・6564材木堀跡、SI6645竪穴住居跡、SD6552溝跡、SK6570・6575・6646・6647土壌、SX6502河川流路跡、P746・747・752・753・757と重複し、SA6538・6564材木堀跡、SI6645竪穴住居跡より新しく、SD6552溝跡、SK6570・6575・6646・6647土壌、SX6502河川流路跡、P746・747・752・753・757より古い。

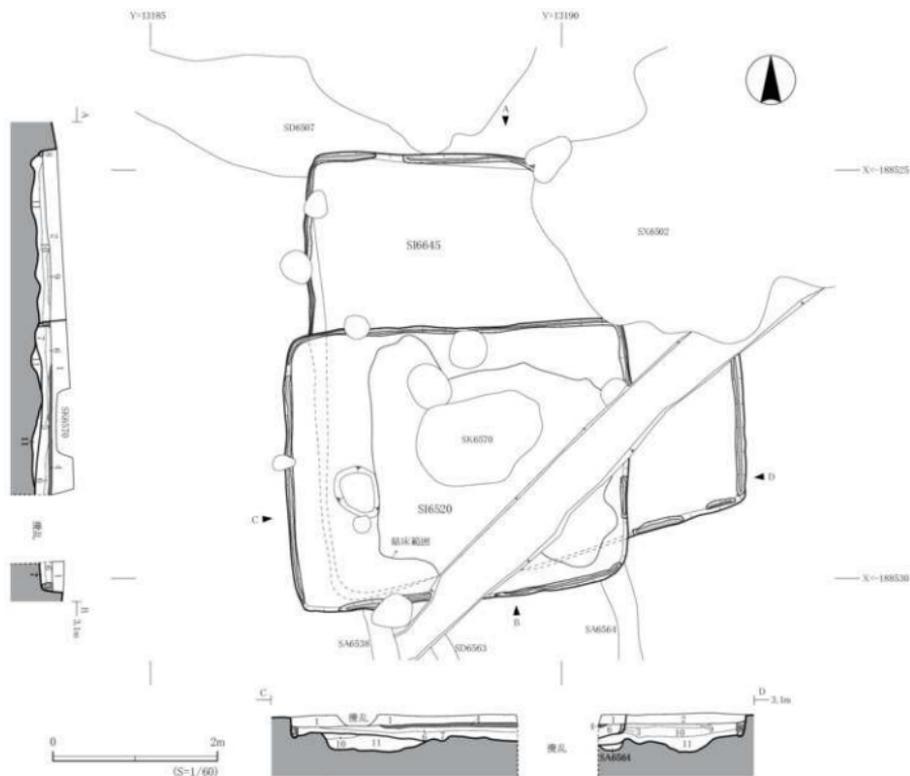
平面規模は東西が南辺で3.9m、南北が西辺で3.2mの隅丸長方形である。壁は、残りの最も良い北壁で約20cm残存している。方向は、西辺でみると北で西に約4°偏している。床は壁際を除いた住居中央部分の掘方埋土上面に貼床を施し床面としている。主柱穴、壁柱穴、カマド、貯蔵穴は検出されなかった。壁際では壁材痕を検出している。壁材痕の規模は幅6～11cm、残存している深さ9～15cm、堆積土は黒褐色粘土である。壁材は、住居と掘方を共有していることから住居構築時、貼床以前に設置されたものと考えられる。住居内堆積土は1層で、地山粒、炭化物粒を少量含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器杯(第110図1・2)・鉢・甕、須恵器杯(第110図10)・甕・壺・長頸壺が出土している。このうち土師器杯には、平底で外面調整が口縁部ヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリののちヘラミガキ、内面調整がヘラミガキ・黒色処理されるものと丸底気味で口縁部と体部の境に稜が巡り、外面調整が口縁部ヨコナデ、体部から底部が手持ちヘラケズリで内面調整がヘラミガキ・黒色処理されるものがある。須恵器杯の底部はヘラ切り後回転ヘラケズリされている。

床面からは非ロクロ調整の土師器坏（第110図3）・甕、須恵器坏・甕（第110図17）が出土している。このうち土師器坏は平底気味で内外面ヘラミガキ・黒色処理されるものである。須恵器甕は内面に漆が附着している。

周溝の壁材痕堆積土からは非ロクロ調整の土師器坏・甕が出土している。

堆積土・床面直上からは非ロクロ調整の土師器坏（第110図4～6）・甕、ロクロ調整の土師器坏（第110図7～9）・甕（第110図14・15）、須恵器坏（第110図11～13）・甕（第110図16）・壺が出土している。非ロクロ調整の土師器坏には平底で外面調整がヨコナデ後手持ちヘラケズリ、内面調整がヘラミガキ・黒色処理されているものがある。ロクロ調整の土師器坏の底部は回転ヘラケズリ再調整により切り離しが不



No.	土色	土性	混入物など	備考	No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黄褐色(IV)2/2	シルト	伊吹・朝比奈・ワダキ多量に、地吹・硝子・焼石・多量含む	SI6520埋積土 自然露	7	黄褐色(IV)2/2	粘質シルト	伊吹・朝比奈・ワダキ多量、硝子・焼石を含む	埋積土 SI6520埋積土
2	黄褐色(IV)2/2	シルト	伊吹・朝比奈・ワダキ多量に、地吹・硝子・焼石・多量含む	SI6520埋積土	8	黄褐色(IV)2/2	粘質シルト		埋積土 埋積土
3	黄褐色(IV)2/2	粘質シルト	伊吹・朝比奈・ワダキ多量に、地吹・硝子・焼石・多量含む	埋積土	9	黄褐色(IV)2/2	粘質シルト	伊吹・朝比奈・ワダキ多量に、硝子・焼石を含む	埋積土 SI6520埋積土
4	黄褐色(IV)2/2	粘質シルト	伊吹・朝比奈・ワダキ多量に、地吹・硝子・焼石・多量含む	埋積土	10	黄褐色(IV)2/2	粘質シルト	伊吹・朝比奈・ワダキ多量に、硝子・焼石を含む	埋積土 SI6520埋積土
5	黄褐色(IV)2/2	粘質シルト	伊吹・朝比奈・ワダキ多量に、地吹・硝子・焼石・多量含む	埋積土	11	黄褐色(IV)2/2	シルト質	伊吹・朝比奈・ワダキ多量に、硝子・焼石を含む	埋積土 埋積土
6	黄褐色(IV)2/2	粘質シルト	伊吹・朝比奈・ワダキ多量に、地吹・硝子・焼石・多量含む	埋積土					

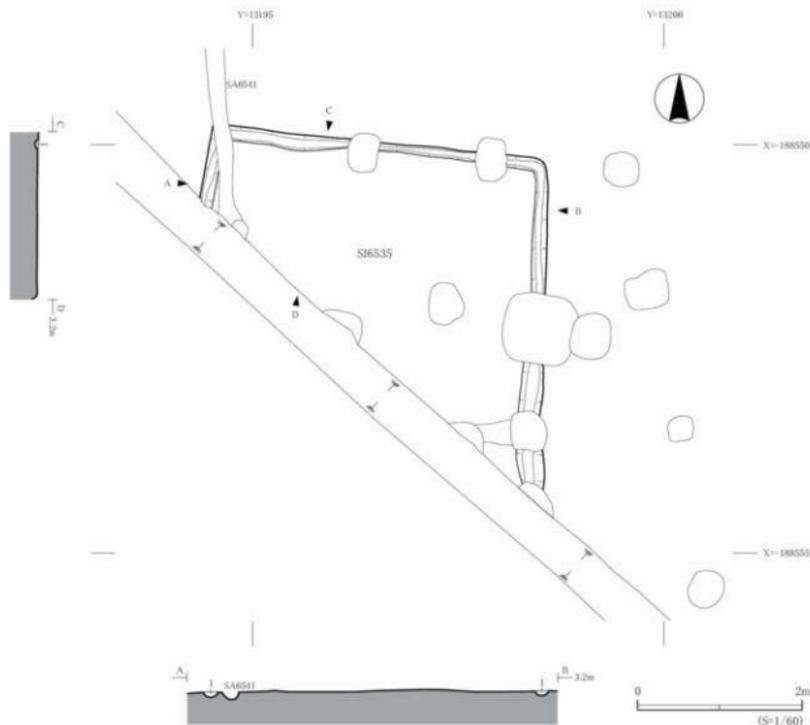
第108図 SI6520-6645竪穴住居跡平面図・断面図

明のもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離しが不明のもの、回転糸切り後ナデを施されているものがある。須恵器坏の底部はヘラ切り無調整のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。非ロクロ調整の土師器坏・甕の内面には漆の付着しているものが含まれている。このほかに確認面から古墳時代後期の須恵器坏H身（第110図18）、古代の須恵器壺G（第110図19）、砥石（第157図7）が出土している。

【SI6535竪穴住居跡】（第60・109図 図版15）

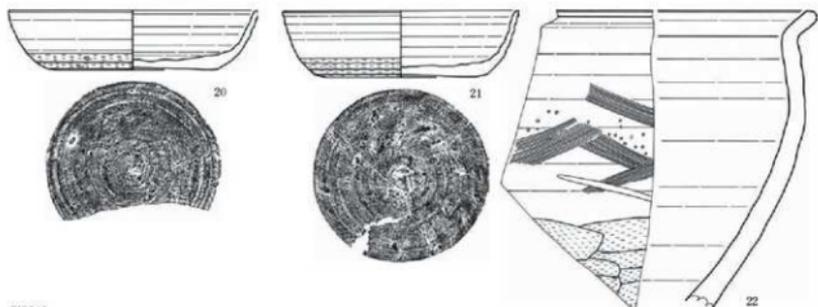
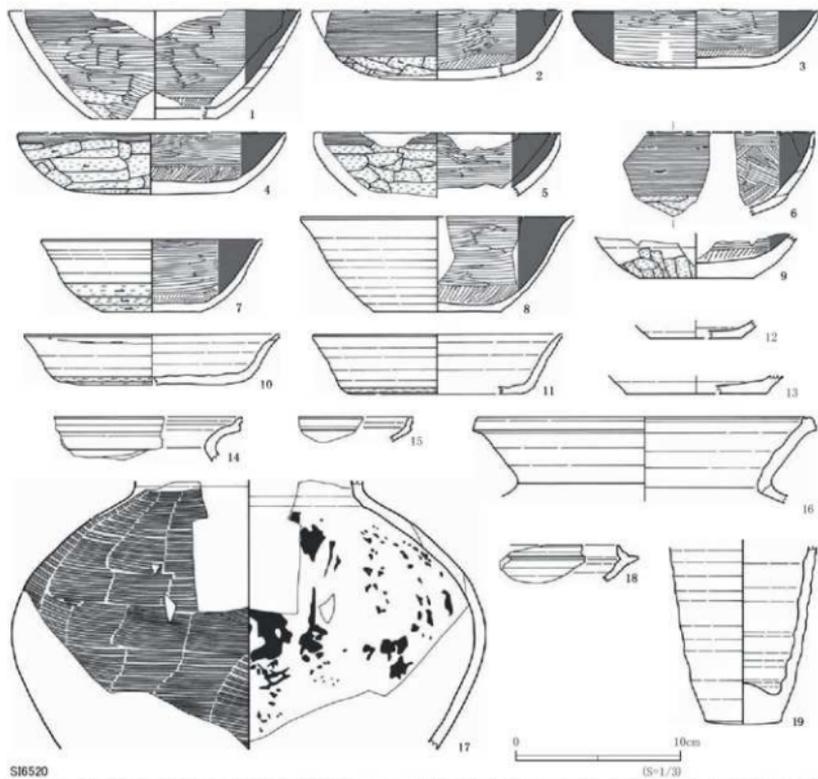
北2a西4区の調査区南壁際に位置する。地山面で検出した。SA6541材木堀跡、SB6530・SB6531・SB6659掘立柱建物跡、P151・153・166・167・168と重複し、SA6541材木堀跡、SB6530・6531・6659掘立柱建物跡より古い。P151・153・166・167・168との新旧関係は不明である。遺構の南半部が調査区外へ延びているため全体の形状は不明であるが、方形を基調とするものと思われる。

規模は東西が北辺で4.0m、南北が東辺で4.0m以上である。壁は削平され残存していない。方向は、



No.	土色	土性	出土物など	備考
1	灰青褐色(砂鉄質)	砂質粘土	ワシロ全9葉、酸化鉄粒(2)	自然堆積

第109図 SI6535竪穴住居跡平面図・断面図



第110図 竪穴住居跡・竪穴状遺構出土土器 -SI6520・6619・6645-

№	種別	遺構/層位	口積	底径	器高	残存	特 徴	写真掲載	要録
1	土師器・杯	S16620壁方	(18.0)	(7.7)	6.7	口縁部1/4～底面	外面:ロクナデ→斜めヘラケズリ→ヘラミダキ→黒色粘質 底面:斜めヘラケズリ		810
2	土師器・杯	S16620壁方	(18.4)			口縁部1/4～体下部	外面:ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダキ→黒色粘質		89
3	土師器・杯	S16620壁面	15.1	10.1	3.5	2/3	内外面:ヘラミダキ→黒色粘質		813
4	土師器・杯	S1620壁土→面直上	16.5	10.2	3.8	3/4	外面:ヨコナデ→斜めヘラケズリ 内面:ヘラミダキ→黒色粘質 底面:斜めヘラケズリ		821
5	土師器・杯	S1620壁土→面直上	(18.1)			口縁部1/4～体面	外面:ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダキ→黒色粘質		820
6	土師器・杯	S1620壁土→面直上				口縁部～体面	外面:ヨコナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダキ→黒色粘質		825
7	土師器・杯	S1620壁土→面直上	(13.6)	6.0	4.5	2/3	外面:ロクナデ→斜めヘラケズリ 内面:ヘラミダキ→黒色粘質 底面:斜めヘラケズリ		823
8	土師器・杯	S1620壁土→面直上	(16.8)	(7.8)	5.9	1/5	外面:ロクナデ 内面:ヘラミダキ→黒色粘質 底面:切り離し不明→斜めヘラケズリ		823
9	土師器・杯	S1620壁土→面直上		(7.0)		体下部～底面1/4	外面:ロクナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダキ→黒色粘質 底面:切り離し不明→斜めヘラケズリ		824
10	須恵器・杯	S16620壁方	(15.8)	(11.2)	3.2	1/4	外面:ロクナデ→斜めヘラケズリ 内面:ロクナデ 底面:ヘラ切り→斜めヘラケズリ		816
11	須恵器・杯	S1620壁土→面直上	(15.4)	(11.0)	3.7	1/6	外面:ロクナデ→斜めヘラケズリ 内面:ロクナデ 底面:切り離し不明→斜めヘラケズリ		821
12	須恵器・杯	S16620壁直上		(5.5)		体下部～底面1/4	内外面:ロクナデ 底面:回転車切り		819
13	須恵器・杯	S16620壁直上		(8.4)		体下部～底面1/4	内外面:ロクナデ 底面:ヘラ切り→ナデ		829
14	土師器・壺	S16620壁直上				口縁部片	内外面:ロクナデ		816
15	土師器・壺	S16620壁直上				口縁部片	内外面:ロクナデ		815
16	須恵器・壺	S16620壁直上	(20.4)			口縁部1/3	内外面:ロクナデ		818
17	須恵器・壺	S16620壁直上				体下部～体下部	外面:平行タタキ→ロクナデ 内面:無文当て具他→ロクナデ 通付番		814
18	須恵器・鉢	S16620壁直上				口縁部～体面	内外面:ロクナデ		8274
19	須恵器・鉢	S16620壁直上		4.6		体面～底面不明	内外面:ロクナデ 底面:回転車切り 自然通付番		52-7 8977
20	須恵器・杯	S16619壁直上層	15.3	10.4	3.7	2/3	外面:ロクナデ→斜めヘラケズリ 内面:ロクナデ 底面:切り離し不明→斜めヘラケズリ		52-5 8610
21	須恵器・杯	S16619壁直上層	14.6	10.7	4.1	3/5	外面:ロクナデ→斜めヘラケズリ 内面:ロクナデ 底面:ヘラ切り→斜めヘラケズリ		52-6 8611
22	須恵器・鉢	S16619壁直上層				口縁部～体下部	外面:ロクナデ→手持ちヘラケズリ→ナデ 次は1/4破 内面:ロクナデ		8612
23	須恵器・杯	S16645壁方		(11.0)		体下部～底面1/4	外面:ロクナデ→斜めヘラケズリ 内面:ロクナデ 底面:切り離し不明→斜めヘラケズリ		87

竪穴住居跡・竪穴状遺構出土土器観察表 (第110図掲載)

東辺でみると、北で東に約4°偏している。削平のため遺構の遺存状況は悪く、床面、支柱穴、カマド、貯蔵穴、住居内堆積土、掘方は検出されなかった。周溝は北辺、東辺、西辺で検出されており、壁材の抜取溝と考えられる。規模は上幅10～29cm、下幅6～16cm、残存している深さ3～6cmで、堆積土は灰黄褐色砂質シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【S16645竪穴住居跡】(第59・108・110図 図版15)

北3西3a区の南西部、北2a西3a道交差点の北東部に位置する。地山面で検出した。SA6564材木塚跡、SI6520竪穴住居跡、SD6507・6552溝跡、SK6575土壌、SX6502河川流路跡、P748・749・750・751・754・755と重複し、SA6564材木塚跡、SD6507溝跡より新しく、SI6520竪穴住居跡、SD6552溝跡、SK6575土壌、SX6502河川流路跡、P748・749・750・751・754・755より古い。南西部がSI6520竪穴住居跡により削平され、北東部分がSX6502河川流路跡により失われているため全体の形状は不明であるが、東辺に対して西辺がやや広がる不整な長方形を呈するものと思われる。

規模は、東西が南辺で5.2m、南北が西辺で5.4mである。壁は、残りの最も良い北壁で約16cm残存している。方向は、西辺でみると北で西に約4°偏している。床は掘方埋土を床面とし、中央部では硬く締まっている。支柱穴、壁柱穴、カマド、貯蔵穴は検出されなかった。壁際では壁材痕を検出している。

壁材痕の規模は、幅3～11cm、残存している深さ4～17cmである。壁材痕の堆積土は黒褐色粘質シルトである。壁材は、住居と掘方を共有しており床面構築以前に設置されたものと考えられる。住居内堆積土は1層で、地山粒、炭化物粒を少量含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器杯・鉢・甕、須恵器杯(第110図20)・杯蓋・甕が出土している。このうち土師器杯は、有段のものと段を持たず底部が平底気味のものがある。須恵器杯の底部はヘラ切り後ナデられているものと回転ヘラケズリ再調整により切り離しが不明のものがある。

(2) 竪穴状遺構

A区で1基、B区で1基検出している。いずれも遺構の一部を検出したにとどまり、全体の規模や性格

は不明であるが、堅穴住居跡の掘り方である可能性が高い。

【SI6537堅穴状遺構】(第60・111図)

北2a西4区の北寄りに位置する。遺構の南半部を検出したにとどまり、遺構の北半部は北2a道路跡南側溝により壊されている。地山面で検出した。SA6533柱列跡、SD6681北2a道路跡南側溝D期と重複し、これより古い。

平面形は長軸1.9m以上、短軸1.2m以上の隅丸方形または隅丸長方形と考えられる。壁は緩やかに立ち上がり、約10cm残存している。方向は南辺でみると東で北に約37°偏している。堆積土は2層に細分され、地山ブロックを含む灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から調整不明の土師器甕が出土している。



第111図 SI6537堅穴状遺構断面図

【SI6619堅穴状遺構】(第61・110・136図)

北2a西4区の調査区南西コーナーに位置する。地山面で検出した。SA6692柱列跡、SK6633土塊、SD6613溝跡、P878・879と重複し、SA6692柱列跡、P878・879より新しく、SK6633土塊、SD6613溝跡より古い。平成18年度の調査段階では遺構の北西コーナー部分を検出したのみで当初は溝跡として調査を進めていたが、平成19年度に南側の隣接箇所を確認調査を行った結果、遺構の南半部が検出され矩形を呈することが明らかとなった。このため堅穴状遺構として新に登録し直したものである。

規模は確認調査の結果と合わせると。東西が南辺で3.2m、南北が西辺で4.0mである。平面形は隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。壁は残りの最もよい西壁で20cm残存している。方向は、西辺でみると、北で東に約4°偏している。底面では周溝や柱穴などの施設は検出されなかった。堆積土は2層に細分され、炭化物、地山粒を少量含む褐灰色シルト、地山ブロックを多量に含む褐灰色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非クロコ調整の土師器杯・甕、クロコ調整の土師器甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯(第110図20・21)・鉢(第110図22)・甕・壺、平瓦が出土している。このうち非クロコ調整の土師器杯には丸底のものと平底のものがありいずれも外面には手持ちヘラケズリが施され、内面はヘラミガキ・黒色処理されている。須恵器杯の底部はヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離しが不明のもの、回転糸切り無調整のものがある。須恵器鉢は外面に手持ちヘラケズリとナデが施されている。須恵器甕は頸部に櫛波状文がみられる。

6) 井戸跡

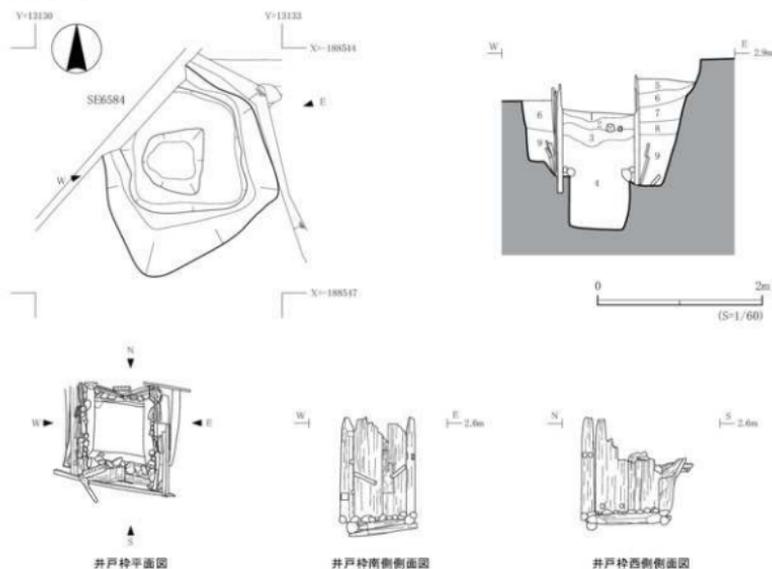
B区で1基検出している。道路期に伴うもので、木組みの井戸枠をもつ。

【SE6584井戸跡】(第112～123図 図版24)

北3西4区の調査区北壁際に位置する。地山面で検出した。攪乱のため遺構の西側の2/3程度が検出面から深さ50cm以上にわたって壊されている。SA6611材木堀跡と重複しこれより新しい。

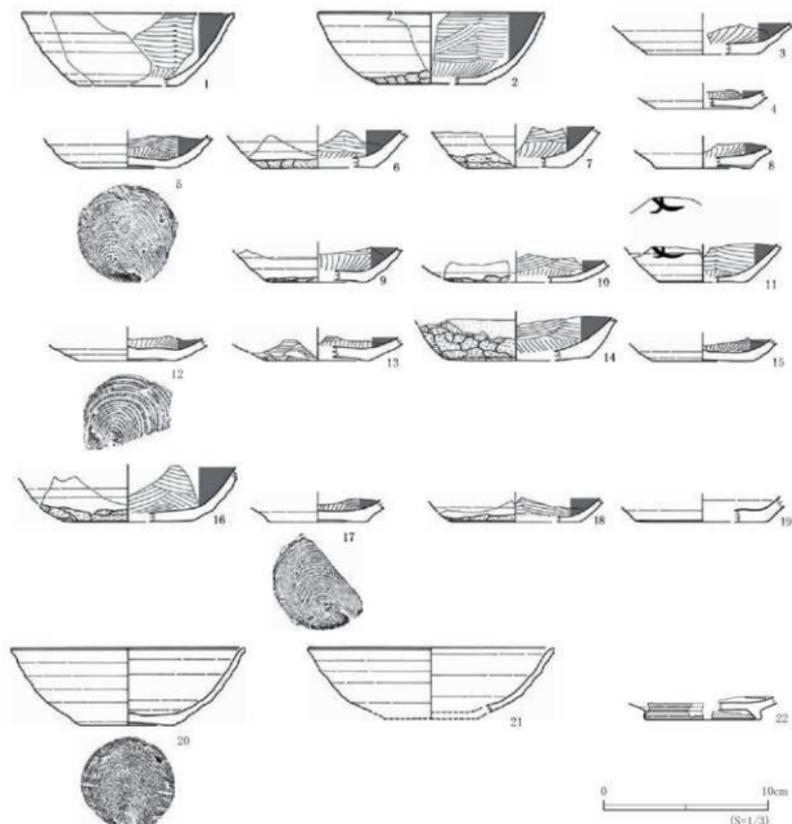
SE6584井戸跡は、掘方内に木組みの井戸枠を据えて構築している。井戸枠内から曲げ物などの保水装置は見つかっていない。掘方は長軸2.3m、短軸2.1mの隅丸方形で、検出面から底面までの深さは2.1mである。井戸枠は縦板組みで、掘方のほぼ中央に据えられている。各辺とも3枚ずつ長方形の板材を縦方向に並べた後これらの板材を四隅に立てた隅柱に内側から上下二箇所にとりつけた横棧で保持している。井戸枠縦板の隙間を埋めるための板材が北辺、南辺で各1枚、東辺、西辺で各5枚認められており、井戸枠縦板の外側には北辺、南辺で各1枚、東辺、西辺で各4枚の横板のおさえ材がめぐらされている。

井戸枠縦板と下側の横棧の間には、径3～10cmの円礫が充填されている。井戸枠の規模は内法で東西65cm、南北60cmである。井戸枠縦板材は幅21～42cm、高さ74～150cmである。縦板材の中には机天板や扉の転用材が含まれている。縦板材の木取りはすべて板目取りで、工具痕が顕著に残る。樹種にはモミ属がある。おさえ材の木取りは板目取りと柃目取りで樹種にはクリがある。横棧は径4～9cmの芯持材や柃目材を用い、隅柱のほぞ穴に差し込まれていたものである。隅柱には芯持材や半裁丸材が用いられており樹種にはクリがある。北西、北東、南東の隅柱には横棧を差し込むためのもの以外にも一辺5～10cmの方形をしたほぞ穴があげられていることから、これらの隅柱については建築部材などを転用したものと考えられる。



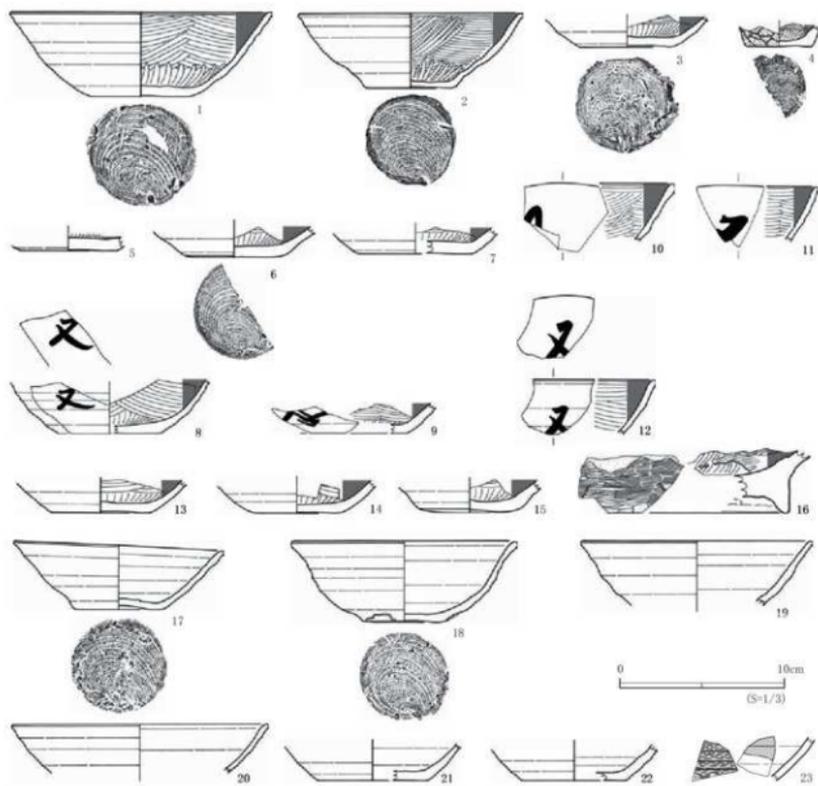
No.	上色	土性	説人物など	備考	No.	上色	土性	説人物など	備考
1	黒灰色の砂質土	砂質シルト	灰白色の石灰を多数含む	埋藏物の横棧	6	黒灰色の砂質土	シルト	地底ブロックを多数含む	掘方土
2	黒灰色の砂質土	砂質シルト	灰白色の石灰を少量含む		7	黒灰色の砂質土	シルト	地底ブロックを多数含む	
3	黒灰色の砂質土	砂質シルト	地底層・埋藏物を含む		8	黒灰色の砂質土	シルト	腐植を多数に、地底ブロックを含む	
4	黒灰色の砂質土	砂質シルト	腐植を多数に、埋藏物を含む	9	黒灰色の砂質土	砂質シルト	地底ブロックを多数含む		
5	黒灰色の砂質土	シルト	地底ブロックを含む						

第112図 SE6584井戸跡平面図・断面図・側面図



No.	種別	遺集/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	所属	行方調査	登録
1	土師器・杯	SE6584層方9層	(13.0)	(6.0)	4.5	1/6	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R474
2	土師器・杯	SE6584層方9層	(13.8)	(6.4)	4.4	1/4	外面：ロクロナデ→回転糸切り 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R477
3	土師器・杯	SE6584層方9層		(6.4)		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R473
4	土師器・杯	SE6584層方9層		(5.8)		体下部～底部1/3	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R470
5	土師器・杯	SE6584層方9層		6.2		体下部～底部完形	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R469
6	土師器・杯	SE6584層方9層		(7.5)		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ→回転糸切り 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R472
7	土師器・杯	SE6584層方9層		(6.0)		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ→回転糸切り 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R471
8	土師器・杯	SE6584層方9層		(5.8)		体下部～底部1/3	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り→線状圧痕			R479
9	土師器・杯	SE6584層方9層		(6.0)		体下部～底部1/2	外面：ロクロナデ→回転糸切り 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R478
10	土師器・杯	SE6584層方9層		(7.8)		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ→回転糸切り 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R480
11	土師器・杯	SE6584層方9層		(5.0)		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ 器蓋「文」 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り		53-13	R782
12	土師器・杯	SE6584層方9層				体下部～底部1/2	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R484
13	土師器・杯	SE6584層方9層		(6.3)		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ→回転糸切り 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R486
14	土師器・杯	SE6584層方9層		8.8		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ→回転糸切り 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R487
15	土師器・杯	SE6584層方9層		(6.2)		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R485
16	土師器・杯	SE6584層方9層		(8.0)		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ→回転糸切り 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R492
17	土師器・杯	SE6584層方9層		6.0		体下部～底部2/3	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R489
18	土師器・杯	SE6584層方9層		(8.0)		体下部～底部1/4	外面：ロクロナデ→回転糸切り 内面：ヘラミダキ→黒色処理 底部：回転糸切り			R490
19	灰土器・杯	SE6584層方9層		(8.0)		体下部～底部1/4	内外面：ロクロナデ 底部：ヘラミダキナデ			R483
20	灰土器上蓋・片	SE6584層方9層	14.1	5.7	4.7	2/3	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ→コナデ 半円状 底部：回転糸切り→線状圧痕		53-5	R466
21	灰土器上蓋・片	SE6584層方9層	(15.0)			口縁部1/4～体3/4	内外面：ロクロナデ			R488
22	灰土器・壺	SE6584層方9層		(6.9)		底部・高台1/6	内外面：ロクロナデ 器蓋：器蓋1.5倍→回転糸切り→文 実線部 器蓋1.5倍→線状圧痕 壺蓋1.5倍→文			R483

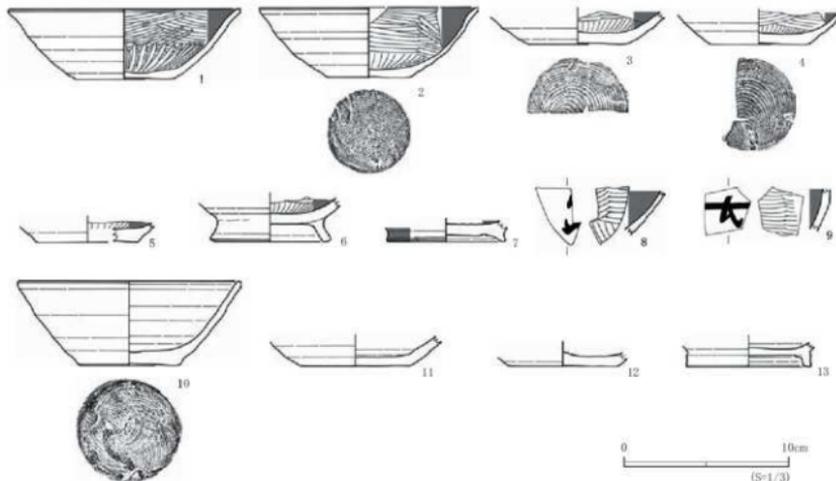
第113図 SE6584井戸跡出土土器(1) - 掘方5~9層 -



(単位: cm)

No.	種別	遺構/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図版	登録
1	土師器・杯	SE6584増積土4層下	16.0	6.4	5.2	ほぼ定形	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り	S3-1	R898
2	土師器・杯	SE6584増積土4層上	13.6	5.6	4.6	2/3	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り→押状圧痕	S3-2	R902
3	土師器・杯	SE6584増積土4層上		5.7		体下部～底面定形	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り		R503
4	土師器・杯	SE6584増積土4層上		4.1		体下部～底面1/2	外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り→手持ちヘラケズリ		R507
5	土師器・杯	SE6584増積土4層上		(5.9)		底面1/4	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り		R896
6	土師器・杯	SE6584増積土4層上		6.0		体下部～底面1/2	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り		R505
7	土師器・杯	SE6584増積土4層上		(7.0)		体下部～底面1/4	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り		R506
8	土師器・杯	SE6584増積土4層上		(6.4)		体部～底面1/4	外面: ロクロナデ 墨書「又」 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り	S3-11	R778
9	土師器・杯	SE6584増積土4層上				体下部～底面片	外面: ロクロナデ 墨書口 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り	S3-14	R781
10	土師器・杯	SE6584増積土4層下				口縁部～体部片	外面: ロクロナデ 墨書口 内面: ヘラミガキ→黒色処理		R899
11	土師器・杯	SE6584増積土4層下				口縁部～体部片	外面: ロクロナデ 墨書「又」 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り	S3-6	R500
12	土師器・杯	SE6584増積土4層上				口縁部～体部片	外面: ロクロナデ 墨書「又」 内面: ヘラミガキ→黒色処理	S3-12	R779
13	土師器・杯	SE6584増積土4層上		(6.0)		体下部～底面1/3	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り		R504
14	土師器・杯	SE6584増積土4層上		5.6		体下部～底面3/4	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り		R514
15	土師器・杯	SE6584増積土4層上		(6.2)		体下部～底面1/3	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底面: 回転糸切り		R515
16	土師器・台鉢	SE6584増積土4層下				体下部～底面～底台片	外面: ナデヘラミガキ 内面: ヘラミガキ→黒色処理		R895
17	灰土系土器・杯	SE6584増積土4層下	12.9	5.0	4.2	ほぼ定形	内外面: ロクロナデ 底面: 回転糸切り→ナデ	S3-8	R894
18	灰土系土器・杯	SE6584増積土4層上	13.8	5.2	5.0	2/3	内外面: ロクロナデ 底面: 回転糸切り	S3-7	R501
19	灰土系土器・杯	SE6584増積土4層上	(14.0)			口縁部1/4～体下部			R512
20	灰土系土器・杯	SE6584増積土4層上	(15.0)			口縁部1/4～体部	内外面: ロクロナデ		R513
21	灰土系土器・杯	SE6584増積土4層上	(6.4)			体下部～底面1/4	内外面: ロクロナデ 底面: 回転糸切り		R508
22	灰土系土器・杯	SE6584増積土4層上	(6.4)			体下部～底面1/4	内外面: ロクロナデ 底面: 回転糸切り		R511
23	灰土陶器・碗	SE6584増積土4層上				体部片	内外面: ロクロナデ 回転糸切り 底面大皿2号並式 113-22上同一個体		R510

第114図 SE6584并戸跡出土土器(2) - 増積土4層-



No.	種別	遺積/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	学術図録
1	土師器・杯	SE6584堆積土2層	14.1	5.9	4.3	ほぼ完形	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→藍色処理 底面：回転糸切り	53-3 K518
2	土師器・杯	SE6584堆積土1層	13.4	5.2	4.3	2/3	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→藍色処理 底面：回転糸切り→ナデ	53-4 K528
3	土師器・杯	SE6584堆積土2層		6.0		体下部～底部1/2	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→藍色処理 底面：回転糸切り	K520
4	土師器・杯	SE6584堆積土2層		5.8		体下部～底部2/3	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→藍色処理 底面：回転糸切り	K519
5	土師器・杯	SE6584堆積土2層		6.2		体下部～底部1/3	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→藍色処理 底面：回転糸切り	K521
6	土師器・高台杯	SE6584堆積土2層		7.3		体下部～体口	外面：ロクロナデ 内面：ヘラミガキ→藍色処理 底面：回転糸切り→付高台	K522
7	土師器・高台杯	SE6584堆積土1層		7.2		底面・高台1/2	外面：ロクロナデ→ヘラミガキ→藍色処理 内面：ヘラミガキ→藍色処理 底面：回転糸切り→付高台	K529
8	土師器・杯	SE6584堆積土2層				体断片	外面：ロクロナデ 器底口 内面：ヘラミガキ→藍色処理	K524
9	土師器・杯	SE6584堆積土2層				体断片	外面：ロクロナデ 器底口 内面：ヘラミガキ→藍色処理	K525
10	須恵系土器・杯	SE6584堆積土1層	13.6	6.3	5.2	完形	外面：ロクロナデ 器底口 内面：ロクロナデ→コナナデ 底面：回転糸切り(逆巻)	53-6 K525
11	須恵系土器・杯	SE6584堆積土1層		6.0		体下部～底部1/4	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	K527
12	須恵系土器・杯	SE6584堆積土1層		6.4		体下部～底部1/4	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り	K526
13	須恵系土器・高台杯	SE6584堆積土2層		7.6		底面・高台完形	内外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り→付高台	K517

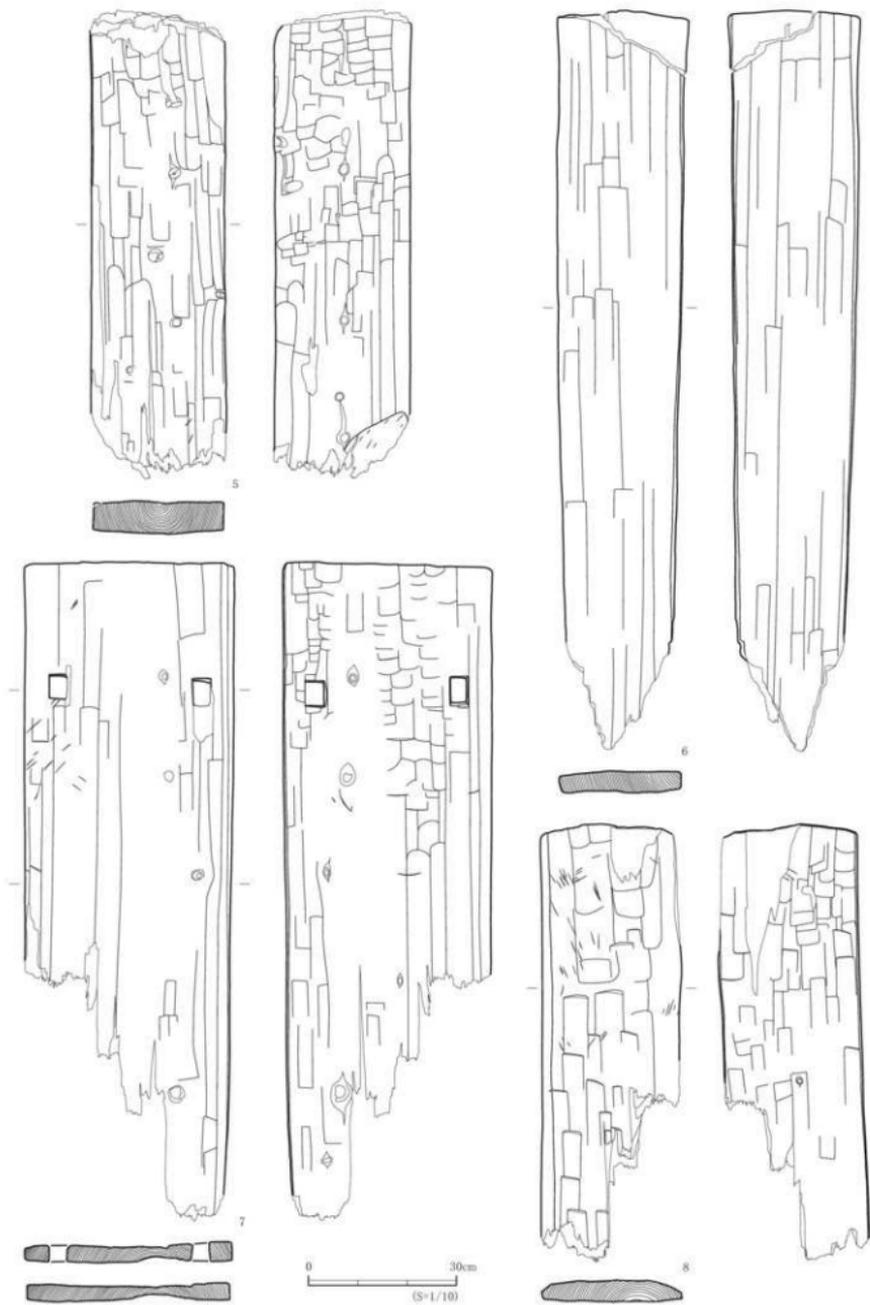
第115図 SE6584井戸跡出土土器(3)・堆積土1～2層・層位不明

掘方埋土は地山ブロックを含む黄灰色シルト、黒褐色シルト、褐色粘質シルトである。井戸枠内堆積土は4層に細分される。いずれも自然堆積で4層は機能時、1～3層は井戸跡廃絶後の堆積土である。1層には灰白色火山灰ブロックが多量に含まれる。

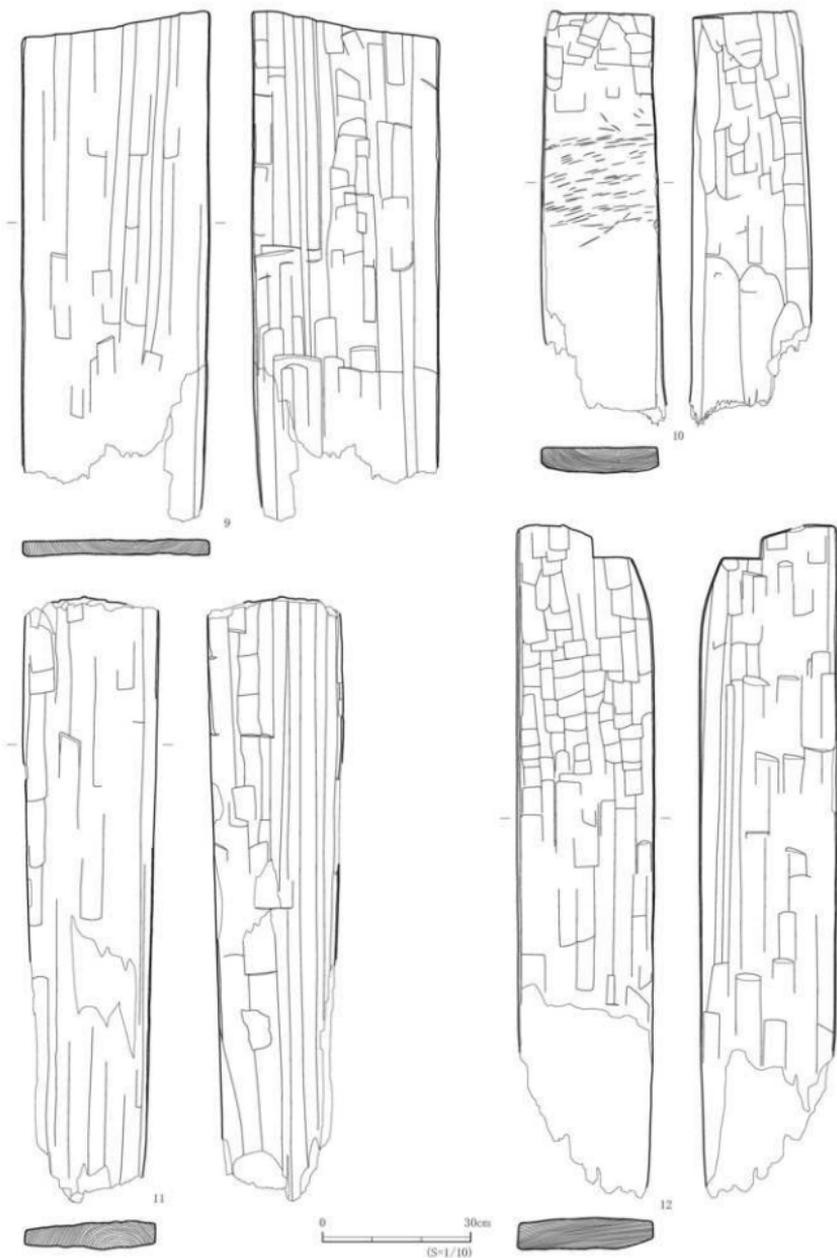
遺物は掘方埋土から弥生土器甕、非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器杯(第113図1～18)・甕、須恵器杯(第113図19)・高台杯・蓋・鉢・甕・壺、須恵系土器杯(第113図20・21)、灰陶陶器碗(第113図22・第149図23)、ミニチュア土器杯、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期の平瓦、木製品(不明木製品・棒状木製品)(第123図31・32)、梅の種子、鹿の基節骨、馬骨が出土している。このうちロクロ調整の土師器杯は底部調整が回転糸切り無調整のものと回転糸切り後体下部から底部にかけて手持ちヘラケズリを施すもの多くみられ、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものが少量含まれる。須恵器杯の底部はヘラ切り後ナデられている。須恵系土器杯では割れ口を観察した結果、焼成が甘く器壁の内外面が灰白色で中心部が黒褐色を呈するものがみられる。灰陶陶器碗は東濃大原2号窯式期のものである。木製品はいずれも破損品である。ほぞ穴の開けられた板状のものと、細長い棒状のものがある。木取りはともに疋目取りである。



第116図 SE6584井戸跡出土井戸枠材(1)



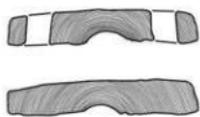
第117图 SE6584井戸跡出土井戸杵材(2)



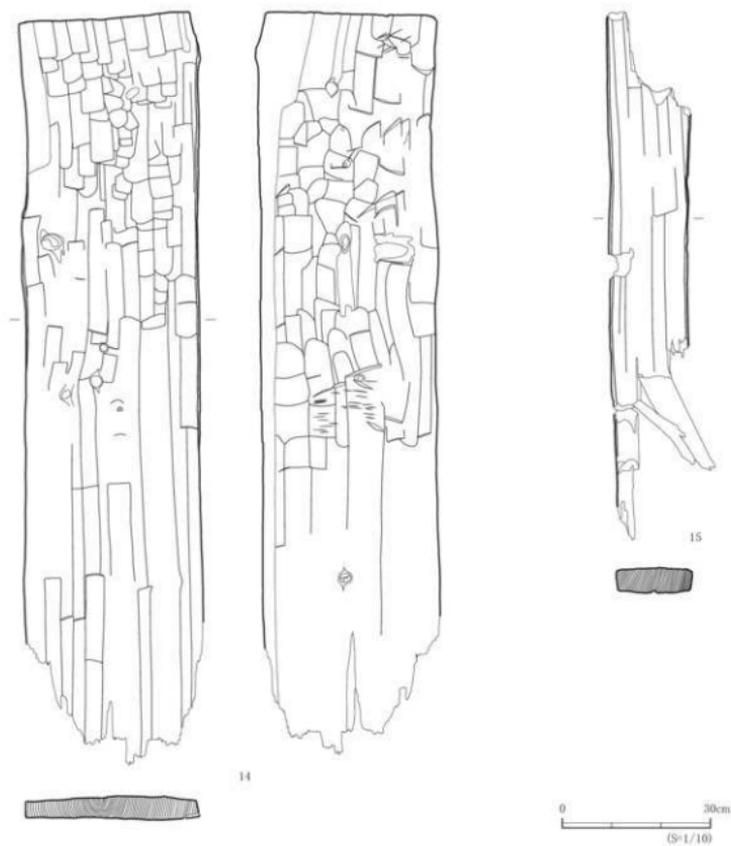
第118圖 SE6584井戸跡出土井戸桝材(3)



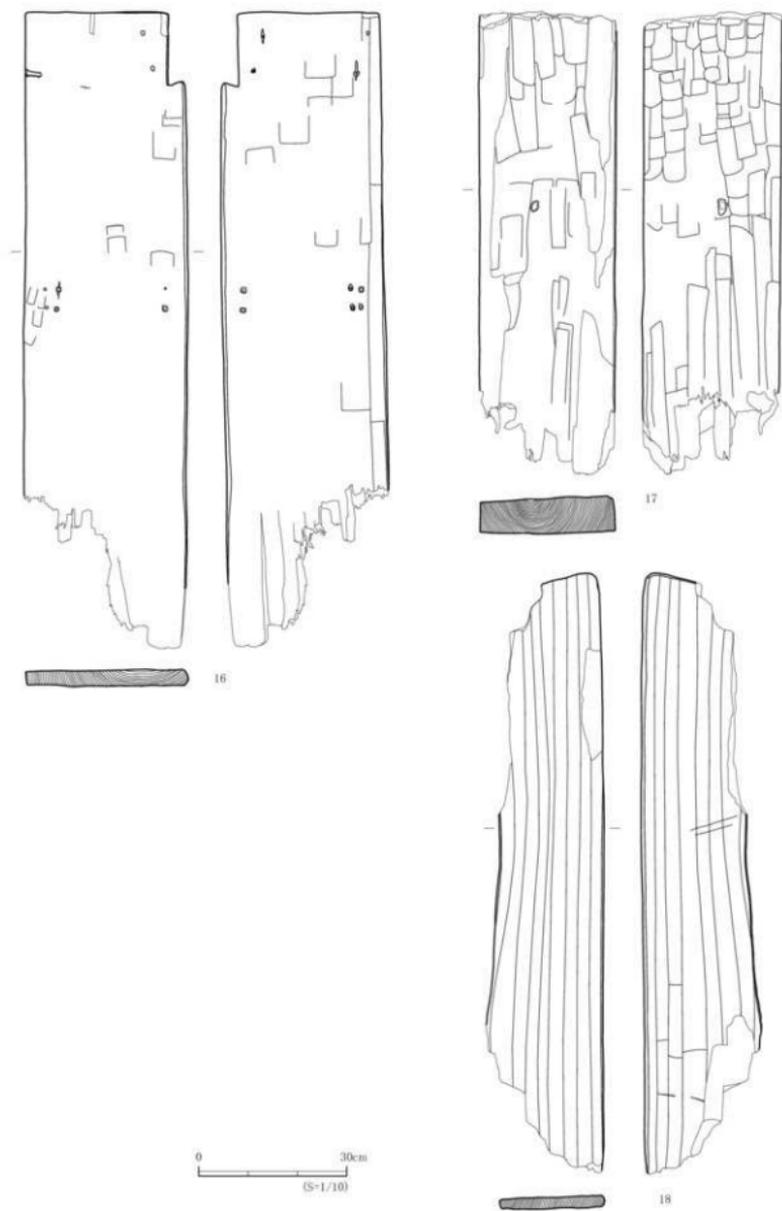
13



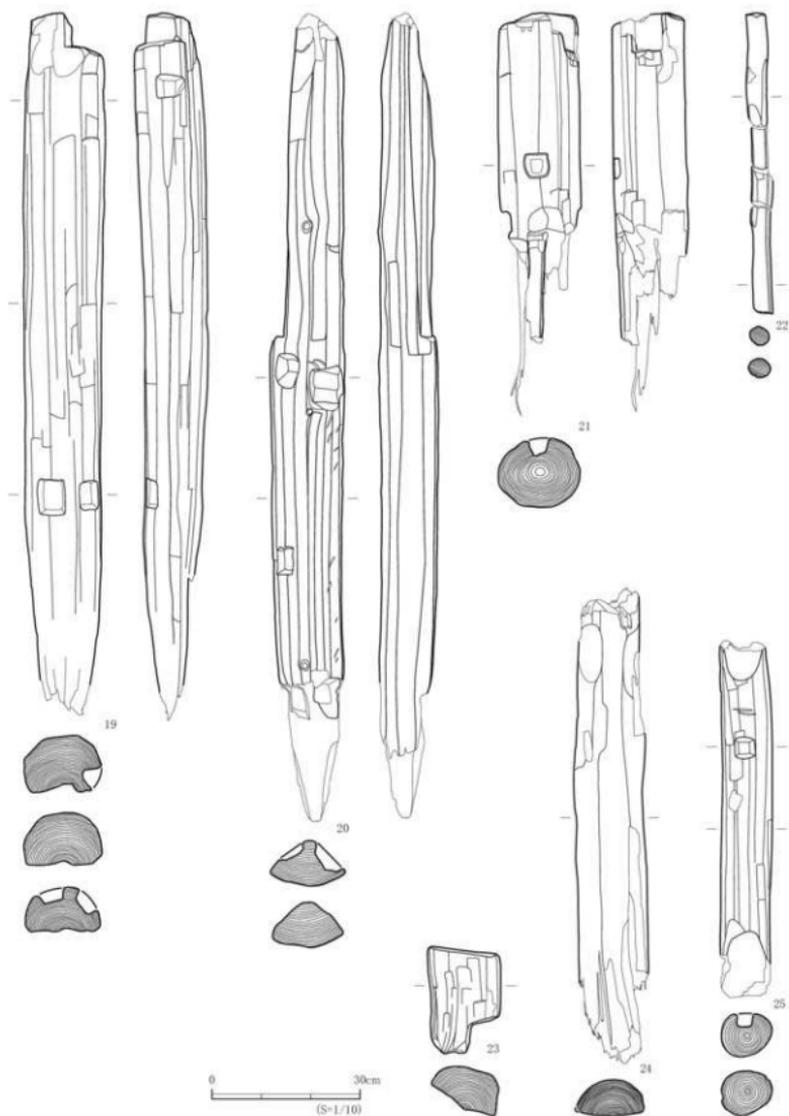
第119図 SE6584井戸跡出土井戸桝材(4)



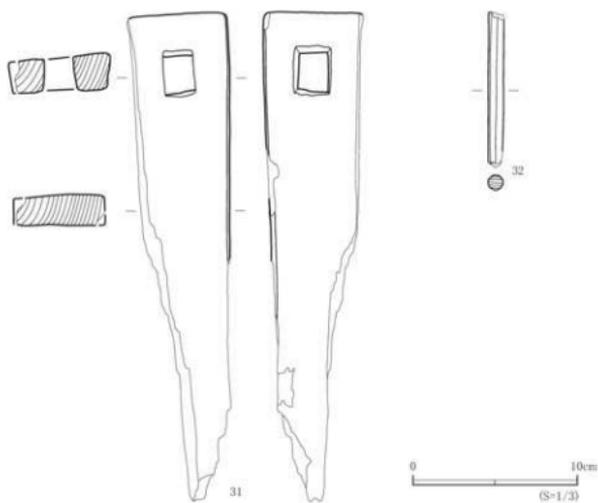
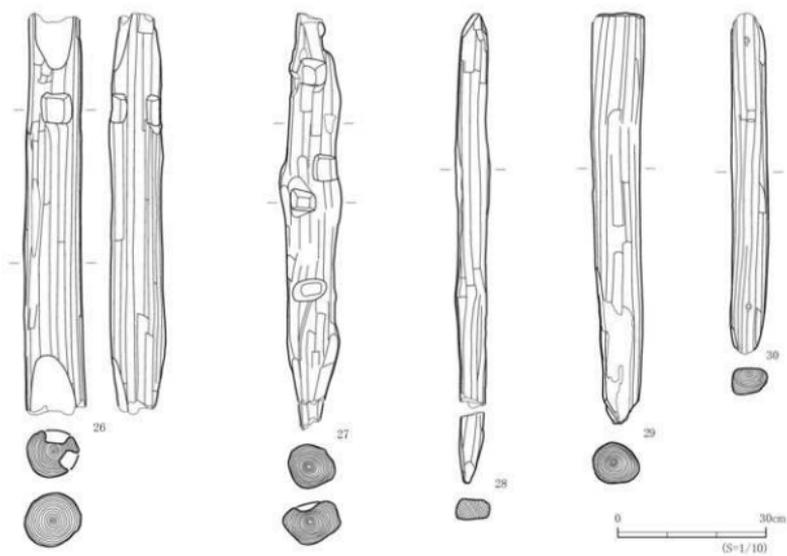
第120図 SE6584井戸跡出土井戸枠材(5)



第121図 SE6584井戸跡出土井戸枠材(6)



第122図 SE6584井戸跡出土井戸杵材(7)



第123図 SE6584井戸跡出土井戸杵材・木製品

No.	種別	層位	長	幅	厚さ	残存	特徴	写真掲載	図録
1	井戸枠・南側板おさえ	146.7	33.7	4.0			木取り; 板目 榫横: クリ 加工痕	64-1	81
2	井戸枠・南側板裏	83.5	30.3	3.7			木取り; 板目 加工痕顯著	64-2	82
3	井戸枠・東側板おさえ	43.5	21.0	2.5			木取り; 板目	64-3	83
4	井戸枠・南側板裏2	87.5	41.3	3.6			木取り; 板目 榫横: モミ 裏の転用 加工痕	64-4	84
5	井戸枠・東側板北2	92.5	26.3	6.5			木取り; 板目 加工痕顯著	64-4	81
6	井戸枠・東側板おさえ	150.0	24.7	4.2			木取り; 板目 加工痕	64-6	812
7	井戸枠・東側板北1	132.3	42.0	4.0			木取り; 板目 榫横: モミ 裏 裏の転用 加工痕 加工痕	64-9	812
8	井戸枠・東側板北2	87.6	28.4	4.5			木取り; 板目 加工痕顯著	64-6	812
9	井戸枠・東側板おさえ	103.5	37.3	3.5			木取り; 板目 加工痕	65-1	815
10	井戸枠・南側板北2	79.6	23.6	5.0			木取り; 板目 加工痕顯著	64-7	84
11	井戸枠・北側板おさえ	120.3	26.0	5.3			木取り; 板目 加工痕	65-2	818
12	井戸枠・北側板北1	135.5	27.2	6.2			木取り; 板目 加工痕顯著	65-3	817
13	井戸枠・西側板北1	141.0	38.0	6.9			木取り; 板目 榫横: モミ 裏 裏の転用 加工痕顯著	65-4	88
14	井戸枠・北側板北2	150.2	34.6	4.6			木取り; 板目 加工痕顯著	65-5	819
15	井戸枠・西側板おさえ	106.5	15.5	5.0			木取り; 板目	65-6	837
16	井戸枠・西側板北2	128.7	32.3	3.8			木取り; 板目 建築部材の転用 加工痕	65-6	837
17	井戸枠・西側板北3	90.7	27.3	7.3			木取り; 板目 加工痕	65-8	86
18	井戸枠・西側板北2	121.5	21.5	2.5			木取り; 板目	66-1	838
19	井戸枠・北東隅柱	142.5	15.8	11.0			木取り; 榎木・下敷丸材 榫横: クリ ほぞ孔3箇所 加工痕	66-2	816
20	井戸枠・北西隅柱	161.5	15.8	9.2			木取り; 榎木・クワン節 ほぞ孔4箇所 加工痕	66-3	820
21	井戸枠・南東隅柱	61.7	16.5	13.8			木取り; 榎木・芯持材 ほぞ孔1箇所 加工痕	66-4	89
22	井戸枠・上部の北横棧	66.3	4.0	4.5			木取り; 板目	66-7	825
23	井戸枠材・下	20.4	13.5	8.5			木取り; 榎木・下敷丸材 加工痕顯著	66-8	826
24	井戸枠・南西隅柱	91.3	13.3	7.3			木取り; 榎木・下敷丸材	66-8	85
25	井戸枠・下部の西横棧	71.4	10.2	9.1			木取り; 榎木・芯持材 ほぞ孔1箇所 加工痕	66-12	822
26	井戸枠・下部の南横棧	79.5	11.0	10.3			木取り; 榎木・芯持材 ほぞ孔1箇所 加工痕	66-8	821
27	井戸枠・下部の南横棧	83.3	11.6	8.9			木取り; 榎木・芯持材 ほぞ孔1箇所 加工痕	66-10	823
28	井戸枠・東側板おさえ	95.0	6.8	4.2			木取り; 榎木・下敷丸材 加工痕	66-9	827
29	井戸枠・下部の北横棧	82.3	9.4	8.4			木取り; 榎木・芯持材 加工痕	66-11	825
30	井戸枠・下部の北横棧	67.8	7.0	5.2			木取り; 榎木・芯持材 加工痕	66-5	824
31	不明木製品	縦方理1.5×9割	29.4	5.9	2.2		木取り; 板目 ほぞ孔1箇所	66-14	830
32	棟杵木製品	縦方理1.5×9割	9.4	0.9	0.9		木取り; 榎木・榎目	66-13	829

SE6584井戸跡出土井戸枠材・木製品観察表 (第116~123図掲載)

井戸枠内堆積土からは非ロクロ調整の土師器甕・ロクロ調整の土師器坏 (第114図1~15・第115図1~5・8)、高台坏 (第115図6・7)、台付鉢 (第114図16)・甕、須恵器坏・鉢・甕・壺、須恵系土器坏 (第114図17~22・第115図10~12)、高台坏 (第115図13)、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期~第Ⅳ期の平瓦 (第144図26)、梅の種子、牛の肩甲骨 (L)、馬の前脚基節骨などが出土している。土師器坏の底部調整は回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるものがわずかに含まれる。また体部外面に「又」の墨書認められるものがある。須恵器壺には会津大戸窯の製品とみられるものが含まれる。

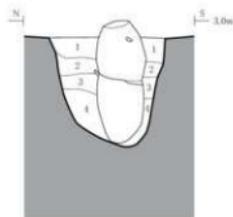
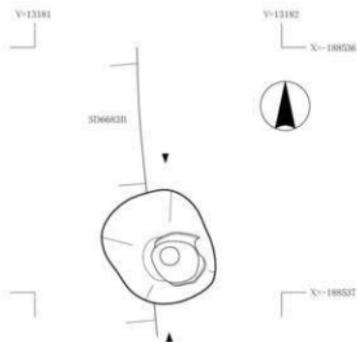
7) 土器埋設遺構

A区の北2a西3a道路跡交差点上で1基検出している。道路期に伴うものである。

【SX6529土器埋設遺構】(第52・124・125図 図版10)

北2a西3a道路跡交差点中央部北寄りに位置する。路面Ⅲを掘り込んで構築している。

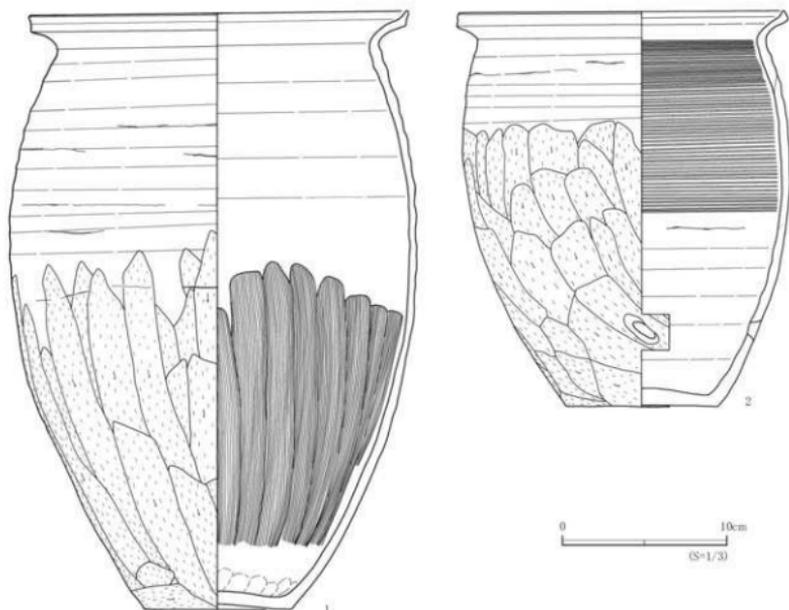
据え方は長軸46cm、短軸41cm、深さ45cmで、断面形はU字状を呈する。いずれも口縁部がく字状に屈曲するロクロ調整の土師器長胴甕2個体 (第125図1・2) を合わせ口にして立位に据えている。下位の甕に対して上位の甕はやや小振りで、上位に据えられた甕の体下部には焼成後の穿孔がみられる。据え方の埋土は灰白色火土灰粒を含むにぶい黄褐色シルト、暗灰黄色シルト、多量の砂を含む暗オリーブ褐色シルトなどである。土器内の堆積土は下位の甕の底部からほぼ2/3の高さのところまで認められ、暗灰黄色シルト、暗オリーブ褐色粘質土が自然堆積している。これらの土壌中には目立った混入物などは見られなかった。このため土壌サンプルを理化学的に分析したところ、脂肪酸の含有率はごく微量で内容物として動物骨などの存在を想定することは難しいこと、イネ属の珪化組織片やウルシ属?種実の核と思われる破片が検出されたことから甕内に稲穂・稲藁、ウルシ種実が収められていた可能性が高いことが判明した。



No.	土色	土性	混入物など	備考
1	にじみ・黄褐色の砂状土	シルト	砂・ワゴン・灰・灰白色土・鉄屑・炭の微粉を含む	土層別
2	暗灰褐色の砂状土	シルト	砂・灰白色土・鉄屑を含む	
3	暗茶褐色の砂状土	シルト	砂を多量に、炭のミミを含む	
4	暗茶褐色の砂状土	シルト	鉄屑を少量含む	



第124図 SX6529土器埋設遺構平面図・断面図



No.	種別	遺構/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録	登録
1	土師器・甕	SX6529	23.4	9.0	27.1	ほぼ定形	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 輪積痕 内面：ロクロナデ→ヘラケズリ ユビサキエ 底面：手持ちヘラケズリ	54-2	R794
2	土師器・甕	SX6529	20.2	9.4	24.5	ほぼ定形	外面：ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 輪積痕 構成後穿孔 内面：ロクロナデ・ウキメ 輪積痕 底面：ナデ→手持ちヘラケズリ	54-1	R793

第125図 SX6529土器埋設遺構出土土器

8) 土壌

A区で19基、B区で9基検出している。小規模で性格の不明なものが多く、伴出した遺物も概して少ない。

【SK6548土壌】(第84・129図)

北2a西3区の西寄りに位置する。SX6658河川跡堆積土上面で検出した。SB6543掘立柱建物跡、SX6658河川跡と重複し、SX6658河川跡より新しく、SB6543掘立柱建物跡より古い。

平面形は長軸1.6m、短軸1.4mの不整形で、深さは16cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯が出土している。

【SK6549土壌】(第84・129・132図 図版18)

北2a西3区の中央部に位置する。SX6652河川跡堆積土上面で検出した。SB6543掘立柱建物跡、SX6652河川跡、P74・244と重複し、SX6652河川跡より新しく、SB6543掘立柱建物跡、P74・244より古い。

平面形は長軸2.2m、短軸1.9mの不整形円形で、深さは43cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は4層に細分され、地山ブロック、炭化物を含む黒褐色粘質シルト、地山小ブロック、炭化物を含む黒褐色粘土、地山小ブロックを含む灰黄褐色粘質シルトが自然堆積している。

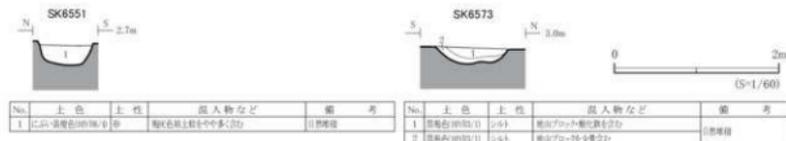
遺物は底面から非ロクロ調整の土師器鉢(第132図6)が出土している。また堆積土から非ロクロ調整の土師器杯(第132図1~5)・甕(第132図10・11)、須恵器杯(第132図8)・鉢(第132図9)・甕が出土している。土師器杯は丸底気味で外面に段や稜をもたないものと平底のものがある。外面調整は手持ちヘラケズリののちヘラミガキされるもの、ヨコナデののちヘラミガキされるもの、ヘラミガキされるものがあり、内面調整はいずれもヘラミガキ・黒色処理である。また内外面ヘラミガキ・黒色処理されるものがある。土師器鉢は丸底気味で、外面調整は口縁部から底部にかけて手持ちヘラケズリののちヘラミガキで、内面調整はヘラミガキ・黒色処理である。

【SK6551土壌】(第52・126図)

西3a道路跡南寄りに位置する。西3a道路跡西側溝堆積土上で検出した。SD6683西3a道路跡西側溝C期と重複し、これより新しい。

平面形は長軸0.6m、短軸0.5mの隅丸長方形で、深さは24cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形状である。堆積土は1層で、褐灰色粘土粒を含むにぶい黄橙色砂が自然堆積している。

遺物は出土していない。



第126図 西3a道路跡上土壌断面図

【SK6559土壌】(第41・128図)

北3西3a区の南西寄りに位置する。地山面で検出した。SA6538材木堀跡、SD6682北2a道路跡北側溝E期、SD6563溝跡と重複し、SA6538材木堀跡、SD6563溝跡より新しく、SD6682北2a道路跡北側溝E期より古い。

平面形は長径1.8m、短径0.7mの楕円形で、深さは54cmである。壁はやや急に立ち上がり、断面形は逆台形状である。堆積土は2層に細分され、灰黄褐色シルト、地山ブロックを多量に含む褐灰色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器環・甕、ロクロ調整の土師器甕、調整不明の土師器甕、須恵器蓋・甕出土している。

【SK6560土壌】(第35図)

A区の西3a道路跡中央部に位置する。西3a道路跡西側溝底面で検出した。SD6683西3a道路跡西側溝C期と重複し、これより古い。

平面形は長軸0.8m、短軸0.7mの不整な隅丸方形で、深さは11cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形状である。堆積土は1層で自然堆積である。

遺物は堆積土から調整不明の土師器甕が出土している。

【SK6567土壌】(第59・128・132図)

北3西3a区の中央部南寄りに位置する。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

平面形は長径0.7m、短径0.5mの楕円形で、深さは26cmである。壁は西側では緩やかに立ち上がり、東側では急に立ち上がる。断面形はU字状である。堆積土は2層に細分され、炭化物粒、地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器環(第132図12)・甕、調整不明の土師器甕が出土している。

【SK6568土壌】(第59・128・132図)

北3西3a区の中央部東寄りに位置する。地山面で検出した。SX6502河川流路跡と重複し、これより古い。

平面形は長軸1.5m、短軸1.2mの不整形で、深さは26cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は楕円状である。堆積土は4層に細分され、炭化物粒、地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルト・シルト、褐灰色粘土質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器小型環(第132図13)・鉢(第132図14)・甕が出土している。

【SK6569土壌】(第41・127図)

A区北2a道路跡西寄りに位置する。北2a道路跡北側溝堆積土上で検出した。SA6538・6553材木堀跡、SD6682北2a道路跡北側溝B期・D期と重複し、SA6538・6553材木堀跡、SD6682北側溝B期より新しく、SD6682北側溝D期より古い。

平面形は径0.7mの円形で、深さは30cmである。壁は急に立ち上がり、断面形はU字状である。堆積土は3層に細分され、炭化物粒、地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色粘質シルト、暗灰色粘質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器甕が出土している。



No.	土色	土性	遺人物など	備考
1	黒褐色(弱)シルト	シルト	古土器・地山・赤褐色土・フナ(少量)・黒いベンガラを含む	
2	灰黄褐色(弱)シルト	粘質シルト	地山・フナ・黒いベンガラを含む	自然堆積
3	褐色(弱)シルト	粘質シルト	地山・フナ・赤褐色土・フナ(少量)を含む	

第127図 北2a道路跡上土壌断面図

【SK6570土壌】(第59・128・133図)

北3西3a区の中央部に位置する。SI6520竪穴住居跡の堆積土上面で検出した。SI6520竪穴住居跡、SK6646土壌と重複し、これらより新しい。

平面形は長軸1.5m、短軸1.2mの不整形で、深さは10cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は、堆積土からロクロ調整の土師器杯・鉢(第133図2)・甕(第133図3)、調整不明の土師器甕、須恵器杯(第133図1)・甕・壺が出土している。このうち須恵器杯の底部は回転糸切り無調整である。

【SK6573土壌】(第52図・第126図)

A区西3a道路跡南寄りに位置する。西3a道路跡路面構築土下の地山面で検出した。SD6682西3a道路跡東側溝D期、SD6683西3a道路跡西側溝B期と重複し、これらより古い。

平面形は長軸1.8m、短軸0.9mの不整形楕円形で、深さは16cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は2層に細分され、地山ブロックを含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から須恵器杯が出土している。

【SK6575土壌】(第59図)

北3西3a区の中央部に位置する。SI6520・6645竪穴住居跡の堆積土上面で検出した。SI6520・6645竪穴住居跡、SX6502河川流路跡と重複しSI6520・6645竪穴住居跡より新しく、SX6502河川流路跡より古い。

平面形は長軸1.2m、短軸1.0mの不整形で、深さは10cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形状である。堆積土は1層で、焼土粒、炭化物粒を含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6582土壌】(第59・128図)

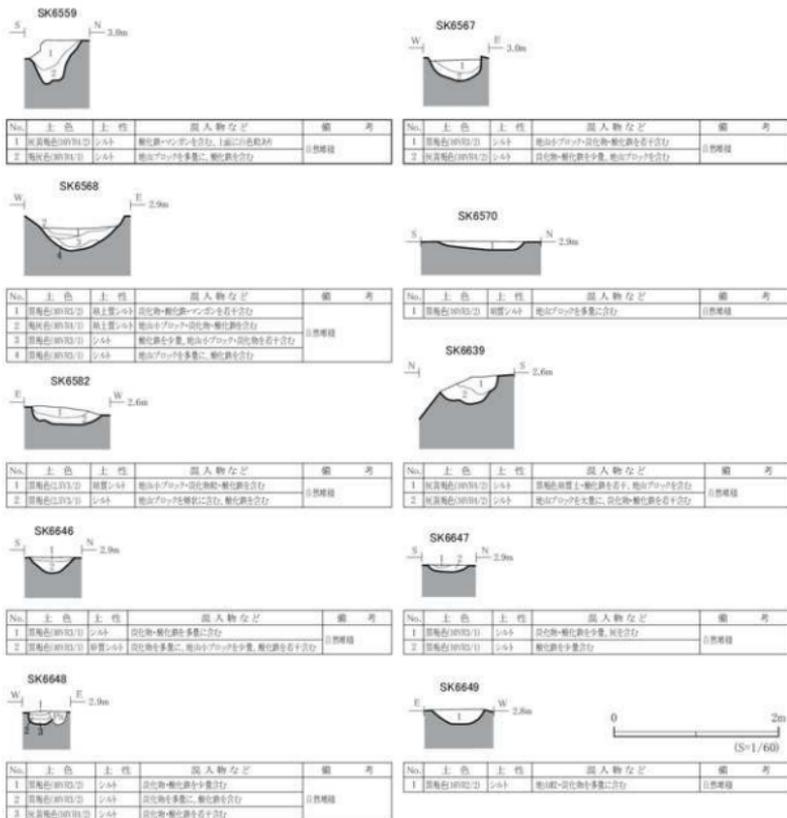
北3西3a区の中央部に位置する。地山面で検出した。SD6507溝跡、SX6502河川流路跡と重複し、これらより古い。

平面形は遺構の北半部がSD6507溝跡、SX6502河川流路跡により壊されているが長軸0.7m以上、短軸0.5m以上の隅丸長方形を呈するものと思われる。深さは20cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は2層に細分され、炭化物粒、地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト・シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から砥石(第158図29)が出土している。

【SK6590土壌】(第39図)

北2西3区の北西寄りに位置する。地山面で検出した。南側は調査区外に延びる。他の遺構との重複関



第128図 北3西3a区土壌断面図

係はない。

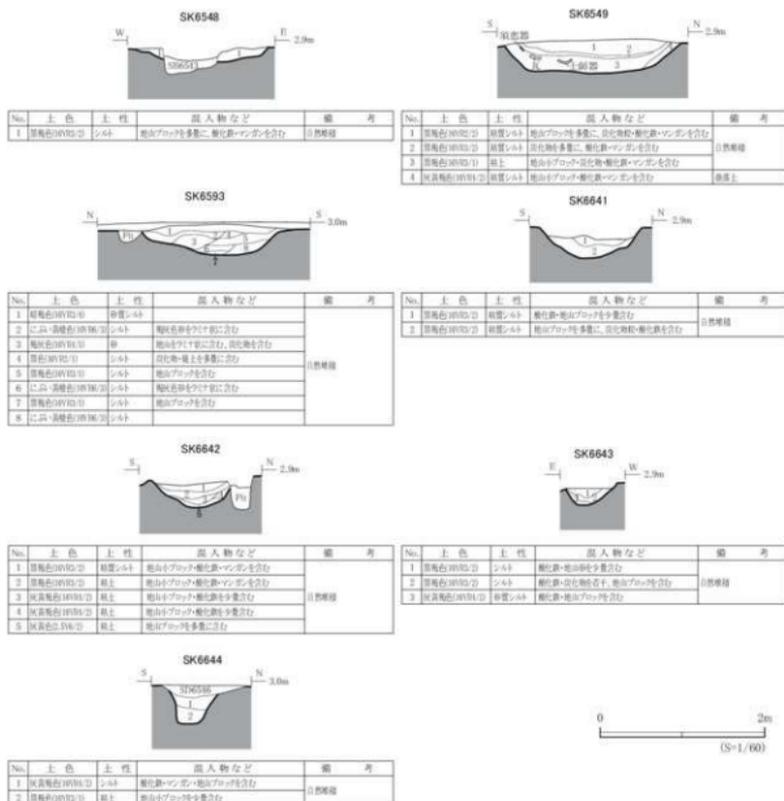
平面形は長軸0.5m以上、短軸0.4m以上の隅丸長方形を呈するものと思われ、深さは29cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はやや不整な皿状である。堆積土は1層で、炭化物を含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から調整不明の土師器甕、須恵器甕・壺が出土している。

【SK6593土壌】(第39・132図)

北2道路跡上に位置する。地山面で検出した。SX6586整地層と重複し、これより新しい。

平面形は長軸1.9m、短軸1.1mの楕円形で、深さは38cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は8層に細分され、暗褐色砂質シルト、褐灰色砂を含むにぶい黄褐色シルト、地山、炭化物を含む褐灰色砂、炭化物、焼土を多量に含む黒色シルト、地山ブロックを含む黒褐色シルトが



第129図 北2西3区土壌断面図

ずれも自然堆積している。

遺物は堆積土からクロコ調整の土師器杯（第132図15）・鉢・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・甕、丸瓦が出土している。このうち土師器杯は外面に判読不能の墨書があり底部は回転糸切り無調整である。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整である。

【SK6597土壌】（第39図）

北2西3区の北西寄りに位置する。地山面で検出した。SD6585北2道路跡南側溝と重複し、これより古い。平面形は長軸0.7m、短軸0.6mのやや不整な円形を呈し、深さは10cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、地山ブロック、炭化物を含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6605土壌】（第94・130図）

北3西4区の中央部に位置する。地山面で検出した。SB6663掘立柱建物跡、SK6606土壌と重複し、こ



第130図 北3西4区土坑断面図

れらより古い。

遺構の大部分が攪乱や他の遺構に壊されているため全体の形状は不明であるが、長径1.6mの楕円形を呈するものと思われる。残存部分での壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、にぶい黄褐色砂質シルトが自然堆積している。

遺物は、堆積土から体下部から底部にかけて手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明の須恵器坏が出土している。

【SK6606土坑】(第94・130図)

北3西4区の中央部に位置する。地山面で検出した。SB6663掘立柱建物跡、SK6605土坑、P514・572と重複し、これらより新しい。

平面形は北側が攪乱によって壊されているが長軸1.3m、短軸0.6m以上の隅丸長方形を呈するものと思われる。深さは22cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は2層に細分され、炭化物粒、地山ブロックを含む黒褐色粘質シルト、にぶい黄褐色シルトがいずれも自然堆積している。

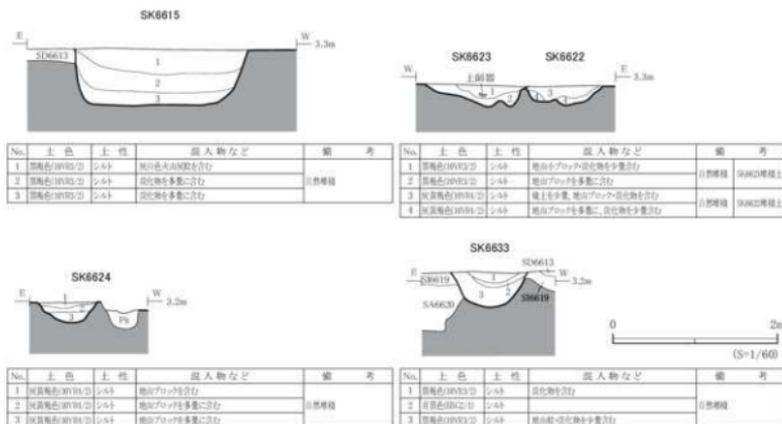
遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器坏、転用砥(第151図11)、多賀城跡政庁第1期の丸瓦が出土している。このうち須恵器坏の底部は回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。転用砥は多賀城跡政庁第1期の下伊場野窯の製品とみられる丸瓦を用いたものである。出土した丸瓦は同様に下伊場野窯の製品とみられるものである。

【SK6615土坑】(第61・131・133図)

北2a西4区の西寄りに位置する。地山面で検出した。北側は攪乱により壊されている。SA6620材木崩跡、SD6614溝跡と重複し、これらより新しい。

平面形は長軸2.2m、短軸1.6m以上のやや不整な隅丸長方形を呈するものと思われ、深さは68cmである。壁はやや急に立ち上がり、断面形は逆台形状である。堆積土は3層に細分され、灰白色火山灰粒、炭化物を多量を含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏(第133図4~9)・高台坏(第133図10)・甕・小型甕、須恵器坏(第133図11)・高台坏・鉢・蓋・鉢・甕・壺・長頸壺・壺G(第133図12)・小壺、須恵系土器坏、灰釉陶器坏(第149図10)、丸瓦、土製円板(第152図16・17)、砥石が出土している。このうちロクロ調整の土師器坏の底部は、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものが主体を占め、回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器坏の底部は、ヘラ切り無調整のものも多く、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り無調整のもの、手持ちヘラ



第131図 北2a西4区土壌断面図

ケズリ再調整により切り離し不明のものが含まれる。灰釉陶器は黒笹90号窠式期のものとみられる。

【SK6616土壌】(第98図)

北3西4区の南西寄りに位置する。地山面で検出した。P637・664と重複し、これより新しい。

平面形は長軸1.0m、短軸0.8mの楕円形で、深さは10cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、地山ブロックを多く含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6622土壌】(第61・131図)

北2a西4区の調査区南西コーナー部に位置する。地山面で検出した。SK6623土壌、P720と重複し、これより古い。

平面形は長軸1.3m、短軸0.9mの楕円形で、深さは24cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は2層に細分され、焼土、炭化物、地山ブロックを含む灰黄色シルトが自然堆積している。

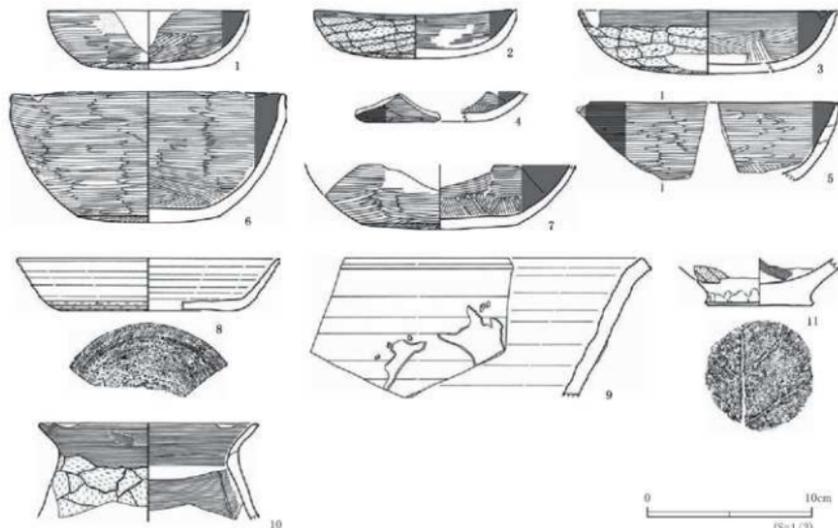
遺物は堆積土から調整不明の土師器甕が出土している。

【SK6623土壌】(第61・131・132図)

北2a西4区の調査区南西コーナー部に位置する。地山面で検出した。SK6622土壌、P721と重複し、これより新しい。

平面形は長軸1.2m、短軸0.8mの不整な楕円形で、深さは26cmである。壁は西側では緩やかに立ち上がり、東側ではやや急に立ち上がる。断面形は皿状である。堆積土は2層に細分され、黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯(第132図16)、ロクロ調整の土師器杯・甕が出土している。



SK6549

SK6567

SK6593

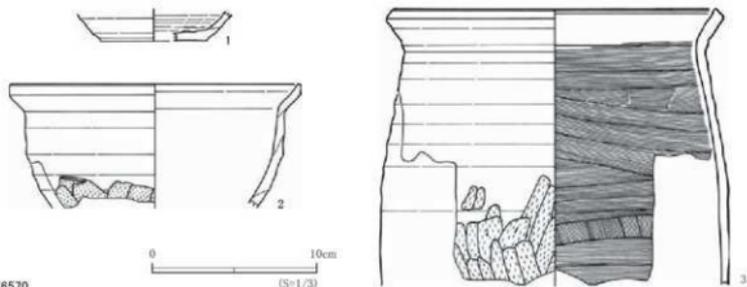
SK6623

SK6568

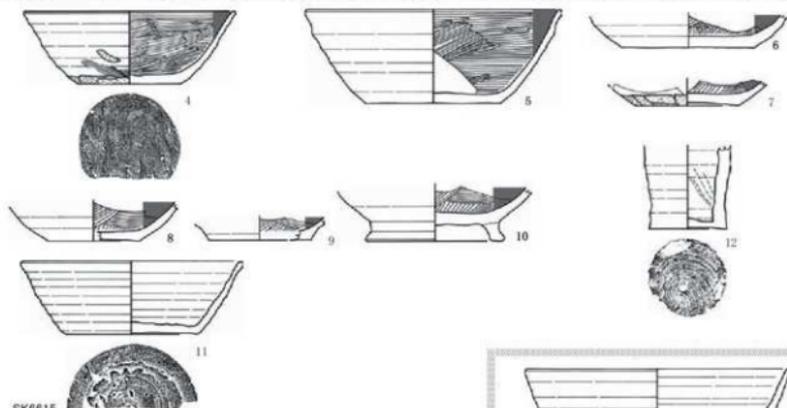
SK6647

No.	種別	遺構/層位	口径	底径	器高	残存	特 徴	所属/年代	登録
1	土師器・片	SK6549埋藏上層	(13.4)	(6.3)	3.6	1/2	外面：ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：手持ちヘラケズリ	53-16	K534
2	土師器・片	SK6549埋藏上層	12.4	8.2	3.0	2/3	外面：手持ちヘラケズリ→ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：手持ちヘラケズリ	53-15	K538
3	土師器・片	SK6549埋藏上層	16.0	10.1	3.9	2/3	外面：ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：手持ちヘラケズリ	53-17	K537
4	土師器・片	SK6549埋藏上層				体下部～底面1/4	内外面：ヘラミダキ→藍色処理		K542
5	土師器・片	SK6549埋藏上層				口縁部～底面片	内外面：ヘラミダキ→藍色処理		K535
6	土師器・片	SK6549埋藏上層	(16.9)	8.7	8.1	2/3	外面：手持ちヘラケズリ→ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：手持ちヘラケズリ→ヘラミダキ	53-18	K533
7	土師器・片	SK6549埋藏上層		(9.6)		体部～底面1/3	外面：ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：ヘラミダキ		K544
8	須恵器・片	SK6549埋藏上層	(15.9)	(11.4)	3.2	1/3	外面：コクロナダ→輪へラケズリ 内面：コクロナダ 底面：ヘラミダキ→輪へラケズリ		K541
9	須恵器・片	SK6549埋藏上層				口縁部～体上部	外面：コクロナダ→ナダ 内面：コクロナダ		K536
10	土師器・片	SK6549埋藏上層	(13.2)			口縁部(2)～体上部	外面：ヨコナダ→手持ちヘラケズリ 内面：ヨコナダ→ヘラナダ 輪縁部		K539
11	土師器・片	SK6549埋藏上層		6.0		体下部～底面全部	外面：手持ちヘラケズリ→ヨコナダ 内面：ヘラナダ 底面：木製板		K543
12	土師器・片	SK6549埋藏上層				体下部～底面1/8	外面：コクロナダ→輪へラケズリ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：ヨコナダ→輪へラケズリ		K548
13	土師器・片	SK6549埋藏上層	(9.4)	(5.4)	3.9	1/3	外面：手持ちヘラケズリ→ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：手持ちヘラケズリ	53-19	K550
14	土師器・片	SK6549埋藏上層	17.4	11.0	8.6	2/3	外面：手持ちヘラケズリ→ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：手持ちヘラケズリ	53-20	K549
15	土師器・片	SK6549埋藏上層				体下部～底面片	外面：コクロナダ 底面：ヨコナダ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：ヨコナダ		K729
16	土師器・片	SK6623埋藏上層	(15.4)	8.3	4.4	1/2	外面：手持ちヘラケズリ→ヘラミダキ 内面：ヘラミダキ→藍色処理 底面：ヨコナダ		K552
17	土師器・片	SK6647埋藏上層	(24.0)			口縁部(2)～体上部	外面：コクロナダ 内面：コクロナダ→ヘラナダ		K592

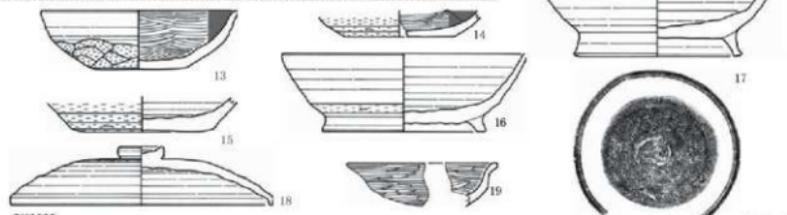
第132図 土橋出土土器(1) -SK6549・6567・6568・6593・6623・6647-



SK6570



SK6615



SK6630

№	種別	遺物/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	学典図録
1	須恵器・灰	SK6570層位上		6(4)		体下部～底部1/4	内外面:ロクロナデ 底面:回転糸切り	8547
2	土師器・鉢	SK6570層位上	(17.7)			口縁部1/4～体上部	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ロクロナデ	8548
3	土師器・鉢	SK6570層位上	(24.0)			口縁部1/4～体部	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラケズリ→ロクロナデ	8546
4	土師器・杯	SK6615層位上2層	(12.9)	6(2)	4.5	2/3	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラケズリ→手持ちヘラケズリ	53-21 8568
5	土師器・杯	SK6615層位上3層	(15.6)	6(2)	5.3	1/4	外面:ロクロナデ 内面:ヘラミダキ→黒色処理 底面:ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	53-22 8561
6	土師器・杯	SK6615層位上3層	6(2)	6(0)		体下部～底部1/3	外面:ロクロナデ 内面:ヘラミダキ→黒色処理 底面:ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	8562
7	土師器・杯	SK6615層位上3層	(8.4)			体下部～底部1/2	外面:ロクロナデ 内面:ヘラミダキ→黒色処理 底面:回転糸切り	8569
8	土師器・杯	SK6615層位上2層	5.6			体下部～底部3/4	外面:ロクロナデ 内面:ヘラミダキ→黒色処理 底面:回転糸切り→ナデ	8572
9	土師器・杯	SK6615層位上1層	6(2)			体下部～底部1/4	外面:ロクロナデ 内面:ヘラミダキ→黒色処理 底面:回転糸切り	8574
10	土師器・高台杯	SK6615層位上1層	(8.4)			口縁部・底面・高台	外面:ロクロナデ 内面:ヘラミダキ→黒色処理 底面:回転糸切り→電気状オケ・付高台	8574
11	須恵器・杯	SK6615層位上3層	(13.5)	8.0	4.5	1/2	内外面:ロクロナデ 外面:重ね織き底 底面:ヘラ切り	53-23 8565
12	須恵器・杯	SK6615層位上3層	4.7			体下部～底部完形	外面:ロクロナデ 自然輪付唇 内面:ロクロナデ 紋り底 底面:回転糸切り	53-24 8564
13	土師器・杯	SK6630層位上	(11.6)	8(3)	3.6	1/4	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダキ→黒色処理 底面:回転糸切り	8553
14	土師器・杯	SK6630層位上	6(4)			体下部～底部1/4	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ヘラミダキ→黒色処理 底面:電気状オケ→手持ちヘラケズリ	8554
15	須恵器・高台杯	SK6630層位上	(8.8)			体下部～底部1/4	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 底面:輪付ロクロナデ 水筒底 底面:ヘラ切り	8556
16	須恵器・高台杯	SK6630層位上	(14.9)	10.0	4.8	2/3	外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面:ロクロナデ 底面:ヘラ割り→手持ちヘラケズリ→付高台	53-25 8557
17	須恵器・高台杯	SK6630層位上	(16.0)	10.1	7.0	3/4	内外面:ロクロナデ 底面:ヘラ割り→手持ちヘラケズリ→付高台	53-26 8687
18	須恵器・蓋	SK6630層位上	15.8		3.6	完形	外面:ロクロナデ→回転ヘラケズリ リング状つまみ 内面:ロクロナデ	53-27 8555
19	須恵器・高台杯	SK6630層位上				口縁部～体部片	内外面:ロクロナデ→ヘラミダキ	8558

第133図 土壇出土土器(2) -SK6570-6615-6630-

【SK6624土壌】(第61・131図)

北2a西4区の調査区西壁際に位置する。地山面で検出した。SD6621溝跡、P884と重複し、これより古い。

平面形は長軸0.9m、短軸0.8mのやや不整な円形で、深さは24cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は3層に細分され、炭化物、地山ブロックを含む灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6625土壌】(第98図)

北3西4区の南西寄りに位置する。地山面で検出した。SA6611材木跡と重複し、これより古い。

平面形は長軸0.7m、短軸0.6mの楕円形で、深さは10cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、地山ブロックをわずかに含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6630土壌】(第61・133図)

北2a西4区の調査区北西コーナーに位置する。地山面で検出した。SA6620材木跡と重複し、これより新しい。

平面形は遺構の西半部が調査区外に延びているため全体の形状は不明であるが、長軸0.8m、短軸0.4m以上の隅丸方形を呈するものと思われる。深さは19cmである。壁は西側では緩やかに立ち上がり東側では急に立ち上がる。断面形は皿状である。堆積土は1層で、地山ブロックを含む暗褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土からクロコ調整の土師器坏(第133図13・14)、須恵器坏(第133図15)・高台坏(第133図16・17・19)・蓋(第133図18)が出土している。このうち土師器坏の底部は回転糸切り無調整のものと回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器坏の底部はヘラ切り無調整である。須恵器高台坏の底部はヘラ切り後回転ヘラケズリされている。また須恵器高台坏の中には内外面ヘラミガキされているものがある。

【SK6642土壌】(第84・129図)

北2a西3区の中央部に位置する。SX6658河川跡堆積土上面で検出した。SB6543・6544・6655掘立柱建物跡、SX6658河川跡と重複し、SB6543掘立柱建物跡、SX6658河川跡より新しく、SB6544・6655掘立柱建物跡より古い。

平面形は径1.2mの円形で、深さは30cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は5層に細分され、地山小ブロックを含む黒褐色粘質シルト・粘土、地山小ブロックを含む灰黄褐色粘土、地山ブロックを多量に含む灰黄色粘土がいずれも自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6644土壌】(第84・129図)

北2a西3区の中央部に位置する。地山面で検出した。SD6546溝跡と重複し、これより古い。

平面形は長軸0.8m、短軸0.6mのやや不整な楕円形で、深さは30cmである。壁は急に立ち上がり、断

遺構No.	位置	平面形	断面形	規模	深さ	層様土	時期	出土遺物	新旧関係など	平面図	断面図	写真図説
SK0504	北2a-西3区	不整形方形	箱状	1.0×1.4m	16cm	自然層	奈良時代	赤コラの土師器片	SK0504内溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	84	129	
SK0505	北2a-西3区	不整形方形	箱状	2.7×1.9m	43cm	自然層	奈良時代	部分中下層式土師器片・鉄・骨、瓦、土師器片、鉄・骨	SK0505内溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	84	129	18-4
SK0506	西3a-道路跡	楕円長方形	逆台形	0.6×0.7m	24cm	自然層	9世紀中葉以前	なし	SK0506内溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	52	126	
SK0508	北2a-西3区	楕円形	逆台形	1.8×0.7m	34cm	自然層	古代	SK0508土師器片・骨、コアラ土師器片、土師器片、鉄器器片、骨	SK0508内溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	41	128	
SK0509	西3a-道路跡	不整形四方形	逆台形	0.8×0.7m	13cm	自然層	古代	土師器片	SK0509土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	35		
SK0507	北2a-西3区	楕円形	逆台形	0.7×0.5m	28cm	自然層	古代	コアラ土師器片・骨、土師器片	後の遺構との兼ねなし	59	128	
SK0508	北2a-西3区	不整形方形	傾斜状	1.5×1.2m	26cm	自然層	奈良時代	SK0508土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	SK0508土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	59	128	
SK0509	北2a-道路跡	内溝	逆台形	径0.7m	30cm	自然層	9世紀中葉頃	赤コラの土師器片	SK0509土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	41	127	
SK0529	北2a-西3区	不整形方形	箱状	1.5×1.2m	16cm	自然層	古代	SK0529土師器片・鉄・骨、土師器片、鉄器器片・骨、骨	SK0529土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	59	128	
SK0523	西3a-道路跡	内溝	逆台形	径0.7m	16cm	自然層	古代	土師器片	SK0523土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	52	126	
SK0525	北2a-西3区	不整形方形	逆台形	1.2×1.0m	16cm	自然層	古代～中葉	なし	SK0525土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	59		
SK0526	北2a-西3区	楕円長方形	箱状	0.7×0.6m	16cm	自然層	不明	なし	後の遺構との兼ねなし	60		
SK0529	北2a-西3区	楕円形	箱状	1.2×0.9m	17cm	自然層	不明	なし	後の遺構との兼ねなし	60		
SK0500	北2a-西3区	楕円長方形	逆台形	0.6×0.5m	16cm	自然層	不明	なし	後の遺構との兼ねなし	60		
SK0502	北2a-西3区	楕円長方形	箱状	10.7×3.0m	29cm	自然層	古墳時代後葉～奈良時代	鏡石	SK0502土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	59	128	
SK0500	北2a-西3区	楕円長方形	箱状	10.5×3.0m	28cm	自然層	古代	土師器片、有蓋器片、骨	後の遺構との兼ねなし	59		
SK0503	北2a-道路跡	楕円形	箱状	1.9×1.1m	38cm	自然層	古代	コアラ土師器片・鉄・骨、土師器片、鉄器器片・骨、瓦	SK0503土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	59		
SK0504	北2a-西3区	方形	箱状	10.9×30.0m	17cm	自然層	不明	なし	後の遺構との兼ねなし	59		
SK0507	北2a-西3区	不整形方形	箱状	0.7×0.6m	16cm	自然層	古墳時代後葉～古代	なし	SK0507土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	59		
SK0505	北2a-西3区	楕円形	箱状	直径1.0m	5cm	自然層	古代	赤器器片	SK0505土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	84	130	
SK0506	北2a-西3区	楕円長方形	箱状	1.3×1.0m	23cm	自然層	古代	SK0506土師器片・骨、有蓋器片、鉄器器片、瓦	SK0506土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	84	130	
SK0515	北2a-西3区	楕円長方形	逆台形	2.2×3.0m	68cm	自然層	9世紀後半頃～10世紀前半頃頃	赤コラの土師器片・骨、コアラ土師器片・高台・鉄・骨、小銅器、赤器器片・高台・鉄・骨、骨、瓦、土師器片、鉄器器片・骨、瓦、土師器片、鏡石	SK0515土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	61	131	
SK0508	北2a-西3区	楕円形	箱状	1.0×0.9m	16cm	自然層	古代	なし	主要遺構との兼ねなし	60		
SK0522	北2a-西3区	楕円形	箱状	1.3×0.9m	24cm	自然層	古代	土師器片	SK0522土溝→SK0549土溝	61	131	
SK0523	北2a-西3区	不整形内方形	箱状	1.2×0.9m	26cm	自然層	古代	赤コラの土師器片、コアラ土師器片・骨	SK0523土溝→SK0549土溝	61	131	
SK0524	北2a-西3区	不整形内方形	箱状	0.9×0.9m	24cm	自然層	古代	なし	SK0524土溝→SK0549土溝	61	131	
SK0525	北2a-西3区	楕円形	箱状	0.7×0.6m	16cm	自然層	奈良時代	なし	SK0525土溝→SK0549土溝	61	131	
SK0520	北2a-西3区	楕円長方形	箱状	0.8×10.4m	18cm	自然層	古代	コアラ土師器片・赤器器片・高台・鉄・骨	SK0520土溝→SK0549土溝	61		
SK0523	北2a-西3区	不整形方形	逆台形	1.0×10.4m	43cm	自然層	古代以降	なし	SK0523土溝→SK0549土溝	61	131	
SK0528	北2a-西3区	不整形内方形	箱状	1.2×0.9m	16cm	自然層	不明	なし	主要遺構との兼ねなし	61		
SK0529	北2a-西3区	楕円長方形	逆台形	31.0×0.9m	33cm	自然層	古墳時代後葉	なし	SK0529土溝→SK0549土溝	35	128	
SK0540	北2a-西3区	楕円長方形	逆台形	0.6×0.5m	18cm	人為層	古墳時代後葉以降	なし	SK0540土溝→SK0549土溝	84		19-1
SK0541	北2a-西3区	楕円形	箱状	1.2×0.9m	26cm	自然層	古墳時代後葉以降	なし	SK0541土溝→SK0549土溝	84	129	19-2
SK0542	北2a-西3区	内溝	箱状	径1.2m	36cm	自然層	古代	なし	SK0542埋設溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	84	129	
SK0543	北2a-西3区	不整形内方形	箱状	0.8×0.5m	28cm	自然層	古墳時代後葉以降	なし	SK0543埋設溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	84	129	19-3
SK0544	北2a-西3区	不整形内方形	逆台形	0.8×0.5m	36cm	自然層	古代	なし	SK0544土溝→SK0549土溝	84	129	
SK0546	北2a-西3区	楕円形	箱状	0.6×0.5m	18cm	自然層	古代	なし	SK0546土溝→SK0549土溝→SK0543埋設溝	59	128	
SK0547	北2a-西3区	内溝	箱状	径0.5m	9cm	自然層	奈良時代以降	なし	SK0547土溝→SK0549土溝	59		
SK0548	北2a-西3区	不整形方形	箱状	0.6×0.4m	16cm	自然層	奈良時代以降	なし	SK0548土溝→SK0549土溝	59		
SK0549	北2a-西3区	内溝	箱状	径0.6m	16cm	自然層	奈良時代以降	なし	SK0549土溝→SK0549土溝	59		
SK0573	北2a-西3区	楕円形	箱状	1.3×1.0m	23cm	自然層	古代以降	なし	SK0573埋設溝→SK0575土溝	59		
SK0677	北2a-西3区	楕円長方形	逆台形	2.0×1.2m	18cm	自然層	古代以降	なし	SK0677土溝→SK0575土溝	59		
SK0684	北2a-西3区	楕円形	箱状	1.1×0.9m	24cm	自然層	古墳時代後葉以降	なし	SK0684土溝→SK0575土溝	59		
SK0686	西3a-道路跡	楕円形	箱状	1.3×0.9m	30cm	自然層	10世紀中頃以降	なし	SK0686土溝→SK0575土溝	29		
SK0709	西3a-道路跡	不整形内方形	箱状	2.0×2.4m	28cm	自然層	古代	瓦	SK0709土溝→SK0575埋設溝	29	31	

表4 平成18年度調査 市川橋遺跡 土壌一覧

面形はU字状である。堆積土は2層に細分され、地山ブロックを含む灰黄褐色シルト、黒褐色粘土が自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6646土壌】(第59・128図)

北3西3a区の中央部に位置する。SI6520堅穴住居跡の堆積土上面で検出した。SI6520堅穴住居跡、SK6570土壌と重複し、SI6520堅穴住居跡より新しく、SK6570土壌より古い。

平面形は長軸0.6m、短軸0.5mの楕円形で、深さは19cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は2層に細分され、炭化物、地山小ブロックを含む黒褐色シルト・砂質シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6709土壌】(第29・31図)

A区の西3道路跡北寄りに位置する。地山面で検出した。SD6680西3道路跡東側溝F期、SD6524溝跡、SX6527整地層と重複し、SD6680東側溝F期、SD6524溝跡より新しく、SX6527整地層より古い。

平面形は長軸2.6m、短軸2.4mのやや不整な円形で、深さは28cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、炭化物片、地山ブロックを含む黒褐色粘質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から多賀城跡政庁第1期の丸瓦(第153図10)が出土している。

9) 溝跡

A区で24条、B区で12条検出している。大半が道路期以前に属するものと考えられるが、路面排水溝として道路期に機能していたものも含まれる。

【SD6507溝跡】(第35・59・134図)

北3西3a区の西寄りに位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。西側では攪乱により壊されている。SD6682西3a道路跡東側溝B期・C期・D期・F期、SX6502河川流路跡、SI6645堅穴住居跡、SK6582土壌、P327・356・386と重複し、SK6582土壌、P327・356・386より新しく、SD6682西3a道路跡東側溝B期・C期・D期・F期、SX6502河川流路跡、SI6645堅穴住居跡より古い。

検出長は12.3mで、上幅0.8~1.2m、下幅0.3~0.6m、深さは約40cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東で南に約18°偏する。堆積土は2層に細分され、炭化物、地山ブロックを含む灰黄褐色シルト、褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から須恵器甕が出土している。



第134図 北3西3a区溝跡断面図

【SD6523清跡】(第52図)

A区の西3a道路跡南寄りに位置する東西方向に延びる溝跡である。西3a道路跡路面および西3a道路跡東側溝堆積土上で検出した。SD6682西3a道路跡東側溝C期・D期・E期・F期と重複し、これらより新しい。

検出長は2.9mで、上幅0.4～0.6m、下幅0.2m、深さは17cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると西で北に約1°偏している。堆積土は1層で自然堆積である。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・甕、丸瓦が出土している。このうち土師器杯、須恵器杯の底部は手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。

【SD6524清跡】(第29・31図 図版9)

A区の西3道路跡北寄りに位置し、西3道路跡の路面を掘り抜いて東西方向に延びる溝跡である。西3道路跡路面Ⅲ構築土上で検出した。SD6680西3道路跡東側溝F期とSD6681西3道路跡西側溝F期を連結する路面排水溝と考えられる。SK6709土壇と重複し、これより古い。

検出長は8.5mで、上幅1.2～1.5m、下幅0.4～0.8m、深さは50cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東で北に約14°偏している。堆積土は10層に細分され、炭化物粒、砂を含む暗灰黄色粘質シルト、褐色土ブロック、炭化物粒を少量含む黒褐色粘質シルト、褐色土ブロックを多量に含む褐色粘質シルト、地山ブロックを多量に含む黄褐色粗砂、灰白色火山灰小ブロックを少量含む褐色粘質シルト、灰白色火山灰ブロックを含む黄褐色粘土などが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・鉢・甕・壺・短頸壺、須恵系土器杯・高台杯、丸瓦、多賀城跡政庁Ⅱ期～Ⅳ期の平瓦、馬歯が出土している。このうち土師器杯の底部は回転系切り無調整のものが多く、回転系切り後手持ちヘラケズリされるものが少量含まれる。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整のもの、回転系切り無調整のものがみられる。

【SD6536清跡】(第60・136図)

北2a西3区の北寄りに位置する東西方向から南北方向に弧状に延びる溝跡である。地山面で検出した。SB6530掘立柱建物跡、P49・50・798・799と重複し、これらより古い。

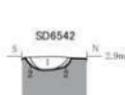
検出長は8.8mで、上幅0.8～1.1m、下幅0.5～0.7m、深さ24cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東西方向では西で北に約4°偏し、南北方向では南で東に約2°偏している。堆積土は2層に細分され、炭化物粒、地山ブロックを含む灰黄褐色シルト・粘質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・甕、須恵系土器杯、平瓦、砥石(第157図6)が出土している。このうち須恵器杯の底部は手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。

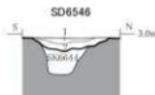
【SD6542清跡】(第84・135図)

北2a西3区の北寄りに位置する北東方向から南西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。SD6680西3道路跡東側溝A期・C期・D期・E期・F期、SA6705・6707柱列跡と重複し、これらより古い。

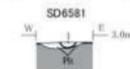
検出長は13.5mで、上幅0.6～0.7m、下幅0.3～0.4m、深さは約20cmである。断面形はU字状である。



No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色の砂状土	シルト	地山ブロック・地山粒・地山砂・地山粘土を含む	自然堆積
2	黒褐色の砂状土	粘質シルト	地山ブロック・地山粒・地山砂を含む	



No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色の砂状土	粘質シルト	地山砂・地山粘土を含む	自然堆積
2	黒褐色の砂状土	シルト	地山砂・地山粘土を含む	



No.	土色	土性	混入物など	備考
1	黒褐色の砂状土	シルト	地山砂・地山粘土・地山砂・地山粘土を含む	自然堆積



第135図 北2a西3区溝跡断面図

方向は心線でみると東で北に約 30° 偏している。堆積土は2層に細分され、地山小ブロックを含む黒褐色シルト、地山ブロック、地山粒を含む黒褐色粘質シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6546溝跡】(第84・135図 図版21)

北2a西3区の中央部南寄りに位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。SB6543・6544・6545掘立柱建物跡、SK6644土壇、P194・250・762と重複し、これらより新しい。

検出長は6.7mで、上幅0.8~1.2m、下幅0.3~0.6m、深さは16cmである。断面形は上が開いたU字状である。方向は心線でみると西で北に約 10° 偏している。堆積土は2層に細分され、黒褐色粘質シルト・シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6558溝跡】(第44・53・138図 図版21)

A区の東壁際中央部に位置する東西方向に延びる溝跡である。遺構の一部を検出したのみで大半はSD6557区画溝跡によって切られており、東側は調査区外に延びている。地山面および北2a道路跡北側溝底面で検出した。SD6682北2a道路跡北側溝、SD6557区画溝跡と重複し、これらより古い。

検出長は5.5mで、上幅1.6~2.1m、下幅0.4~0.9m、深さは30~70cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東で南に約 9° 偏している。堆積土は2層で地山ブロックを少量含む黒褐色粘質シルト、地山を多量に含む黒色粘質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯・鉢・甕(第138図2)、須恵器杯・壺蓋(第138図3)・鉢・甕・壺、丸瓦が出土している。土師器杯は内外面へラミガキされ内面が黒色処理されている。

【SD6563溝跡】(第59図)

北3西3a区の南西部に位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。SA6701柱列跡、SK6559土壇と重複し、これらより古い。

検出長は1.7mで、上幅0.2~0.3m、下幅0.1~0.2m、深さは約10cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると北で西に約 15° 偏する。堆積土は1層で、地山ブロックを多量に含む灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6565溝跡】(第59図)

北3西3a区の南寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。SD6682北2a道路跡北側溝C期・E期、SA6700柱列跡、SD6566溝跡、SX6521河川流路跡と重複し、これより古い。

検出長は3.7mで、上幅0.6～1.2m、下幅0.4～0.8m、深さは約20cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると北で東に約9°偏する。堆積土は1層で、地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6566溝跡】(第59図)

北3西3a区の南寄りに位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。SD6682北2a道路跡北側溝C期、SA6564材木塚跡、SD6565溝跡と重複し、SA6564材木塚跡、SD6565溝跡より新しく、SD6682北2a道路跡北側溝C期より古い。

検出長は3.1mで、上幅0.2～0.3m、下幅0.1～0.2m、深さは約10cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東で北に約11°偏する。堆積土は1層で、地山ブロックを含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6571溝跡】(第90・137・138図)

北3西4区の南東寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。南側では調査区外に延び、北側では攪乱によって壊されている。SB6603・6661・6697・6699A・B掘立柱建物跡、SD6588溝跡、SD6683北2a道路跡北側溝E期、P406・407・466・735と重複し、SB6661・6697・6699A・B掘立柱建物跡、SD6588溝跡より新しく、SB6603掘立柱建物跡、SD6683北2a道路跡北側溝E期、P406・407・466・735より古い。

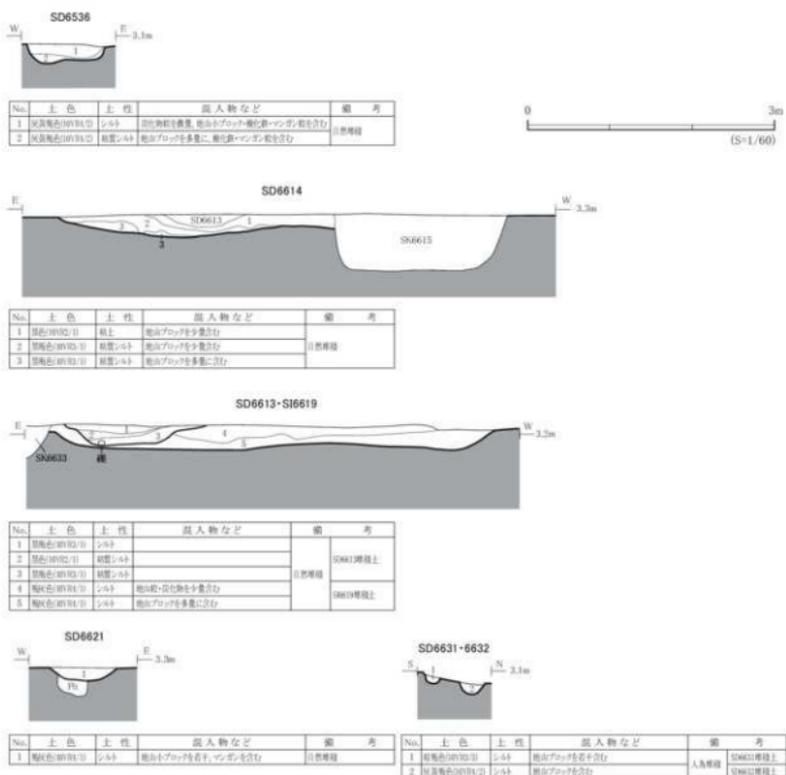
検出長は13.0mで、上幅3.0～5.8m、下幅1.0～2.0m、深さは40cmである。底面は北から南に向かって低く傾斜している。断面形は上が大きく開いた浅いU字状である。方向は心線でみると北で西に約7°偏している。堆積土は6層に細分され、灰黄褐色シルト、褐灰色シルト・粘質シルト、黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯・蓋・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯(第138図4)・甕・壺が出土している。このうち非ロクロ調整の土師器杯には有段のものが含まれ、外面がヨコナデののちヘラミガキ、手持ちヘラケズリされ、内面はヘラミガキ・黒色処理されている。蓋は内外面ヘラミガキ・黒色処理されている。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。

【SD6572溝跡】(第90・137・138図)

北3西4区の東寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。南側で途切れており、北側は攪乱によって壊されている。SB6661掘立柱建物跡と重複し、これより新しい。

検出長は6.0mで、上幅0.7～0.9m、下幅0.4～0.6m、深さは16cmである。断面形は浅いU字状である。方向は心線でみると北で西に約25°偏している。堆積土は2層に細分され、地山ブロックを含む灰黄褐



第136図 北2a西4区溝跡断面図

色シルトが自然堆積している。

なおこの遺構については、攪乱のため北側での伸びを把握できないが、SD6587溝跡もしくはSD6588溝跡と接続する可能性がある。

遺物は堆積土から非クロコ調整の土師器鉢（第138図5）が出土している。外面調整は全体にハケメを施されたのち縁部ヨコナデ、体部から底部にかけて手持ちヘラケズリされ、体下端部にはユビオサエがなされている。内面調整はヨコナデのちユビナデされている。

【SD6574溝跡】（第90図）

北3西4区の南東寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。北側は途中で途切れ、南側は北2a道路跡北側溝に切られている。SD6683北2a道路跡北側溝E期と重複しこれより古い。

検出長は4.7mで、上幅0.3～1.0m、下幅0.1～0.4m、深さは10cmである。断面形は上が開いたU字状である。方向は心線でみると北で西に約15°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6576溝跡】 (第90図)

北3西4区の南東寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。北側、南側ともに途切れている。他の遺構との重複関係はない。

検出長は1.4mで、上幅0.2～0.3m、下幅0.1～0.2m、深さは10cmである。断面形は上が開いたU字状である。方向は心線でみると北で東に約13°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器杯が出土している。

【SD6577溝跡】 (第90・137図)

北3西4区の東寄りに位置する北西方向から南北方向に弧状に延びる溝跡である。地山面で検出した。北側は攪乱により壊されており、南側は西3a道路跡西側溝に切られている。SB6661掘立柱建物跡、SD6683西3a道路跡西側溝E期・F期、P807と重複し、SB6661掘立柱建物跡より新しく、SD6683西3a道路跡西側溝E期・F期、P807より古い。

検出長は約11.0mで、上幅0.3～0.4m、下幅0.2～0.3m、深さは12cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると北で西に約10°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを多量に含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6581溝跡】 (第84・135図)

北2a西3区の中央部南寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。P22・123・188・263と重複し、P123・263より新しく、P22・188より古い。

検出長は2.6mで、上幅0.2m、下幅0.1m、深さは10cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると北で東に約7°偏している。堆積土は1層で、地山粒を少量含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6583溝跡】 (第5・6図)

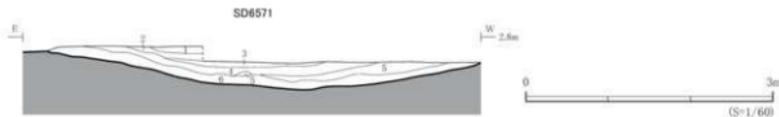
北3西4区の中央部北寄りに位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。東側、西側ともに途切れている。SD6517区画溝跡と重複し、これより新しい。

検出長は4.2mで、上幅0.6～0.9m、下幅0.3～0.5m、深さは16～30cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると東で南に約6°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを含む灰黄色シルトが自然堆積している。

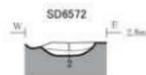
遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯、内面に漆の被膜が付着した非ロクロ調整の土師器甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・甕が出土している。

【SD6587溝跡】 (第5・90・94・138図 図版21)

北3西4区の北西寄りに位置する東西方向に弧状に延びる溝跡である。地山面およびSD6517区画溝跡堆積土上で検出した。東側、西側ともに攪乱により壊されている。SD6517区画溝跡、SB6685掘立柱建物跡、SD6588・6602溝跡と重複し、SD6517区画溝跡、SD6602溝跡より新しく、SB6685掘立柱建



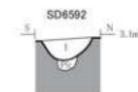
No.	土色	土性	遺人物など	備考	No.	土色	土性	遺人物など	備考
1	灰黒褐色(砂)質シルト	シルト	炭化樹皮・炭化土を含む		4	黒褐色(砂)質シルト	シルト	炭化土を含む	
2	灰黒褐色(砂)質シルト	シルト	炭化樹皮・炭化土を含む	自然堆積	5	黒褐色(砂)質シルト	シルト	地山ブロック・炭化土を含む	自然堆積
3	黒褐色(砂)質シルト	シルト	炭化樹皮・炭化土・灰黒褐色土を含む		6	黒褐色(砂)質シルト	粘質シルト	地山ブロック・炭化土を含む	



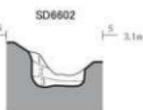
No.	土色	土性	遺人物など	備考
1	灰黒褐色(砂)質シルト	シルト	地山小ブロックを含む。炭化樹皮・炭化土を含む	自然堆積
2	灰黒褐色(砂)質シルト	シルト	地山ブロックを多数含む。炭化樹皮・炭化土を含む	



No.	土色	土性	遺人物など	備考
1	黒褐色(砂)質シルト	シルト	地山ブロックを多数含む	自然堆積



No.	土色	土性	遺人物など	備考
1	黒褐色(砂)質シルト	シルト	地山ブロックを含む	自然堆積



No.	土色	土性	遺人物など	備考
1	灰黒褐色(砂)質シルト	粘質シルト		
2	黒褐色(砂)質シルト	シルト	地山ブロックを含む	自然堆積
3	黒褐色(砂)質シルト	粘質シルト	地山ブロックを多数含む	



No.	土色	土性	遺人物など	備考
1	灰黒褐色(砂)質シルト	粘質シルト	炭化樹皮・炭化土・灰黒褐色土を含む	自然堆積
2	灰黒褐色(砂)質シルト	シルト	地山ブロックを多数含む	



No.	土色	土性	遺人物など	備考
1	黒褐色(砂)質シルト	シルト	地山ブロックを含む	自然堆積

第137図 北3西4区溝跡断面図

跡、SD6588溝跡より古い。

検出長は10.9mで、上幅0.5～1.2m、下幅0.2～0.4m、深さは10～30cmである。断面形は上が開いたU字状である。方向は心線でみると東半部では西で北に約3°偏し、西半部では西で南に約52°偏している。堆積土は1層で、地山小ブロックを含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯（第138図6・8）・鉢（第138図7）・甕（第138図10）、須恵器杯・高台杯（第138図9）・蓋・高台盤・甕、輪羽口、鉄滓が出土している。このうち土師器杯は平底で、外面調整はヨコナデのち手持ちヘラケズリ・ヘラミガキされるものと手持ちヘラケズリののちヘラミガキされるものがあり、内面調整はヘラミガキ・黒色処理である。

【SD6588溝跡】（第5・94・139図 図版21）

北3西4区の北西寄りに位置する東西方向に弧状に延びる溝跡である。地山面およびSD6517区画溝跡堆積土上面で検出した。西側で途切れており東側では攪乱により壊されている。SD6517区画溝跡、SB6661・6685掘立柱建物跡、SD6571・6587・6602溝跡、P431・449と重複し、SD6517区画溝跡、SD6587溝跡より新しく、SB6661・6685掘立柱建物跡、SD6571溝跡、P431・449より古い。

検出長は22.4mで、上幅0.4～1.1m、下幅0.2～0.8m、深さは10～32cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると東半部では西で北に約13°偏し、西半部では南で東に約7°偏している。堆積

土は2層に細分され、灰黄褐色シルト、淡黄色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器坏（第139図11・12）・鉢（第139図13）・甕・甗（第139図14）・壺、ロクロ調整の土師器坏、調整不明の土師器甕、須恵器坏・蓋・甕・鉢（第139図15）・壺が出土している。このうち非ロクロ調整の土師器坏は有段丸底のものと、無段で平底のものがある。土師器甕は、外面調整がハケメで、内面調整はヘラナデである。また甕の底部には木葉痕のみられるものが含まれている。須恵器坏の底部は手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。須恵器甕は頭部に櫛描波状文のみられるものがある。

【SD6591溝跡】（第39図）

北2道路跡上に位置する南北方向に延びる溝跡である。北2道路跡路面上で検出した。SX6650北2道路跡と重複し、これより新しい。

検出長は1.0mで、上幅0.2～0.3m、下幅0.1～0.2m、深さは10cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると南で東に約27°偏している。堆積土は1層で、褐灰色砂が自然堆積している。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器甕、調整不明の土師器坏・甕、須恵器坏・甕・壺、須恵系土器高台坏、平瓦が出土している。

【SD6592溝跡】（第6・137図）

北3西4区の調査区北壁際に位置する東西方向に弧状に延びる溝跡である。地山面で検出した。西側では調査区外に延び、東側では攪乱により壊されている。P408と重複し、これより新しい。

検出長は3.2mで、上幅0.6～1.1m、下幅0.2～0.6m、深さは24cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると東半部では東で北に約49°偏し、西半部では東で北に約11°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から調整不明の土師器甕、砥石（第160図31）が出土している。

【SD6596溝跡】（第40図）

A区の南端部に位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

検出長は1.2mで、上幅0.2～0.3m、下幅0.1～0.2m、深さは約10cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると北で西に約3°偏している。堆積土は1層で、地山粒を含む褐灰色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から須恵器鉢が出土している。

【SD6602溝跡】（第5・94図）

北3西4区の中央部北寄りに位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面およびSD6517区画溝跡堆積土上面で検出した。西側は調査区外に延びている。SD6517区画溝跡、SD6587溝跡と重複し、SD6517区画溝跡より新しく、SD6587溝跡より古い。

検出長は約6.4mで、上幅0.6～0.9m、下幅0.3～0.5m、深さは40cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると西で北に約3°偏する。堆積土は3層に細分され、灰黄褐色砂質シルト、地山ブロックを含む褐灰色シルト、地山ブロックを少量含む黒褐色粘質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器環・甕、調整不明の土師器甕、ミニチュア土器環が出土している。このうち土師器環は段をもたないもので、外面調整は、口縁部がヨコナデ、体部が手持ちヘラケズリで、内面調整はヘラミガキである。

【SD6607溝跡】（第6図）

北3西4区の調査区南壁際に位置する東西方向に延びる溝跡である。東側は調査区外に延びている。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

検出長は1.0mで、上幅0.6m、下幅0.4m、深さは20cmである。断面形は逆台形状である。方向は心心でみると東半部では東で北に約1°偏している。堆積土は2層に細分され、焼土粒、灰白色火山灰粒を少量含む灰黄褐色砂質シルト、地山ブロックを多量に含む暗灰黄色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器甕、ロクロ調整の土師器甕、調整不明の土師器甕、須恵器環が出土している。

【SD6609溝跡】（第6図）

北3西4区の調査区南壁際に位置する南北方向に延びる溝跡である。南側は調査区外に延びている。地山面で検出した。SA6611材木堀跡、P843と重複し、これより古い。

検出長は1.8mで、上幅0.7m、下幅0.4m、深さは10cmである。断面形はU字状である。方向は心心でみると北で西に約8°偏している。堆積土は1層で、焼土粒、炭化物粒、地山小ブロックを含む褐色粘質シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6613溝跡】（第61・136図）

北2a西4区の調査区南壁際に位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。北側では擾乱により壊されており、南側では調査区外に延びている。SI6619竅穴状遺構、SA6620材木堀跡、SA6690柱列跡、SB6686・6687掘立柱建物跡、SD6614・6632溝跡、P677・701と重複し、これらすべての遺構より新しい。

検出長は約3.2mで、上幅1.0～1.1m、下幅0.3～0.5m、深さは26cmである。断面形はU字状である。方向は心心でみると北で西に約9°偏している。堆積土は3層に細分され、黒色粘質シルト・黒褐色シルト・粘質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器環・甕、ロクロ調整の土師器環・甕、調整不明の土師器甕、須恵器環・鉢・甕・壺、須恵系土器環・高台環、灰釉陶器塊（第149図11）、製塩土器が出土している。このうち非ロクロ調整の土師器環では内外面ヘラミガキ・黒色処理されているものがみられる。また須恵器環の底部は回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。

【SD6614溝跡】（第61・136図）

北2a西4区の調査区南壁際に位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。北側では擾乱により壊されており、東側では調査区外に延びている。SA6620材木堀跡、SA6690・6691柱列跡、SB6686・6687掘立柱建物跡、SD6613・6621・6631・6632・6634溝跡、SK6615・6633土壇、P621・676と重複し、SA6620材木堀跡、SA6690・6691柱列跡、SB6686掘立柱建物跡、SD6631・6632・6634

溝跡より新しく、SB6687掘立柱建物跡、SD6613・6621溝跡、SK6615・6633土壌、P621・676より古い。

検出長は6.2mで、上幅0.5m以上、下幅0.4m以上、深さは30cmである。断面形は上が開いたU字状である。方向は心線でみると東で南に約9°偏している。堆積土は3層に細分され、地山ブロックを含む黒色粘土、黒褐色粘質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非クロ調整の土師器甕、クロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・高台杯・甕が出土している。このうち土師器杯の底部は、回転糸切り無調整のもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整のもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。

【SD6621溝跡】(第61・136図)

北2a西4区の調査区南西寄りに位置する。南北方向から南西方向に屈曲して延びる溝跡である。地山面で検出した。北側では擾乱により壊されており、南側では調査区外に延びている。SA6620材木堀跡、SA6692柱列跡、SB6688掘立柱建物跡、SK6624土壌、P626・627・700・886と重複し、SA6692柱列跡を除いたすべての遺構より新しい。

検出長は5.2mで、上幅0.5～1.3m、下幅0.2～1.0m、深さは14cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると南北方向では北で東に約4°偏し、南西方向では西で南に約23°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを含む褐色灰色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6631溝跡】(第61・136図)

北2a西4区の北東部に位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。北側では擾乱により壊されている。SA6620材木堀跡、SD6614溝跡と重複し、SD6614溝跡より古い。SA6620材木堀跡との新旧関係は不明である。

検出長は2.0mで、上幅0.2m、下幅0.1m、深さは10cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると北で東に約1°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを含む暗褐色シルトにより人為的に埋め戻されている。

遺物は出土していない。

【SD6632溝跡】(第61・136図)

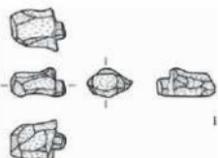
北2a西4区の北東部に位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。北側では擾乱により壊されている。SA6620材木堀跡、SD6613・6614溝跡と重複し、SD6613・6614溝跡より古い。SA6620材木堀跡との新旧関係は不明である。

検出長は2.9mで、上幅0.2～0.4m、下幅0.1～0.2m、深さは12cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると真北方向である。堆積土は1層で、地山ブロックを含む灰黄褐色シルトにより人為的に埋め戻されている。

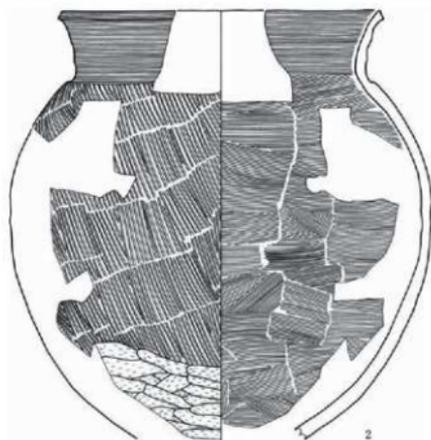
遺物は出土していない。

【SD6634溝跡】(第61図)

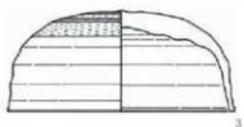
北2a西4区の北西部に位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。東側では調査区外



SD6546



SD6558

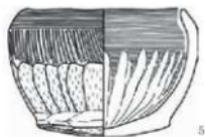


3



4

SD6571

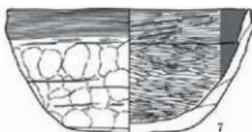


5

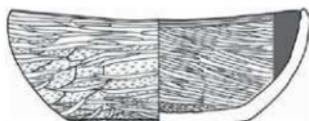
SD6572



6



7

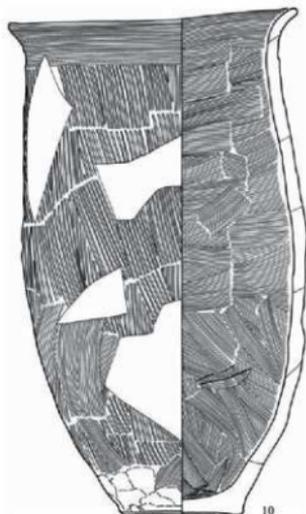


8



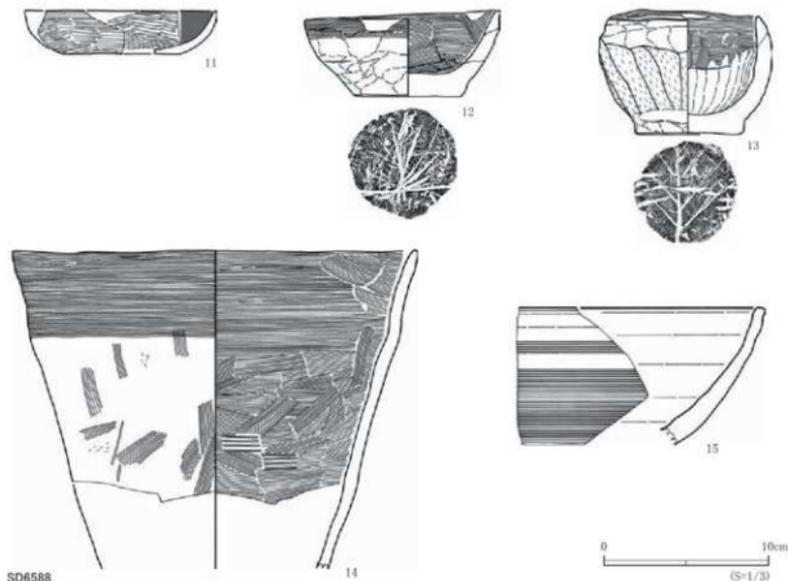
9

SD6587



10

第138図 溝跡出土土器(1) -SD6546-6558-6571-6572-6587-



SD6588

14

0 10cm
(S=1/3)

No.	種別	遺集/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録登録
1	須志部・丸	SD6546堆積土				肥土断片	手持ちヘラケズリ 注め込み式肥土	B447
2	土師部・俵	SD6558堆積土 (19. 6)				口縁部1/4-唇下段	外面: ハケメ→ヨコナダ・手持ちヘラケズリ 内面: ヨコナダ・ナダ	B044
3	須志部・巻	SD6558堆積土 13. 8		6. 2	完形		外面: ロクロナダ→丸瓶ヘラケズリ 自然釉付着 内面: ロクロナダ 天井部: ヘラケズリ	55-4 B005
4	須志部・丸	SD6571堆積土1層 (12. 8)	8. 6	3. 6	1/6		外面: ロクロナダ→丸瓶ヘラケズリ 内面: ロクロナダ 底面: 厚手磨し不明→丸瓶ヘラケズリ	B602
5	土師部・丸	SD6572堆積土2層 9. 7 8. 1 7. 8			ほぼ完形		外面: ハケメ→ヨコナダ・手持ちヘラケズリ→ヨビオサキ 内面: ヨコナダ→ヨビオサキ 底面: 手持ちヘラケズリ	55-5 B001
6	土師部・片	SD6587堆積土 13. 6 7. 8 3. 2			1/2		外面: ヨコナダ→細口ヘラケズリ→ヨビオサキ 内面: ハケメ→丸瓶ヘラケズリ→丸瓶ヘラケズリ	B588
7	土師部・丸	SD6587堆積土 14. 6 7. 8 7. 6			ほぼ完形		外面: ヨコナダ→ヨビオサキ 輪縁部 内面: ハケメ→丸瓶ヘラケズリ→丸瓶ヘラケズリ	B589
8	土師部・片	SD6587堆積土 18. 0 11. 2 7. 1			ほぼ完形		外面: 手持ちヘラケズリ→丸瓶ヘラケズリ 内面: ハケメ→丸瓶ヘラケズリ 底面: 手持ちヘラケズリ→丸瓶ヘラケズリ	55-6 B592
9	須志部・流形	SD6587堆積土1層 19. 4 11. 6 6. 8			ほぼ完形		外面: ロクロナダ→丸瓶ヘラケズリ 内面: ロクロナダ 底面: 厚手磨し不明→丸瓶ヘラケズリ→丸瓶ヘラケズリ	55-7 B595
10	土師部・巻	SD6587堆積土 17. 8 7. 6 31. 3			2/3		外面: ハケメ→ヨコナダ・ナダ→ヨビオサキ 内面: ヨコナダ・ナダ 底面: 木製版	55-8 B093
11	土師部・丸	SD6588堆積土 (11. 8) 7. 2 2. 7			1/2		外面: 手持ちヘラケズリ→丸瓶ヘラケズリ 内面: →丸瓶ヘラケズリ→丸瓶ヘラケズリ	B616
12	土師部・丸	SD6588堆積土 12. 1 6. 6 8. 4			ほぼ完形		外面: ヨコナダ→ヨビオサキ 内面: ヨコナダ・ヘラケズリ 底面: 木製版	55-10 B614
13	土師部・丸	SD6588堆積土 9. 2 6. 4 7. 6			完形		外面: 手持ちヘラケズリ→ヨビオサキ 内面: ヨコナダ・ナダ→ヨビオサキ 底面: 木製版	55-9 B615
14	須志部・丸	SD6588堆積土 25. 2				口縁部1/4-唇下段	外面: ヨビオサキ→手持ちヘラケズリ→ヨコナダ・ナダ 内面: ヨコナダ・ナダ→ハケメ	B617
15	須志部・丸	SD6588堆積土1層				口縁部-唇下段片	外面: ロクロナダ→カキメ 内面: ロクロナダ	B587

第139図 溝跡出土土器(2)-SD6588-

に延びている。SD6614溝跡と重複し、これより古い。

検出長は1.0mで、上幅0.2m、下幅0.1m、深さは6cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると西で北に約2°偏している。堆積土は1層で自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SD6635溝跡】(第61図)

北2a西4区の南西寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。南側では攪乱により壊されている。SA6620材木跡と重複し、これより古い。

検出長は1.2mで、上幅0.2~0.3m、下幅0.1~0.2m、深さは10cmである。断面形はU字状である。方

向は心線でみると北で東に約2° 偏している。堆積土は1層で自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SD6636溝跡】 (第61図)

北2a西4区の南西寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。北側では攪乱により壊されている。SA6620材木崩跡、SD6637溝跡、P887と重複し、SD6637溝跡より新しく、SA6620材木崩跡、P887より古い。

検出長は1.3mで、上幅0.2m、下幅0.1m、深さは6cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると北で西に約8° 偏している。堆積土は1層で自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SD6637溝跡】 (第61図)

北2a西4区の南西寄りに位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。SD6636溝跡、P888と重複し、これらより古い。

検出長は1.0mで、上幅0.2~0.3m、下幅0.1m、深さは9cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると西で北に約8° 偏している。堆積土は1層で自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SD6676溝跡】 (第6図)

北3西4区の北寄りに位置する北西方向から南東方向に弧状に延びる溝跡である。地山面で検出した。SD6517区画溝跡、SX6509河川流路跡と重複し、SD6517区画溝跡より新しく、SX6509河川流路跡より古い。

検出長は2.8mで、上幅0.6~0.7m、下幅0.2~0.3m、深さは10cmである。断面形は上が開いたU字状である。方向は心線でみると東で南に約34° 偏する。堆積土は1層で自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SD6678溝跡】 (第98図)

北3西4区の南西寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。SB6664・6666掘立柱建物跡、SK6677土壇、P501と重複し、これらより古い。

検出長は5.8mで、上幅0.2~0.3m、下幅0.1~0.2m、深さは10cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると北で西に約10° 偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

10) 整地層

A区の道路跡上で2箇所検出している。

【SX6527整地層】 (第29・31図)

A区西3道路跡北寄りに位置する。SK6709土壇堆積土上面およびSX6511西3道路跡路面上で検出した。SX6511西3道路跡、SK6709土壇と重複し、これらより新しい。

西3道路跡の路面の窪みに施した整地で、平面形は長軸2.2m、短軸1.9mの不整形である。整地層

遺跡No.	位置	跡口長	溝幅	土層	下層	跡口	方向	築造土	時期	出土遺物	調査内容など	平年	築造年	平年調査
10002	北江町区	3.2m	170cm	6.0~6.3m	6.2~6.5m	23m	東西に両向き	自然堆積	古代	土師器、瓦片	土師器類との重複なし	6	13T	
10003	北江町区	1.2m	逆右折形	6.2~6.3m	6.1~6.2m	10m	37° E	自然堆積	古代以降	須恵器類	他の遺構との重複なし	20		
10004	北江町区	6.6m	逆右折形	6.0~6.3m	6.2~6.5m	80m	87° E	自然堆積	古墳時代	片コテコ土師器群・甕、土師器類、土師器片、須恵器類、須恵器片	100017江崎遺跡→100003遺跡→100007遺跡→100008遺跡→100001・100002遺跡	94	5	
10007	北江町区	1.6m	逆右折形	6.6m	6.5m	20m	31° E	自然堆積	古代（須恵器類遺跡群）	片コテコ土師器群、コテコ土師器群、土師器片、須恵器類、須恵器片	100007遺跡→100010土師器遺跡	8		
10009	北江町区	1.6m	170cm	6.7m	6.6m	10m	30° E	自然堆積	古墳時代後葉～古墳時代	なし	100003遺跡→100012村本遺跡	8		
10013	北江町区	3.2m	170cm	5.0~5.3m	6.2~6.5m	20m	30° E	自然堆積	古代	片コテコ土師器群・甕、コテコ土師器群・甕、土師器類、須恵器類、須恵器片、瓦片、須恵器片、須恵器片	100012遺跡→100013遺跡→100013遺跡	43	13B	
10014	北江町区	6.2m	土師器片の170cm	5.0m	5.0m	30m	30° E	自然堆積	古代	片コテコ土師器群、コテコ土師器群・甕、土師器類、須恵器類、須恵器片	100012遺跡→100013遺跡→100013遺跡	43	13B	
10015	北江町区	6.2m	170cm	6.0~6.3m	6.2~6.5m	14m	82° E	自然堆積	古代	なし	100013遺跡→100004遺跡→100013遺跡→100013遺跡	43	13B	
10020	北江町区	1.6m	170cm	6.3m	6.2m	10m	35° E	自然堆積	古代	なし	土師器類との重複なし	98		
10024 (10027の一部)	北江町区	6.6m	逆右折形	2.0~2.2m	1.0~2.5m	95~105m	87° E	自然堆積	古墳時代	片コテコ土師器群・小甕、須恵器類、須恵器片、須恵器片、瓦片、土師器片、土師器片	100024江崎遺跡→10718乙之2遺跡	45	48	
10025	北江町区	2.6m	170cm	6.2m	6.3m	10m	37° E	人工築造	古代	なし	100013遺跡→100013遺跡	43	13B	
10032	北江町区	2.6m	170cm	6.2~6.4m	6.1~6.2m	12m	30° E	人工築造	古代	なし	100012遺跡→100013遺跡→100013遺跡	43	13B	
10034	北江町区	1.6m	170cm	6.2m	6.3m	6m	87° E	自然堆積	古代	なし	100013遺跡→100013遺跡	43		
10035	北江町区	1.2m	170cm	6.2~6.3m	6.1~6.2m	10m	32° E	自然堆積	古墳時代後葉～古墳時代	なし	100013遺跡→100012村本遺跡	43		
10038	北江町区	1.3m	170cm	6.2m	6.3m	6m	30° E	自然堆積	古墳時代後葉～古墳時代	なし	100017遺跡→100010土師器遺跡→100010村本遺跡	43		
10037	北江町区	1.6m	170cm	6.2~6.3m	6.3m	6m	80° E	自然堆積	古墳時代後葉～古墳時代	なし	100017遺跡→100010土師器遺跡→100010村本遺跡	43		
10047	北江町区	1.6m	逆右折形	6.2~6.3m	6.1~6.2m	15m	34° E	自然堆積	古墳時代後葉以降	なし	100024村本遺跡	84		
10049	北江町区	1.7m	逆右折形	6.0~6.3m	6.2~6.5m	20m	32° E	自然堆積	古墳時代後葉以降	なし	100024村本遺跡→100004遺跡	84		
10050	北江町区	2.6m	逆右折形	6.2m	6.15m	10m	71° E	自然堆積	不明	なし	土師器類との重複なし	84		
10051	北江町区	2.5m	170cm	6.2~6.5m	6.1~6.2m	10m	30° E	自然堆積	不明	なし	他の遺構との重複なし	8		
10056	北江町区	2.6m	土師器片の170cm	6.0~6.2m	6.2~6.5m	10m	33° E	自然堆積	古代	なし	100017江崎遺跡→100010土師器遺跡→100010村本遺跡	6		
10059	北江町区	1.6m	170cm	6.2~6.3m	6.1~6.2m	10m	31° E	自然堆積	古代	なし	100001・100002遺跡→100017遺跡	98		

表5-2 平成18年度調査 市川橋遺跡 溝跡一覧

は、地山ブロックを多く含む褐色シルトからなり、層厚は10cm程残存する。

遺物は層中から非ロクロ調整の土師器杯、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・高台杯・蓋・鉢・甕・壺、須恵系土器杯、製塩土器、多賀城跡政庁第Ⅰ期・第Ⅱ期の丸瓦・平瓦、砥石（第158図23、第159図26）が出土している。このうちロクロ調整の土師器杯の底部は手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるものがある。

【SX6586整地層】（第39・40図）

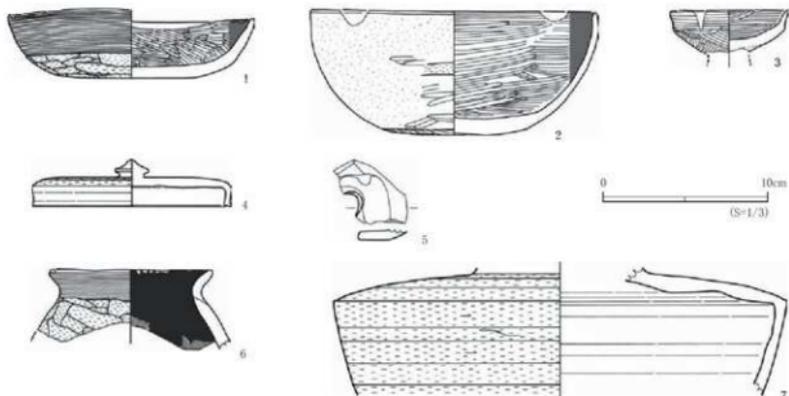
A区南端に位置し、東側と西側はそれぞれ調査区外に延びる。SX6650北2道路跡路面上で検出した。SX6650北2道路跡、SK6593土壌と重複し、SX6650北2道路跡より新しく、SK6593土壌より古い。

北2道路跡の路面の窪みに施した整地で、検出した規模は、東西4.6m、南北2.2mである。整地層は、地山ブロックを多く含む褐色シルトからなり、層厚は25cmである。

遺物は出土していない。

11) ビット

検出したビットの総数は、A区で301個、B区で293個である。検出した面は地山面あるいは堅穴住居跡、溝跡、河川跡などの堆積土上面や土壌、溝跡の底面などである。出土遺物や他の遺構との重複関係からだけでは明確に時期区分して取り扱うことが困難であることと出土遺物の大半が奈良・平安時代のものであることから、ここに一括して報告する。



							(単位: cm)		
No.	種別	遺構/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録	登録
1	土師器・杯	P97	15.3	9.4	4.3	ほぼ完形	外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ヘラミガキ→黒色処理	S2-8	B633
2	土師器・鉢	P97	17.5	8.8	7.7	ほぼ完形	外面: 手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ マメツ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 底部: 手持ちヘラケズリ→ヘラミガキ	S2-9	B632
3	土師器・器台	P474(柱石跡)	7.7			杯部完形	内外面: ヘラミガキ	S2-10	B637
4	須恵器・壺蓋	P26	(12.2)		2.9	1/2	外面: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 蓋縁状つまみ 内面: ロクロナデ 内外面: 自然釉付着	S2-12	B650
5	土師器・杯	P48				杯下部～底部1/4	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミガキ→黒色処理 蓋部: 回転糸切り→ヘラミガキ「一」 蓋縁部厚肉	S2-11	B638
6	土師器・小空甕	P31	(8.8)			口縁部1/4～杯上部	外面: ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 内面: ロクロナデ→ヘラケズリ 透け器	S2-4	B629
7	須恵器・広口壺	P42				体部1/6	外面: ロクロナデ→回転ヘラケズリ 輪周縁 自然釉付着 内面: ロクロナデ		B631

第140図 ビット出土土器

ピットの平面形は、一辺もしくは長軸が15～60cmの隅丸長方形、長方形、正方形、不整形、円形、楕円形を呈している。検出した面からの深さは15～70cmである。柱痕跡を伴うものは全体の2割程であり、柱痕跡の規模は径10～20cmの円形である。柱の抜き取られているものもごく少数みられる。掘方埋土は地山ブロック・地山粒を含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、暗褐色シルトである。柱痕跡の堆積土は黒褐色シルト・粘質シルト、灰黄褐色シルト、暗褐色シルト・砂質シルトである。抜き取り穴の堆積土は、黒褐色シルト、灰黄褐色シルトである。

遺物は掘方埋土から非ロクロ調整の土師器杯（第140図1）・高台・鉢（第140図2）・甕・小型甕（第140図6）、ロクロ調整の土師器杯・高台杯・甕、ロクロ調整で焼成後に底部穿孔された土師器杯（第140図5）、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・高台杯・蓋・蓋蓋（第140図4）・甕・壺・広口壺（第140図7）、須恵系土器杯、多賀城跡政庁第Ⅱ期の丸瓦、鉄滓が出土している。このうち土師器杯の底部は、回転糸切り無調整のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。須恵器杯の底部は回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り無調整のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものである。

柱痕跡の堆積土からは非ロクロ調整の土師器杯・器台（第140図3）・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・蓋・甕・壺、須恵系土器杯、多賀城跡政庁第Ⅱ期・第Ⅲ期の平瓦が出土している。このうち土師器杯の底部は回転糸切り無調整である。須恵器杯の底部はヘラ切り無調整である。

抜き取り穴の堆積土からはロクロ調整の土師器杯、調整不明の土師器甕、須恵器杯・甕・壺が出土している。このうち土師器杯の底部は回転糸切り無調整である。

3. 中世の主要遺構

中世の遺構としては、区画溝跡4条、柱列跡1条、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基がある。

1) 区画溝跡

A区北半部で4条検出している。これまで実施してきた周辺の調査状況から、中世の屋敷地を区画する溝跡と考えられる。

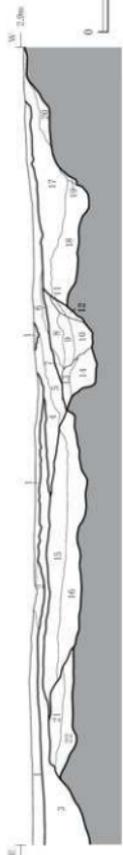
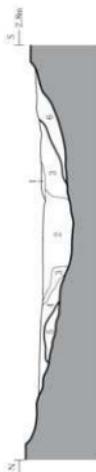
【SD6501A・B区画溝跡】（第6・35・141・143図 図版21）

A区の北部に位置する。東西方向に延びる区画溝跡である。地山面で検出しており、2時期に分けられる（A→B）。SD6517区画溝跡、SD6682西3a道路跡東側溝、SD6683西3a道路跡西側溝、SX6505・6506河川跡、SX6502・6508河川流路跡と重複し、SX6502・6508河川流路跡を除くすべての遺構より新しい。県道泉塩釜線の道路改良事業に伴う山王遺跡の平成4・5年度発掘調査Ⅰ区および平成19年度発掘調査のA区で検出したSD2220と一連の遺構で、中世の屋敷地の北辺を区画する内溝と考えられる。

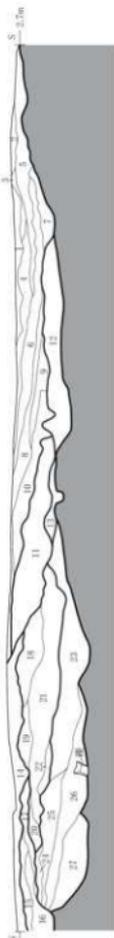
Aは検出長31.7mで、上幅0.7～2.9m、下幅0.2～1.5m、深さは約80cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東で南に約22°偏している。堆積土は4層に細分され、砂を含む黒褐色粘質シルトや灰オリーブ色シルト、にぶい橙色砂などが自然堆積している。

遺物は堆積土および確認面から非ロクロ調整の土師器杯（第143図1）・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、

No.	土 色	土 性	混 入 物 及 之	備 考
1	黄褐色(砂質)土	砂		
2	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
3	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	自然層
4	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
5	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
6	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上

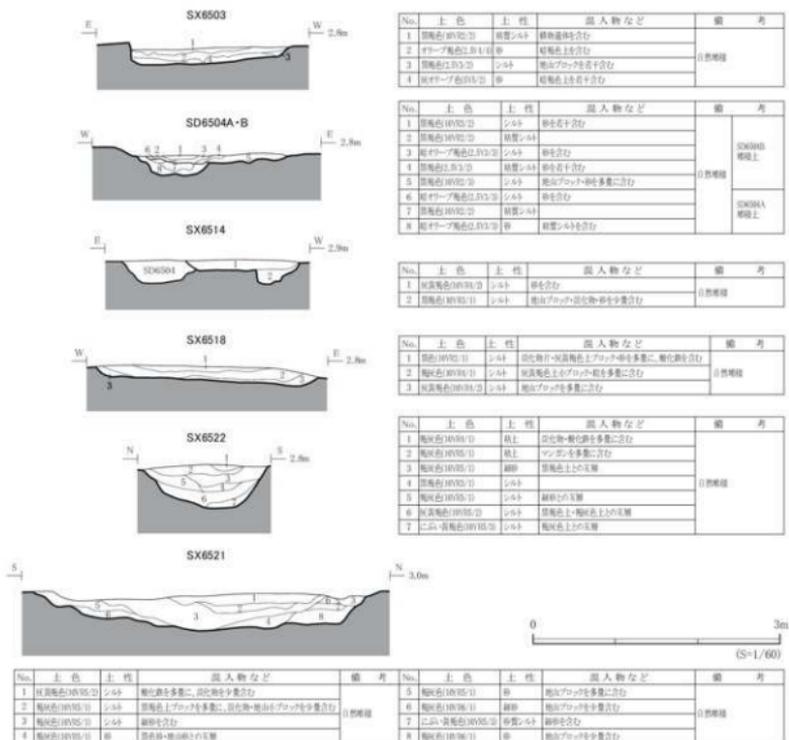


No.	土 色	土 性	混 入 物 及 之	No.	土 色	土 性	混 入 物 及 之	備 考
1	黄褐色(砂質)土	砂		12	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)		
2	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	13	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500(1)層以上
3	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	14	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
4	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	15	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
5	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	16	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
6	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	17	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
7	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	18	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
8	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	19	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
9	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	20	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
10	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	21	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
11	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	22	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上



No.	土 色	土 性	混 入 物 及 之	No.	土 色	土 性	混 入 物 及 之	備 考
1	黄褐色(砂質)土	砂		13	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
2	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	14	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
3	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	15	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
4	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	16	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
5	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	17	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
6	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	18	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
7	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	19	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
8	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	20	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
9	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	21	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
10	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	22	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
11	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	23	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
12	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	24	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
13	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	25	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
14	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	26	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上
15	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	27	黄褐色(砂質)土	粘質土(砂)	粘質土(砂)	SS500層以上

第141圖 SD6501A・B区画溝跡、河川跡、河川流路跡



第142図 SD6504A・B区画溝跡、河川跡、河川流路跡断面図

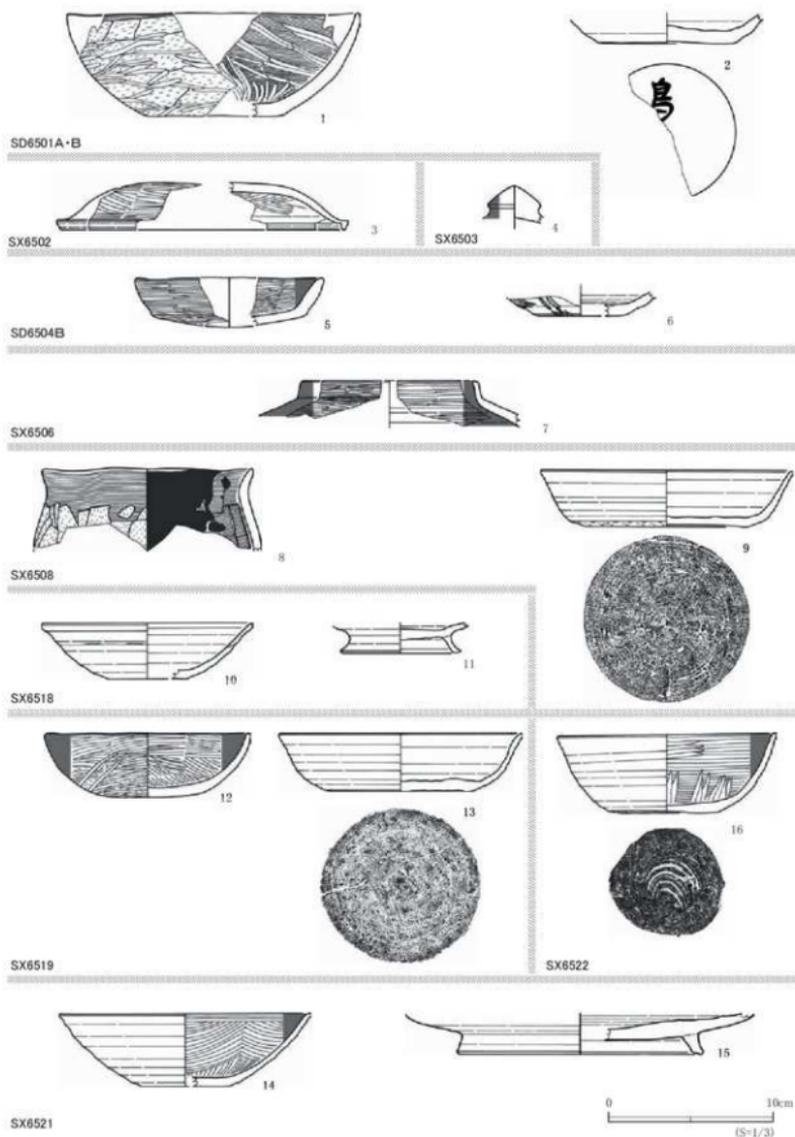
須恵器環（第143図2）・高台台・高台盤・甕・壺・長頸壺、須恵系土器環・高台台、器種不明の灰陶陶器、製塩土器、丸瓦、平瓦が出土している。

Bは検出長31.7mで、上幅0.7～3.0m、下幅0.3～2.0m、深さは約70cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東で南に約38°偏している。堆積土は4層に細分され黒褐色砂、にぶい褐色砂、暗灰黄色粘質シルトなどが自然堆積している。

遺物は堆積土から非クロコ調整の土器器環・甕、クロコ調整の土器器環・甕、須恵器環・蓋・甕・壺、須恵系土器環、丸瓦、平瓦が出土している。

【SD6504A・B区画溝跡】（第6・35・142・143図 図版21）

A区の北部に位置する。東西方向に延びる区画溝跡である。地山面で検出しており、2時期に分けられる（A→B）。SD6517区画溝跡、SD6682西3a道路跡東側溝、SD6683西3a道路跡西側溝、SX6509・6514・6516・6518河川流路跡と重複し、SD6517区画溝跡・SD6682西3a道路跡東側溝・SD6683西3a道路跡西側溝より新しくSX6509・6514・6516河川流路跡より古い。県道泉塩釜線の道路改良事業に伴



第143図 区画溝跡、河川跡、河川流路跡出土土器 -SD6501A・B・6504B、SX6502・6503・6506・6508・6518・6519・6521・6522-

No.	種別	遺構/層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録	登録
1	土師器・杯	SM6501焼成面	(18.0)	(8.6)	6.4	1/3	外面: ココナデ→折しヘラズリ→ヘラミギキ 底面: ヘラミギキ→高色処理 蓋部: 折しヘラズリ	SM6501	R091
2	土師器・杯	SM6501焼成土		8.5			内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→手持ちヘラズリ 蓋部: (高)	55-13	R092
3	須恵器・蓋	SM6502焼成面	(17.5)				口縁部→体部片 内外面: ロクロナデ→ヘラミギキ 蓋付盛き痕	55-14	R099
4	土師器・蓋	SM6503焼成土					つまみ部 内外面: ヘラミギキ→高色処理 宝珠状つまみ		R703
5	土師器・杯	SK6341焼成土層	(11.6)		(3.1)	1/4	外面: ココナデ→手持ちヘラズリ→ヘラミギキ 内面: ヘラミギキ→高色処理		R707
6	須恵器・杯	SK6341白埋積土		(5.8)			膝下部→底面1/4 外面: ロクロナデ 蓋部: 折しヘラズリ 内面: ロクロナデ 蓋部: 折しヘラズリ→ヘラミギキ		R711
7	土師器・須恵器	SK6306焼成土	(21.0)				口縁部1/4→体1部 内外面: ロクロナデ→ヘラミギキ→高色処理		R709
8	土師器・小部壺	SK6309焼成土層	(12.8)				口縁部1/4→体1部 外面: ココナデ→手持ちヘラズリ 内面: ココナデ→ヘラズリ 蓋付蓋	57-3	R265
9	須恵器・杯	SK6309焼成土層	15.6	10.1	3.5	2/3	外面: ロクロナデ→折しヘラズリ 内面: ロクロナデ 蓋部: 折り蓋し折しヘラズリ	55-12	R216
10	須恵器・蓋	SK6314焼成土	(13.0)	(4.8)	3.5	1/4	外面: ロクロナデ 輪縁部 内面: ロクロナデ 蓋部: 回転ふ切り		R627
11	須恵器・高台壺	SK6315焼成土	(7.4)				底付蓋→底面01/2 内外面: ロクロナデ 底面: 回転ふ切り→付高台		R628
12	土師器・杯	SM6318焼成土	(12.0)	(7.2)	4.0	1/4	外面: ココナデ→折しヘラズリ→ヘラミギキ 内面: ヘラミギキ→高色処理 蓋部: 折しヘラズリ→ヘラミギキ		R717
13	須恵器・杯	SM6319焼成土層	15.0	9.2	3.6	3/5	内外面: ロクロナデ 底面: ヘラ切り→ナデ		R718
14	土師器・杯	SM6321焼成土	15.5	5.4	4.5	1/3	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミギキ→高色処理 底面: 回転ふ切り→輪状圧痕		R622
15	須恵器・高台壺	SK6322焼成土	(15.1)				底付蓋→底面01/4 内外面: ロクロナデ 底面: 切り蓋し不明→折しヘラズリ→付高台		R623
16	土師器・杯	SK6322焼成土	13.2	7.0	4.9	変形	外面: ロクロナデ 内面: ヘラミギキ→高色処理 底面: 回転ふ切り→手持ちヘラズリ	55-11	R635

区画溝跡、河川跡、河川流路跡出土土器観察表 (第143区掲載)

う山王遺跡の平成4・5年度発掘調査1区および平成19年度発掘調査のA区で検出したSD2230と一連の遺構で、中世の屋敷地の北辺を区画する外溝と考えられる。

Aは検出長17.0mで、上幅0.5～0.7m、下幅0.5m、深さは約20cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東で南に約27°偏している。堆積土は3層に細分され、砂を含む暗オリーブ褐色シルト、黒褐色粘質シルトなどが自然堆積している。

遺物は出土していない。

Bは検出長18.6mで、上幅0.7～4.1m、下幅0.3～2.4m、深さは約30cmである。断面形は上が開いたU字状である。方向は心線でみると東で南に約18～41°偏している。堆積土は5層に細分され、砂を含む黒褐色シルト・粘質シルト、暗オリーブ褐色シルトなどが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯 (第143図5)・鉢・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯 (第143図6)・蓋・甕・壺・長頸壺、須恵系土器杯、製塩土器、丸瓦、平瓦、輪羽口が出土している。

2) 柱列跡

B区で1条検出している。

【SA6695柱列跡】 (第98図)

北3西4区の北西寄りに位置しL字状に折れ曲がって延びる南北2間以上、東西2間の柱列跡である。地山面で検出した。SA6611材木跡跡、SA6696柱列跡、SD6617溝跡、SK6625土壇と重複し、SA6611材木跡跡、SA6696柱列跡、SD6617北2a道路跡北側溝C期より新しい。SK6625土壇との新旧関係は不明である。

検出した長さは東西3.0m、南北4.54mで、柱間寸法は南北が北より2.36m、2.18m、東西が西より1.77m、1.23mである。方向は南北方向が北で西に約8°偏し、東西方向が東で北に約3°偏する。柱穴は一辺23～30cmの長方形、径20～37cmの円形・楕円形である。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。柱痕跡は径8～17cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は出土していない。

3) 掘立建物跡

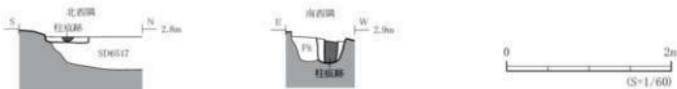
B区で1棟検出している。1間×1間の小規模な建物跡である。

【SB6693掘立柱建物跡】(第98・144図)

B区の北西寄りに位置する桁行1間、梁行1間の東西棟建物跡である。柱穴は地山面で3ヶ所検出し、すべての柱穴で柱痕跡を確認している。SD6517区画溝跡と重複し、これより新しい。

平面規模は桁行が南側柱列で総長2.75m、梁行が西側柱列で総長1.42mである。方向は西側柱列でみると北で東に約5°偏する。柱穴は一辺24～46cmの長方形・不整形である。残存している深さは13～36cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色シルトである。柱痕跡は径10～16cmの円形で、堆積土は黒褐色シルトである。

遺物は、掘方埋土から非ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器杯が少量出土している。



第144図 SB6693掘立柱建物跡柱穴断面図

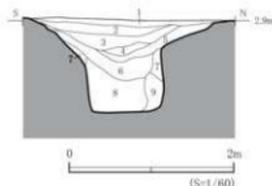
4) 井戸跡

A区で1基検出している。

【SE6528井戸跡】(第53・145図 図版16)

A区北2a道路跡東寄りに位置する。北2a道路跡北側溝堆積土上面で検出した。SD6557区画溝跡、SD6682北2a道路跡北側溝D期・F期と重複し、これより新しい。素掘りもしくは井戸枠の抜き取られた井戸跡と考えられる。平面形は径1.7m～2.2mの不整形円形で、深さは約1.1mである。壁は底面から垂直に立ち上がり、途中から緩やかに傾斜し漏斗状を呈する。堆積土は8層に細分され、褐灰色粘土、炭化物粒、地山粒を含む黒褐色粘土・粘質シルト、炭化物粒、地山粒を含む暗褐色粘質シルト、地山粒、地山ブロックを含む黒色粘質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯、ロクロ調整の土師器杯・甕、須恵器杯・甕・煮、須恵系土器杯・高台杯、製塩土器、多賀城跡政庁第I期の丸瓦、多賀城跡政庁第II期の平瓦が出土している。非ロクロ調整の土師器杯には内外面へラミガキ・黒色処理されたものが含まれる。ロクロ調整の土師器杯の底部は回転糸切り無調整である。須恵器杯は外面に2条の線刻がみられる。



No.	土色	土性	混入物など	備考
1			基本層遺跡	
2	褐灰色(30R 3/5)①	粘土	軽微塵も多数に含む	
3	暗褐色(30R 3/5)②	粘土	炭化物粒・地山粒も少量含む	
4	暗褐色(30R 3/5)③	粘質シルト	炭化物粒・地山粒・赤色灰じんも少量含む	
5	暗褐色(30R 3/5)④	粘質シルト	炭化物粒・地山粒も少量含む	自然堆積
6	暗褐色(30R 3/5)⑤	粘質シルト	地山ブロック・軽微塵も少量含む	
7	暗褐色(30R 3/5)⑥	粘質シルト	軽微塵も多数に含む	
8	暗褐色(30R 3/5)⑦	粘質シルト	軽微塵・軽微塵を含む	
9	暗褐色(30R 3/5)⑧	粘質シルト	地山ブロックを含む	

第145図 SE6528井戸跡断面図

4. 時期不明の主要遺構とその他の出土遺物

他の遺構との重複関係や出土遺物からだけでは所属時期の特定が困難な遺構として、土壇16基、溝跡6条がある。また、河川跡4条、河川流路跡8条を検出している。

その他の出土遺物としては、重機による表土排除、調査区の整形、排水溝の掘り込み、遺構検出作業、平成17年度確認調査などに伴って多数の遺物が出土している。

1) 土壇

A区で12基、B区で4基検出している。

【SK6578土壇】(第90図)

北3西4区の南東寄りに位置する。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

平面形は長辺0.7m、短辺0.6mの隅丸長方形で、深さは16cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、地山ブロックを多量に含む灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6579土壇】(第90図)

北3西4区の南東寄りに位置する。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

平面形は長軸1.2m、短軸0.9mの楕円形で、深さは17cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SK6580土壇】(第90図)

北3西4区の南東寄りに位置する。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

平面形は長辺0.6m、短辺0.5mの隅丸長方形で、深さは10cmである。壁はやや急に立ち上がり、断面形は逆台形状である。堆積土は1層で、自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SK6594土壇】(第39図)

北2a西3区の南寄りに位置する。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

平面形は長軸0.9m以上、短軸0.6m以上の方角を呈するものと思われ、深さは17cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、褐灰色砂、地山ブロックを含む暗褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6633土壇】(第61・131図)

北2a西4区の調査区南壁際に位置する。地山面で検出した。SI6619堅穴状遺構、SA6620材木堀跡、SD6613・6614溝跡と重複し、これらより新しい。

平面形は遺構の大半が調査区外に延びているため全容は不明であるが、長軸1.0m、短軸0.4m以上の不整形を呈するものと思われる。深さは43cmである。壁は西側では緩やかに立ち上がり、断面形はU字状である。堆積土は3層に細分され、炭化物、地山粒を含む黒褐色シルト、黒色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6638土壌】(第61図)

北2a西4区の調査区南壁際に位置する。地山面で検出した。P711・874と重複し、これらより古い。

平面形は長軸1.2m、短軸0.8mの不整な楕円形を呈し、深さは10cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SK6640土壌】(第84図)

北2a西3区の中央部に位置する。SX6658河川跡堆積土上面で検出した。SX6658河川跡と重複し、これより新しい。

平面形は長軸0.6m、短軸0.5mの隅丸方形で、深さは18cmである。壁は東側では緩やかに立ち上がるが、西側ではやや急に立ち上がる。断面形は逆台形状である。堆積土は1層で人為的に埋め戻されている。

遺物は出土していない。

【SK6641土壌】(第84・121図)

北2a西3区の東壁際に位置する。SX6658河川跡堆積土上面で検出した。SX6658河川跡と重複し、これより新しい。

平面形は長軸1.2m、短軸0.9mの楕円形で、深さは28cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は2層に細分され、地山ブロック、炭化物粒を含む黒褐色粘質シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6643土壌】(第84・121図)

北2a西3区の中央部に位置する。SX6658河川跡堆積土上面で検出した。SX6658河川跡と重複し、これより新しい。

平面形は長軸0.8m、短軸0.5mの不整な楕円形で、深さは20cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は3層に細分され、地山ブロック、炭化物を含む黒褐色シルト、地山ブロックを含む灰黄褐色砂質シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6647土壌】(第59図)

北3西3a区の中央部に位置する。SI6520堅穴住居跡の堆積土上面で検出した。SI6520堅穴住居跡と重複し、これより新しい。

平面形は径0.5mの円形で、深さは8cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は2層に細分され、炭化物を含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6648土壌】(第59図)

北3西3a区の中央部に位置する。SI6645堅穴住居跡の堆積土上面で検出した。SI6645堅穴住居跡、P750と重複し、SI6645堅穴住居跡より新しく、P750より古い。

平面形は長軸0.6m、短軸0.4mの不整形形で、深さは16cmである。壁は急に立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は3層に細分され、炭化物を含む黒褐色シルト、灰黄褐色シルトが自然堆積している。遺物は出土していない。

【SK6649土壌】 (第59図)

北3西3a区の中央部に位置する。SI6645竪穴住居跡の堆積土上面で検出した。SI6645竪穴住居跡と重複し、これより新しい。

平面形は北半部が攪乱により壊されているが径0.6mの円形を呈するものと思われる。深さは16cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、地山粒、炭化物を含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6675土壌】 (第59図)

北3西3a区の南寄りに位置する。地山面で検出した。SD6566溝跡と重複し、これより新しい。

平面形は長軸1.3m、短軸1.0mの楕円形で、深さは22cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、灰黄褐色砂質シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6677土壌】 (第98図)

北3西4区の中央部に位置する。地山面で検出した。SD6678溝跡と重複し、これより新しい。

平面形は長軸2.0m、短軸1.2mの不整な隅丸長方形で、深さは18cmである。壁は北側では緩やかに立ち上がるが、南側では急に立ち上がる。断面形は逆台形状である。堆積土は1層で、黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SK6684土壌】 (第98図)

北3西4区の調査区北壁際に位置する。SD6517区画溝跡の堆積土上面で検出した。遺構の北半部は調査区外に位置する。SD6517区画溝跡と重複し、これより新しい。

平面形は長軸1.1m以上、短軸0.5m以上の楕円形を呈するものと思われ、深さは24cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SK6698土壌】 (第29図)

A区の調査区南壁際、西3道路跡南端部に位置する。西3道路跡西側溝堆積土上で検出した。SD6681西3道路跡西側溝E期・F期と重複し、これらより新しい。

平面形は長軸1.3m、短軸0.9mの楕円形で、深さは30cmである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。堆積土は1層で、自然堆積である。

遺物は出土していない。

2) 溝跡

A区で5条、B区で1条検出している。

【SD6552溝跡】(第35図)

北3西3a区の西寄りに位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。SD6682西3a道路跡東側溝E期・F期、SI6645堅穴住居跡と重複し、これより新しい。

検出長は5.8mで、上幅0.5～0.7m、下幅0.2～0.3m、深さは約20cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると東で南に約20°偏する。堆積土は1層で、地山ブロックをわずかに含む灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6626溝跡】(第98図)

北3西4区の南西寄りに位置する東西方向に延びる溝跡である。地山面で検出した。P628・862と重複し、これより古い。

検出長は1.0mで、上幅0.3m、下幅0.2m、深さは10cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると東で北に約5°偏している。堆積土は1層で、地山小ブロックをわずかに含む暗褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6667溝跡】(第84図)

北2a西3区の中央部西寄りに位置する南北方向に延びる溝跡である。SX6652・6658河川跡堆積土上面で検出した。SX6658河川跡と重複し、これより新しい。

検出長は1.8mで、上幅0.2～0.3m、下幅0.1～0.2m、深さは15cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると北で東に約4°偏している。堆積土は1層で自然堆積である。

遺物は出土していない。

【SD6669溝跡】(第84図)

北2a西3区の中央部東壁際に位置する北東方向から南西方向に延びる溝跡である。東側では調査区外に延びている。SX6658河川跡堆積土上面で検出した。SX6658河川跡、P198・199と重複し、これより新しい。

検出長は1.7mで、上幅0.4～0.5m、下幅0.2～0.4m、深さは約20cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東で北に約27°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを多く含む灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6670溝跡】(第84図)

北2a西3区の中央部東壁際に位置する東西方向に延びる溝跡である。東側は調査区外に延びている。地山面で検出した。P193・217と重複し、これより古い。

検出長は約2.4mで、上幅0.2m、下幅0.15m、深さは約10cmである。断面形は逆台形状である。方向は心線でみると東で南に約10°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックを多量に含むにぶい黄褐色砂質シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SD6671溝跡】(第6図)

北2a西3区の北寄り東壁際に位置する東西方向に延びる溝跡である。東側は調査区外に延びている。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

検出長は2.1mで、上幅0.3～0.5m、下幅0.1～0.2m、深さは約10cmである。断面形はU字状である。方向は心線でみると東で北に約8°偏している。堆積土は1層で、地山ブロックをわずかに含む灰黄褐色シルトが自然堆積している。

遺物は出土していない。

3) 河川跡・河川流路跡

(1) 河川跡

A区の北半部で4条検出している。砂押川と合流するように東西方向に延びており、西から東に向かって流れていたものと考えられる。

このうちSX6503河川跡は中世以降の河川跡、SX6505・6506・6519河川跡は古代～中世の屋敷造営以前の河川跡である。

【SX6503河川跡】(第35・142・143図 図版21)

A区の北東コーナーに位置する。遺構の西半部を検出したのみで東側は調査区外に延びている。東西方向の河川跡で西から東に向かって流れていたものと考えられる。地山面で検出した。SD6517区画溝跡、SD6682西3a道路跡東側溝、SD6683西3a道路跡西側溝と重複し、これらの遺構より新しい。

検出長は11.7mで、上幅4.0m以上、下幅2.5m以上、深さ30cm以上である。堆積土は4層に細分され、砂を含む黒褐色シルト、灰オリブ色砂などが自然堆積している。

遺物は堆積土から非クロコ調整の土師器杯・鉢・甕、内外面ヘラミガキ・黒色処理された土師器蓋(第143図4)、クロコ調整の土師器杯・甕、須恵器杯・高杯・高台杯・甕・壺、須恵系土器杯・高台杯、灰釉陶器壺、丸瓦、平瓦、砥石(第157図5)、元祐通寶(第150図2)、永樂通寶(第150図3)が出土している。

【SX6505河川跡】(第59・141図)

A区の北部に位置する。東西方向に延びる河川跡で、西から東に向かって流れていたと考えられる。地山面で検出した。SD6501A・B区画溝跡、6519河川跡、SX6502・6508河川流路跡と重複し、SX6519河川跡より新しく、SD6501A・B区画溝跡、SX6502・6508河川流路跡より古い。

検出長は15.3mで、上幅2.0～2.5m、下幅1.4～1.9m、深さ90cm前後である。堆積土は砂を含む暗灰黄色シルト質粘土、灰黄色砂、暗緑灰色シルト質粘土などが自然堆積している。

遺物は堆積土から非クロコ調整の土師器杯・甕、クロコ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・鉢・甕、須恵系土器杯、丸瓦、平瓦が出土している。

【SX6506河川跡】(第35・141・143図)

A区の北部に位置する。東西方向に延びる河川跡と考えられる。地山面で検出した。SD6682西3a道路跡東側溝、SD6501A・B区画溝跡、SX6502河川流路跡と重複し、SD6682西3a道路跡東側溝より新しく、SD6501A・B区画溝跡、SX6502河川流路跡より古い。

検出長は5.7mで、上幅1.1～3.3m、下幅0.6～1.5m、深さ60cm前後である。堆積土は砂を含む暗灰黄色粘質シルト、黒褐色粘質シルト、褐色シルトなどが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器杯、内外面ヘラミガキ・黒色処理された土師器短頸壺（第133図7）、須恵器杯・蓋・甕・壺、須恵系土器杯、丸瓦、平瓦が出土している。

【SX6519河川跡】（第35・59・141・143図）

A区の北部に位置する。調査区を東西方向に延びる河川跡と考えられる。地山面で検出した。SD6682西3a道路跡東側溝、SD6501A・B区画溝跡、SX6505河川跡、SX6502・6516河川流路跡と重複し、SD6682西3a道路跡東側溝より新しく、SD6501A・B区画溝跡、SX6505河川跡、SX6502・6516河川流路跡より古い。

検出長は12.8mで、上幅1.7～2.4m、下幅0.8～1.1m、深さ60cm前後である。堆積土は5層に細分され砂を含む暗灰黄色粘質シルト、暗緑灰色砂質シルト、暗青灰色粘土などが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯（第143図12）・蓋・甕、ロクロ調整の土師器杯・高台杯・甕、調整不明の土師器杯、須恵器杯（第143図13）・高台杯・蓋・鉢・甕・壺、須恵系土器杯、製塩土器、丸瓦、平瓦が出土している。

（2）河川流路跡

河川の一部が流路となって溝状になされたものを河川流路跡と判断した。A区で8条検出している。いずれも平面形が不規則で、壁の立ち上がりも不明瞭なものが多い。

このうちSX6521・6522河川流路跡は古代以降、SX6518河川流路跡は古代～中世の屋敷造営以前、SX6502・6508・6509・6514・6516河川流路跡は中世屋敷廃絶以降の河川流路跡である。

【SX6502河川流路跡】（第35・59・141・143図）

A区の北部に位置する。河川の流路の一部が滞って停滞していた部分と考えられる。地山面で検出した。SD6682西3a道路跡東側溝、SD6501A・B区画溝跡、SD6507溝跡、SK6582土壌、SX6505・6519河川跡、SX6508・6516河川流路跡と重複し、SD6682西3a道路跡東側溝、SD6507溝跡、SK6582土壌、SD6501A・B区画溝跡、SX6505・6519河川跡より新しく、SX6508・6516河川流路跡より古い。

平面形は長軸11.4m、短軸5.6mの不整形で、深さは約40cmである。堆積土は3層に細分され、砂を含む灰黄褐色粘質シルト、褐色粘質シルト、にぶい褐色砂が自然堆積している。

遺物は堆積土および確認面から非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・高台杯・蓋（第143図3）・鉢・甕・壺、須恵系土器杯・台付鉢、灰釉陶器壺・皿、丸瓦、平瓦、土製円板（第152図21～23）、八稜鏡（第150図1）が出土している。

【SX6508河川流路跡】（第59・141・143図）

A区の北部に位置する。河川の流路の一部が滞って窪んだ部分と考えられる。地山面で検出した。SD6501A・B区画溝跡、SX6505河川跡と重複し、これらより新しい。

平面形は長軸7.0m以上、短軸6.3mの楕円形で、深さは約50cmである。堆積土は10層に細分され、砂を含む褐色シルト、黄灰色シルト質粘土、灰黄色細砂などが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯・小型甕（第143図8）・甕、ロクロ調整の土師器杯・小型

坏・甕、調整不明の土師器甕、須恵器坏（第143図9）・甕・壺、須恵系土器坏、丸瓦、凹面に「中」カのヘラ書きのある多賀城跡政庁第Ⅲ期の平瓦（第154図23）が出土している。

【SX6509河川流路跡】（第6図）

A区の北端部に位置する。河川の流路の一部が濺んで窪んだ部分と考えられる。北側は調査区外に延びている。地山面で検出した。SD6504A・B、SD6517区画溝跡、SX6514河川流路跡と重複し、これらより新しい。

平面形は長軸6.1m以上、短軸3.2m以上の不整形で、深さは約30cmである。堆積土は黄灰色粘土などが堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器坏・甕、ロクロ調整の土師器坏・甕、須恵器甕が出土している。

【SX6514河川流路跡】（第35・142図）

A区の北部に位置する。東西方向に延びる河川流路跡である。地山面で検出した。SD6504A・6517区画溝跡、SD6683西3a道路跡西側溝、SX6509河川流路跡と重複し、SD6504A・6517区画溝跡、SD6683西3a道路跡西側溝より新しく、SX6509河川流路跡より古い。

検出長は4.7mで、上幅0.5～0.9m、下幅0.2～0.3m、深さは約30cmである。堆積土は1層で砂、炭化物を含む黒褐色シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土からロクロ調整の土師器甕、調整不明の土師器甕、須恵器坏、須恵系土器坏が出土している。

【SX6516河川流路跡】（第59・141図）

A区の北東部に位置する。遺構の西半部を検出したのみである。東側は調査区外に延びているが形状、堆積土の状況から河川の流路跡と考えられる。地山面で検出した。SD6504A区画溝跡、SX6505・6519河川跡、SX6502河川流路跡と重複し、これらすべての遺構より新しい。

検出長は5.3mで、上幅5.0m以上、下幅2.0m以上、深さ60cm以上である。堆積土は砂を含む暗灰黄褐色粘質シルト、黒褐色粘土、にぶい黄橙色粘質シルトなどが自然堆積している。

遺物は出土していない。

【SX6518河川流路跡】（第35・142・143図）

A区の北部に位置する。河川の流路の一部が濺んで窪んだ部分と考えられる。地山面で検出した。SD6682西3a道路跡東側溝F期、SD6504A・B区画溝跡と重複し、SD6682西3a道路跡東側溝F期より新しく、SD6504A・B区画溝跡より古い。

平面形は長軸2.7m以上、短軸1.7m以上の不整形で、深さは約20cmである。堆積土は3層に細分され砂を含む灰黄褐色シルトなどが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器高坏・甕、ロクロ調整の土師器坏・高台坏・甕、調整不明の土師器甕、須恵器坏・高台坏・鉢・甕・壺、須恵系土器坏（第143図10）・高台坏（第143図11）、丸瓦、平瓦、土製円板（第152図18）、鉄滓が出土している。

【SX6521河川流路跡】（第59・142・143図 図版18）

A区の中央部北寄りに位置する。地山面で検出した。SD6682北2a道路跡北側溝E期、SD6565溝跡

と重複し、これらより新しい。

平面形は長軸5.3m、短軸3.5mの不整形で、深さは44cmである。底面にはやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。堆積土は8層に細分され、灰黄褐色シルト、褐灰色シルト・砂・細砂、にぶい黄褐色砂質シルトが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯・甕、ロクロ調整の土師器杯(第143図14)・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯・高台杯・高台盤(第143図15)・蓋・鉢・甕・壺、多賀城跡政庁第Ⅰ期・第Ⅱ期の丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期・第Ⅲ期の平瓦が出土している。このうちロクロ調整の土師器杯は底部の切り離しが回転糸切り無調整のものが主体を占め、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものが含まれる。須恵器杯の底部は、回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。

【SX6522河川流路跡】(第59・142・143図)

A区北東寄り東壁際に位置する。調査区を東西方向に延びる河川の流路の一部と考えられる。東側は調査区の外に延びている。地山面で検出した。他の遺構との重複関係はない。

検出長は3.6mで、上幅0.5～1.6m、下幅0.2～0.9m、深さ50cm前後である。堆積土は7層に細分され、炭化物を含む褐灰色シルト、灰黄褐色砂、にぶい黄褐色砂などが自然堆積している。

遺物は堆積土から非ロクロ調整の土師器杯・高杯・甕、ロクロ調整の土師器杯(第143図16)・甕、調整不明の土師器甕、須恵器蓋・甕・壺、須恵系土器杯、丸瓦、平瓦が出土している。

4) 基本層Ⅰ層などの出土遺物

基本層Ⅰ層中から、ロクロ調整の土師器杯・甕、土師器両黒杯、調整不明の土師器杯・甕、須恵器杯・高台杯・蓋・甕・壺、須恵系土器杯・高台杯・鉢、丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅱ期～第Ⅳ期の平瓦が出土している。また調査時に排土、排水溝、攪乱などから出土した遺物として、非ロクロ調整の土師器杯・小型杯・高杯・鉢・甕、ロクロ調整の土師器杯・高台杯・蓋・鉢・甕、土師器杯・高台杯・高台皿・壺蓋(第147図11)・鉢・甕把手(第146図16)・甕、須恵器杯(第147図22・24)・高杯・高台杯・盤・高台盤・蓋・杯蓋・鉢・甕・壺・壺G・小壺、須恵系土器杯(第147図26)・高台杯、ミニチュア土器杯、灰釉陶器塊・蓋・壺(第149図25)、緑釉陶器塊・皿、白磁碗、青磁碗・壺、近世陶磁器、製塩土器(第149図19)、土製円板(第152図19・20)、輪羽口、鉄滓、砥石(第157図9)、剥片石器、軒丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅰ期～第Ⅲ期の丸瓦、多賀城跡政庁第Ⅰ期～第Ⅳ期の平瓦がある。

5) 基本層Ⅱ層の出土遺物

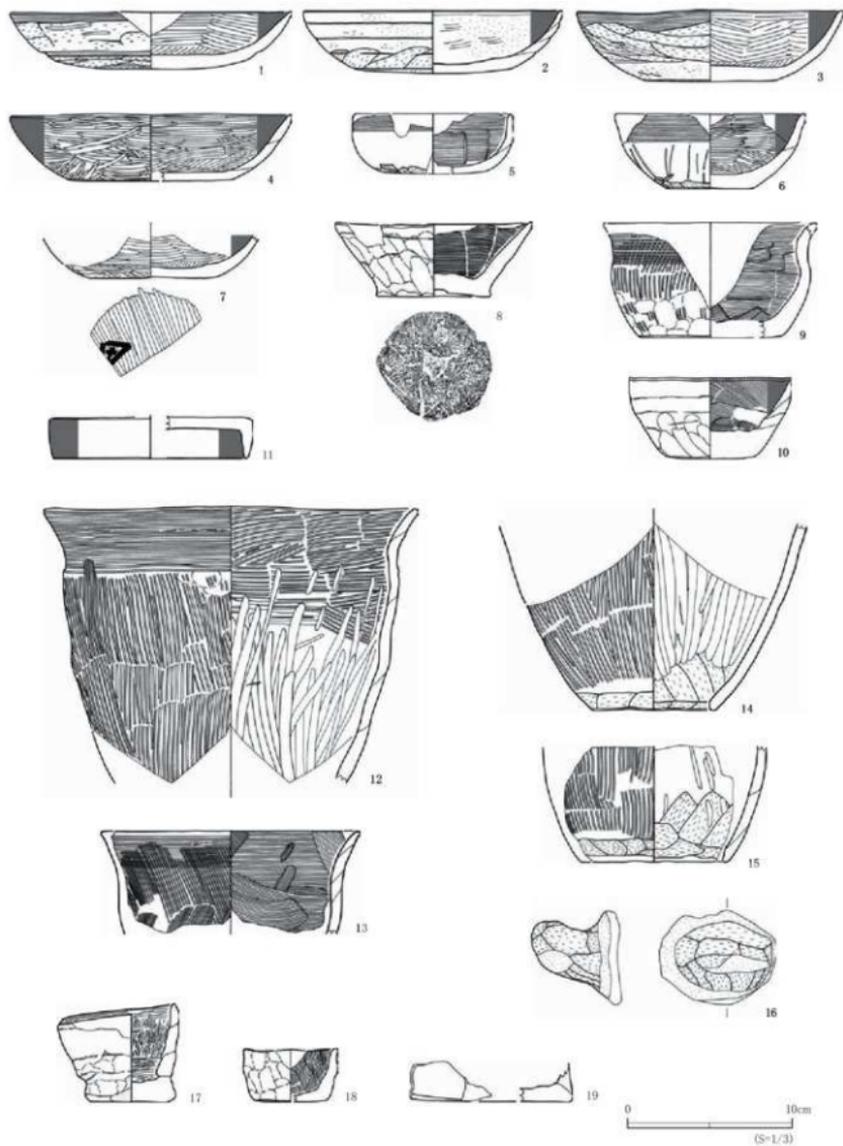
基本層Ⅱ層中から、非ロクロ調整の土師器杯(第146図1・3・5・6)・高杯・鉢(第146図9)・塊・甕(第146図12)・甕(第146図14)、ロクロ調整の土師器杯・甕、調整不明の土師器甕、須恵器杯(第147図20・21)・杯11身・高台杯・蓋・鉢・甕・壺・台付壺(第147図32)、ミニチュア土器杯(第146図17・18)、砥石が出土している。

6) 確認調査の出土遺物

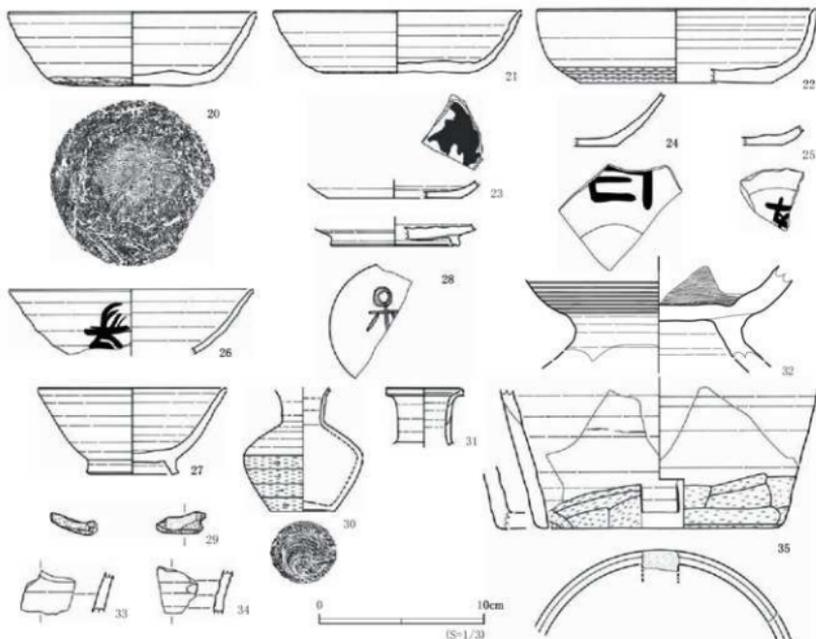
平成17年度に実施した確認調査時の出土遺物として、弥生土器甕、非ロクロ調整の土師器杯(第146図

2・4)・高坏・蓋・堦(第146図10)・鉢(第146図8)・甕(第146図13)・甕(第146図15)、ロクロ調整の土師器坏(第146図7)・高台坏・鉢・甕・小型甕、土師器甕把手(第146図16)、調整不明の土師器坏・甕、須恵器坏(第147図23・25)・高坏・高台坏(第147図27)・高台盤(第147図28)・双耳坏(第147図29)・蓋・盤・鉢・甕・甕(第147図35)・壺・長頸壺・短頸壺・小壺(第147図30・31)・壺G(第147図33・34)、須恵系土器坏・高台坏・鉢、灰釉陶器堦(第149図1・17)・壺(第149図23)、緑釉陶器壺、白磁碗(第148図7・8)、青磁碗(第148図11)、近世陶器描鉢、近世磁器碗、土製円板(第152図24・25)、土錘(第151図7)、転用砥(第151図10)、輪羽口、砥石(第160図33)、碁石(第150図6・7)、磨石、石核、重弁蓮花文軒丸瓦、多賀城跡政庁第I期～第IV期の丸瓦、多賀城跡政庁第I期～第IV期の平瓦(第154図20・21・27・29)、釘(第150図4)、鉄滓、馬歯、種子(ウメ)がある。

非ロクロ調整の土師器と須恵器には古墳時代後期(栗閉式期)のものが含まれている。また非ロクロ調整の土師器坏には有段丸底のものと段を持たずに平底気味のものがある。ロクロ調整の土師器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、回転糸切り後手持ちヘラケズリされるもの、回転糸切り後回転ヘラケズリされるもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のものなど多様である。須恵器坏の底部は回転糸切り無調整のもの、ヘラ切り無調整のもの、ヘラ切り後手持ちヘラケズリされるもの、ヘラ切り後回転ヘラケズリされるもの、手持ちヘラケズリ再調整により切り離し不明のもの、回転ヘラケズリ再調整により切り離し不明のものがある。須恵器坏の内面には漆の付着しているものがみられる。須恵器坏・蓋の中には内外面にヘラミガキの施された特殊なものが含まれている。高台盤の底部外面には「○木」のヘラ書き文字が記されている。灰釉陶器堦は黒笹90号窯式期のものである。転用砥は須恵器甕の体部破片の断面を砥面としている。平瓦には、「物」、「矢」の刻印瓦がみられる。

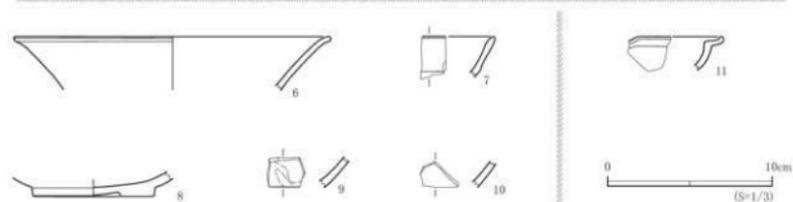
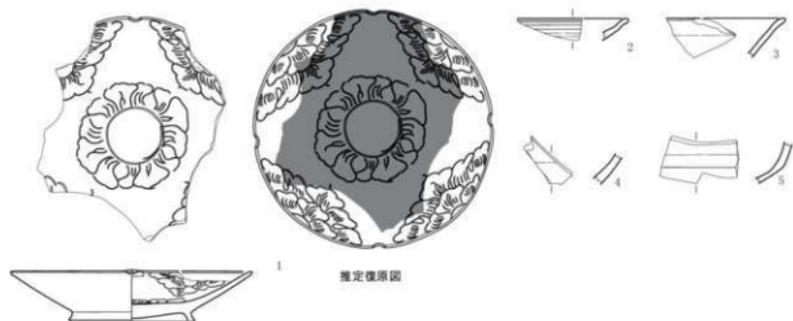


第146図 遺構外の出土土器(1)



No.	種別	部位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録番号
1	土師器・杯	基本部Ⅱ期	17.2		3.5	1/3	外面:ヨコナダ→手持ちヘラクズリ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理	R724
2	土師器・杯	遺構様部	16.0	8.4	3.9	2/3	外面:手持ちヘラクズリ 輪縁部 マメツ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 マメツ	R813
3	土師器・杯	基本部Ⅱ期	16.4	8.0	4.4	3/5	外面:手持ちヘラクズリ→ヨコナダ→ヘラミガキ マメツ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 マメツ 底面:手持ちヘラクズリ	56-1 R796
4	土師器・杯	遺構様部	(17.3)	(10.2)	4.2	1/3	内外面:ヘラミガキ→黒色処理 底面:ヘラミガキ→黒色処理	R966
5	土師器・杯	基本部Ⅱ期	(9.4)		3.8	1/4	外面:ヨコナダ→手持ちヘラクズリ 内面:ヨコナダ→ナダ 底面:手持ちヘラクズリ 腹縁上縁部	K257
6	土師器・杯	基本部Ⅱ期	(11.7)	(5.4)	4.7	1/3	外面:ヨコナダ→手持ちヘラクズリ →ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 底面:手持ちヘラクズリ	K256
7	土師器・杯	遺構様部	(8.0)			体下部～底部1/3	外面:ヨコナダ→手持ちヘラクズリ→ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ→黒色処理 底面:ヨコナダ→ナダ	56-6 R803
8	土師器・鉢	遺構様部	12.0	6.9	4.6	ほぼ完形	外面:ナダ→ナダツケ 輪縁部 内面:ハケメ 底面:木箸痕→ナダ 輪高付 腹部下縁部	56-2 K271
9	土師器・鉢	基本部Ⅱ期	(11.2)	(8.8)	7.1	口縁部～底部1/2	外面:ハケメ→ヨコナダ→ムビオオエ 内面:ヨコナダ→ヘラミガキ 底面:木箸痕	R902
10	土師器・鉢	遺構様部	(10.0)	5.4	4.9	2/3	外面:ナダ→ムビオオエ 輪縁部 内面:ナダ→ムビオオエ→黒色処理 輪縁部 底面:手持ちヘラクズリ→ナダ	K264
11	土師器・赤塗	遺構様部	(12.5)			口縁部～体部1/4	内外面:ヨコナダ→ヘラミガキ→黒色処理 マメツ	R811
12	土師器・甕	基本部Ⅱ期	(23.0)			口縁部1/2～体下部	外面:ハケメ→ヨコナダ→ムビオオエ 輪縁部 内面:ハケメ→ヘラミガキ	R797
13	土師器・甕	遺構様部				口縁部1/4～体上部	外面:ハケメ→ヨコナダ 輪縁部 内面:ヨコナダ→ヘラミガキ	K266
14	土師器・甕	基本部Ⅱ期	(7.4)			胴下部～体下部1/4	外面:ハケメ→手持ちヘラクズリ 内面:手持ちヘラクズリ→ヘラミガキ	R1038
15	土師器・甕	遺構様部	(8.0)			胴下部～体下部1/8	外面:ハケメ→手持ちヘラクズリ 内面:手持ちヘラクズリ→ヘラミガキ	K265
16	土師器・甕	遺構様部				肥半部片	外面:手持ちヘラクズリ 内面:ナダ	56-11 R810
17	ヒコナダ器・杯	基本部Ⅱ期	7.4	7.0	6.0	ほぼ完形	外面:ムビオオエ 内面:ムビオオエ→ヘラミガキ 底面:木箸痕→ナダ	56-12 R801
18	ヒコナダ器・杯	基本部Ⅱ期	5.8	4.5	3.3	口縁部～底部1/2	外面:ムビオオエ 内面:ナダ 底面:木箸痕→ナダ	56-13 R799
19	甕蓋上部	跡木塗				体下部～底部1/4	内外面:ナダ→ナダ	57-29 R705
20	甕蓋部・杯	基本部Ⅱ期	15.3	8.8	4.6	2/3	外面:ヨコナダ→手持ちヘラクズリ 内面:ヨコナダ 底面:跡木塗→手持ちヘラクズリ	56-4 R800
21	甕蓋部・杯	基本部Ⅱ期	15.2	8.8	3.9	2/4	内外面:ヨコナダ 底面:ヘラ切り→手持ちヘラクズリ	56-3 K272
22	甕蓋部・杯	遺構様部	(17.2)	(11.8)	4.6	1/4	外面:ヨコナダ→手持ちヘラクズリ 内面:ヨコナダ 底面:跡木塗→不明→手持ちヘラクズリ	R814
23	甕蓋部・杯	遺構様部				体下部～底部1/4	内外面:ヨコナダ 内面:跡木塗 底面:ヘラ切り	57-11 R982
24	甕蓋部・杯	跡木塗	(8.2)			体下部～底部1/4	内外面:ヨコナダ 外面:遺木口 底面:跡木塗	R666
25	甕蓋部・杯	遺構様部				内外面:ヨコナダ 底面:ヘラ切り 底面:跡木塗	56-9 R805	
26	甕蓋部・高台杯	遺構様部	14.9			口縁部～体下部	内外面:ヨコナダ 外面:遺木口	56-5 R654
27	甕蓋部・高台杯	遺構様部	(11.4)	5.6	5.4	1/3	内外面:ヨコナダ 底面:跡木塗→付合片	R994
28	甕蓋部・高台杯	遺構様部	(8.0)			胴下部～体部1/3	内外面:ヨコナダ 底面:跡木塗→付合片→付合片 残存部→ヘラ切り「口」	56-8 R807
29	甕蓋部・反耳杯	遺構様部				耳部片	外面:手持ちヘラクズリ	R1006
30	甕蓋部・小甕	遺構様部		3.9		胴下部～体部1/3	内外面:ヨコナダ→付合片→付合片 内面:ヨコナダ 底面:跡木塗→付合片	56-10 R982
31	甕蓋部・小甕	遺構様部	(4.4)			口縁部～胴部1/3	内外面:ヨコナダ 自然縁付合	R992
32	甕蓋部・付合片	基本部Ⅱ期				体下部～高台部	外面:ヨコナダ→付合片 内面:ヨコナダ→ナダ 底面:ヘラ切り→付合片	K241
33	甕蓋部・甕	遺構様部				体部片	内外面:ヨコナダ	R1000
34	甕蓋部・甕	遺構様部				体部片	内外面:ヨコナダ	R996
35	甕蓋部・甕	遺構様部	(15.2)			体下部～底部1/4	外面:ヨコナダ→手持ちヘラクズリ 輪縁部 底面:跡木塗→付合片	R817

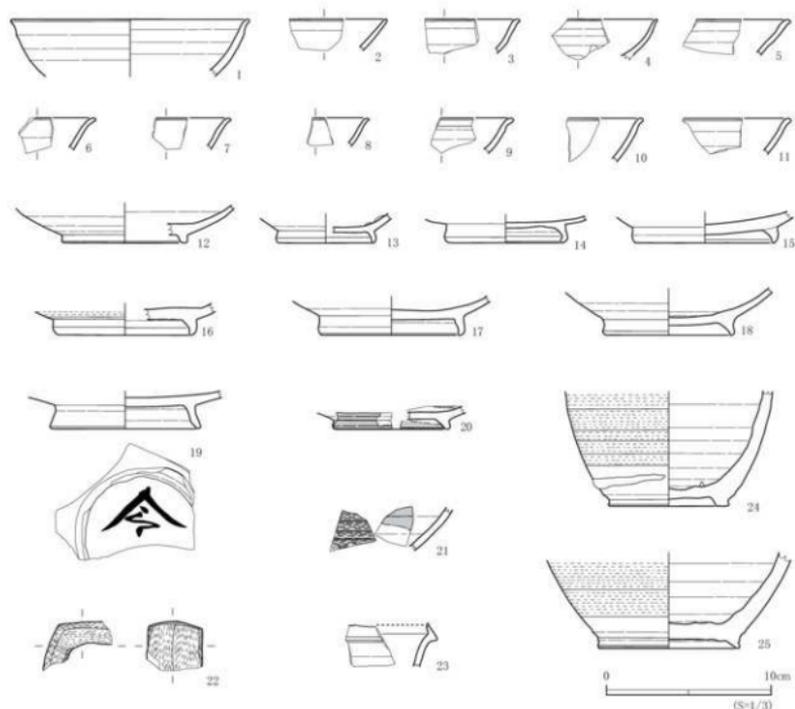
第147図 遺構外の出土土器(2)



(単位: cm)

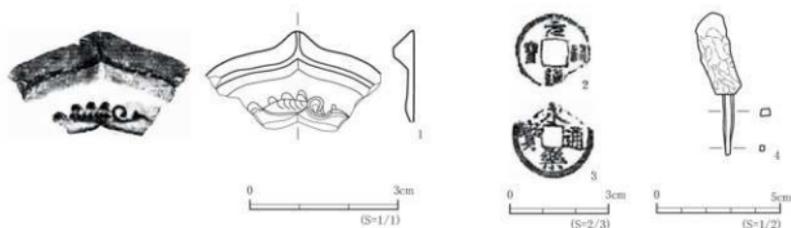
No.	種別	出土遺構・状況	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図号	登録
1	緑釉器・器底瓦片輪部	SD6681 北3層 個体不明	11.6	7.6	3.1	1/2	内外面: ロタロナゲヘアクワデ, 底面: 斜軸ヘラクワデ付高台, 内面: 印製意人, 器壁90度式	59-1	R-175
2	緑釉陶器・蓋	SD6680 西3層 個体不明					内外面: ロタロナゲ, 器北?	59-2	R-206
3	緑釉陶器・蓋	AK 遺構検出面					内外面: ロタロナゲ, 器北	59-3	R-661
4	緑釉陶器・碗	SD6682 西3層 個体不明					内外面: ロタロナゲ, 器底?	59-5	R-262
5	緑釉陶器・特殊	SV6510 北3層 2期					内外面: ロタロナゲ, 器底	59-4	R-256
6	白磁・碗	SD6680 西3層 個体不明 (E9, D)						58-1	R-191
7	白磁・碗	AK 遺構検出面					白釉釉	58-4	R-967
8	白磁・碗	AK 遺構検出面			(7.2)		靴の目取付	58-5	R-988
9	白磁・碗	SD6680 西3層 個体不明						58-2	R-217
10	白磁・碗	北3層 西3交差点南						58-3	R-402
11	青磁・面	AK 遺構検出面					貫入あり	58-6	R-989

第148図 緑釉陶器・白磁・青磁

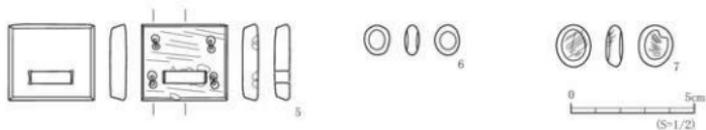


No.	種別	出土遺構・層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図録 登録
1	灰釉陶器・碗	AK北原遺構積出層	(14.5)				内外面:ロクロナデ, 内面:淡緑色の軸毛刷毛塗, 墨染90号雲式	59-6 R-974
2	灰釉陶器・碗	SD6682北2a南側埋層					内外面:ロクロナデ, 墨染90号雲式前半	59-7 R-234
3	灰釉陶器・碗	SN6510北2a跡面層					内外面:ロクロナデ	59-8 R-347
4	灰釉陶器・碗	SD6682西2a南側埋層					内外面:ロクロナデ, 灰釉塗, 表+53号雲式	59-9 R-368
5	灰釉陶器・碗	SN6510北2a層					内外面:ロクロナデ, 裏覆	59-10 R-315
6	灰釉陶器・碗	SN6510北2a層					内外面:ロクロナデ+軸毛刷毛塗, 墨染90号雲式	59-11 R-325
7	灰釉陶器・碗	SN6510北2a跡面層					内外面:ロクロナデ	59-12 R-342
8	灰釉陶器・碗	SN6510北2a層					内外面:ロクロナデ	59-13 R-325
9	灰釉陶器・碗	北2a西2交差点層					内外面:ロクロナデ	59-14 R-414
10	灰釉陶器・碗	SD6615層					内外面:ロクロナデ, 墨染90号雲式	59-15 R-559
11	灰釉陶器・碗	SD6613層					内外面:ロクロナデ	59-17 R-788
12	灰釉陶器・碗	SN6510北2a層	(7.0)				内外面:ロクロナデ, 内面:刷毛+灰釉, 角高台, 墨染14号雲式	59-26 R-322
13	灰釉陶器・碗	SD6682北2a南側埋層	(6.1)				内外面:ロクロナデ, 三日月高台, 墨染90号雲式前半	59-24 R-233
14	灰釉陶器・碗	SN6510北2a層	(7.5)				内外面:ロクロナデ, 三日月高台, 墨染90号雲式	59-19 R-323
15	灰釉陶器・碗	SD6681北2a南側埋層	(6.4)				内外面:ロクロナデ, 三日月高台, 墨染90号雲式	59-23 R-118
16	灰釉陶器・碗	SN6510北2a層	(6.8)				内外面:ロクロナデ+刷毛+ヘラケズリ, 三日月高台, 墨染90号雲式	59-18 R-334
17	灰釉陶器・碗	AK遺構積出層	(6.9)				内外面:ロクロナデ+刷毛+ヘラケズリ, 三日月高台, 墨染90号雲式	59-22 R-957
18	灰釉陶器・碗	北2a西2交差点	(6.9)				内外面:ロクロナデ, 葉高蓋	59-20 R-357
19	灰釉陶器・皿	北2a西2交差点層	(9.2)	底径1.0			内面:ロクロナデ+刷毛+ヘラケズリ+刷毛, 外面:刷毛+刷毛+刷毛, 軸毛刷毛+刷毛+刷毛, 墨染7号雲式	59-21 R-776
20	灰釉陶器・皿	SD6584裏方					内外面:ロクロナデ, 底面:刷毛+ヘラケズリ+高台, 乳白色の灰釉塗, 墨染大形2号雲式	59-25 R-463
21	灰釉陶器・平鉢	SD6684層					内外面:ロクロナデ, 灰釉塗, 墨染大形2号雲式	59-16 R-510
22	灰釉陶器・平鉢	北2a西2交差点層					把手	59-27 R-399
23	灰釉陶器・壺	AK遺構積出層					内外面:ロクロナデ	59-28 R-991
24	灰釉陶器・壺	SN6510北2a層	(7.4)	1/8			外面:ロクロナデ+刷毛+ヘラケズリ, 内面:ロクロナデ	59-20 R-306
25	灰釉陶器・壺	AK様上	(8.0)	底径2/3			外面:ロクロナデ+刷毛+ヘラケズリ, 底面:刷毛+ヘラケズリ+三日月高台, 内面:ロクロナデ	59-29 R-646

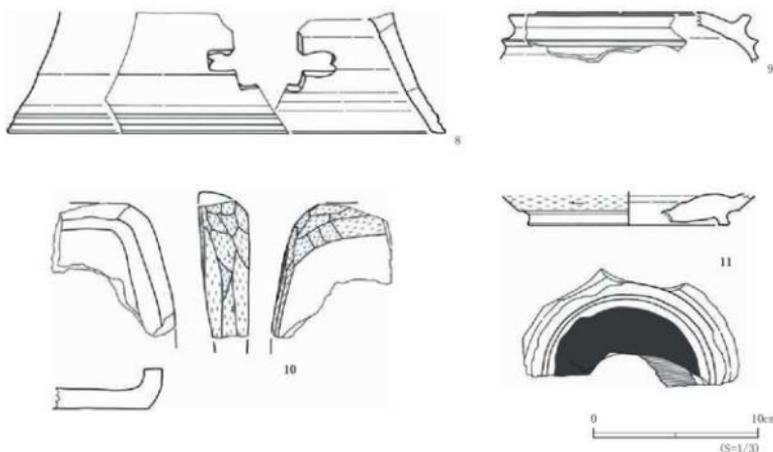
第149図 灰釉陶器



No.	種別	出土遺構・層位	長	幅	厚	残存	特徴	写真図版	登録
1	大鏡筒	SN6020堆	1.9	3.5	0.4	鏡筒	墨文字	58-7	R-781
2	銭貨・大経通寶	SN6020堆				一箇欠額	初鑄年 元祐元年(1080), 篆書体, 背面無文, 表面有銘	58-8	R-876
3	銭貨・水東通寶	SN6020堆				一箇欠額	初鑄年 永樂6年(1406), 篆書体, 裏面無文, 表面有銘	58-9	R-877
4	鉄製品・釘	A16遺構棟出函	5.9	0.4	0.3	完整	角釘	58-10	R-979

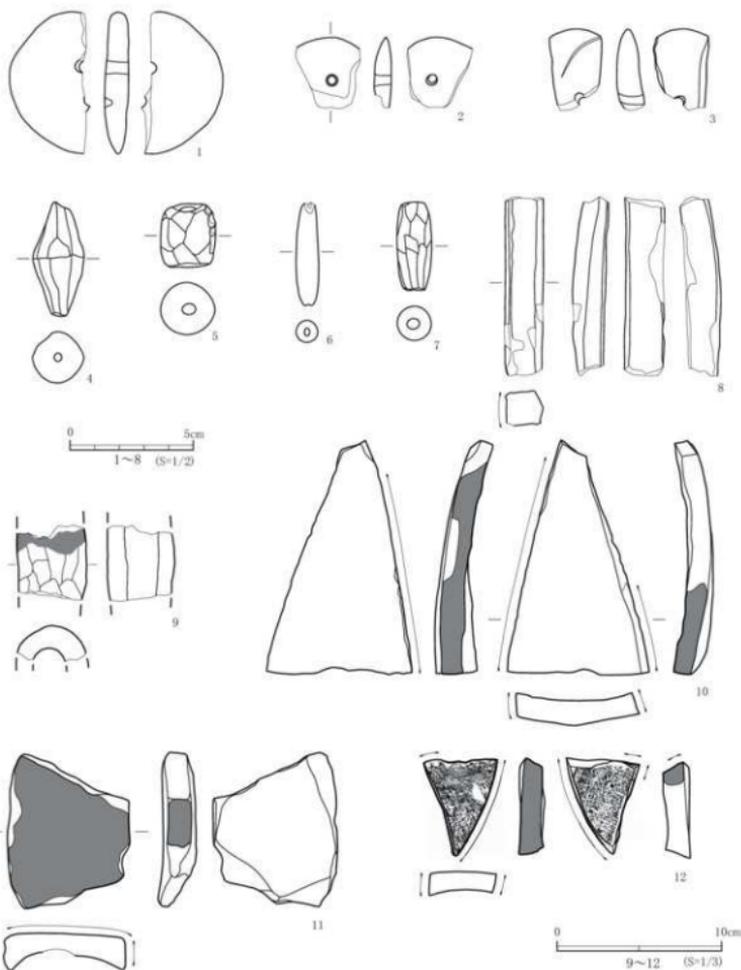


No.	種別	出土遺構・層位	長	幅	厚	残存	特徴	写真図版	登録
5	石函	SN6020堆	3.1	3.5	0.8	完整	褐色, 藍色顔料彩劃	58-11	R-215
6	墓石	A16北河川	1.2	1.0	0.6	完整	白色	58-13	R-1009
7	墓石	A16北河川	1.7	1.4	0.6	完整	藍色	58-12	R-1008



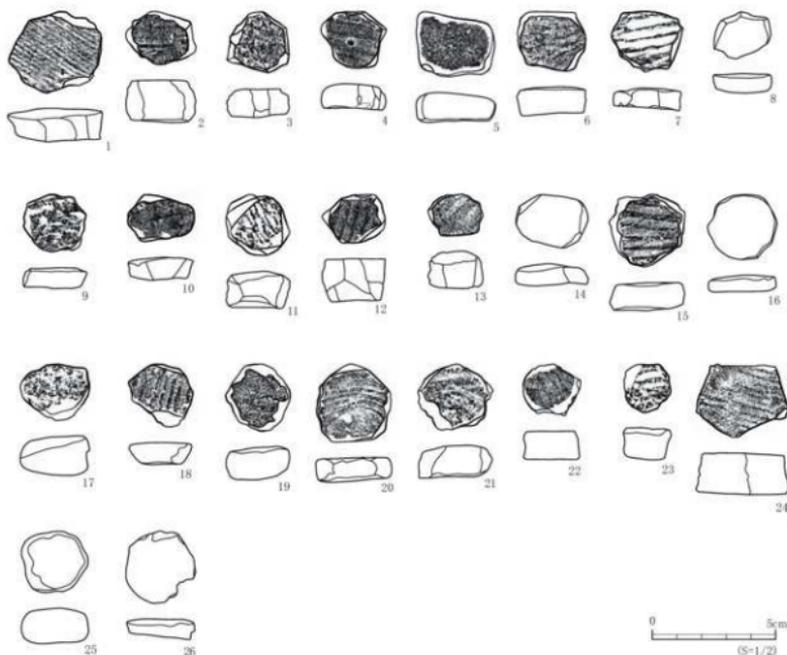
No.	種別	出土遺構・層位	口径	底径	器高	残存	特徴	写真図版	登録
8	銅函蓋	北山町正法寺	(26.5)		1.6	銅蓋1/6	内外面:口内十字字, 銅蓋:「水」字通孔	58-14	R-125
9	刀函蓋	西ノ原御堂(1)	(14.4)		1.2	1.2	1.2:口内, 銅蓋欠額 内外面:口内十字字	58-15	R-201
10	鏡手鏡	西ノ原御堂(1)				鏡背	銅蓋:「ワケ」字	58-16	R-275
11	銅函底	北山町正法寺(1)	12.3		12.3	底蓋・底台1/2	銅蓋:口内十字字, 内面:口内十字字, 底蓋:口内十字字, 1層・2層・3層・4層・5層・6層・7層・8層・9層・10層・11層・12層・13層・14層・15層・16層・17層・18層・19層・20層・21層・22層・23層・24層・25層・26層・27層・28層・29層・30層・31層・32層・33層・34層・35層・36層・37層・38層・39層・40層・41層・42層・43層・44層・45層・46層・47層・48層・49層・50層・51層・52層・53層・54層・55層・56層・57層・58層・59層・60層・61層・62層・63層・64層・65層・66層・67層・68層・69層・70層・71層・72層・73層・74層・75層・76層・77層・78層・79層・80層・81層・82層・83層・84層・85層・86層・87層・88層・89層・90層・91層・92層・93層・94層・95層・96層・97層・98層・99層・100層	58-17	R-248

第150図 鏡・銭貨・釘・石製品・硯



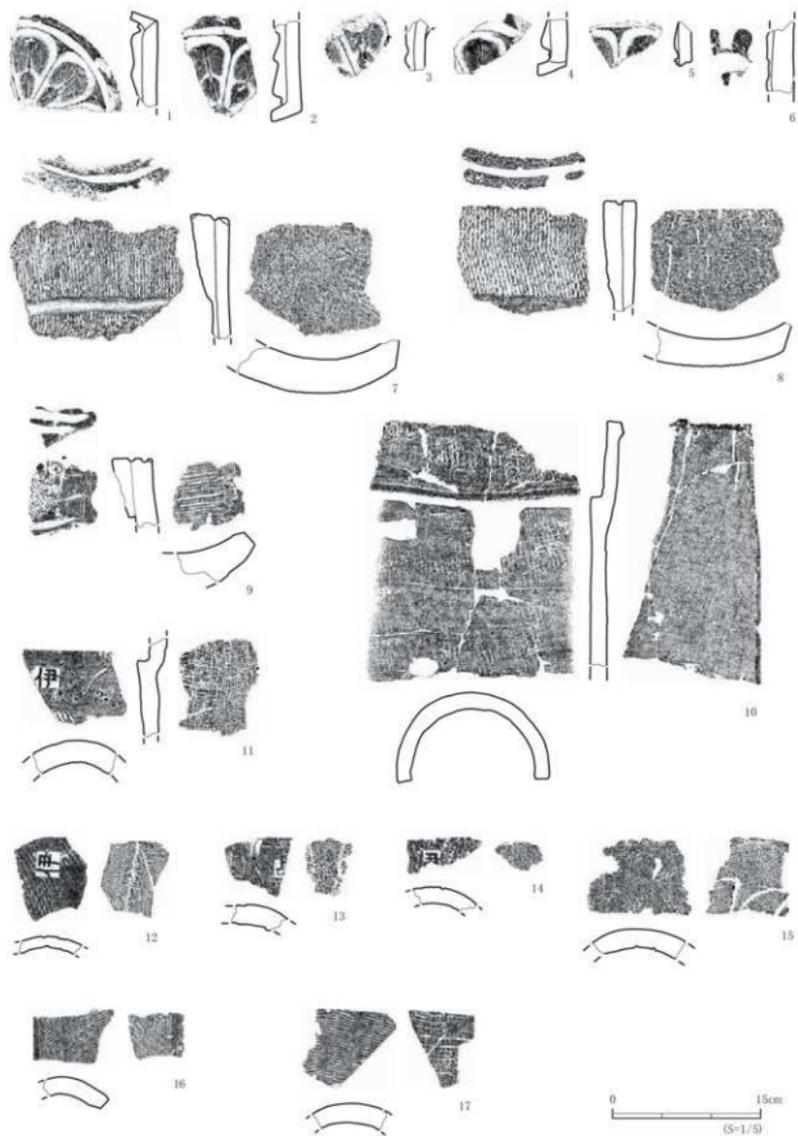
No.	種別	出土遺構・層位	長	幅	厚	残存	特徴	写真回数	登録
1	有孔土製四角	SD00625層	5.8	2.9	0.9	1/2	孔径 0.45	00-1	R-216
2	有孔土製四角	北2a西3交差点南	2.9	2.6	0.7	破片	孔径 0.5	00-2	R-287
3	有孔土製四角	北2a西3交差点南	3.3	2.2	1.0	破片	孔径 4.5	00-3	R-436
4	土鏃	SV6510層	4.7	2.1	2.2	完整	孔径 0.4	00-7	R-324
5	土鏃	SV6511層出面	2.6	2.3	2.2	完整	孔径 0.5	00-1	R-749
6	土鏃	SV6510層出面	4.2	0.9	0.9	完整	孔径 0.3	00-6	R-792
7	土鏃	SV6510層出面	3.6	1.4	1.2	完整	孔径 0.5	00-5	R-894
8	棒状土製品	北2a西3交差点南	7.2	1.5	1.4	一箇欠損	細意瓦	00-8	R-380
9	輪引口	SD0017層2層	4.6	4.1	1.4	破片		00-9	R-346
10	転用紙	SD0017層出面	14.3	8.8	1.5		須磨部・粟作部破片断面を転用し紙面として用	00-11	R-909
11	転用紙	SV6066層	9.4	7.5	2.2		丸瓦1 or 2層。下伊福野段製品の丸瓦を転用	00-13	R-501
12	転用紙	SV6063層	5.9	4.5	1.3		丸瓦2層破片を転用	00-12	R-309

第151図 土製品

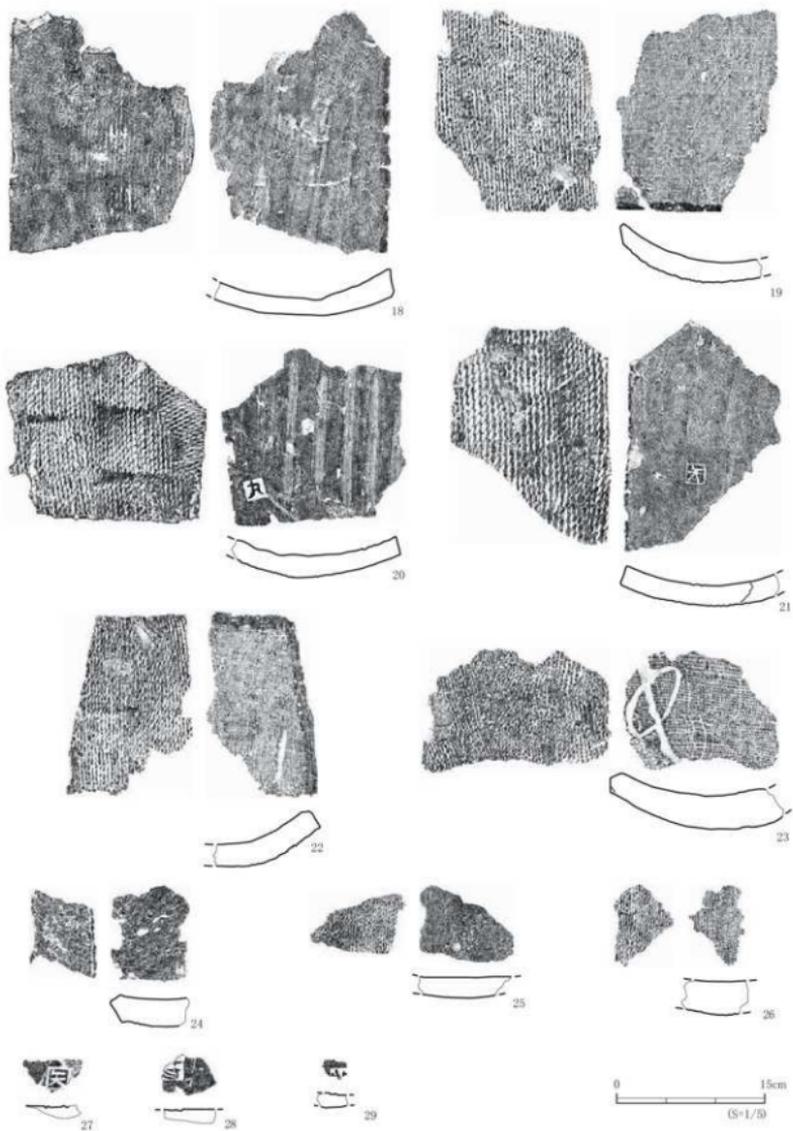


No.	種別	出土遺構・層位	長	幅	厚	残存	特徴	写真図版	登録
1	土製円板	SD6601C層	3.1	3.7	1.4		須恵器・襷形部破片粘用	60-14	R-158
2	土製円板	SD6600F層	3.1	2.7	1.7		須恵器・襷形部破片粘用	60-15	R-209
3	土製円板	SD6600F層	2.4	2.4	1.1		須恵器・襷形部破片粘用	60-16	R-210
4	土製円板	SD6602F層	2.3	2.7	1.0		須恵器・襷形部破片粘用	60-17	R-235
5	土製円板	SD6602層	2.5	3.1	1.2		須恵器・襷形部破片粘用	60-18	R-252
6	土製円板	SN6510埋3層	2.4	2.7	1.1		須恵器・襷形部破片粘用	60-19	R-303
7	土製円板	SN6510埋3層	2.5	2.8	0.8		須恵器・襷形部破片粘用	60-20	R-304
8	土製円板	SN6510埋3層	1.8	2.3	0.8		須恵器・襷形部破片粘用	60-21	R-305
9	土製円板	SN6510埋3層	2.3	2.5	0.8		須恵器・坏底部(へ字切)破片粘用	60-22	R-330
10	土製円板	SN6510埋3層	1.9	2.7	0.9		須恵器・襷形部破片粘用	60-23	R-337
11	土製円板	北2a西3交差点跡面	2.4	2.5	1.5		平丸・有指部片粘用	60-24	R-383
12	土製円板	北2a西3交差点跡面	1.9	2.5	1.7		須恵器・襷形部破片粘用	60-25	R-384
13	土製円板	北2a西3交差点跡	1.7	2.2	1.5		須恵器・襷形部破片粘用	60-26	R-385
14	土製円板	北2a西3交差点跡	2.1	2.9	0.9		須恵器・襷形部破片粘用	60-27	R-393
15	土製円板	北2a西3交差点跡	2.9	3.0	1.1		須恵器・襷形部破片粘用	60-28	R-416
16	土製円板	SN6615埋3層	2.6	2.7	0.7		土師器・内周杯形部破片粘用	60-29	R-566
17	土製円板	SN6615埋3層	2.3	2.8	1.6		須恵器・襷形部破片粘用	60-30	R-567
18	土製円板	SN6518埋3層	2.5	2.5	0.9		須恵器・襷形部破片粘用	60-31	R-623
19	土製円板	AJK遺構跡面	2.7	2.6	1.3		須恵器・坏底部(へ字切)破片粘用	60-32	R-654
20	土製円板	AJK遺構水溝	3.2	3.0	0.9		須恵器・坏底部(へ字切)破片粘用	60-33	R-664
21	土製円板	SN6502埋3層	2.6	3.0	1.3		須恵器・襷形部破片粘用	60-34	R-693
22	土製円板	SN6502埋3層	2.0	2.3	1.1		須恵器・襷形部破片粘用	60-35	R-694
23	土製円板	SN6502埋3層	1.9	1.8	1.3		須恵器・襷形部破片粘用	60-36	R-700
24	土製円板	SD6517埋3層	2.9	3.7	1.7		須恵器・襷形部破片粘用	60-37	R-806
25	土製円板	AJK遺構跡面	2.4	2.7	1.4		須恵器・襷形部破片粘用	60-38	R-1038
26	土製円板	SD6517埋3層	2.9	2.8	0.8		滑石クワ内周土師器・丸底杯形部破片粘用	60-39	R-281

第152図 土製円板



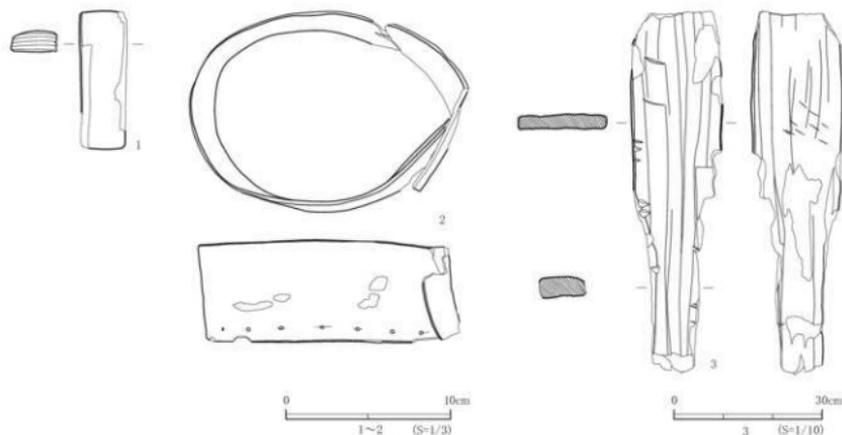
第153图 瓦(1)



第154圖 瓦(2)

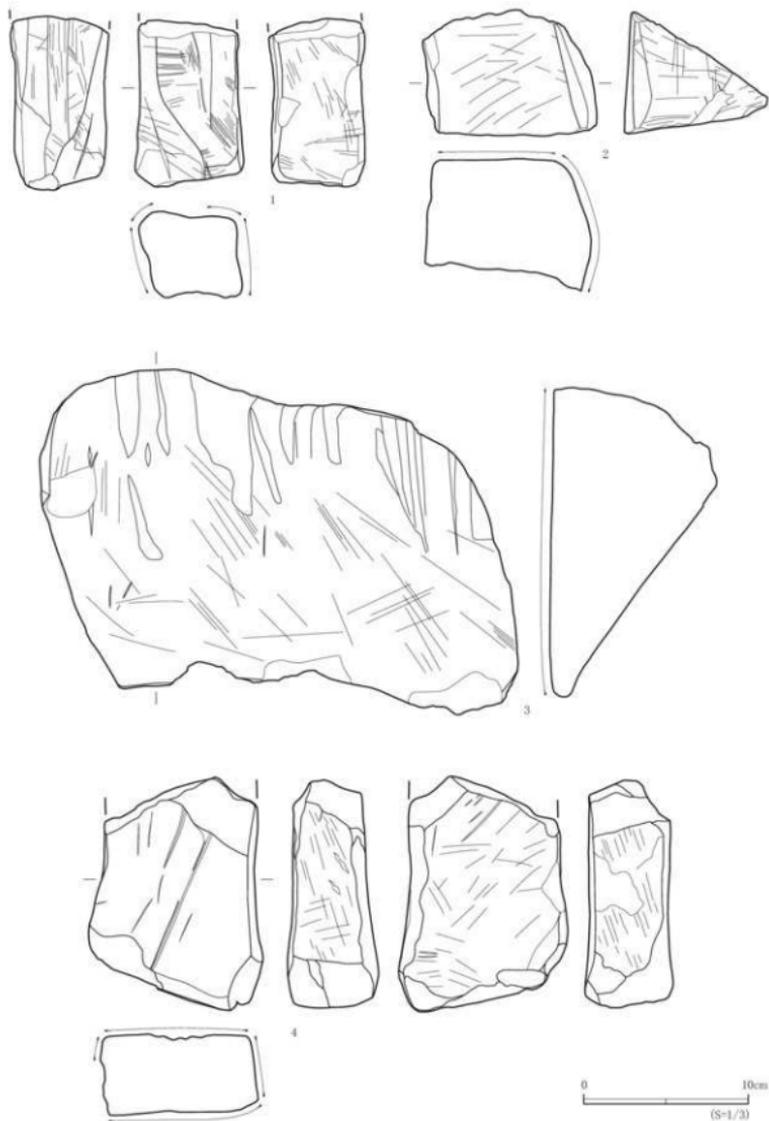
No.	種別	出土遺構・層位	長	幅	厚	残存	特徴	写真図版	登録
1	軒瓦	SD6681北2a南側溝C層					八葉直弁蓮花文200番台、政庁第Ⅱ期	61-1	R-67
2	軒瓦	SD6681西3溝1層					八葉直弁蓮花文100番台、政庁第Ⅰ期	61-2	R-606
3	軒瓦	SD6681北2a南側溝B層					八葉直弁蓮花文200番台、政庁第Ⅱ期		R-97
4	軒瓦	SD6681西3溝1層					八葉直弁蓮花文100番台、政庁第Ⅰ期	61-3	R-426
5	軒瓦	北2a西3交点点跡面B					八葉直弁蓮花文200番台、政庁第Ⅱ期	61-4	R-361
6	軒瓦	SD6682北2a北側溝C層					蓮華状文37、瓦当裏・磯呷き、政庁第Ⅳ期	61-5	R-236
7	軒瓦	SD6681西3側溝B層					華蓋文66a1、政庁第Ⅱ期	61-6	R-159
8	軒瓦	SD6681西3側溝B層					華蓋文66a1、政庁第Ⅱ期	61-7	R-160
9	軒瓦	SD6683西3a西側溝					二葉瓦文57、凸面：正格子呷き、政庁第Ⅰ期	61-8	R-280
10	瓦	SK6709溝					目印、政庁第Ⅰ期	61-18	R-608
11	瓦	SD6557区西溝跡地					目印、凸面に刻印「伊」		R-68
12	瓦	SD6516北2a溝跡1					目印、凸面に刻印「伊」	61-9	R-329
13	瓦	北2a西3交点点跡面B					目印、政庁第Ⅱ期、凸面に刻印「古」	61-11	R-273
14	瓦	SD6511西3溝1層					目印、凸面に刻印「伊」	61-10	R-404
15	瓦	A16遺構地・出函					目印、凹面に「フ」書き	61-16	R-668
16	瓦	北2a西3交点点跡面B					目印	61-17	R-379
17	瓦	SD6683北2a南側溝C層					宇伊場野梨製品、1or目印、政庁第Ⅰ期		R-89
18	平瓦	SD6557区西溝跡地					目印		R-61
19	平瓦	北2a西3交点点跡					目印、政庁第Ⅳ期	61-19	R-289
20	平瓦	A16遺構地・出函					目印、凹面に刻印「大」A、政庁第Ⅱ期	61-12	R-907
21	平瓦	A16遺構地・出函					目印、凹面に刻印「大」B、政庁第Ⅱ期	61-13	R-1023
22	平瓦	SD6680西3a遺構地B層					目印、政庁第Ⅳ期		R-192
23	平瓦	SD6509溝					目印、凹面に「フ」書き「中」 γ or δ 、政庁第Ⅱ期	61-17	R-215
24	平瓦	SD6681北2a南側溝D層					目印跡・タイテ、政庁第Ⅳ期		R-90
25	平瓦	SD6681北2a南側溝E層					目印、政庁第Ⅳ期		R-115
26	平瓦	SD6504溝1層					目印、政庁第Ⅳ期		R-516
27	平瓦	A16遺構地・出函					目印、凹面に刻印「大」A、政庁第Ⅱ期	61-14	R-666
28	平瓦	北2a西3交点点跡面B					目印、凹面に刻印「大」A、政庁第Ⅱ期		R-247
29	平瓦	A16出函					目印、凹面に刻印「大」A	61-15	R-1018

瓦観察表(第153~154図掲載)



No.	種別	層位	長	幅	厚さ	残存	特徴	写真図版	登録
1	板状木製品	SD6680E層	8.3	2.8	1.3		木取り・板目	66-6	M40
2	曲物板	SD6557溝1層	15.5	11.8	6.2		板板欠損、底板との結合に径 \sim 4mmの木製釘使用	66-5	M36
3	板状木製品	SD6557溝3層	72.8	18.0	4.2		木取り・板目 加工痕	66-7	M34

第155図 SD6680西3道路跡東側溝・SD6557区画溝跡出土木製品



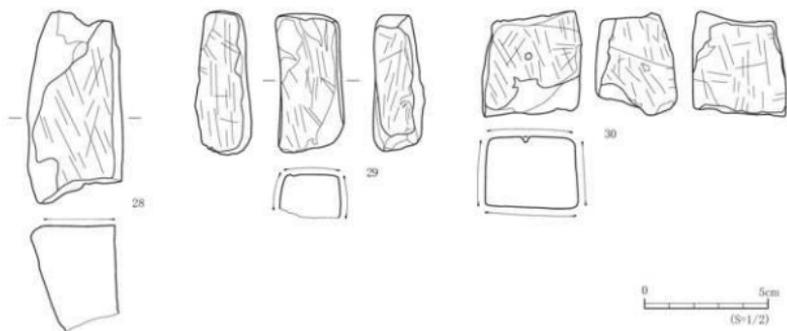
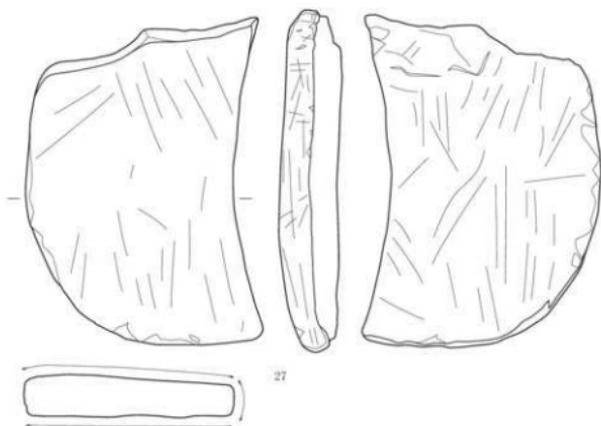
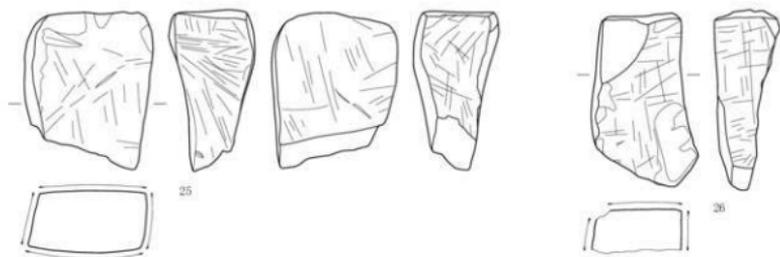
第156图 砥石(1)



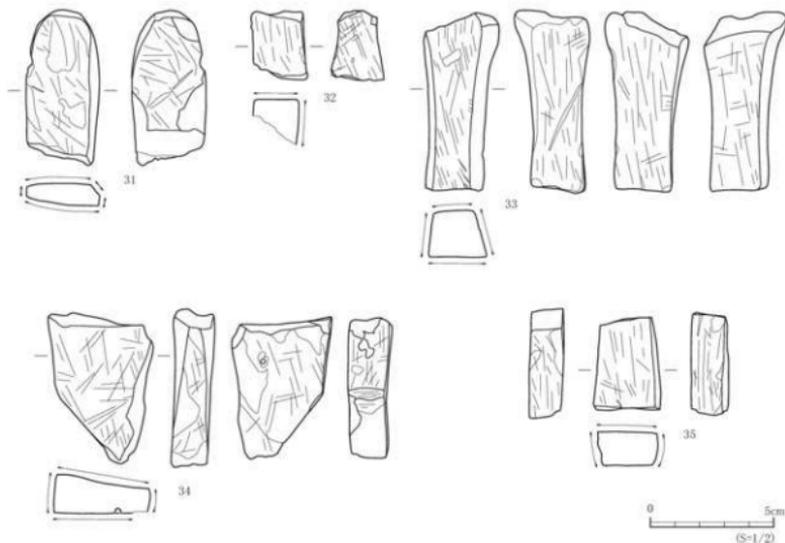
第157图 砾石(2)



第158图 砥石(3)



第159圖 砥石(4)



No.	種別	出土遺構・層位	長	幅	厚	残存	特徴	写真回数	登録
1	礫石	3D6680C層	10.2	6.6	5.2	欠損	礫石1面	62-1	R-730
2	礫石	3D6683F層	7.7	10.2	7.1	欠損	礫石1面	62-1	R-731
3	礫石	3D6681F層	19.3	26.9	10.0	欠損	礫石1面, 磨礫石	62-2	R-732
4	礫石	3X6110西ノホト	14.1	10.3	4.8	欠損	礫石1面	62-3	R-739
5	礫石	3X6503層	10.2	10.2	3.6	欠損	礫石1面	62-4	R-742
6	礫石	3X6536層	10.0	9.6	3.5	欠損	礫石1面	62-5	R-748
7	礫石	3X6529横出面	10.5	6.5	8.4	欠損	礫石1面	62-6	R-752
8	礫石	3X6517横出面	10.3	6.7	1.7	欠損	礫石1面	62-7	R-757
9	礫石	3X6511横本溝	13.3	10.4	6.9	欠損	礫石1面	62-8	R-769
10	礫石	3D6681F層	11.6	6.5	5.3	欠損	礫石1面	62-9	R-733
11	礫石	3D6517地2層	15.5	17.3	7.5	完整	礫石1面, 磨礫石	62-10	K-248
12	礫石	3D6517地3層	7.9	6.7	6.8	欠損	礫石1面, 磨礫砂岩	62-11	K-250
13	礫石	3D6557地	2.7	2.8	1.6	欠損	礫石1面, 三角柱状, 極細粒砂岩	62-12	R-064
14	礫石	3X6511地	2.6	3.2	0.8	欠損	礫石1面, 極細粒砂岩	62-13	R-420
15	礫石	3D6680C層	2.7	3.9	0.8	欠損	礫石1面, 片面からの穿孔と片面からの穿孔を試行した形跡あり	62-14	R-728
16	礫石	3D6681F層	6.6	6.4	3.3	欠損	礫石1面, 三角柱状, 極細粒砂岩	62-17	R-149
17	礫石	北2西3交差点掘出層	6.0	2.0	2.2	欠損	礫石1面, 極細粒砂岩	62-18	R-736
18	礫石	北2西3交差点C層	3.3	1.6	3.6	欠損	礫石1面	62-19	R-727
19	礫石	3D6681F層	5.1	8.4	2.0	欠損	礫石1面, 極細粒砂岩	62-15	R-176
20	礫石	3D6680層	3.7	2.2	1.7	欠損	礫石1面	62-16	R-731
21	礫石	3D6683F層	7.8	2.7	2.8	欠損	礫石1面	62-20	R-736
22	礫石	3D6683F層	3.9	1.9	0.8	欠損	礫石1面, 極細粒砂岩	63-1	R-757
23	礫石	3X6527層	5.5	1.6	1.3	完整	礫石1面	63-2	R-753
24	礫石	3X6510横出面	3.7	3.0	1.5	欠損	礫石1面	63-3	R-743
25	礫石	3X6510横出面	6.4	5.2	2.5	欠損	礫石1面	63-4	R-741
26	礫石	3X6527地	4.1	4.0	1.7	欠損	礫石1面, 極細粒砂岩	63-5	R-750
27	礫石	3X6511横出面	13.1	8.4	1.7	完整	礫石1面	63-7	R-744
28	礫石	3D6557地	7.7	3.8	4.3	欠損	礫石1面	63-6	R-751
29	礫石	3X6582地	3.6	2.6	1.7	完整	礫石1面	63-8	R-754
30	礫石	北2西3交差点掘出層	4.1	3.9	2.9	欠損	礫石1面	63-9	R-755
31	礫石	3D6592地1層	6.1	3.0	0.9	欠損	礫石1面, 磨礫岩	63-10	R-756
32	礫石	A3C遺構横出面	2.7	2.1	1.8	欠損	礫石1面	63-11	R-758
33	礫石	A3C遺構横出面	7.3	3.0	1.9	完整	礫石1面, 磨礫砂岩	63-12	R-976
34	礫石	3D6517地1層	5.7	4.1	1.6	欠損	礫石1面, 磨礫砂岩	63-13	K-252
35	礫石	3D6517横出面	3.8	2.7	1.4	欠損	礫石1面	63-14	K-251

第160図 礫石(5)

写 真 图 版



昭和24年(1949)当時の道跡周辺航空写真 - 米軍撮影 R385-7 (縮尺約1/16,000)



平成5年(1993)の道跡周辺航空写真 - 建設省国土地理院撮影 C3-22 (縮尺約1/16,000)に、多賀城跡と城外道路跡、田河川跡を合成

図版1 多賀城跡と山王遺跡・市川橋遺跡の航空写真



調査区遠景(南から)

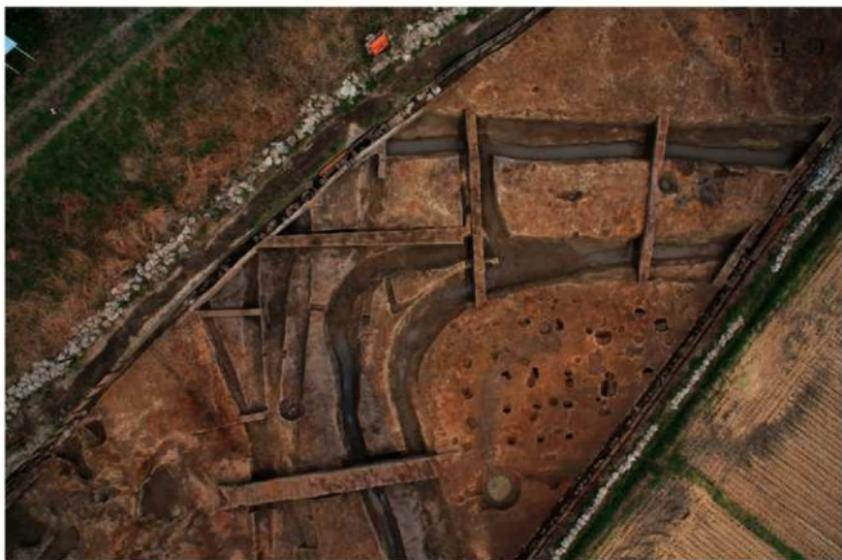


調査区遠景(東から)

図版2 調査区遠景



A区空撮



SX6510北2a・SX6511西3道路跡空撮

図版3 A区空撮、SX6510北2a・SX6511西3道路跡空撮



SX6510北2a・SX6512西3a道路跡空撮



A区全景(北から)

図版4 A区全景、SX6510北2a・SX6512西3a道路跡空撮

SX6510北2a・SX6512西3a
道路跡(北から)



SX6510北2a・SX6511西3
道路跡(北から)



SX6510北2a道路跡(東から)



図版5 SX6510北2a・SX6511西3・SX6512西3a道路跡



SX6510北2a・SX6512西3a
道路跡側溝EF期(北から)



SX6510北2a・SX6511西3
道路跡側溝F期(東から)



SX6510北2a・SX6511西3
道路跡側溝F期(北から)

図版6 SX6510北2a・SX6511西3・SX6512西3a道路跡側溝EF期



SD6682北2a道路跡北側溝断面
(東から)



SD6682北2a道路跡北側溝断面
(北東から)



SD6683北2a道路跡北側溝断面
(東から)

図版7 SD6682・6683北2a道路跡北側溝



SD6681北2a道路跡南側溝断面
(南東から)



SD6681北2a道路跡南側溝断面
(東から)



SD6680西3道路跡東側溝断面
(北から)

図版8 SD6681北2a道路跡南側溝・SD6680西3道路跡東側溝



SD6681西3道路跡西側溝断面
(北から)



SD6681西3道路跡
西側溝緑釉陶器
随刻花文西輪花蓋出土状況



SD6524溝跡断面(西から)

図版9 SD6681西3道路跡西側溝、SD6524溝跡



SD6683西3a道路跡西側溝断面
(北から)



北2a・西3a道路跡交差点
SX6529土器埋設遺構



SX6650北2道路跡(東から)

図版10 SD6683西3a道路跡西側溝、SX6529土器埋設遺構、SX6650北2道路跡



SB6603建物跡(北東から)



SB6603建物跡東妻様通下柱穴断面(南から)



SB6661建物跡東妻様通下柱穴断面(東から)



SB6660建物跡南西隅柱穴断面
(南東から)

図版11 SB6603・6660・6661掘立柱建物跡



SB6530-6531建物跡(南から)



SB6530建物跡中央柱列北より1間目柱穴断面(西から)



SB6531建物跡北東隅柱穴断面(東から)



北2a西3区建物跡(北から)

図版12 SB6530-6531掘立柱建物跡、北2a西3区掘立柱建物跡



SB6543・6544・6545建物跡(北から)



SB6543建物跡身舎東側柱列北より3間目柱穴断面(南から)



SB6543建物跡東廂北東隅(左)・SB6657建物跡南西隅(右)柱穴断面(南から)



SB6544建物跡東側柱列北より1間目柱穴断面(東から)



SB6544建物跡西側柱列北より1間目(左)・
SB6543建物跡身舎東側柱列北より5間目(右)柱穴断面(東から)

図版13 SB6543・6544・6545・6657掘立柱建物跡



SB6544建物跡東側柱列北より3間目柱穴礎板出土状況(東から)



SB6545建物跡北側柱列東より1間目柱穴断面(北から)



SB6654建物跡北側柱列東より1間目柱穴断面(西から)



SB6655建物跡南西隅柱穴礎板出土状況(南から)



SB6656建物跡南側柱列西より1間目柱穴断面(北から)



SB6708建物跡北妻棟通下柱穴断面(東から)



SB6710建物跡南西隅柱穴断面(北から)



SB6711建物跡南西隅柱穴断面(東から)

図版14 SB6544・6545・6654・6655・6656・6708・6710・6711掘立柱建物跡



SI6520・6645竪穴住居跡(東から)



SI6535竪穴住居跡(北から)

図版15 SI6520・6535・6645竪穴住居跡



SE6528井戸跡(東から)



SA6538材木堀跡(南東から)



SA6539(右)・SA6540(左)
材木堀跡(北東から)

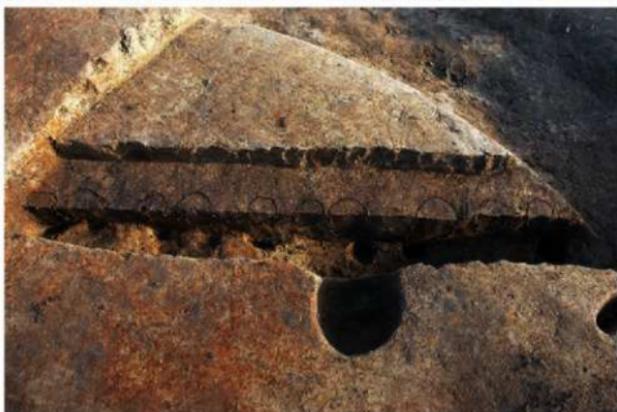
図版16 SA6538・6539・6540材木堀跡、SE6528井戸跡



SA6555材木塚跡(南西から)



SA6556材木塚跡(東から)



SA6564材木塚跡(東から)

図版17 SA6555-6556-6564材木塚跡



SA6532柱列跡西より4つ目柱穴断面(南東から)



SA6707柱列跡西より1つ目柱穴断面(東から)



SX6521河川流路跡(南東から)



SK6549土坑(北東から)

図版18 SA6532・6707柱列跡、SK6549土坑、SX6521河川流路跡



SK6640土壌(北から)

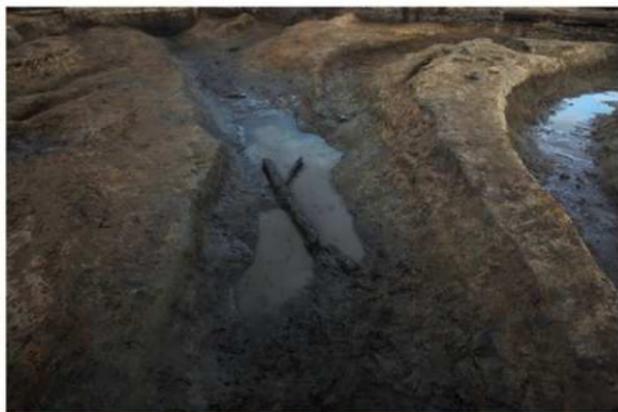


SK6641土壌(東から)



SK6643土壌(北から)

図版19 SK6640・6641・6643土壌



SD6557区画溝跡(西から)



SD6557区画溝跡断面
(北西から)



SD6557区画溝跡
土器器坪出土状況

図版20 SD6557区画溝跡

SD6587・6588溝跡(東から)



SD6558溝跡須恵器壺蓋出土状況



SD6546溝跡断面(東から)

SD6501・6504区画溝跡、
SX6503河川跡(東から)



図版21 SD6501・6504区画溝跡、SD6546・6558・6587・6588溝跡、SX6503河川跡



B区 全景(西から)



SX710北2a道路跡(西から)



SD6617北2a道路跡北側溝断面(北西から)



SD6627北2a道路跡南側溝断面(北西から)

図版22 B区全景、SX710北2a道路跡



SB6663建物跡南東隅柱穴断面(北から)



SB6685建物跡北側柱列東より2間目柱穴断面(東から)



SB6699A・B建物跡北西隅柱穴断面(西から)



SB6664建物跡東側柱列北より3間目柱穴断面(北から)



SB6665建物跡南側柱列東より1間目柱穴断面(北から)



SB6666建物跡南東隅柱穴断面(南から)

図版23 SB6663・6664・6665・6666・6685・6699A・B掘立柱建物跡



SE6584井戸跡(南から)



SE6584井戸跡断面(南から)

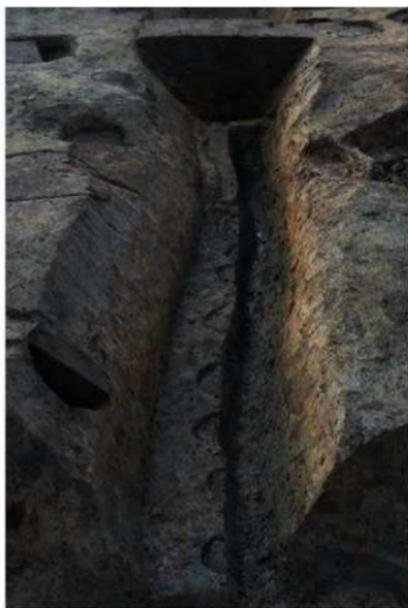


SE6584井戸跡堆積土
須恵系土器坏出土状況

図版24 SE6584井戸跡



SA6611材木塚跡(北から)



SA6620材木塚跡(東から)



SA6691柱列跡西より2つ目柱穴断面(北から)



SA6692柱列跡西より1つ目柱穴断面(南から)

図版25 SA6611・6620材木塚跡、SA6691・6692柱列跡



SD6517区面溝跡（東から）



SD6517区面溝跡断面（東から）



SD6517区面溝跡
須恵器甕出土状況

図版26 SD6517区面溝跡



SD6517区雨溝跡
須恵器罐出土状況



SD6517区雨溝跡
土師器坏出土状況

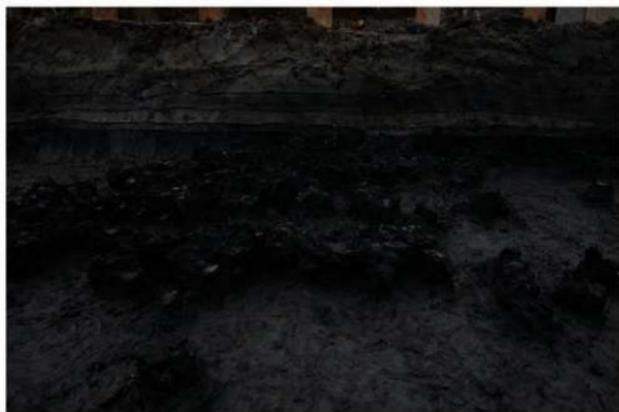


SD6517区雨溝跡
ササラゴ出土状況

図版27 SD6517区雨溝跡



C区全景（東から）



C区弥生土器出土状況
（南から）



C区弥生土器出土状況

図版28 C区（弥生時代中期遺物包含層）



<5層>



<4層>

図版29 SD6517区画溝跡5・4層出土土器(集合写真)



<3a層>



<3b層>



<3a~3f層>

図版30 SD6517区画溝跡3a・3b・3a~3f層出土土器(集合写真)



<3層>



<2層>

图版31 SD6517区画溝跡3・2層出土土器(集合写真)

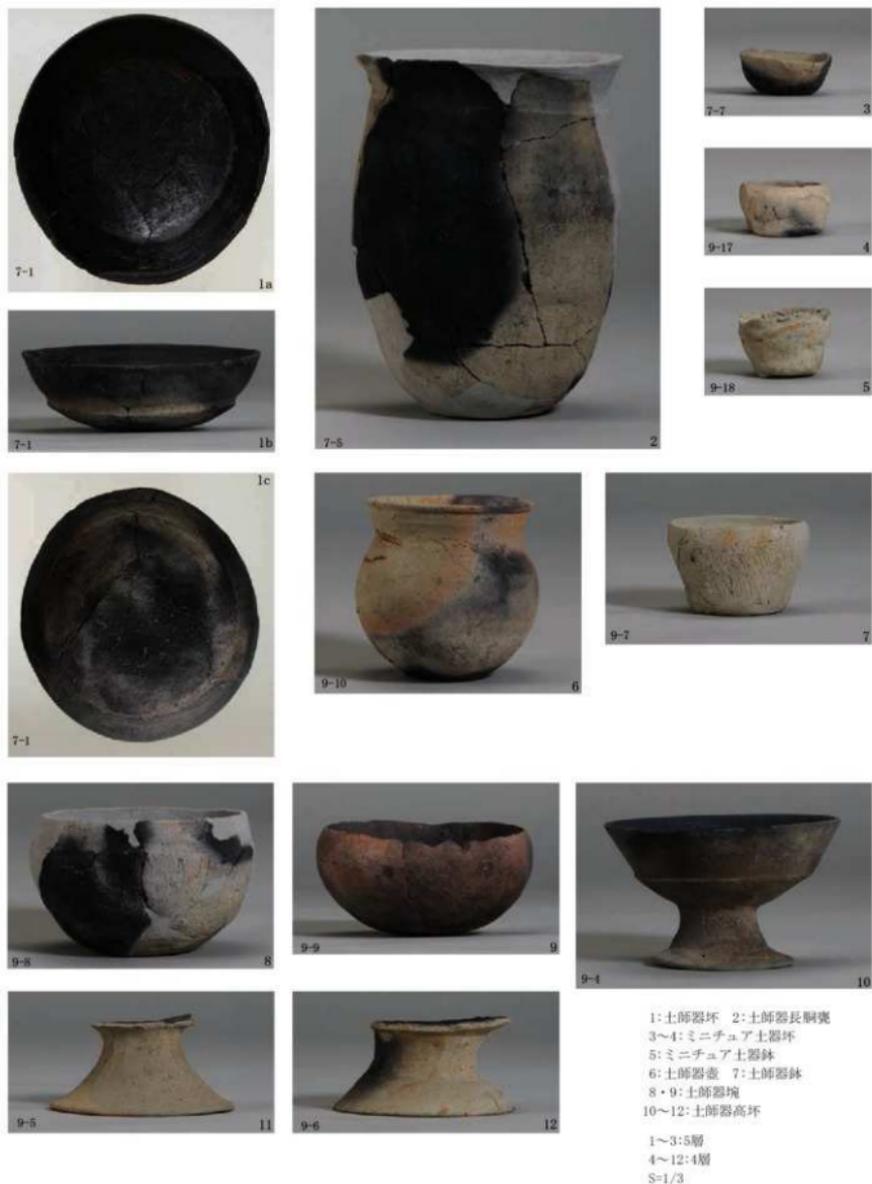


<SD6517区画清跡1層>

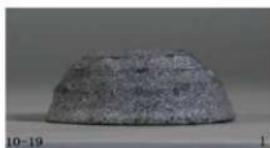


<SE6584井戸跡>

図版32 SD6517区画清跡1層、SE6584井戸跡出土土器(集合写真)



図版33 SD6517区画溝跡5・4層出土土器



1·2: 須惠器短頸蓋
3: 須惠器甕
4: 須惠器甕
S=1/3

图版34 SD6517区面溝跡4層出土土器(1)



1: 酒器器类
S=1/3

图版35 SD6517区画溝跡4層出土土器(2)



12-26

1

1: 頸部器裏
S=1/3

图版36 SD6517区画溝跡4層出土土器(3)



1~14:土器器坏
15:ミニ子ユア土器坏
16・18:土器器高坏
17:土器器台付甕

1・2・4・6・8・10・11・13・14:3a層
3・5・16~18:3b層
7・9・12:3a~3f層
15:3層
S=1/3

図版37 SD6517区画溝跡3層(3a・3b・3a~3f層)出土土器(1)



1・2: 土師器埴
 3: 土師器鉢
 4: 土師器台付甕
 5・6: 土師器長胴甕

1・2・4~6: 3a層
 3: 3b層
 S=1/3

図版38 SD6517区画溝跡3層(3a・3b層)出土土器(2)



17-46

1



16-40

2

1・3・4:土師器甕
2:土師器長胴甕

1・2・4:3a層
3:3a~3f層
S=1/3



17-49

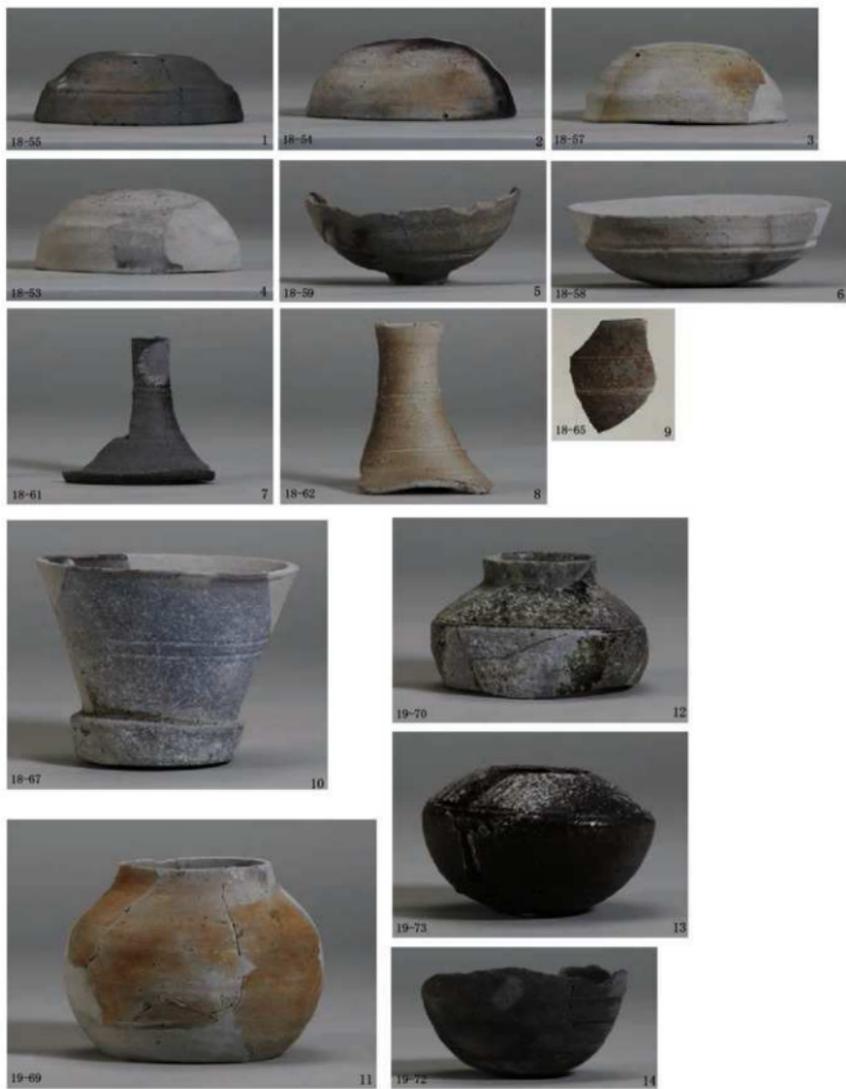
3



17-50

4

図版39 SD6517区画溝跡3層(3a・3a~3f層)出土土器(3)



1·2·4:須志器坏H蓋
 3:須志器短頸壺蓋
 5·7·8:須志器高坏
 6:須志器有蓋高坏
 9:須志器脚付埴
 10:須志器搗鉢
 11·12·14:須志器短頸壺
 13:須志器脚付長頸壺

4·5·12·14:3a層
 1·10·11·13:3b層
 3·6~9:3a~3f層
 2:3層
 5=1/3

図版40 SD6517区画溝跡3層(3a・3b・3a~3f層)出土土器(4)



19-74

1a



19-74

1b

1: 須志器横瓶
S=1/3

图版41 SD6517区面清跡3層出土土器(5)



图版42 SD6517区画溝跡2層出土土器(1)



1・2: 土師器長頸甕
3: 土師器球胴甕
S=1/3

図版43 SD6517区画溝跡2層出土土器(2)



21-20

1



23-33

2



23-35

3

1: 土師器長頸甕
2·3: 土師器蓋
S=1/3

图版44 SD6517区画溝跡2層出土土器(3)



1:土師器甕 2~5:須惠器短頸蓋 6:須惠器有蓋高坏蓋
7・8:須惠器高坏 9:須惠器長頸壺
S=1/3

図版45 SD6517区画溝跡2層出土土器(4)



- 1: 須志器 甕
 - 2: 須志器 甕
 - 3: 土師器 坏
 - 4・5: ミニチュア土器 坏
 - 6: 土師器 球胴甕
 - 7: 土師器 台付甕
- 1・2: 2層
3~7: 1層
S=1/3



図版46 SD6517区画溝跡2・1層出土土器



- 1: 土師器壺
 2: 土師器長頸甕
 3: 土師器植
 4: 須惠器坏H身
 S=1/3

图版47 SD6517区画溝跡1層出土土器(1)

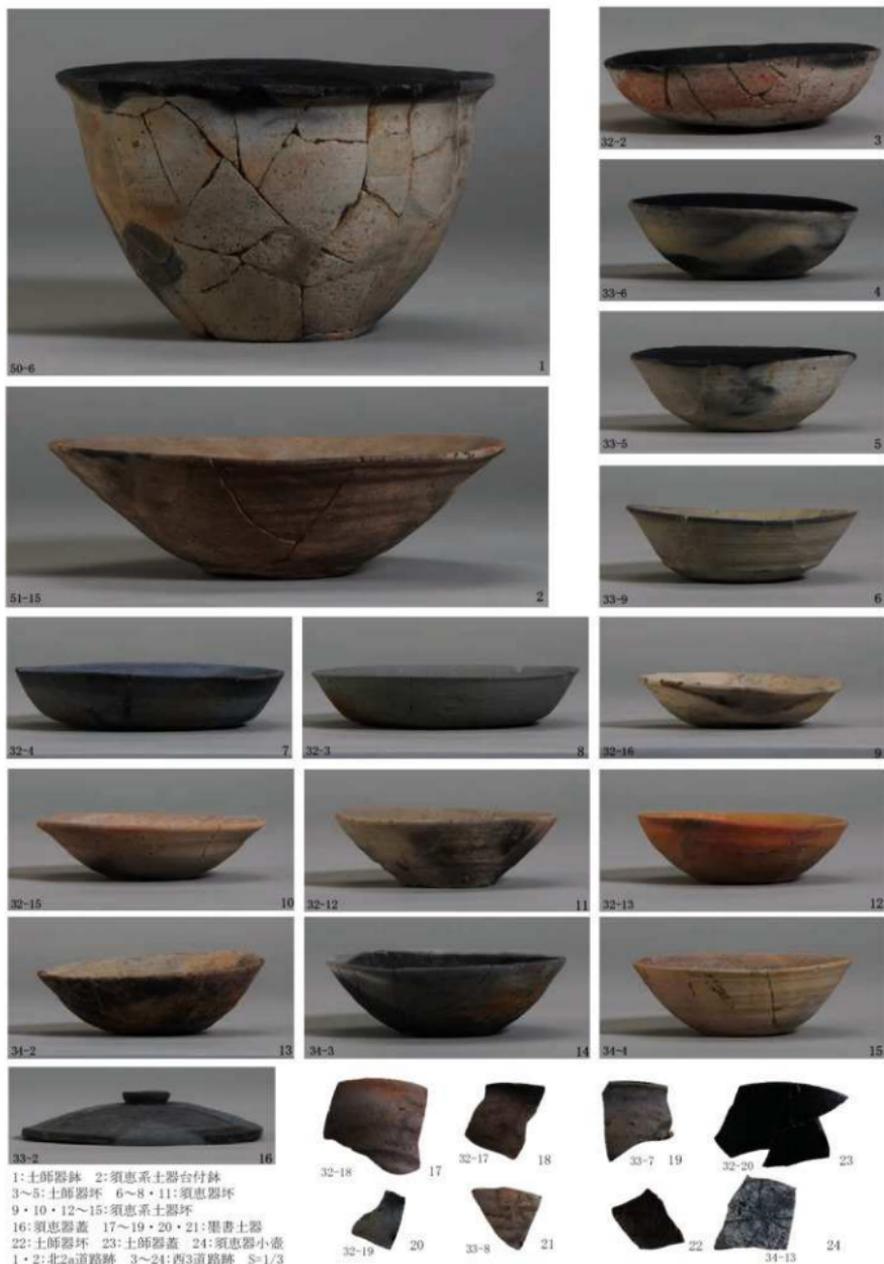


27-19

1

1:須志器甕
S=1/3

图版48 SD6517区画溝跡1層出土土器(2)



図版49 SX6510北2a道路跡・SX6511西3道路跡出土土器



図版50 SX6510北2a道路跡出土土器



图版51 SX6512西3a道路跡、北2a西3a交差点、北2a西3交差点出土土器



106-5

1



106-4

2



106-6

3



106-7

4



110-20

5



110-21

6



110-19

7



140-1

8



140-2

9



140-3

10



140-5

11

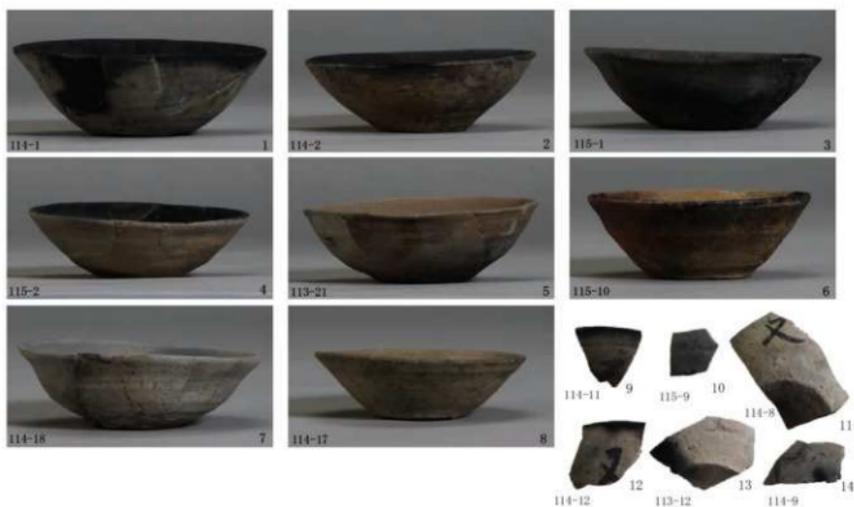


140-4

12

1・9:土師器鉢 2:須恵器高台盤
 3・5・6:須恵器杯
 4:土師器壺 7:須恵器壺G
 8・11:土師器杯 10:土師器器台
 12:須恵器:蓋
 1:SB6660 2:SB6657 3:SB6663
 4:SB6666 5・6:S16619
 7:S16520 8・9:P97
 10:P474 11:P48 12:P26
 S=1/3

図版52 掘立柱建物跡、竪穴住居跡、ピット出土土器



1~4・15・17・21・22:土師器坏
 5~8:須恵系土器坏
 9~14:墨書土器
 19:土師器小型坏
 23:須恵器坏 24:須恵器壺G
 25・26:須恵器高台坏
 27:須恵器蓋

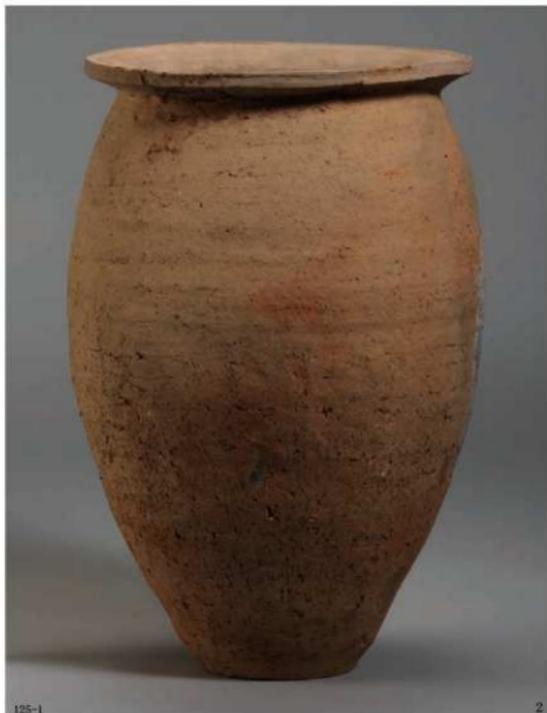
1~14:SE6584 15~18:SK6549
 19・20:SK6568 21~24:SK6615
 25~27:SK6630
 S=1/3

図版53 井戸跡、土坑出土土器



125-2

1



125-1

2

1・2: 土師器甕
S=1/3

図版54 SX6529土器埋設遺構出土土器



1·5·6·9·10·11:土師器坏
 2·12·13:須恵器坏
 3:須恵器椀 4:須恵器壶盖
 7:須恵器高台坏 8:土師器甕
 14:須恵器盖
 1~3:SD6557 4:SD6558
 5:SD6572 6~8:SD6587
 9·10:SD6588 11:SA6522
 12:SA6508 13:SD6501
 14:SA6502
 S=1/3

图版55 区画溝跡、溝跡、河川跡出土土器

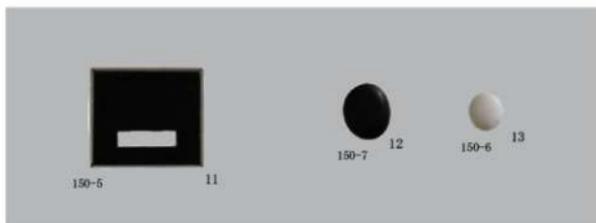
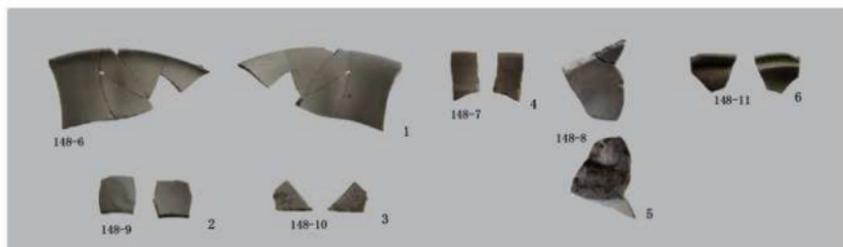


- 1・6:土師器坏 2:土師器鉢
 3～5・9:須恵器坏
 7:土師器高坏
 8:須恵器高台盤
 10:須恵器小壺
 11:土師器瓶
 12・13:ミニチュア土器坏
 1・2・5～11:遺構確認面
 3・4・12・13:基本層II層
 S=1/3

図版56 遺構外出土土器



図版57 漆附着土器・製塩土器



1~5:白磁碗 6:青磁碗
 7:八棱鏡 8・9:錢貨
 10:釘 11:石帶 12・13:基石
 14・15:門面硯 16:風字硯
 17:転用硯
 1~6・14~17:S=1/3
 7:S=1/1 8・9:S=2/3
 10~13:S=1/2

図版58 青磁・白磁・金属製品・石製品・硯



148-1

1a



148-1

1b



148-1

1c



148-2

2

148-3

3

148-5

4



148-4

5

149-1

6

149-2

7



149-3

8

149-4

9

149-5

10

149-6

11



149-7

12

149-8

13

149-9

14

149-10

15

149-21

16



149-11

17



149-16

18

149-14

19

149-18

20



149-19

21

149-17

22

149-15

23

149-13

24

149-20

25



149-22

27

149-23

28



149-25

29

149-12

26



149-25

32

149-12

26



149-25

34

149-12

26

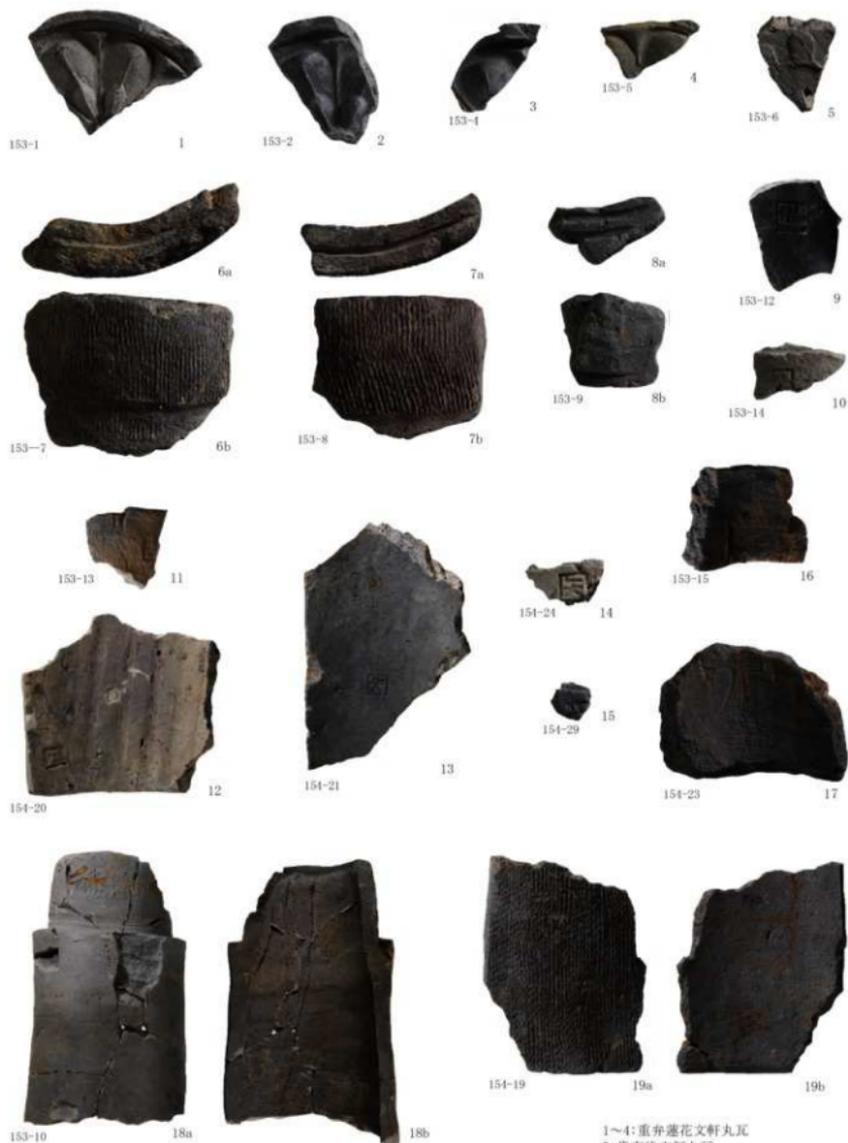
- 1: 綠釉陶器・陰刻花文四輪花皿
 2・3: 綠釉陶器・皿
 4: 綠釉陶器・椀
 5: 綠釉陶器・壺
 6~20: 灰釉陶器・壺
 21: 灰釉陶器・皿
 22~26: 灰釉陶器・壺
 27: 灰釉陶器・平瓶
 28・29: 灰釉陶器・壺
 S=1/3

図版59 綠釉陶器・灰釉陶器



1~3: 有孔土製円板
4~7: 土埴
8: 棒状土製品
9・10: 轆轤口
11~13: 転用板
14~39: 土製円板
1~8・14~39: S=1/2
9~13: S=1/3

図版60 土製品・土製円板



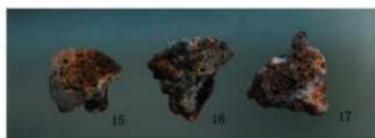
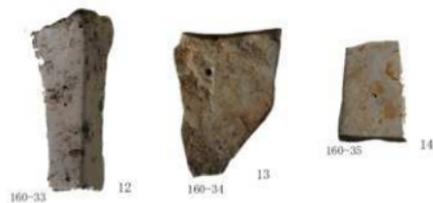
1~4: 重弁蓮花文軒丸瓦
 5: 齒車状文軒丸瓦
 6・7: 半弧文軒平瓦 8: 二重弧文軒平瓦
 9~15: 刻印瓦 16・17: ヘラ書き瓦
 18: 丸瓦 19: 平瓦
 S=1/4

図版61 瓦



1~11:S=1/3
12~20:S=1/2

图版62 砾石



15~17: SD6517堆



北2a西3交差点
確認面



北2a北側溝F期



西3道路跡地



西3道路跡地



SE6584堆



SE6584堆



SE6584組方

1~14: 砥石
15~21: 鉄滓
22: 牛肩甲骨
23: 馬基節骨
24: 鹿基節骨
1~14:S-1/2
15~17:S-1/1
18~24:S-1/3

図版63 砥石・鉄滓・骨



図版64 井戸梓材(1) -SE6584井戸跡-



図版65 井戸枠材(2) -SE6584井戸跡-



図版66 井戸枠材・木製品 -SE6584井戸跡-



1:鞍前輪
S=1/3

図版67 木製品 -SD6517区画溝跡-



図版68 木製品・杭 -SD6517・6557区画溝跡、SD6680西3道路跡東側溝-

宮城県文化財調査報告書第218集

市川橋遺跡の調査

伏石・八幡地区

- 県道「泉-塩釜線」関連調査報告書Ⅶ -
第1分冊 平成18年度調査編

平成21年3月18日印刷

平成21年3月25日発行

発行 宮城県教育委員会

仙台市青葉区本町三丁目8番1号

印刷 有限会社ワードシステム

仙台市青葉区上杉二丁目1-14
